

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2014年度 全統センター試験プレテスト

学習の手引き【解答・解説集】

# 国語・地理歴史・公民

【2014年11月実施】

• 地理歴史

世界史A .....	1
世界史B .....	9
日本史A .....	18
日本史B .....	28
地理A .....	38
地理B .....	49

• 公民

現代社会 .....	61
倫理 .....	73
政治・経済 .....	84
倫理、政治・経済 .....	95

• 国語 .....

英語冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1461610119502090



# 【地理歴史】

## 世界史 A

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番号	正解	配点	自己採点
第1問	A 問1	1	③	3	
	A 問2	2	③	3	
	A 問3	3	②	3	
	B 問4	4	①	3	
	B 問5	5	②	3	
	B 問6	6	④	3	
	B 問7	7	④	3	
	C 問8	8	④	3	
	C 問9	9	①	3	
	C 問10	10	③	3	
	C 問11	11	④	4	
第1問 自己採点小計		(34)			
第2問	A 問1	12	⑥	3	
	A 問2	13	①	3	
	A 問3	14	③	3	
	B 問4	15	④	3	
	B 問5	16	②	3	
	B 問6	17	②	3	
	B 問7	18	①	3	
	C 問8	19	③	3	
	C 問9	20	④	3	
	C 問10	21	④	3	
	C 問11	22	③	3	
第2問 自己採点小計		(33)			
第3問	A 問1	23	③	3	
	A 問2	24	①	3	
	A 問3	25	①	3	
	B 問4	26	②	3	
	B 問5	27	①	3	
	B 問6	28	②	3	
	B 問7	29	③	3	
	C 問8	30	④	3	
	C 問9	31	④	3	
	C 問10	32	①	3	
	C 問11	33	②	3	
第3問 自己採点小計		(33)			
自己採点合計		(100)			

### 【解説】

#### 第1問 世界史上の政治的・民族的指導者

##### 【出題のねらい】

世界史上の政治的・民族的指導者について、Aではフランスのナポレオン＝ボナパルトを、Bではフィリピンの民族運動の指導者ホセ＝リサールを、Cではキューバ革命の指導者の一人ゲバラを、それぞれ扱って出題した。

##### 【設問別解説】

###### A

###### 問1 1 ③

③エジプトのサダト大統領は、アメリカ合衆国の仲介で1979年にエジプト＝イスラエル平和条約を結んだ。これに対して、パレスチナ解放機構(PLO)やアラブ諸国が反発したためにエジプトはアラブ世界で孤立し、その後、サダト大統領は国内の反対勢力によって暗殺された。①19世紀前半にオスマン帝国で、ムスタファ＝ケマル(ケマル＝パシャ)ではなくアブデュル＝メジト1世によって、司法・行政などにおける西欧化を進めるタンジマート(恩恵改革)が開始された。ムスタファ＝ケマルは、第一次世界大戦後にトルコ革命でオスマン帝国を滅ぼし、トルコ共和国を樹立して初代大統領になった人物。②エジプト王国ではなく、カージャール朝のイランがロシアと、19世紀前半に治外法権などを認める不平等条約のトルコマンチャーイ条約を結んだ。④湾岸戦争で多国籍軍に敗北したのは、エジプト共和国ではなくイラク。イラクのフセイン大統領は、1990年にクウェートを侵略した。これに対して翌年、アメリカ合衆国のブッシュ(父)大統領の主導でアメリカ軍を中心とする多国籍軍が出動して湾岸戦争が起こり、敗北したイラクはクウェートから撤退した。

###### 問2 2 ③

③a 第二次世界大戦後、ヨーロッパ諸国は国家の枠を超えた地域統合を進め、1950年代にフランス・西ドイツ(ドイツ連邦共和国)など6カ国がヨーロッパ経済共同体(EEC)を発足させたが、イギリスは不参加であった。その後、1960年代には同じ6カ国によってヨーロッパ共同体(EC)が成立し、イギリスは1970年代にヨーロッパ共同体に加盟した。b 1992年にマーストリヒト条約が採択され、翌年にヨーロッパ連合(EU)が発足し、その後、加盟国の多くで統一通貨としてユーロが使用されるようになった。

###### 問3 3 ②

②ロシア皇帝アレクサンドル1世は、キリスト教

の友愛の精神にもとづく君主の同盟である神聖同盟の結成を提唱した。神聖同盟には、イギリス国王・ローマ教皇・オスマン帝国のスルタンを除くヨーロッパの君主が参加し、イギリス・プロイセン・ロシア・オーストリアからなる四国同盟とともに、ウィーン体制を支える役割を果たした。なお、四国同盟は後にフランスが加わって五国同盟に発展した。①ウィーン会議では、神聖ローマ帝国の復活は決定されず、オーストリアを盟主とするドイツ連邦が結成された。②ウィーン体制下のイタリアでは、ブルシェンシャフト(学生同盟)ではなく、カルボナリ(炭焼党)の反乱が起こった。ブルシェンシャフトは、ドイツの学生による、ドイツ統一と自由を求める組織。③1830年にフランスで七月革命が起こり、ルイ＝フィリップではなくシャルル10世が退位してブルボン朝が倒れ、ルイ＝フィリップが即位して七月王政が成立した。

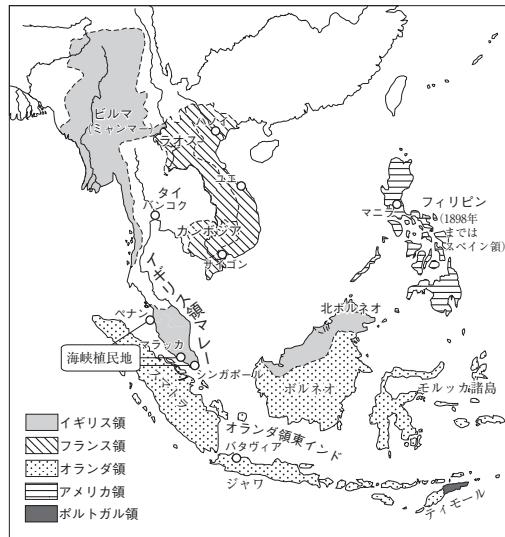
B

問4 [4] ①

①秦の始皇帝は前221年に中国を統一し、全国に郡県制を実施して直轄支配とともに、度量衡や文字を統一して中央集権化を進めた。②前漢の武帝は、商鞅ではなく董仲舒の建議によって儒学を官学化した。商鞅は、前4世紀に秦で改革を行った法家の思想家。③唐は907年、安禄山ではなく朱全忠に滅ぼされた。節度使の安禄山は、8世紀半ばに唐に対して安史の乱を起こしたが、唐はウイグルなどの援軍を受けてこの反乱を鎮圧した。④チンギス＝ハンではなくフビライ＝ハンが、13世紀後半に大都(現在の北京)に遷都して国号を元とし、南宋を滅ぼして中国を統一した。チンギス＝ハンは、13世紀初めにモンゴル高原を統一してクリルタイでハン位につき、モンゴル帝国を建てた。

問5 [5] ②

②タイは、ドイツの植民地になったことはなく、ラタナコーシン朝のもとで巧みな外交政策を展開するとともに、国王ラーマ5世(チエラロンコン)が近代化政策を進め、東南アジアのなかで唯一独立を維持した。③イギリスは、ペナン・シンガポール・マラッカを海峡植民地として成立させ、海上交通の要衝を押さえた。④ビルマ(ミャンマー)では、19世紀に3度にわたるイギリス＝ビルマ戦争でコンバウン朝がイギリスによって滅ぼされ、イギリスはビルマをインド帝国に併合した。⑤オランダは、17世紀からジャワ島のバタヴィアを拠点に香辛料貿易を行い、19世紀前半にはジャワ島で現地農民にコーヒーなどを生産させる強制栽培制度を行って巨額の利益をあげた。東南アジアの植民地化と、東南アジアの民族運動指導者については、以下の地図と表を参照。



東南アジアの植民地化

人名	地域	時期	活動内容
ホセ＝リサール	フィリピン	19世紀	スペインの圧政を批判して処刑される
アギナルド	フィリピン	19～20世紀	スペインやアメリカ合衆国に対する抵抗運動を指導
ファン＝ボイ＝チャウ	ベトナム	19～20世紀	維新会を結成し、日本に留学生を派遣するドンズー(東遊)運動を指導
スカルノ	インドネシア	20世紀	インドネシア国民党の指導者 インドネシア共和国の初代大統領
ホー＝チ＝ミン	ベトナム	20世紀	インドシナ共産党・ベトナム独立同盟(ヴェトミン)を結成して反仏・反日運動を指導し、ベトナム民主共和国の独立を宣言
アウン＝サン	ビルマ(ミャンマー)	20世紀	タキン党を結成し、完全独立を要求

東南アジアの民族運動指導者

問6 [6] ④

④カルヴァンは、スイスのジュネーヴで宗教改革を行い、魂の救済は神によってあらかじめ決定しているとする予定説を唱え、営利活動と蓄財を肯定した。このため、カルヴァンの説は主に商工業者に支持された。①キリスト教は、4世紀にコンスタンティヌス帝によって公認され、その後、ディオクレティアヌス帝ではなくテオドシウス帝によってローマ帝国の国教とされた。ディオクレティアヌス帝は、4世紀初頭にキリスト教徒の大迫害を行った皇帝。②聖像禁止令は8世紀に、神聖ローマ皇帝オットー1世ではなく、ビザンツ(東ローマ)皇帝が出したもので、これを機に、東のコンスタンティノープル教会と西のローマ教会は対立を深め、11世紀に正式にギリシア正教会とローマ＝カトリック教会とに分裂した。オットー1世は、10世紀にローマ教皇から帝冠を受け、事実上の初代神聖ローマ皇帝となった。③11世紀、聖職叙任権をめぐってローマ教皇と神聖ローマ皇帝が対立し、ローマ教皇グレゴリウス7世が神聖ローマ皇帝に謝罪したのではなく、破門された神聖ローマ皇帝がカノッサでローマ教皇に謝罪した。この出来事を、カノッサの屈辱という。

問7 [7] ④

④a 後漢の光武帝から「漢委奴国王」の金印を授けられたのは、足利義満ではなく、当時は倭と呼ばれていた日本の、奴国である。足利義満は室町幕府の將軍で、明から冊封を受けて日本国王とされ、明と勘合貿易を行った。b 日本は、第一次世界大戦後ではなく日清戦争後に、1895年の下関条約にもとづいて台湾を獲得した。下関条約ではその他に、遼東半島、澎湖諸島を獲得したが、遼東半島はロシア・フランス・ドイツによる三国干渉によって清に返還した。

C

問8 [8] ④

④1910年に始まったメキシコ革命では、マデロやサパタによってディアス独裁政権が打倒された。①イギリスでは17世紀にピューリタン革命が起こり、ジェームズ2世ではなくチャールズ1世が処刑された。ジェームズ2世は、チャールズ1世の子で、名誉革命によって国王の地位を追われた。②ロシアでは、1917年に起こった十一月革命(ロシア暦十月革命)ではなく三月革命(ロシア暦二月革命)で、ニコライ2世が退位してロマノフ朝が滅亡した。十一月革命では、三月革命で成立した臨時政府がボリシェヴィキなどによって打倒され、レーニンを中心とするソヴィエト政権が樹立された。③1911年に辛

亥革命が勃発すると、1912年に孫文を臨時大統領とする中華民国が成立し、光緒帝ではなく宣統帝(溥儀)が退位して清が滅亡した。

問9 [9] ①

①チリはa. ア. チリでは、1970年に選挙によってアジェンデを大統領とする社会主義政権が誕生したが、アメリカ合衆国に支援された軍部のクーデタによって倒された。④bはブラジル。イ. ブラジルは、大航海時代にポルトガルが領有を宣言して植民地化を進めたが、19世紀に独立した。

問10 [10] ③

③ジョンソン大統領は民主党の大統領で、1965年に北ベトナム爆撃(北爆)を開始し、これによってベトナム戦争が本格化した。また、1964年に人種差別を禁止する公民権法を制定した。①1861年に始まった南北戦争は、リンカーン大統領が奴隸解放宣言を発したことを契機に勃発したのではなく、奴隸制反対を唱えて結成された共和党のリンカーンが大統領に当選したことを契機に、南部諸州がアメリカ合衆国を離脱してアメリカ連合国を結成したのを機に勃発した。奴隸解放宣言は、リンカーン大統領が南北戦争中に、内外世論の支持を得ようとして発したもの。②1929年に世界恐慌が起こると、フーヴァー大統領ではなくフランクリン=ローズヴェルト大統領が恐慌対策としてニューディール政策を実施し、農業調整法(AAA)や全国産業復興法(NIRA)で農業や工業の生産を調整し、テネシー川流域開発公社(TVA)などの公共事業で失業者の救済をはかった。フーヴァー大統領は、世界恐慌が起こった時の大統領で、フーヴァー=モラトリียมを実施したが効果はなかった。④1989年、マルタ会談でソ連のゴルバチョフとともに冷戦の終結宣言を出したのは、オバマ大統領ではなくブッシュ(父)大統領。オバマ大統領は、2009年に就任したアメリカ合衆国初のアフリカ系大統領。

問11 [11] ④

④マンデラは、長期にわたる獄中生活を送りながらも、南アフリカ共和国で行われていたアパルトヘイト(人種隔離政策)の撤廃のために闘い続け、1990年代にアパルトヘイトが廃止された後に行われた大統領選挙で、南アフリカ共和国で初の黒人大統領となつた。①セクミトゥーレは、ギニアの独立運動の指導者で、1950年代にフランスから独立したギニアの初代大統領となつた。②エンクルマは、1950年代にイギリスから独立し、サハラ以南で第二次世界大戦後初の独立国となつたガーナの初代大統領。③ルムンバは、ベルギーの植民地であったコンゴの独立

運動の指導者で、後に初代首相となったが、コンゴ動乱の際に暗殺された。

## 第2問 世界史上の特産品の普及や伝播

### 【出題のねらい】

世界史上の特産品の普及や伝播について、Aではラピスラズリを、Bでは絹織物を、Cではワインを、それぞれ扱って出題した。

### 【設問別解説】

A

#### 問1 [12] ⑥

⑥ c イギリスは、19世紀に2度のアフガン戦争によってアフガニスタンを保護国にしたが、第一次世界大戦後、第3次アフガン戦争で独立を認めた。b 1979年、プレジネフ政権時代のソ連はアフガニスタンに侵攻したが、反政府ゲリラに悩まされ、ゴルバチョフ政権は1989年に同国からの撤退を完了した。  
a ソ連撤退後の内戦のなかで、イスラーム原理主義を掲げるターリバーン政権がアフガニスタンを支配するようになったが、2001年の同時多発テロ(9.11事件)を起こしたとされるイスラーム急進派組織アル=カイダと結んだとするアメリカ合衆国による攻撃を受け、また国内の反ターリバーン勢力の攻撃も受けた崩壊した。

#### 問2 [13] ①

① a 17世紀初頭にスペインからの独立を事実上達成したオランダは、中継貿易や金融業で繁栄し、アムステルダムは国際金融の中心となった。b オランダは、1602年に東インド会社を設立してジャワ島のバタヴィアに拠点を築き、1623年のアンボイナ事件でイギリス勢力をモルッカ諸島から駆逐し、香辛料貿易を独占した。

#### 問3 [14] ③

③ イヴァン4世は、「雷帝」とも呼ばれた16世紀のモスクワ大公で、この時代にコサックの首長イェルマークがシベリアに進出した。① ピョートル1世は、17世紀後半から18世紀前半のロマノフ朝の皇帝。国内の近代化を推進し、対外的には清とネルチンスク条約を結んで国境を画定した。また、スウェーデンとの北方戦争に勝利してバルト海に進出し、戦争中に新都ペテルブルクを建設した。② イヴァン3世は、15世紀後半に即位したモスクワ大公で、モンゴルのキプチャク=ハン国から自立し、皇帝の称号であるツァーリを自称してビザンツ皇帝の後継者を自任した。④ エカチェリーナ2世は、18世紀後半のロマノフ朝の皇帝。ヴォルテールと親交があったことでも知られる啓蒙専制君主で、国内の近

代化を進めたが、プガチョフの反乱の鎮圧後は反動化した。また、3度にわたるポーランド分割に参加した。

B

#### 問4 [15] ④

④ a. 6世紀、ビザンツ(東ローマ)帝国のユスティニアヌス帝は、旧ローマ帝国領の多くを回復した。また、『ローマ法大全』を編纂させてローマ法を集大成し、都のコンスタンティノープルにビザンツ様式のハギア・ソフィア聖堂を建て、さらに、中国から養蚕技術を取り入れて絹織物業発展の基礎を築くなど、ビザンツ帝国の最盛期を現出した。i. 中世の北イタリアの諸都市は、アジアから香辛料を輸入する東方(レヴァント)貿易を行い、ヴェネツィアやジェノヴァなどが繁栄した。①②a. フランク王国のカール大帝は、西ヨーロッパの大半を支配し、800年にローマ教皇からローマ皇帝の冠を受けた。①③i. 南ドイツのアウクスブルクは銀鉱山で繁栄し、豪商フッガー家の拠点として知られた。

#### 問5 [16] ②

② b フランスは、1870年に始まったプロイセン=フランス(普仏)戦争に敗北し、第二帝政が崩壊した。新たに成立した第三共和政の臨時政府は、戦争中に成立したドイツ帝国にアルザス・ロレーヌを割譲するなど屈辱的な条件で講和したため、これに反発したパリの労働者・民衆は、1871年に自治政府のパリ=コミューンを樹立したが、臨時政府によって弾圧された。その後、1875年に第三共和国憲法が制定されたが、軍部によるクーデタ未遂事件のブランジェ事件や、ユダヤ系将校がスパイ容疑に問われたドレフェス事件が起こるなど、政情は不安定であった。

#### 問6 [17] ②

③ 朝鮮王朝(李朝)では15世紀に、チュノム(字喃)ではなく訓民正音(ハングル)が制定された。チュノムは、ヴェトナムで使用された民族文字である。① 朝鮮王朝は、倭寇の撃退に貢献した高麗の武将李成桂によって、14世紀末に建国された。③ 朝鮮王朝は、江華島事件を機に、1876年に日本の明治政府と不平等条約である日朝修好条規(江華条約)を結んで開国した。④ 日清戦争に敗北した清は、1895年の下関条約で朝鮮王朝に対する宗主権を放棄した。これによって朝鮮王朝は独立を達成し、大韓帝国と改称した。

#### 問7 [18] ①

① a 1945年、アメリカ合衆国のサンフランシスコで開催された会議で国際連合憲章が採択され、国際

連合が設立された。b 国際連合の安全保障理事会の常任理事国5カ国は、発足当初はアメリカ合衆国・ソ連・中国・イギリス・フランスで、常任理事国は拒否権を持ち、一国でも反対すると安全保障理事会の決議は成立しない。なお、中国の代表権は1970年代に中華民国から中華人民共和国に移り、1991年にソ連が崩壊した後には、ロシアが常任理事国となった。

C

問8 [19] ③

③シーア派は、第4代正統カリフのアリーとその子孫のみをムハンマドの後継者として認める一派で、7世紀にアリーが暗殺された後に樹立されたウマイヤ朝のカリフの権威を認めなかった。①『コラン(クルアーン)』は、ムハンマドによって語られたアッラーの言葉をまとめたイスラーム教の聖典で、アラビア語で書かれた。②11世紀頃から、修行によってアッラーとの一体感を求めるイスラーム神秘主義が広まり、その教団の活動によってインドなどにイスラーム教が浸透した。④トルコ人などが、軍人奴隸のマムルークとしてアッバース朝に重用されるようになると、やがてマムルークはイスラーム世界の軍事力の中心となり、マムルークのなかには自立して王朝を建てる者もあった。

問9 [20] ④

④モロッコ事件は、20世紀初頭にフランスとドイツがモロッコをめぐって対立した事件であるが、ビスマルクは皇帝ヴィルヘルム2世と対立して、1890年に宰相を辞任している。①1871年に成立したドイツ帝国の宰相となったビスマルクは、彼の政策に反発するカトリック勢力と文化闘争を展開したが、後に妥協した。②ビスマルクは社会主義を「帝国の敵」とし、社会主義者鎮圧法を制定してドイツ社会主義労働者党を弾圧する一方、社会保険制度を導入して労働者を懷柔しようとした。③ロシア＝トルコ(露土)戦争の講和条約として1878年に結ばれたサン＝ステファノ条約でロシアの南下政策が成功すると、イギリスとオーストリアがこれに反発して国際的な緊張が高まった。このため、ビスマルクはベルリン会議を開催してロシアとイギリス・オーストリア間の対立を調停し、この会議の結果、サン＝ステファノ条約は破棄されてベルリン条約が結ばれた。ベルリン条約では、セルビア・モンテネグロ・ルーマニアの独立は認められたが、サン＝ステファノ条約で事実上ロシアの保護権が認められたブルガリアはオスマン帝国の自治国とされ、ロシアの南下政策は挫折した。また、オーストリアはボスニア・ヘルツェ

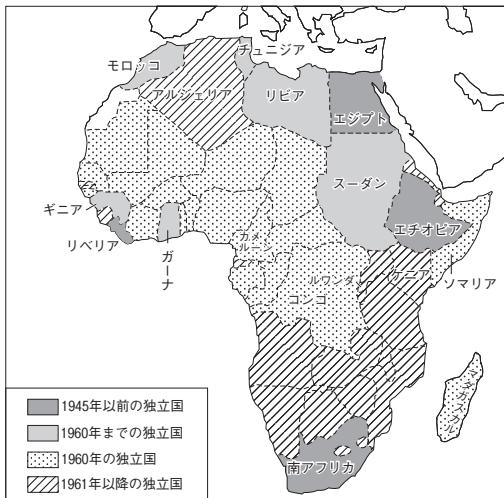
ゴヴィナの管理権を得てバルカン半島に勢力を拡大したため、その後、バルカン半島をめぐるオーストリアとロシアの対立が激化した。なお、ビスマルクは1884~85年に、アフリカ分割を協定するためのベルリン会議も開催した。

問10 [21] ④

④A. 探検家のスタンリーは、アフリカで行方不明になっていたリヴィングストンを発見し、その後ベルギー王の依頼を受けてコンゴ川流域を探検した。イ. リベリアは、アメリカ合衆国の解放奴隸がアフリカ西部に入植して建てた国。19世紀末のアドワの戦いでイタリアを破ったエチオピアとともに、第一次世界大戦の勃発時に独立を維持した。①②ア. セシル＝ローズは、イギリス領ケープ植民地首相で、アフリカにおけるイギリス帝国主義の先導役となった。③④イ. アルジェリアは、19世紀前半以降フランスによって植民地化が進んだが、アルジェリア戦争をへて、1960年代にフランス第五共和政のド＝ゴール大統領がアルジェリア独立を承認した。アフリカ分割と20世紀後半のアフリカについては、次の地図と次ページの地図を参照。



ヨーロッパ諸国によるアフリカ分割



20世紀後半のアフリカ

問11 [22] ③

③ **a** オーストラリアの先住民は、マオリ人ではなくアボリジニーと呼ばれる。マオリ人は、ニュージーランドの先住民である。イギリスによるオーストラリアへの入植は19世紀にさかんになり、アボリジニーは内陸部に追いやられた。**b** オーストラリアは、朝鮮戦争勃発後の1951年、反共軍事同盟としてアメリカ合衆国およびニュージーランドと太平洋安全保障条約(ANZUS)を結んだ。

### 第3問 照明や照明器具の歴史

【出題のねらい】

照明と照明器具の歴史について、**A**では古代・中世のオイルランプを、**B**では近世・近代のガス灯や白熱電球を、**C**では現代のさまざまな照明器具を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

**A**

問1 [23] ③

③ **a** フランスでは、ブルボン朝のルイ14世時代に、リシュリューではなくマザランが宰相として活躍した。リシュリューは、ブルボン朝のルイ13世時代の宰相。**b** イギリスでは19世紀後半、保守党のディズレーリが首相となり、スエズ運河会社株の買収やインド帝国の樹立などの帝国主義政策を推進した。また、同じ頃に自由党のグラッドストン首相は、教育法や労働組合法の制定などの改革を進めた。

問2 [24] ①

① **a**. マラッカは、マラッカ海峡に面したマレー

半島西南部に位置する海港都市。このマラッカを中心としたマラッカ王国は、イスラーム教を受容し、海上貿易で繁栄した。**i**. 鄭和は、明の永楽帝の命を受けて南海遠征を開始し、以後数回にわたって遠征を続け、南海諸国との朝貢貿易の促進をはかった。**④** **a**. カリカットはインド西岸の海港都市で、15世紀末にはポルトガル人のヴァスコ＝ダ＝ガマが来航した。**④** **i**. 義淨は、7世紀後半に海路でインドを往復した唐僧で、旅行記『南海寄歸内法伝』を著した。

問3 [25] ①

①タージ＝マハルは、ムガル皇帝シャー＝ジャハーンによってアグラ近郊に造営された。②ケルン大聖堂は、バロック様式ではなく、尖頭アーチを特色とするゴシック様式の建造物。バロック様式は、主に16世紀後半から18世紀頃にかけて西ヨーロッパで流行した美術様式で、建造物としてはルイ14世が造営したヴェルサイユ宮殿が有名。③仏国寺は、百濟ではなく新羅の都であった慶州近郊に建立された。④ボロブドゥールは、カンボジアではなくインドネシアのジャワ島に建立された大乗佛教の建造物。カンボジアでは、ヒンドゥー教寺院としてアンコール＝ワットが建立された。

**B**

問4 [26] ②

②プラッシーの戦いは、18世紀半ばにイギリス東インド会社書記クライヴが率いる軍が、フランス・ベンガル太守連合軍を破った戦い。①ドイツでは、18世紀ではなく17世紀前半に三十年戦争が起こり、1648年のウェストファリア条約で終結した。③イギリスでは、18世紀ではなく1828年に審査法が廃止され、翌年にカトリック教徒解放法が制定されてカトリック教徒にも公職が開放された。④太平天国の乱は、18世紀ではなく19世紀後半に、キリスト教の影響を受けた宗教結社の上帝会を組織した洪秀全が起こした反乱で、「滅満興漢」を唱えた。

問5 [27] ①

① **a** マンチェスターはイングランド中西部の都市で、産業革命期に木綿工業が発展した。② **b** はロンドン。③ **c** 産業革命期に製鉄業が発展したのは、イングランド中部のバーミンガム。

問6 [28] ②

②ダーウィンはイギリスの博物学者で、進化論を発表し、1859年に『種の起源』を刊行した。①アンシュタインはドイツ生まれのユダヤ系物理学者で、相対性理論を発表した。その後、ナチスの迫害をさけてアメリカ合衆国に亡命した。③ノーベルはス

ウェーデンの科学技術者で、19世紀後半にダイナマイトを発明した。彼の遺言で、20世紀初めにノーベル賞が創設された。④レントゲンはドイツの物理学者で、エックス放射線を発見した。これ以外の19・20世紀の自然科学の主な学者・技術者は、下の表を参照。

問7 [29] ③

③清は、1880年代にベトナムをめぐる清仏戦争でフランスに敗北し、天津条約でベトナムの宗主権を放棄した。①清は、イギリスが行った三角貿易でアヘンの流入と銀の流出に苦しみ、李鴻章ではなく林則徐がアヘンを没収・廃棄したが、これを口実にイギリスが宣戦してアヘン戦争が勃発した。清は敗北して南京条約を締結し、5港開港、公行(コロン)の廢止などを認め、イギリスに香港島を割譲した。李鴻章は、西洋技術の導入によって近代化をめざす洋務運動を進めた漢官僚。②アロー戦争(第2次アヘン戦争)はイギリスが、アメリカ合衆国ではなくナポレオン3世の時代のフランスと共同出兵した戦争。清は敗北して北京条約を締結し、キリスト教布教の自由や外国公使の北京駐在などを認め、イギリスに九竜半島南部を割譲した。④日本は、日露戦争に勝利して、千島列島を獲得したのではなく、ポーツマス条約で旅順・大連を租借し、南満州鉄道の権利や樺太(サハリン)南部などを獲得した。千島列島は、19世紀後半の樺太・千島交換条約で日本領と確定した。

C

問8 [30] ④

④フランスは、ドイツ軍の進撃をパリ近郊のマルヌの戦いで止めたので、第一次世界大戦ではドイツはパリを占領していない。ドイツがパリを占領したのは、第二次世界大戦中の1940年である。①1914年、ボスニアのサライエヴォを訪れたオーストリアの皇位継承者夫妻がセルビア人青年によって暗殺されるサライエヴォ事件が起り、その後、オーストリアがセルビアに宣戦布告して第一次世界大戦が勃

発した。②オスマン帝国は、ドイツ・オーストリア・ブルガリアとともに同盟国側で第一次世界大戦に参戦した。⑥第一次世界大戦では多くの新兵器が登場し、イギリスが初めて戦車を使用し、ドイツは初めて毒ガスによる攻撃を行った。

問9 [31] ④

④b ドイツでは、1932年選挙でナチス(ナチ党・国民[国家]社会主義ドイツ労働者党)が第1党となり、翌年にヒトラーが首相に就任した。c 1936年にスペインで人民戦線政府が成立すると、フランコ将軍が政府に対して反乱を起こし、スペイン内戦が勃発した。a 1939年、ダンツィヒとポーランド回廊に関するドイツの要求がポーランドに拒否されると、ドイツは独ソ不可侵条約を締結し、その後ポーランドに侵攻して第二次世界大戦が勃発した。

問10 [32] ①

①a 国連環境開発会議(地球サミット)は、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国際会議で、非政府組織(NGO)からも多数の参加があった。この会議では、自然と調和した経済開発の必要性を訴えたリオ宣言が採択された。b 1986年、現在のウクライナ共和国(当時はソ連を構成していた国の一つ)の切尔ノブイリ原子力発電所で爆発事故が起り、ヨーロッパのほぼ全域に放射能汚染が拡大した。

問11 [33] ②

②d ユーゴスラヴィアは、多くの民族や宗教が混在する国家で、1991年にクロアティア共和国とスロヴェニア共和国の独立宣言を機にユーゴスラヴィア内戦が勃発した。その後、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ共和国も独立を宣言して内戦が激化し、ユーゴスラヴィアは解体していった。①第4次中東戦争は、1970年代にイスラエルに対するエジプトなどの先制攻撃を機に勃発した戦争。この戦争の際に、アラブ産油国がイスラエル支援国に対する原油輸出を制限する石油戦略をとったため、先進国の経済が大打撃を受ける(第1次)石油危機が起った。③イギ

人名	国名	業績
ファラデー	イギリス	電磁誘導の法則
マイヤー・ヘルムホルツ	ドイツ	エネルギー保存の法則
キュリー夫妻	フランス	ラジウムの発見(夫人はポーランド人)
コッホ	ドイツ	細菌学
モールス	アメリカ	電信機の発明
エディソン	アメリカ	電灯(白熱電球)の実用化

リスは、1997年中国に、マカオではなく香港を返還した。マカオは1999年に、イギリスではなくポルトガルから中国に返還された。なお、香港もマカオも一国二制度が適用され、民主主義が認められることになっている。④2001年、アメリカ合衆国で同時多

発テロ(9.11事件)が起こり、これを機に共和党のブッシュ(子)大統領が「テロとの戦争」を宣言し、アフガニスタンを攻撃してターリバーン政権を崩壊させた(第2問 問1 ④ a 解説参照)。

●写真・図版提供

PPS 通信社

世界史 B

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1	1	③	3	
		問2	2	①	3	
		問3	3	③	3	
	B	問4	4	②	2	
		問5	5	①	3	
		問6	6	④	3	
	C	問7	7	②	3	
		問8	8	②	3	
		問9	9	④	2	
第1問 自己採点小計				(25)		
第2問	A	問1	10	③	2	
		問2	11	③	3	
		問3	12	①	3	
	B	問4	13	①	3	
		問5	14	④	3	
		問6	15	②	2	
	C	問7	16	②	3	
		問8	17	③	3	
		問9	18	⑤	3	
第2問 自己採点小計				(25)		
第3問	A	問1	19	④	3	
		問2	20	④	3	
		問3	21	④	2	
	B	問4	22	②	3	
		問5	23	①	3	
		問6	24	③	3	
	C	問7	25	②	2	
		問8	26	②	3	
		問9	27	③	3	
第3問 自己採点小計				(25)		

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第4問	問1	28	①	2		
	問2	29	②	3		
	問3	30	③	3		
B	問4	31	①	2		
	問5	32	③	3		
	問6	33	④	3		
C	問7	34	③	3		
	問8	35	④	3		
	問9	36	①	3		
第4問 自己採点小計					(25)	
自己採点合計					(100)	

【解説】

第1問 経済と戦争

【出題のねらい】

経済と戦争について、Aでは前漢の武帝時代の遠征と経済政策を、Bではハプスブルク家の戦争と国庫払い停止宣言(パンカラータ)を、Cでは1870年代以降の不況と列強の帝国主義政策を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 1 ③

③前2世紀半ばに、前漢では諸侯による吳楚七国の乱が起こったが、まもなく鎮圧された。前漢は建国当初は郡県制と封建制を併用する郡国制を行っていたが、この乱鎮圧後の武帝時代には、実質的に郡県制と変わらない中央集権体制を確立した。①前漢は、劉秀(光武帝)ではなく劉邦(高祖)によって前3世紀末に創始された。劉秀は、後1世紀前半の赤眉の乱を機に挙兵し、王莽の新が反乱のなかで崩壊すると後漢を建てた。②前漢の都は、開封(汴京)ではなく長安に置かれた。開封には、北宋などの都が置かれた。④両税法は現住地の土地や資産に応じて年2回課税する税制で、安史の乱後の8世紀後半に唐の宰相楊炎の献策によって、租庸調制に代わって施行された。中国の税制については、次ページの表を参照。

名称	時代	内容
租庸調制	隋～唐後半	均田制にもとづく 租(穀物)・庸(労役または布など)・調(布など)を納付
兩税法	唐後半(8C)～明後半	楊炎の献策 現住地の土地・資産に応じて年2回課税
一条鞭法	明後半(16C)～清	土地税・人頭税を一括して銀納
地丁銀	清(18C～)	事実上人頭税を廃止

### 中国の税制

問2 [2] ①

①新羅は7世紀後半に、唐と結んで百済と高句麗を滅ぼしたのち、唐の勢力も排除して朝鮮半島を統一した。②13世紀に成立したベトナムの陳朝大越国は、元(大元ウルス)の侵攻によって滅ぼされたのではなく、元を撃退した。元は南宋を滅ぼし、ビルマ(ミャンマー)のパガン朝を攻撃して衰退させた。③19世紀後半に江華島事件を機に結ばれた日朝修好条規(江華島条約)は、3港の開港や日本の領事裁判権などを朝鮮王朝(李氏朝鮮、李朝)に認めさせる不平等条約であったが、朝鮮総督府は設置していない。朝鮮総督府は、1910年の日本による韓国併合後に設置された。④19世紀後半にベトナムとカンボジアで形成されたフランス領インドシナ連邦に、のちにタイではなくラオスが編入された。タイのラタナコーシン(チャクリ)朝は、植民地化されずに独立を維持し、現在も続いている。

問3 [3] ③

③a 中国では、殷の時代ではなく春秋時代から戦国時代にかけての時期に、鉄製農具の使用が普及し、牛耕農法の普及とともに農業生産力を向上させた。殷では、祭器や武器として精巧な青銅器がさかんにつくられた。b 前17世紀頃に小アジア(アナトリア)に建国したヒッタイトは、バビロン第1王朝(古バビロニア王国)を滅ぼした。また、ヒッタイトは古代オリエントで初めて鉄製武器を使用したとされ、シリアに進出して、新王国時代のエジプトと争ったが、前12世紀初めに「海の民」によって滅ぼされた。

B

問4 [4] ②

②a. カール5世は16世紀のハプスブルク家の神聖ローマ皇帝で、スペイン王としてはカルロス1世であった。ドイツにおいてはルターの宗教改革に対抗し、対外的にはオスマン帝国のスレイマン1世やフランスのヴァロワ朝と抗争した。イ. レパントの

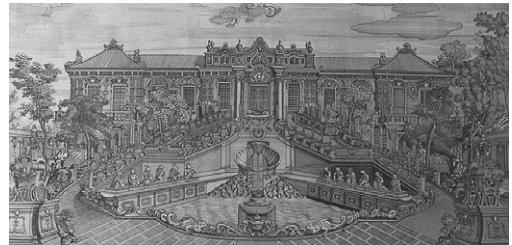
海戦は、16世紀後半にフェリペ2世時代のスペインを中心とする西ヨーロッパ連合艦隊が、オスマン帝国艦隊を擊破した海戦。③④ア. ヨーゼフ2世はマリア=テレジアの子で、18世紀後半のオーストリアの君主。啓蒙專制(絶対)君主の一人に数えられる。①③イ. トラファルガーの海戦は、19世紀初めにナポレオン1世が派遣したフランス艦隊がネルソン率いるイギリス艦隊に擊破された戦い。

問5 [5] ①

①「女史箴図」(下図参照)を描いた東晋の画家は、呉道玄ではなく顧愬之。呉道玄は唐の画家で、人物画・山水画などを描いた。②イタリア出身のイエズス会(ジェズuits教団)宣教師のカスティリオーネは、清代の18世紀に北京郊外に建てられた円明園(下図参照)の設計に参加した。円明園は、19世紀後半に清とイギリス・フランスの間で行われたアロー戦争(第2次アヘン戦争)中に破壊された。③18世紀のプロイセンのフリードリヒ2世(大王)は、「君主は国家第一の僕(下僕)」の言葉で知られる典型的な啓蒙專制君主で、ポツダムにロココ式のサンスーシ宮殿(次ページの図参照)を造営した。④偶像崇拜禁止が徹底しているイスラーム世界では、建築の装飾などに植物の茎や葉を图案化したアラベスク(次ページの図参照)が使用された。



「女史箴図」(模写)



円明園



サンスーシ宮殿



アラベスク

問6 [6] ④

④ a 南ドイツのアウクスブルクを本拠地として金融業や銀山開発で財をなしたのは、メディチ家ではなくフッガーハウス。メディチ家はフィレンツェの大富豪で、芸術の保護を行い、フィレンツェはイタリア＝ルネサンスの中心地となった。b 16世紀半ばのアウクスブルクの宗教和議によって、神聖ローマ帝国の諸侯にカトリックかルター派の信仰の選択権が認められたが、個人の信仰の自由やカルヴァン派の信仰は認められなかった。神聖ローマ帝国でカルヴァン派の信仰が認められるのは、三十年戦争の講和条約である17世紀半ばのウェストファリア条約による。

C

問7 [7] ②

② イギリスが植民地化を進めたインドでは、地主に土地所有権を認めて課税するザミンダリー制や、農民に土地所有権を認めて課税するライヤットワーリー制が行われた。① 元ではなく北宋で、世界最初の紙幣である交子が発行された。南宋では会子

が、元では交鈔と呼ばれる紙幣が発行された。③ 中世ヨーロッパのギルドではギルド成員の利益を守るために、自由競争は、奨励されたのではなく禁止された。④ 大航海時代の西ヨーロッパでは、スペインがアメリカ大陸からもたらした銀が大量に流通したため、物価が下落ではなく上昇する價格革命が起こった。

問8 [8] ②

② エチオピア侵略を行おうとしたイタリアは、1896年にbのアドワでエチオピアに敗れた。イタリアは1910年代にイタリア＝トルコ戦争によって、オスマン帝国から北アフリカのリビアを獲得した。また、エチオピアはイタリアのムッソリーニ政権によって1930年代に併合された。③ aはタンジール。ドイツとフランスは20世紀初頭にモロッコをめぐって対立し、タンジール事件・アガディール事件と呼ばれる2度のモロッコ事件を起こした。しかし、結局モロッコはフランスの保護国となった。

問9 [9] ④

④ A. イギリスでは、17世紀後半に制定された審査法で公職就任者はイギリス国教徒に限られていたが、19世紀初めにカトリック教徒の多いアイルランドがイギリスに併合されると、1828年に審査法が廃止され、翌年にはカトリック教徒解放法が制定されて、カトリック教徒も公職に就任できるようになった。イ. 自由党のグラッドストン首相は19世紀後半に、農業労働者・鉱山労働者に選挙権を拡大する第3回選挙法改正のほか、教育法や労働組合法の制定に尽力した。①③イ. ディズレーリは、19世紀後半に自由党のグラッドストンと二大政党政治を展開した保守党の首相。スuez運河会社のエジプト持ち株の買収や、ヴィクトリア女王を皇帝とするインド帝国の樹立などを行った(第4問 問5 ③解説参照)。

## 第2問 歴史上の色彩

### 【出題のねらい】

歴史上の色彩について、Aでは中国における官僚の服の色による序列を、Bではチベット・西アジアで帽子の色が宗派・集団の呼び名となった例を、Cでは中世ヨーロッパで好まれた色と嫌われた色を、それぞれ扱って出題した。

### 【設問別解説】

A

問1 [10] ③

③ 貞觀は、7世紀の唐の太宗(李世民)の時代の元号である。太宗の治世に三省六部など唐の制度が整備され、政治的にも安定したことと「貞觀の治」と称

した。①永楽は、15世紀前半の明の永楽帝の時代の元号。明代以降、一世一元の制が行われ、元号で皇帝名を呼ぶことが多くなった。②乾隆は、18世紀の清の乾隆帝の時代の元号。④開元は、8世紀の唐の玄宗の時代の元号であり、玄宗の治世の前半が政治的に安定したことと「開元の治」と称した。

問2 [11] ⑧

③a 共和政時代のローマでは、政治を独占する貴族(パトリキ)に対して、重装歩兵として活躍した平民(プレブス)が権利を求めて対立し、前4世紀にホルテンシウス法ではなくリキニウス・セクスティウス法で、大土地所有(公有地占有)の制限と、コンスル(執政官、統領)2名のうち1名は平民から選ばれることが定められた。ホルテンシウス法は前3世紀に成立し、これによって平民会の決議が元老院の承認なしで国法とされることになり、貴族と平民の法的平等が実現した。b 高麗・朝鮮王朝時代には、両班<sup>ヤンバン</sup>と呼ばれる特権身分の官僚階級が形成され、上級官職を独占した。

問3 [12] ①

①北宋では、皇帝自ら施行する、科挙の最終試験として殿試が創設され、文治主義のもとで官僚制が発達し、皇帝独裁体制が強化された。②北宋は、西夏ではなく、モンゴル系の契丹が建てた遼と、11世紀初めに澶淵の盟を結び、毎年銀・絹を遼に贈った。西夏はチベット系タングートが建てた国家で、西夏も北宋と和議を結んで、毎年銀・絹などを得た。③北宋時代に、班固ではなく司馬光が歴史書『資治通鑑』を編年体で編纂した。編年体は、年代順に歴史を記述する方法。司馬光は、王安石の新法に反対した旧法党の代表的人物でもあった。班固は、後漢時代の歴史家で、紀伝体で『漢書』を編纂した。紀伝体は、帝王の事績や重要人物の伝記などを中心として記述する歴史記述の方法で、前漢の司馬遷の『史記』と後漢の班固の『漢書』に始まる、中国王朝公認の歴史書である正史の形式。④南宋は、金ではなく元のフビライ=ハンによって、13世紀後半に滅ぼされた。金は、12世紀前半に靖康の変で北宋を滅ぼした。

B

問4 [13] ①

①a 7世紀に、ソンツエン=ガンポがチベットを統一して吐蕃を建てた。またソンツエン=ガンポはインド文字をもとにしてチベット文字を作成した。吐蕃の時代には、大乗仏教とチベット固有の宗教が融合して、チベット仏教(ラマ教)が成立した。b 清は、支配下に入れたモンゴル・チベット・青海・新

疆を藩部として自治を認めて間接統治を行い、理藩院に監督させた。

問5 [14] ④

④ホラズム(=シャー)朝は13世紀前半に、フラグではなく、モンゴル帝国を創始したチンギス=ハンに征服された。フラグは、13世紀半ばにモンケ=ハンの命で西アジア遠征を行い、アッバース朝を滅ぼしてイル=ハン国を建てた。①カラ=ハン朝は、10世紀に中央アジアで成立したトルコ系イスラーム王朝で、イラン系のサーマーン朝を滅ぼし、中央アジアのイスラーム化を進めた。②ガズナ朝は、10世紀に成立したアフガニスタンのトルコ系イスラーム王朝で、北インドに侵入をくり返してインドのイスラーム化へ道を開いた。③トゥグリル=ベクが建てたトルコ系イスラーム王朝のセルジューク朝は、11世紀半ばにイラン系のブワイフ朝を倒してバグダードに入城し、アッバース朝カリフから世俗君主としてのスルタンの称号を得た。さらに小アジアに進出してビザンツ(東ローマ)帝国を圧迫し、西ヨーロッパ諸国が十字軍を派遣するきっかけとなった。

問6 [15] ②

②a は、16世紀後半から17世紀前半にかけてサファヴィー朝の全盛期を築いたアッバース1世が、新都イスファハーンに造営させたイマームのモスク。③b は、ムガル帝国のシャー=ジャハーンが17世紀にアグラの近郊に妃の墓廟として造営させたタージ=マハル。

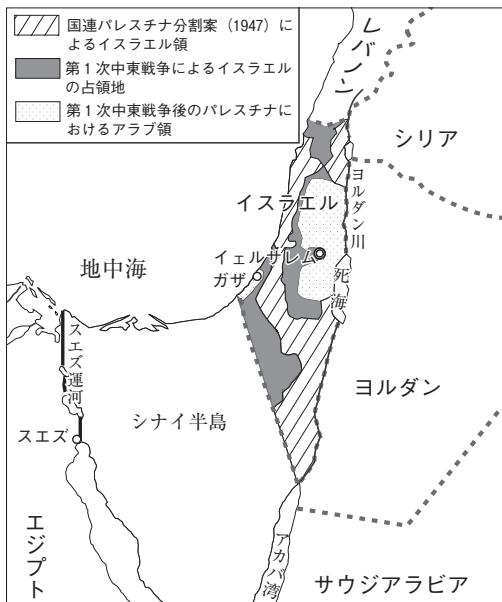
C

問7 [16] ②

②イングランドは、ノルマン人の一派であるデン人の侵入を受け、9世紀にはアルフレッド大王がこれを撃退したが、11世紀前半には一時期デン人のクヌート(カヌート)に支配された。その後、11世紀後半に北フランスのノルマンディー公ウイリアムがイングランドを征服してノルマン朝が成立した。①ゲルマン人のブルグンド人は、5世紀に北アフリカではなくガリア(フランス)東南部に建国した。北アフリカには、ゲルマン人のヴァンダル人が5世紀に王国を建てた。③フランスのカペー朝は、ヴァロワ朝に代わって成立したのではなく、10世紀後半に西フランク王国のカロリング朝が断絶したのち、パリ伯ユーグ=カペーが即位して成立した。ヴァロワ朝は、フランスで14世紀前半にカペー朝が断絶したのちに成立した。④中世ヨーロッパでは、北ドイツではなくフランスのパリ東南のシャンパーニュ地方が、12世紀から13世紀に大規模な定期市が開かれて、繁栄した。

## 問8 [17] ⑧

③第一次世界大戦中の1917年、イギリスはサイクス・ピコ協定ではなくバルフォア宣言で、ユダヤ人のパレスチナでの民族的郷土の設立を約束した。サイクス・ピコ協定は、同じく第一次世界大戦中の1916年に結ばれたイギリス・フランス・ロシアによるオスマン帝国分割協定。その前年の1915年にイギリスは、フセイン(フサイン)・マクマホン協定(書簡)でアラブ人の独立を約束しており、矛盾するこれらの協定はユダヤ人とアラブ人の対立を激化させた。①前10世紀にヘブライ人の王国が分裂したのち、北のイスラエル王国は前8世紀にアッシャriaに滅ぼされた。南のユダ王国は前6世紀に新バビロニア(カルデア)に滅ぼされ、住民の多くはバビロンに強制移住させられた。この事件をバビロン捕囚という。②15世紀末、イベリア半島最後のイスラーム王朝ナスル朝の都グラナダがスペイン王国によって陥落し、キリスト教徒のイスラーム教徒に対する本土回復運動(レコンキスタ)が完了した。④第二次世界大戦後、国際連合(国連)の総会で決議されたパレスチナ分割案をユダヤ人は受け入れて、1948年にイスラエルの建国を宣言したが、アラブ諸国は認めずにイスラエルを攻撃し、第1次中東戦争(パレスチナ戦争)が起こった。戦争はイスラエルの勝利に終わり、大量のパレスチナ難民(パレスチナ人)が発生した。パレスチナ戦争と、その後イスラエルが占領地を拡大した1967年の第3次中東戦争(6日間戦争)について、下の地図を参照。



第1次中東戦争

## 問9 [18] ⑥

⑥ c ネストリウス派が異端とされたエフェソス公会議は、5世紀に開かれた。a ローマ教皇ウルバヌス2世が十字軍の派遣を提唱したクレルモン宗教会議(公会議)は、11世紀末に開催された。b 教会大分裂(大シスマ)を收拾したコンスタンツ公会議(宗教会議)は、15世紀前半に開催された。また、この会議でイギリスのウィクリフとベーメン(ボヘミア)のフスが異端とされ、フスは火刑に処せられた。

## 第3問 19世紀から21世紀の世界

## 【出題のねらい】

19世紀から21世紀の世界について、Aでは19世紀における「人間疎外」の状況とその克服をめざした思想を、Bでは20世紀における国際平和機構と国家統合を、Cでは20世紀末から21世紀にかけての国際的な課題を、それぞれ扱って出題した。

## 【設問別解説】

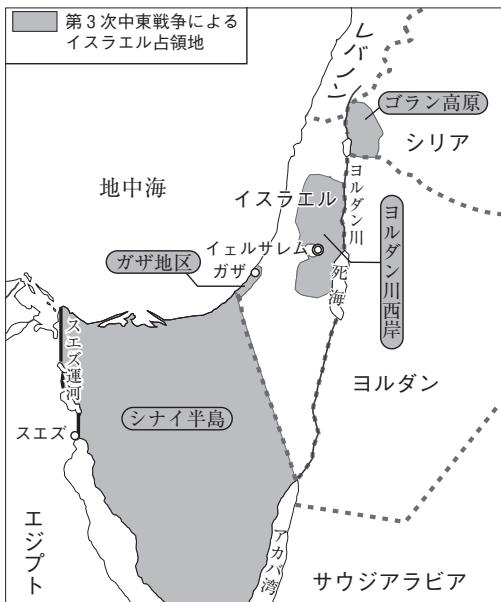
## A

## 問1 [19] ④

④a. 19世紀ドイツのマルクスは、唯物史観(史的唯物論)の立場から『資本論』を著し、イ. 資本主義社会から社会主義社会への移行を歴史の必然と考えた。②a. ヘーゲルは、18世紀から19世紀のドイツの哲学者で、ドイツ觀念論を完成した。ヘーゲルの弁証法はマルクスに影響を与えた。

## 問2 [20] ④

④b ジョン＝ケイが飛び杼(梭)を発明し、これに



第3次中東戦争

よって織布の速度が向上して糸が不足するようになった。c 糸の不足を背景に、ハーグリーヴズがジェニー(多軸)紡績機を、アーライトが水力紡績機を、クロンプトンがミュール紡績機を、それぞれ発明し、糸の増産が可能となった。a そこで、再び織機の速度の向上が求められ、カートライトが力織機を発明した。紡績機や織機の動力には、ワットが改良した蒸気機関が利用されるようになり、生産力は向上した。

問3 [21] ④

④14世紀末に、デンマークを中心にスウェーデン・ノルウェーの3カ国がカルマル同盟を結成したことによって、デンマーク連合王国が成立し、16世紀にスウェーデンが分離・独立するまで続いた。① デロス同盟は、前5世紀前半のペルシア戦争中にアテネを中心に、アケメネス朝の再攻に備えて結成された同盟。②ハンザ同盟は、中世ヨーロッパでリューベックを盟主として、ハンブルクなどの北ドイツ諸都市を中心に結成された都市同盟で、北海・バルト海貿易を支配した。③シュマルカルデン同盟は、16世紀にドイツでルター派諸侯が結成した同盟で、ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝カール5世と争った。

B

問4 [22] ②

②スペインでハプスブルク家が断絶すると、フランスのルイ14世の孫のスペイン王即位をめぐってスペイン継承戦争が起こった。1713年のユトレヒト条約でスペイン=ブルボン朝は承認されたが、フランスとスペインの合邦は認められず、また、イギリスはスペインからジブラルタルなどを獲得した。①フランスは、七年戦争・フレンチ=インディアン戦争の講和条約である1763年のパリ条約で、イギリスにカナダとミシシッピ川以東のルイジアナを割譲した。③スイスとオランダの独立は、1648年に結ばれた三十年戦争の講和条約であるウェストファリア条約で国際的に承認された。④17世紀末にヨーロッパ諸国とオスマン帝国が結んだカルロヴィッツ条約で、オーストリアはオスマン帝国からハンガリーを獲得した。

問5 [23] ①

① a 第二次世界大戦中の1941年にアメリカ合衆国のフランクリン=ロ(ル)ーズベルト大統領とイギリスのチャーチル首相が行った大西洋上会談(米英首脳会談)にもとづく大西洋憲章で、国際連盟に代わる新たな平和機構の創設が提唱され、1945年にサンフランシスコ会議で国際連合憲章が採択され、国

際連合(国連)が成立した。b 国際連合の安全保障理事会の常任理事国は、アメリカ合衆国・イギリス・フランス・ソ連(現在はロシア)・中国(1971年に中華民国から中華人民共和国に代表権が交替)で、拒否権が与えられている。

問6 [24] ③

③日露戦争に勝利した日本は、アメリカ合衆国のセオドア=ロ(ル)ーズベルト大統領の仲介で1905年にポーツマス条約を結び、韓国の保護権、旅順・大連(遼東半島南部、関東州)の租借権、南満州鉄道の利権などを獲得した。①オーストリアのメッティニヒは1848年、七月革命ではなくウィーン三月革命で失脚した。七月革命は、1830年にフランスで起こった革命で、この革命によってシャルル10世が退位してブルボン朝が崩壊し、ルイ=フィリップが即位して七月王政が成立した。その後、1848年に二月革命が起こって七月王政は倒され、ウィーンやベルリンでも三月革命が起こった。②19世紀末、アメリカ合衆国の国務長官の、ケロッグではなくジョン=ヘイが門戸開放宣言を出し、門戸開放・機会均等・領土保全を提唱して中国市場への参入をはかった。ケロッグは、フランスのブリアン外相とともに、1928年の不戦条約(ケロッグ・ブリアン条約)の成立に尽力したアメリカ合衆国の国務長官。④ソ連で1980年代後半以降、ペレストロイカ(改革)・グラスノスチ(情報公開)や新思考外交を進めたのは、フルシチョフではなくゴルバチョフ。フルシチョフは、1956年のソ連共産党第20回大会で平和共存・スターリン批判をうちだし、1962年のキューバ危機ではアメリカ合衆国のケネディ大統領と対立した(問7 ④ア解説参照)。

C

問7 [25] ②

②ア. アメリカ合衆国の民主党のトルーマン大統領は、1947年にトルーマン=ドクトリン(トルーマン宣言)でギリシア・トルコへの援助を表明してソ連に対する封じ込め政策を開始し、つづいて国務長官マーシャルがマーシャル=プラン(ヨーロッパ経済復興援助計画)を発表した。イ. このような動きに対抗して、同年にソ連・東欧諸国とフランス・イタリアの共産党はコミニフォルム(共産党情報局)を結成した。③④ア. ケネディは民主党のアメリカ合衆国大統領で、1962年にソ連がキューバに建設していたミサイル基地をめぐって、ソ連のフルシチョフと対立し、キューバ危機が起こった。ケネディはキューバを海上封鎖して核戦争の危機が高まったが、フルシチョフがミサイルを撤去して危機は回避

された。①②イ. コミニテルン(第3インターナショナル)はロシア革命後の1919年に、世界各地の革命を支援するためにロシア共産党が中心となって結成された。

問8 [26] ②

②a クシャーナ朝は1世紀から3世紀に、中央アジアから北西インドにかけて支配した王朝。この王朝のもとでヘレニズム文化の影響を受けたガンダーラ美術が発達し、仏像が制作された。b 8世紀にアッバース朝が唐を破ったタラス河畔の戦いを機に、製紙法が、中国に伝わったのではなく中国からイスラーム世界に伝わった。

問9 [27] ③

③ロマノフ朝のロシア皇帝エカチェリーナ2世は、18世紀末に江戸時代の日本にラクスマンを派遣して通商を求めた。エカチェリーナ2世はフランスの啓蒙思想家ヴォルテールとの親交で知られる啓蒙専制君主であったが、プガチョフの反乱を鎮圧すると反動化して、農奴制を強化した。さらに、アメリカ独立戦争では武装中立同盟を提唱してイギリスを牽制した。①キエフ公国(ウラディミル1世)は、10世紀末にローマ＝カトリックではなくギリシア正教に改宗した。②モスクワ大公国(イヴァン4世)ではなくイヴァン3世が、15世紀後半にビザンツ皇帝の後継者としてツァーリ(皇帝)を自称し、キプロスチャク＝ハン国から自立した。イヴァン4世は16世紀のモスクワ大公で、対立する諸侯を弾圧して集権化を進め、イエルマークを利用してシベリア進出を開始した。④ロマノフ朝のニコライ2世ではなくアレクサンドル2世が、クリミア戦争の敗北を受けて改革の必要性を認め、1861年に農奴解放令を出した。ニコライ2世は、20世紀初めの第1次ロシア革命のさいに十月宣言(勅令)を出し、第一次世界大戦中の三月革命(ロシア暦二月革命)で退位したロマノフ朝最後の皇帝。

#### 第4問 世界史上の偽書や情報操作

##### 【出題のねらい】

世界史上の偽書や情報操作について、Aでは「コンスタンティヌスの寄進状」を、Bではエムス電報事件を、Cでは『アイアンマウンテン報告』を、それぞれ扱って出題した。

##### 【設問別解説】

A

問1 [28] ①

①ア. ローマ皇帝コンスタンティヌス(1世)は、4世紀前半にミラノ勅令を発布してキリスト教を公

認し、ニケア公会議を招集した。ニケア公会議ではアタナシウス派が正統とされ、アリウス派は異端とされた。イ. フランク王国のカール大帝(シャルルマーニュ)は、800年に教皇レオ3世によってローマ皇帝の帝冠を授けられた。このカールの戴冠によって、西ヨーロッパ世界が成立したとされる。③④ア. ベルリン勅令(大陸封鎖令)はイギリスと大陸諸国間の通商を禁じたもので、19世紀初めにフランスのナポレオン1世によって発布された。④イ. オットー1世は、東フランク王国(ドイツ)でカロリング朝が断絶したのちのザクセン家の王で、10世紀後半に教皇から帝冠を授けられた。これが神聖ローマ帝国の起源とされる。

問2 [29] ②

②b ビザンツ皇帝レオ(レオ)3世が聖像禁止令を発布したのは、726年である。レオ3世がイエスや聖母マリアなどの聖像(イコン)の制作や崇拝を禁じる聖像禁止令を出すと、ローマ＝カトリック教会はゲルマン人への布教に聖像を利用していたため、これに反発し、聖像禁止令は東西教会の分裂の契機となった。その後、800年のフランク王国のカール大帝の戴冠で西ヨーロッパ世界の自立をへて、1054年には東西教会が正式に分裂した。

問3 [30] ③

③a 叙任権闘争は、11世紀後半にローマ教皇グレゴリウス7世と神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世の間で起こった。教皇が皇帝に謝罪したのではなく、教皇グレゴリウス7世に破門された皇帝ハインリヒ4世が謝罪して許された。これがカノッサの屈辱である。b 12世紀前半のヴォルムス協約で、教皇と皇帝の間に妥協が成立し、叙任権闘争は終結した。

B

問4 [31] ①

①地主貴族であるユンカー出身のビスマルクは、プロイセン王ヴィルヘルム1世によって首相に任命され、鉄血政策で軍備を拡張し、ドイツの統一を進めた。1860年代にシュレスヴィヒ・ホルシュタイン問題からオーストリアとともにデンマーク戦争を起こして両地域を獲得した。両地域の帰属をめぐってプロイセン＝オーストリア(普墺)戦争が起こると、これに勝利し、オーストリアを排除して北ドイツ連邦を樹立した。さらにプロイセン＝フランス(普仏)戦争中の1871年にドイツ帝国を成立させた。②ナポレオン1世支配下のプロイセンでは、ナショナリズム(国民主義)が高揚し、シュタインやヘルценベルクらによって農民解放などの改革が行われた。また、哲学者フィヒテは「ドイツ国民に告ぐ」という連

統講演で、ドイツのナショナリズムを高めた。③  
シュトレーゼマンは第一次世界大戦後のヴァイマル(マイマーク)共和国時代の首相で、1923年のフランス・ベルギーによるルール占領(出兵)をきっかけとして起こった激しいインフレーションのさいに、レンテンマルクを発行してこれを収束させた。その後は外相として、ロカルノ条約締結や国際連盟加盟などの協調外交を進めた。④19世紀前半にマッティーニは、「青年イタリア」を結成してイタリア統一運動を指導し、フランス二月革命の影響を受けてローマ共和国の樹立を宣言したが、フランスの介入で鎮圧された。

問5 [32] ③

③1877年イギリス保守党政のディズレーリ首相の主導でインド帝国が成立し、ヴィクトリア女王がインド皇帝に即位した。①19世紀前半に2度にわたって起こったエジプト＝トルコ戦争(エジプト事件)では、エジプト総督のムハンマド(メフメト)=アリーがシリアの領有などをめぐってオスマン帝国と戦い、ヨーロッパ諸国の干渉を受けた。②トルコマンチャイー条約は、19世紀前半にイランのカージャール朝とロシアとの間で結ばれた不平等条約で、ロシアにアルメニアの大半を割譲し、治外法権を認めた。④中国同盟会は、1905年に孫文の興中会を中心に、東京で革命諸団体が結集して組織され、孫文が提唱した民族の独立、民権の伸張、民生の安定の三民主義を基本方針として清の打倒をめざした。

問6 [33] ④

④パリ＝コミューンは、プロイセン＝フランス戦争中にフランスで第二帝政が崩壊したのちに成立した臨時政府がドイツと結んだ講和に反対して、1871年にパリの労働者や市民が蜂起して樹立した自治政府。ドイツの支援を得た臨時政府によって鎮圧された。①ナポレオン1世の甥であったルイ＝ナポレオンは1848年の大統領選挙で当選した。その後、1851年にクーデタで議会を解散し、翌年に国民投票で皇帝に即位してナポレオン3世を称し、第二帝政を開始した。②ナポレオン3世はサルデニヤ(サルディニア)王国のカヴール首相とプロンビエール密約を結び、イタリア統一戦争でサルデニヤ王国を支援した。しかしナポレオン3世がオーストリアと単独講和したために、サルデニヤ王国はロンバルディアを獲得するにとどまった。③1856年にアロー号事件でイギリスが清と対立すると、ナポレオン3世時代のフランスも清に派兵してアロー戦争(第2次アヘン戦争)に参戦した。

C

問7 [34] ③

③奴隸解放宣言は、南北戦争直前ではなく戦争中の1863年に発表された。南北戦争は、共和党のリンカーン大統領がホームステッド(自営農地)法で西部農民の支持を獲得し、さらに奴隸解放宣言で内外世論の支持を集め、北部の勝利に終わった。①西部開拓(西漸運動)が進展するなか、初の西部出身の大統領ジャクソンは、先住民(インディアン)をミシシッピ川以西に移住させるインディアン強制移住法を1830年に制定した。先住民は移動の途上で、食糧不足や病気などで多くの死者を出した。②アメリカ＝メキシコ戦争に勝利した合衆国は、1848年カリフォルニアを獲得した。同年カリフォルニアで金鉱が発見され、移民が殺到するゴールドラッシュが起こった。④1929年、ニューヨークのウォール街で株価が暴落して世界恐慌が始まった。恐慌対策を掲げて大統領に当選した民主党のフランクリン＝ローズヴェルトは、農業調整法(AAA)・全国産業復興法(NIRA)・テネシー川流域開発公社(TVA)などのニューディールを実施した。

問8 [35] ④

④ドイツのマイヤーとヘルムホルツは、19世紀半ばにエネルギー保存の法則を発見した。これは内燃機関の発達などに貢献した。①②イギリスのファラデーは、19世紀に電磁気学の発展に貢献した。①③19世紀末にX放射線を発見したのは、ドイツのレントゲンである。19世紀から20世紀の科学・技術については、下の表を参照。

人名	国	業績
ファラデー	イギリス	電磁気学の発展に貢献
マイヤー・ヘルムホルツ	ドイツ	エネルギー保存の法則発見
レントゲン	ドイツ	X放射線発見
キュリー夫妻	フランス (妻はポーランド)	ラジウム発見
ダーウィン	イギリス	進化論 『種の起源』
パストゥール	フランス	細菌学者
コッホ	ドイツ	細菌学の基礎確立
ノーベル	スウェーデン	ダイナマイト発明
モールス	アメリカ合衆国	電信機発明
ベル	アメリカ合衆国	電話機発明
エディソン	アメリカ合衆国	電灯など発明
AINSHUATIN	ドイツ	相対性理論

19世紀から20世紀の科学・技術

問9 [36] ①

① a 第二次世界大戦後、ベトナム民主共和国が独立を宣言すると、フランスとの間でインドシナ戦争が勃発し、フランスはバオダイを主席とするベトナム国を建てた。しかし、1954年にディエンビエンフーの戦いでフランスは敗北し、ジュネーヴ休戦協定を結んで撤退した。東南アジアへの共産主義の拡大を恐れるアメリカ合衆国は、フランスに代わってベトナムに介入し、その結果、ゴ=ディン=ジエムを大統領とするベトナム共和国が成立し、バオダイは引退した。 b ベトナム共和国のゴ=ディ

ン=ジエム政権に対して南ベトナム解放民族戦線が結成され、反米・反政府運動が展開されると、南ベトナム解放民族戦線を支援するベトナム民主共和国に対して1965年アメリカ合衆国のジョンソン大統領は北ベトナム爆撃(北爆)を開始し、ベトナム戦争が本格化した。戦争は泥沼化し、国内外の反戦運動も高揚したため、ニクソン大統領は1973年ベトナム(パリ)和平協定を結んで撤退した。その後サイゴンが陥落し、南北ベトナムは統一されてベトナム社会主义共和国が成立した。

●写真・図版提供

PPS 通信社

# 日本史 A

## 【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 番	答 号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	③	2		
	問2	2	④	3		
	問3	3	③	3		
第1問 自己採点小計		(8)				
第2問	A 問1	4	②	3		
	A 問2	5	④	3		
	A 問3	6	①	3		
	B 問4	7	②	3		
	B 問5	8	①	3		
	B 問6	9	③	3		
第2問 自己採点小計		(18)				
第3問	問1	10	②	3		
	問2	11	④	3		
	問3	12	④	3		
	問4	13	③	3		
第3問 自己採点小計		(12)				
第4問	A 問1	14	①	3		
	A 問2	15	④	3		
	A 問3	16	④	3		
	B 問4	17	②	3		
	B 問5	18	④	3		
第4問 自己採点小計		(15)				
第5問	A 問1	19	①	2		
	A 問2	20	④	3		
	A 問3	21	②	3		
	B 問4	22	③	3		
	B 問5	23	⑤	3		
	C 問6	24	②	3		
	C 問7	25	①	3		
	C 問8	26	②	3		
第5問 自己採点小計		(23)				

問題番号	設問	解 番	答 号	正解	配点	自己採点
A 第6問	問1	27	②	3		
	問2	28	③	3		
	問3	29	③	3		
B	問4	30	①	3		
	問5	31	④	3		
	問6	32	②	3		
C	問7	33	②	3		
	問8	34	④	3		
第6問 自己採点小計		(24)				
自己採点合計		(100)				

### 【解説】

#### 第1問 ポスターにみる近現代の諸動向

##### 【出題のねらい】

近現代のポスターの展示を見に行った高校生の会話という形式をとった問題文をもとに、昭和戦前～戦後の諸動向について問うた。ここ数年、センター試験の第1問では、高校生を登場させた会話体の問題文が出題されているので、本問もその形式にならって作成した。設問そのものは基本的な事項であるから、きちんと正解してほしい。

##### 【設問別解説】

###### 問1 1 ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。普通選挙法は、1925年、第1次加藤高明内閣のときに制定され、1928年、田中義一内閣のときに第1回の普通選挙が実施された。このときの選挙資格は、満25歳以上の男性であった。Yは正しい。第1回の普通選挙では、合法的社会主义政党である無産政党から8名の当選者がでた。

###### 問2 2 ④

正しい組合せは④。aは誤っている。満州事変は柳条湖事件を契機に勃発した。この事件は関東軍が満鉄の線路を爆破した事件で、これを中国軍の仕業であるとして、関東軍は満州全土を占領した。盧溝橋事件は、日中戦争が勃発する契機となった事件である。bは正しい。関東軍は、清朝最後の皇帝であった溥儀を執政として、「満州国」を建国した。cは誤っている。犬養毅内閣は「満州国」を承認しなかった。そのこともあって犬養首相は五・一五事件で殺された。「満州国」を承認する日満議定書を

結んだのは、犬養内閣の次の斎藤実内閣である。④は正しい。1933年、ジュネーブで開かれた国際連盟臨時総会で、リットン報告書に基づき、「満州國」建国は認められないと勧告が採択された。これを不満とする日本は、国際連盟からの脱退を通告した。

### 問3 [3] ⑧

誤っているのは⑧。不在地主の全小作地と一定面積をこえる在村地主の小作地は国家によって強制的に買収され、小作農民に優先的に安く売り渡された。無償で譲渡されたのではない。①は正しい。第1次吉田茂内閣は、農地調整法を再改正するとともに自作農創設特別措置法を制定して第2次農地改革を実行にうつした。②も正しい。在村地主の小作地保有限度は、1町歩(北海道は4町歩)とされた。④も正しい。農地改革の結果、それまで全耕作地の45%程度であった小作地は10%程度にまで減少し、寄生地主制は解体された。

## 第2問 幕末・維新期の政治動向

### 【出題のねらい】

本問は薩摩藩・鹿児島県からみた幕末・維新期の動向をテーマに、当該期の政治・外交の理解を問うものである。薩摩藩をとりあげたのは、幕末の複雑な政局のなかで、薩摩藩が重要な役割を果たしたからであり、その動向の理解が、当該期の政治をとらえる際のカギの一つとなるからである。また、明治維新期の中央集権化において、薩摩藩・鹿児島県がどのように関与したのかも重要であり、それについても理解を深めてほしい。

### 【設問別解説】

**A 薩摩藩の藩政改革から戊辰戦争の時期をとりあげて、改革の内容、幕末の薩摩藩の動き、薩英戦争の原因などについて問うた。**

### 問1 [4] ②

正しいのは②。薩摩藩は領内の奄美三島特産の黒砂糖の専売を強化し、また、江戸時代以来支配下においていた琉球王国を介して清国との貿易を増やすことで、収入を増加させて財政再建を果たした。①は誤っている。薩摩藩が財政再建のために登用したのは、村田清風ではなく調所広郷である。下級武士出身の調所広郷は、三都の商人からの莫大な負債を事实上棚上げにする形で整理した。村田清風は同時期の長州藩の藩政改革にあたった長州藩士である。③も誤っている。越後方の収益により財政再建を行ったのは長州藩であり、越後方は下関に設けられていた。④も誤っている。均田制により本百姓体制

の再建をはかったのは佐賀藩で、藩主鍋島直正の主導により行われた。

### 問2 [5] ④

正しい配列は④。時代順に説明する。Ⅱ13代将軍徳川家定に子がなかったため將軍繼嗣問題が起こり、前水戸藩主徳川斉昭の実子で英明な人物として知られていた一橋慶喜を推す一橋派と、血統が近い紀伊藩主徳川慶福を推す南紀派とが対立したが、島津斉彬は越前藩主松平慶永らとともに一橋派に属した。1858年、南紀派の井伊直弼が大老に就任し、日米修好通商条約に無効許認印するとともに、次の將軍を慶福(14代將軍家茂)に決定した。同年、斉彬の病死により薩摩藩主は島津忠義にかわった。Ⅲ藩主忠義の父で斉彬の異母弟にあたる島津久光は、公武合体の立場から、勅使を奉じて江戸に下り幕府に改革を要求した。これにより実施されたのが文久の改革で、將軍後見職(一橋慶喜)、政事總裁職(松平慶永)、京都守護職(会津藩主松平容保)の役職がおかれたほか、参勤交代の緩和などが行われた。Ⅰ京都では長州藩を中心とする尊攘派が大きな勢力をもっていた。これに対し薩摩藩は会津藩と手を結び、1863年8月18日、長州藩勢力や三条実美ら急進派の公家を追放して朝廷の実権を奪った(八月十八日の政変)。なお、この政変に対し、池田屋事件を契機に長州藩勢力が巻き返しをはかったのが翌1864年の禁門の変で、京都に攻め上った長州藩兵は薩摩藩兵や会津藩兵らと交戦して敗れた。

### ◆幕末の政局と薩摩藩の動向

1857年	將軍繼嗣問題おこる……(Ⅱ)
1858年	日米修好通商条約調印 次の將軍に慶福が決定(→14代將軍家茂) 島津斉彬が病死し、忠義が藩主になる 安政の大獄(~59年)
1860年	桜田門外の変
1862年	坂下門外の変 島津久光の江戸下向 文久の改革……(Ⅲ) 生麦事件
1863年	薩英戦争 八月十八日の政変……(Ⅰ)
1864年	禁門の変

### 問3 [6] ①

正しいのは①。薩英戦争の原因となった事件は、生麦事件である。生麦事件は、1862年、江戸に下り幕府に改革を要求した島津久光の一行が帰る途中、神奈川近くの生麦で行列を横切ったイギリス人らを

殺傷した事件で、それに対するイギリスの報復が翌1863年の薩英戦争である。薩英戦争で薩摩藩は、鹿児島湾に侵入したイギリス軍艦の砲火を浴びて大きな損害を受け、攘夷の不可能を悟って講和成立後はかえってイギリスに接近した。なお、地図上の②は京都、③は下関、④は長崎である。

B 版籍奉還から西南戦争の時期をとりあげて、版籍奉還・廃藩置県、士族の特権廃止、明治六年の政変などについて問うた。明治新政府が中央集権化をすすめるなかで、薩摩藩がどのように協力し、また、鹿児島県の士族がどのように反発したのか、確認しておきたい。

問4 [7] ①

正しい組合せは②。aは正しい。版籍奉還(1869年)の版とは版図すなわち領地をさし、籍とは戸籍すなわち領民をさす。各藩主のもとにあった領地・領民が天皇に返還されたことで、新政府は形式上、全国の支配権を得ることになった。bは誤っている。版籍奉還に際して中央政府の組織も再編されたが、このときは、神祇官・太政官の二官制となった。太政官三院制が採用されたのは、廃藩置県後の官制改革のときである。cは誤っている。廃藩置県(1871年)により藩は廃止されたが、このとき琉球藩はまだ成立していないことに注意したい。新政府は、江戸時代以来薩摩藩と清国に両属する琉球王国を日本領とする方針のもと、廃藩置県の翌年の1872年に琉球藩を置き、ついで1879年に琉球藩を廃止し沖縄県を設置した(琉球処分)。dは正しい。版籍奉還後も旧大名がそのまま旧領地の知藩事に任命され、依然として徵税と軍事の権限をもつなど実質的な支配にあたっていたが、廃藩置県により旧大名である知藩事は罷免されて東京居住を命じられ、かわって中央から府知事・県令が派遣され、地方行政にあたることになった。これにより国内の政治的統一が完成した。

問5 [8] ①

正しい組合せは①。Xは正しい。政府が華族・士族に与えていた家禄と維新功労者に対する賞典禄とをあわせて秩禄といったが、その支出は政府支出の約3割を占め大きな負担となっていたため、1876年には秩禄が全廃された。そのかわりに華族・士族には、金禄公債証書が与えられることになった。士族のなかには、なれない商売を始めて失敗するなど困窮する者も多く出た。Yも正しい。士族が失った身分的特権の一つは帶刀の権利で、1876年の廃刀令による。

問6 [9] ③

誤っているのは③。征韓論争に敗れて下野した江藤新平は佐賀藩の出身であり、山口県の萩ではなく佐賀で反乱を起こした。江藤による佐賀の乱(1874年)の後、1876年には、先述の廃刀令などに対する反発から、熊本県・福岡県・山口県萩で不平士族による反乱があいついだ。①は正しい。新政府は朝鮮との国交樹立を目指したが、朝鮮は鎖国政策をとり、日本の態度に対する不満もあり国交交渉に応じなかった。これに対して西郷隆盛らは、西郷自ら朝鮮に赴き開国を迫り、拒否されれば武力行使も辞さないとする征韓論を唱え、いったん決定された。②も正しい。岩倉使節団に参加して欧米諸国を視察して帰国した大久保利通は、木戸孝允らとともに国内政治の整備を優先する立場から征韓論に反対した。結局征韓派は敗れ、西郷のほか江藤新平・板垣退助・後藤象二郎ら征韓派の参議は下野した。④も正しい。征韓派が下野した後の政府を主導したのは大久保で、内務省を新設して初代内務卿に就任した。

### 第3問 明治時代の石炭業をめぐる動向

#### 【出題のねらい】

石炭は、江戸時代には薪炭の代用や製塩の燃料などとして一部使われていたが、幕末の開国貿易以後はまず船舶燃料として需要が増えた。さらに、明治時代中・後期の産業革命期になると、石炭を燃やして水を沸騰させ、発生した蒸気の力によって機械を動かす蒸気機関が、船舶・機関車、工場の機械を動かす動力源として使われ、石炭は近代日本の経済発展を下支えする重要な鉱物資源となった。本問では、こうした石炭の使途の変化とともに発展した石炭業について、グラフや表などの素材を使用しながら設問した。とくに得点が低かった受験生は、明治期の経済・社会の復習に早急に取り組んでほしい。

#### 【設問別解説】

問1 [10] ②

正しい組合せは②。空欄Aには、工部省が入る。空欄直前の「1870年に設置した」ということから判断したい。第2問の問6で解説したように、内務省は、征韓論政変(明治六年の政変 1873年)後まもなく設置され、その長官である内務卿には大久保利通が就任した。工部省は鉄道・鉱山事業などを担い、内務省は軽工業・農牧業などの殖産興業のほか地方行政や警察なども担った。空欄Bには、八幡製鉄所が入る。空欄の前後から「官営」の製鉄所であることや、筑豊炭田から石炭を供給されたことなどから判断したい。鞍山製鉄所は、第一次世界大戦にともなう大戦景気のころに満鉄が満州に設立し

た製鉄所である。

問2 [11] ④

誤っているのは④。三井ならびに三井財閥の歴史について確認した。三井の持株会社である三井合名会社の理事長として三井財閥を指揮した团琢磨が暗殺されたのは、五・一五事件ではなく血盟団事件においてであった。五・一五事件で暗殺されたのは、犬養毅首相である。①は正しい。三井は、17世紀後半に伊勢松坂の商人であった三井高利が江戸に越後屋という呉服店を出し「現金掛値なし」の新商法で大成功をおさめたことにはじまる。その後、三井は京都・大阪にも店を出し、両替商などにも商売を広げた。②も正しい。三井は、明治期になると政府とのつながりを深め、小野組とともに第一國立銀行を設立したり、三井銀行を設立したりした。三井銀行は日本最初の私立銀行で、明治時代初期(1876年)に設立されたが、この点は詳細な内容なので判断を保留にして、明確な誤りの内容をもつ選択肢を見つけてほしい。③も正しい。産業革命期の三井は、銀行・商社・鉱山・呉服店など、事業を多角的に展開した。そして、1909年に持株会社の三井合名会社を設立し、そのもとに多数の傘下企業を組織しコンツェルン形態を整えたことで、財閥として成長した。その後、大戦景気から反復恐慌の時代に、ますます傘下企業を増やすなどして強大化していった。

問3 [12] ④

正しい組合せは④。三菱が経営していた高島炭鉱で起った高島炭鉱事件について問うた。Xは誤っている。雑誌『日本人』は、民友社ではなく政教社の雑誌である。以下の整理を参考し、区別しておいてほしい。明治時代中期の高島炭鉱では、鉱夫らは、仕事の差配なども行う親方の厳しい監視のもと、宿舎(納屋という)で生活し酷使されていた。1888年、その惨状をとりあげた記事を掲載したのが雑誌『日本人』であり、これを機に劣悪な労働環境が社会問題化した。Yは誤っている。衆議院議員を辞職した田中正造が天皇に直訴しようとしたのは、足尾銅山の鉛毒問題に関してであり、高島炭鉱事件についてではない。

◆明治時代中期に発刊された雑誌・新聞

雑誌『国民之友』	民友社 徳富蘇峰らが発刊 平民政義の立場
雑誌『日本人』	政教社 三宅雪嶺らが発刊 国粹主義の立場
新聞『日本』	陸羯南らが発刊 国民主義の立場

問4 [13] ③

正しいのは③。表の読み取り問題である。1901年以降、「工場用」の消費割合が50%を超えており、これは、産業革命の進展によって工場が増加し、そうした工場の動力源が主に蒸気機関であったためである。①は誤っている。石炭の内地消費高は、1886年に1,312千トンだったのが、1911年に12,071千トンへ増え、約9倍に増加している。「約15倍に増え」てはいない。②も誤っている。製塩用の消費については、たしかに消費割合は減っている。しかし、母数である内地消費高が増えているので、1886年は約456千トン、1911年は約724千トンと、製塩用の消費量は増えている。「消費量そのものが激減し」の部分が誤っている。④も誤っている。表中で鉄道用の消費割合が最も多かったのは1911年ではなく、1906年であった。また、鉄道国有法が成立したのも日露戦争後の1906年で、第1次西園寺公望内閣のときであった。

第4問 明治時代の政党

【出題のねらい】

明治時代の政治史のなかで、自由民権運動と議会開設後の政治をとりあげた。センター試験の頻出テーマであり、日常の学習においても時間をかけている分野であろう。そこで、本問では風刺画や史料を素材に出題した。もっとも、センター試験でよくみられるように、問われている内容は基本的な事項ばかりである。正解できなかった設問を中心に、あらためて教科書などを用いて復習しておこう。

【設問別解説】

A 問題文では明治十四年の政変と自由党の結成から解党までをとりあげ、自由民権運動の動向などについて出題した。

問1 [14] ①

正しい組合せは①。空欄Aには、フランスが入る。1881年に設立された板垣退助を党首とする自由党は、フランス流の急進的な自由主義を主張した。一方、1882年に設立された大隈重信を党首とする立憲改進党は、イギリス流の議会政治を主張し

た。空欄 **I** には、加波山事件が入る。1882年に自由党の河野広中らが弾圧された福島事件以降、政府は民権派に対する弾圧を行い、自由党員の間にはそれに対する反発が強まった。また、当時は松方デフレによる不況が広がっており、各地で自由党員らによるいわゆる激化事件が起きた。1884年、一部の自由党員が政府高官暗殺を計画したが発覚し、茨城県加波山で蜂起して鎮圧された。この事件の後、政党としての運営ができないと考えた板垣らの党幹部は、自由党を解党した。大阪事件は、旧自由党の大井憲太郎や景山英子が、武器を持って朝鮮に渡り、朝鮮の内政改革をしようとして準備しているところを逮捕された事件である。この事件は自由党解党の翌年の1885年に起きた。

問2 **15** ④

誤っているのは④。1875年に開かれた大阪会議の直後に政府が出した弾圧法令は、讒謗律・新聞紙条例である。集会条例は、1880年、国会期成同盟結成直後に提出された弾圧法令である。①は正しい。1873年、征韓論争に敗れた参議の西郷隆盛・板垣退助らは下野し、翌年、板垣・後藤象二郎らは愛國公党を結成して民撰議院設立建白書を政府に提出したが受理されなかった。しかし、これを契機に議会開設などを求める自由民権運動が始まった。②も正しい。土佐に帰った板垣退助は、片岡健吉らの同志とともに立志社を設立して運動を継続した。③も正しい。1875年、地方政社の全国的な連合組織を目指して大阪で愛國社が結成された。このとき、政府側の大久保利通は、板垣と、前年の台湾出兵に反発して下野していた木戸孝允と大阪で話し合い(大阪会議)、徐々に立憲体制に移行することを内容とする漸次立憲政体樹立の詔を出すとともに、元老院・大審院・地方官会議の設置を決定した。こののち、板垣と木戸は政府に復帰した。

◆自由民権運動の展開と政府による弾圧

- |      |                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1873 | 明治六年の政変 征韓派参議が下野                                                        |
| 1874 | 板垣らが民撰議院設立建白書を提出<br>板垣らが土佐で立志社を設立                                       |
| 1875 | 愛國社を結成<br>大阪会議 大久保と板垣・木戸<br>漸次立憲政体樹立の詔<br>元老院・大審院・地方官会議の設置<br>讒謗律・新聞紙条例 |
| 1878 | 愛國社を再興                                                                  |
| 1880 | 国会期成同盟を設立<br>集会条例                                                       |
| 1881 | 開拓使官有物払下げ事件<br>明治十四年の政変<br>自由党を結成                                       |
| 1882 | 立憲改進党を結成<br>福島事件                                                        |
| 1884 | 加波山事件<br>自由党解党<br>秩父事件                                                  |
| 1887 | 大同団結運動<br>三大事件建白運動<br>保安条例                                              |

問3 **16** ④

誤っているのは④。下線部⑤の「ある政変」とは、明治十四年の政変である。問2の解説に示したように、徐々に立憲体制に移行するという漸次立憲政体樹立の詔が提出されたのは、大阪会議のときである。明治十四年の政変では、1890年(明治23年)に国会を開設するという国会開設の勅諭が提出された。①は正しい。大隈重信が参議を罷免された背景には、国会開設の時期をめぐる大隈と伊藤博文との対立があり、大隈は即時国会開設を主張し、伊藤は漸進論を唱えていた。②も正しい。薩摩出身の開拓長官黒田清隆が、同じ薩摩出身の政商五代友厚らの会社に、開拓使の官有物を不当な安価で払下げようとしていることが暴露され、世論の政府批判が高まった。③も正しい。伊藤らは、この政府批判の世論と大隈が関係があるとして、政府は大隈を罷免した。

B 『万朝報』に掲載された幸徳秋水の「自由党を祭る文」を素材に、明治時代の議会政治の展開と立憲政友会の結成について出題した。

問4 **17** ②

正しい配列は②。時代順に説明する。Iは初期議会期のことである。第1議会では立憲自由党土佐派の妥協により政府の軍備拡張予算が成立したが、第

2議会では、第1次松方正義内閣の海軍大臣樺山資紀の蛮勇演説を機に衆議院が解散され、第2回衆議院議員総選挙が実施された。その際、内相であった品川弥二郎は各地で警察などを動員して激しい選挙干渉を行った。**III**は日清戦争後のことである。日清戦争後、政府と政党は提携するようになり、第2次伊藤内閣は自由党と、第2次松方内閣は進歩党と提携した。その後の第3次伊藤内閣は地租増徴案をめぐり政党と対立し、自由・進歩両党が合同して憲政党を結成すると退陣した。その後、この憲政党を与党として、最初の政党内閣である第1次大隈重信内閣が成立した。しかし、文相尾崎行雄の共和演説事件を契機に、憲政党は旧自由党系の憲政党と旧進歩党系の憲政本党とに分裂し、第1次大隈内閣はわずか4か月で退陣した。**II**は第1次大隈内閣退陣後に成立した第2次山県有朋内閣のときである。第2次山県内閣は、分裂後の憲政党の支持を得て地租増徴案を成立させた。以上から、**I**—**III**—**II**の配列となる。

#### 問5 [18] ④

正しい組合せは④。**X**は誤っている。幸徳秋水は、立憲政友会の結成を、自由党的系譜をひく憲政党が伊藤博文の前に屈服したものと受けとめていた。「嗚呼自由党死す矣、而して其光榮ある歴史ハ全く抹殺されぬ。」といった部分から、幸徳の慨嘆を読みとてもらいたい。**Y**も誤っている。第4次伊藤内閣は、多くの大臣を立憲政友会の会員で占めたが、陸軍大臣・海軍大臣・外務大臣は立憲政友会の会員ではなかった。外務大臣は判断できなかつかもしないが、前の第2次山県有朋内閣のときに軍部大臣現役武官制が制定されているので、陸軍大臣・海軍大臣は現役の軍人でなければならず、政党員ではないことがわかるであろう。

### 第5問 石橋湛山の人物史

#### 【出題のねらい】

石橋湛山の人物史を素材に、大正時代から戦後の政治・外交を中心に問うた。センター試験の近現代史の問題では、このように特定の人物を取りあげて出題されることが多いので、本問ではそれにならった。ただし、その人物についての特別な知識が必要とされるわけではなく、基本的事項が理解できていれば高得点がとれるようになっている。

#### 【設問別解説】

A 大正時代における石橋湛山の活動を素材に、当該期のマスメディアや思想・社会運動、第一次世界大戦後の国際秩序などについて確認した。

#### 問1 [19] ①

正しい組合せは①。**X**は正しい。大正・昭和初期には新聞が発行部数を伸ばし、多くの雑誌も創刊された。『キング』は「日本一面白くて為になる」をうたい文句に創刊された大衆雑誌で、創刊号は70万部を超えた、後には100万部を突破する売れ行きを見せた。**Y**も正しい。ラジオ放送は、1925年に東京・大阪・名古屋で開始され、翌年には日本放送協会(NHK)が設立された。ニュースを伝える媒体としては新聞が中心だったが、ラジオ放送の開始によってニュースの速報性が高まった。

#### 問2 [20] ④

正しい組合せは④。**a**は誤っている。吉野作造の唱えた民本主義は、政策の決定は民衆の意志によるとして、政治の目的は国民の福利にあるとするもので、その実現のために普通選挙と政党内閣を主張した。しかし、この民本主義は、明治憲法下の天皇主権を前提としたもので、国民主権を前提としたものではなかった。**b**は正しい。美濃部達吉の天皇機関説は、天皇は国家の最高機関として憲法の条規に従って統治権を行使するという学説である。統治権は天皇に属し無制限であるとする上杉慎吉らの天皇主権説も存在したが、天皇も憲法に制約されるとする美濃部の学説がこの当時、学界・政界の主流を占めた。**c**は誤っている。普通選挙運動が高揚するなか、原敬首相は普通選挙の導入には慎重で、選挙権の納税資格を直接国税10円以上から3円以上に引き下げるにとどめた。憲政会などの野党が普通選挙法案を衆議院に提出したが、原敬内閣は時期尚早として拒否し、衆議院を解散した。**d**は正しい。女性運動も活発になり、1920年に市川房枝・平塚らいてうらによって新婦人協会が結成された。1900年に制定された治安警察法第5条には女性の政治運動参加を禁止するなどの条項があったため、新婦人協会はその改正を要求し、その結果、1922年に治安警察法第5条の一部が改正され、女性も政治集会に参加できるようになった。その後、市川らは女性参政権の獲得を要求する運動を展開した。

#### 問3 [21] ②

誤っているのは②。史料の「一切を棄つるの覚悟」は、植民地の放棄などを主張したもので、「小日本主義」とよばれる石橋湛山の代表的な主張である。第一次世界大戦中、日本は中国におけるドイツの根拠地青島を占領し、さらに二十一カ条の要求を突きつけて山東省の旧ドイツ権益を日本が継承することなどを中国に認めさせた。大戦後のパリ講和会議でヴェルサイユ条約が結ばれ、日本は山東省権益

を継承することを列国に認められた。しかし、その後、日本の対外膨張を警戒するアメリカの提唱によってワシントン会議が開かれ、その際の日中交渉によって山東省権益の中国への返還が取り決められた。史料の内容だけから、この会議がワシントン会議であると判断するのは難しいかもしれないが、他の選択肢から判断できてほしい。**①**は正しい。先述した通り、この国際会議とはワシントン会議である。この会議によって成立したワシントン体制は、パリ講和会議で成立したヴェルサイユ体制とともに、第一次世界大戦後の国際秩序を形成した。**③**も正しい。ワシントン会議では四カ国条約が締結され、太平洋地域の現状維持が約された。これによって日英同盟協約は廃棄されることになった。**④**も正しい。第一次世界大戦後、列国は大幅な軍艦建造計画を立てており(建艦競争)，その費用が国家財政を圧迫していた。とくに戦後恐慌以来の不況で歳入が減少していた日本にとって、軍艦建造費は大きな負担となっていた。そこで、ワシントン会議では海軍軍縮条約が結ばれ、主力艦(戦艦など)の保有量が制限され、米・英・日の保有率が5：5：3と定められた。以下に、ワシントン会議について整理しておいたので、参照してほしい。

#### ◆ワシントン会議

アメリカ大統領ハーディングの提唱
日本全権：加藤友三郎(海軍大臣)ら
<b>四カ国条約</b> (1921)
太平洋地域における現状維持
→ 日英同盟協約廃棄
<b>九カ国条約</b> (1922)
中国の主権尊重・門戸開放・機会均等
→ 石井・ランシング協定廃棄
日中交渉で山東省の旧ドイツ権益を中国に返還
<b>海軍軍縮条約</b> (1922)
主力艦の保有量の制限
10年間の主力艦の建造禁止

**B** 昭和戦前期における石橋湛山の活動を素材に、政党内閣期から十五年戦争期の政治・外交の動向を確認した。**⑥**

#### 問4 [22] ⑥

正しい組合せは**⑥**。空欄**[ア]**には、山東出兵が入る。1920年代後半、中国では、北方軍閥の打倒をめざして国民革命軍の蒋介石が北伐とよばれる軍事行動をすすめていた。憲政会の第1次若槻礼次郎内閣は、外相幣原喜重郎の協調外交のもと中国への内政不干渉路線をとったが、「軟弱外交」との非難を

あげた。かわって成立した立憲政友会の田中義一内閣は、満蒙権益を擁護するため居留民保護を名目に山東省に軍隊を派遣し、北伐に干渉した。選択肢のシベリア出兵は、ロシア革命に干渉するためのもので、第一次世界大戦中から戦後にかけて実施された。空欄**[イ]**には、金解禁が入る。日清戦争後、日本は金本位制をとっていたが、第一次世界大戦時に欧米諸国が金輸出を禁止したのにならい、実質的に金本位制から離脱していた。浜口雄幸内閣の蔵相井上準之助は、為替相場を安定させ輸出増加をはかるために1930年に金輸出を解禁した。しかし、解禁による不況と世界恐慌の影響をうけて、日本経済は昭和恐慌におちることになった。その後、犬養毅内閣の蔵相高橋是清が1931年に金輸出を再禁止した。

#### 問5 [23] ⑥

正しい配列は**⑥**。年代順に解説する。**Ⅲ**日中戦争が勃発し長期化の様相を示すと、戦時体制の構築がめざされた。第1次近衛文麿内閣は、1938年、議会の承認なしに政府が労働力・物資などを動員できるとする国家総動員法を制定し、経済統制を強めた。

**I** 日中戦争が膠着状態にあるなか、第二次世界大戦が勃発した。日本は当初、ヨーロッパの戦争に不介入の方針をとっていたが、1940年、第2次近衛内閣は日独伊三国同盟を締結し、ドイツ・イタリアとの提携を強めた。これは日本の中国侵略を非難するアメリカを牽制するねらいがあった。**Ⅱ** 太平洋戦争勃発後、ミッドウェー海戦の敗北を機に日本は敗退をくりかえした。戦局悪化のなか、東條英機内閣は、1943年、中国の汪兆銘政府・満州國などの親日政権および占領地の代表者らを東京に集めて大東亜会議を開き、大東亜共栄圏の結束強化をはかった。

**C** 戦後における石橋湛山の活動を素材に、戦後復興から55年体制期の政治・外交および軍備などに関する確認した。

#### 問6 [24] ②

正しい組合せは**②**。空欄**[ウ]**には、傾斜生産方式が入る。戦後の猛烈なインフレを抑えて経済を復興させるため、第1次吉田茂内閣は資材と資金を石炭・鉄鋼業などの重要産業部門に集中投下する傾斜生産方式を採用した。この傾斜生産方式は、つづく片山哲・芦田均両内閣のもとでも継承されたが、復興金融金庫による巨額の資金投入によってインフレがますます進行することになった。経済安定九原則は、占領政策の転換にともない、日本の経済的自立を急いだアメリカが第2次吉田内閣に指令したデフレ政策である。空欄**[エ]**には、田中角栄が入る。

戦後、中国は共産党の中華人民共和国(大陸)と国民党の中華民国(台湾)に分裂していた。サンフランシスコ平和条約の発効によって主権を回復した日本は、1952年に台湾の中華民国と平和条約を結んだ。しかし、1972年、米中接近などの国際情勢をうけて、田中角栄首相は訪中し、中華人民共和国の周恩来首相と日中共同声明を発表し、国交を正常化させた。これによって中華民国との国交は断絶することになった。佐藤栄作内閣は、日韓基本条約や沖縄返還協定などを締結した内閣であり、中華人民共和国に対しては敵視の姿勢をとっていた。

問7 [25] ①

誤っているのは①。鳩山内閣は「憲法改正」をかけ、自衛隊の合憲化と再軍備の強化をはからうとした。安保条約改定は岸信介内閣が行った政策である。また、社会党はサンフランシスコ平和条約の批准をめぐって左右に分裂していたが、鳩山内閣の「憲法改正」に反対し、1955年、総選挙で改憲阻止に必要な3分の1以上の議席を確保し、再統一をはたした。以後、自民党政権は解釈改憲による自衛隊の合憲化をすすめた。②は正しい。左右社会党の再統一をうけて、保守陣営でも日本民主党と自由党の保守合同が行われ、自由民主党が結成された。初代総裁には首相の鳩山が選ばれた。③も正しい。鳩山内閣は「自主外交」の方針をとり、アメリカが敵視するソ連との国交回復をめざした。1956年、鳩山首相みずからソ連を訪れ、日ソ共同宣言に調印し国交の回復を実現した。④も正しい。日ソ共同宣言の調印により、それまで日本の国際連合加盟を拒否していたソ連が支持にまわったので、1956年、日本の国際連合加盟が実現した。

問8 [26] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。戦後、GHQの指示によって憲法改正がすすめられた。幣原喜重郎内閣が提出した改正案は、依然保守的なものだったので、マッカーサー司令官は「主権在民・戦争放棄・基本的人権の尊重」などを含む草案を示した。これをもとに帝国議会で若干の修正を加えて、第1次吉田茂内閣の下で日本国憲法として公布・施行された。この憲法の第9条第1項では「國權の發動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と戦争の放棄を定めている。また、同じく第9条第2項では、「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。」と戦力の不保持と、國の交戦権を認めないと定めている。Yは誤っている。

る。朝鮮戦争の勃発によって1950年に警察予備隊が創設され、これによって実質的な再軍備が始まった。その後、サンフランシスコ平和条約の発効とともに、1952年に警察予備隊は改組されて保安隊となった。さらに、MSA協定(日米相互防衛援助協定など)の締結によって、1954年に自衛隊が発足した。

## 第6問 近現代の都市民衆の生活

### 【出題のねらい】

第一次世界大戦のころから敗戦後、現代にいたるまでの都市民衆の生活をたどることで、各時期の経済・社会・文化について確認した。大正時代以降は、都市民の中心として中間層が登場するが、時期によってその生活は様相が異なる。背景となる各時期の政治・外交・経済状況と関連づけながら、理解してほしい。

### 【設問別解説】

A 大戦景気を背景に資本主義がさらに発展し、都市中間層(サラリーマン)が多く出現し、いわゆる市民文化の担い手となっていました。ここでは、大戦景気と彼らの生活ぶりについて問うた。

問1 [27] ②

誤っているのは②。大戦景気では、それまでの輸入超過から輸出超過へと転じた。とくに、アジア向けの綿製品の輸出と、アメリカ向けの生糸の輸出が増えた。①は正しい。海運業・造船業が活況となるなかで、一躍大成功をおさめた人たちのことを「船成金」とよんだ。③も正しい。第一次世界大戦では、日本はイギリスを中心とする連合国側として参戦しており、ドイツは敵国であった。このため、それまでドイツから輸入していた薬品・化学肥料・染料などの化学製品の輸入が難しくなり、国産化が進展した。④も正しい。大戦景気のころ、水力発電の開発がすすみ、内陸部からの長距離送電も可能となるなか、工場の動力源が蒸気力から電力へと変化した。また、一般家庭にも電灯が広まり、電気の消費量が増えた。

問2 [28] ③

正しい組合せは③。図版の読み取り問題である。  
資料1の文化住宅では、建物中央に廊下が配置され、各部屋の独立性が高まっている。和洋折衷の住宅である文化住宅の一つの特徴である。aは、部屋をふすまで田の字型に仕切ってはいないので、誤っている。bは、玄関脇に客間があるので、正しい。  
資料2では、家族がちゃぶ台を囲み食事をとっている。食器類はちゃぶ台の上に置かれているので、cは正しく、dは誤っている。銘々の膳で食事をとつ

ていたのは、市民文化以前の食事スタイルであった。市民文化期になって、家族団らんの風景がみられるようになった。

問3 [29] ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。義務教育の年数が4年から6年に延長されたのは、日露戦争後の明治時代後期であった。Yは正しい。明治時代中期の帝国大学令と原敬内閣で出された大学令を混同しないようにしたい。なお、以下に明治・大正時代の教育制度について整理しておいたので、参照してほしい。

◆明治・大正時代の教育制度の変遷

○明治前期

学制(1872) 国民皆学 フランス式  
教育令(1879) 自由主義的 アメリカ式

○明治中期

学校令(1886) 国家主義的学校体系  
小学校令・中学校令・帝国大学令・  
師範学校令  
小学校の義務教育は原則4年となる  
教育勅語(1890) 忠君愛国の理念を提示

○明治後期

国定教科書制度(1903)  
小学校令改正(1907)  
義務教育を4年から6年に延長

○大正期

大学令(1918) 原敬内閣  
公・私立大学などを公認

B 戦時下の都市民の生活をとりあげた。戦争が長期化するなかで、都市民の生活がどのように変化したのか、また、戦争末期に激化した都市への空襲によって、都市民の生活はどのようなことを余儀なくされたのか、などを聞いた。

問4 [30] ①

正しい組合せは①。空欄[A]には消費抑制が入る。**資料3**の看板には「ぜいたくは出来ない筈だ」と書かれていることから判断したい。日中戦争の長期化にともない、1938年には国家総動員法が制定され、消費は軍需中心に行われ民需は制限されるようになった。切符制・配給制が導入されたのも1940年前後であった。空欄[I]には隣組が入る。**資料4**の歌詞のなかにある「回覧板」、「味噌醤油」の貸し借り、「ご飯の炊き方」を垣根越しに教えたりしている点から判断したい。隣組は、部落会・町内会の下部組織で、役所からの連絡や配給物資の支給、出征兵士の見送り、防空訓練などを行った。産業報国

会は、労使一体で戦争協力をすすめるために職場ごとにつくられた団体で、全国組織として大日本産業報国会がある。なお、その後、大日本産業報国会・隣組ともども大政翼賛会の傘下に組み込まれた。

問5 [31] ④

正しい組合せは④。aは誤っている。問4でも触れたが、切符制が導入されるのは日中戦争の長期化が決定的となった1940年前後であり、太平洋戦争末期ではない。bは正しい。米の配給制が始まったのは1941年で、はじめは米が配給されていたが、太平洋戦争末期になると、兵士の動員が増えて農業労働人口も減少し、凶作なども重なって、米の配給がどこおった。cは誤っている。勤労動員は工場などへ働きに行くことで、徴兵されるのは学徒出陣といった。dは正しい。1941年、国民学校令によって、小学校は国民学校と改称され、皇国民の鍊成がめざされた。一方、1944年7月のサイパン島陥落後には米軍による本土空襲が激しくなり、その前後から学童疎開が始まった。学童疎開の対象となったのは、都市の国民学校児童で、空襲をさけるためと、働く大人の妨げとならないように実施された。

問6 [32] ②

誤っているのは②。破壊活動防止法は、日本が独立を回復した直後の1952年に制定された。一方、食糧メーデーは敗戦の翌年1946年に起こっており、両者は無関係である。①は正しい。戦後も配給制度が続いたが、それだけでは食料が不足したので、都市民は農村への買出しや闇市での闇買いなどで飢えをしのいだ。③も正しい。バラックとはトタン屋根の掘立小屋で、空襲で家を失った人のなかにはバラックに住むもの多かった。④も正しい。敗戦後、明るいメロディーの「リンゴの唄」が大ヒットして、人びとの心を元気づけた。①・③・④は、知らない内容も多かったと思われる。その際は判断保留で処理し、明らかな誤りを含む文を探してほしい。

C 高度経済成長期から現在にいたる都市民の生活をふりかえった。高度経済成長の様相と、同時期にすすんだ消費革命について確認した。

問7 [33] ②

誤っているのは②。1955年から1973年まで続いた高度経済成長の要因としては、技術革新・設備投資・安価な石油・事実上の円安があげられる。技術革新は、製鉄業・造船業・自動車産業などで進展したが、IT関連の部門で進展するのは1990年代以降である。①は正しい。高度経済成長期には、太平洋ベルト地帯といって、海外との貿易に便利な太平洋岸などの都市で経済発展が著しかった。③も正し

い。ドッジ・ラインで固定された 1 ドル=360円が、日本経済の成長にともない円安傾向となり、それを利用して日本は輸出を増やした。その後、1971年のドル・ショックを受けて 1 ドル=308円となり、1973年の変動相場制への移行によって円高がすすみ、輸出に不利となった。④も正しい。池田勇人内閣は、その前の岸信介内閣が安保闘争で多くの国民から非難を浴びたことから、経済中心への政策転換を図り、「寛容と忍耐」の姿勢で政治にのぞんだ。この内閣のもとで1960年に所得倍増計画が発表され、高度経済成長に拍車がかけられた。

問8 [34] ④

正しい組合せは④。消費革命の進展をグラフの読み取りで確認した。1960年代に各家庭に広まった電

化製品は、三種の神器とよばれる白黒テレビ・電気冷蔵庫・電気洗濯機であった。1970年代に入ると、3 C とよばれるカラーテレビ・カー・クーラーが普及した。以上より、空欄 [ウ] は、1960年前後に急伸し1970年近くなると減少していることから、白黒テレビと判断したい。空欄 [工] は、同じく1960年代に増えたが、その後も引き続き普及し、現在までほぼ100%を維持していることから、三種の神器の一つの電気冷蔵庫と判断したい。一方、空欄 [オ] は、[ウ] が減少に転じるころから急速に増加しているものなので、3 C の一つであるカラーテレビと判断したい。CD プレーヤーは1980年代以降に普及し、3 C には含まれない。空欄 [ウ] と [オ] の相関関係に気づけば、解答は導き出せる。

●写真提供・協力

石川令子(撮影 石川光陽)／国立国会図書館／独立行政法人国立公文書館／日本漫画資料館／舞鶴引揚記念館

## 日本史 B

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1	1	②	2	
		問2	2	②	2	
		問3	3	④	2	
	B	問4	4	③	2	
		問5	5	①	2	
		問6	6	④	2	
第1問 自己採点小計				(12)		
第2問	A	問1	7	④	3	
		問2	8	①	3	
		問3	9	③	3	
	B	問4	10	②	3	
		問5	11	②	3	
		問6	12	③	3	
第2問 自己採点小計				(18)		
第3問	A	問1	13	③	3	
		問2	14	②	3	
		問3	15	④	3	
	B	問4	16	②	3	
		問5	17	③	3	
		問6	18	①	3	
第3問 自己採点小計				(18)		
第4問	A	問1	19	④	2	
		問2	20	①	3	
		問3	21	①	3	
	B	問4	22	②	3	
		問5	23	③	3	
		問6	24	④	3	
第4問 自己採点小計				(17)		
第5問	問1	25	②	3		
	問2	26	④	3		
	問3	27	④	3		
	問4	28	③	3		
第5問 自己採点小計				(12)		

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第6問	問1	29	①	2		
	問2	30	④	3		
	問3	31	②	3		
	問4	32	③	3		
	問5	33	⑤	3		
	問6	34	②	3		
	問7	35	①	3		
	問8	36	②	3		
第6問 自己採点小計				(23)		
自己採点合計				(100)		

### 【解説】

#### 第1問 古代～近代における地図の歴史

##### 【出題のねらい】

地図は、いわば立体的空间を平面に表現したものであり、その作製には大変な労力を要した。それでも、古代以来、人びとはさまざまな地図を作製してきた。そこで、本問では近年のセンター試験の第1問にならって、会話形式で地図や地図作製に関する動向などを素材に、古代～近代を総合的に問うた。特殊なテーマではあるが、設問は基本知識で解けるものばかりである。本問の学習を通じて日本史の総合力を高め、ラストスパートへの足がかりにしてほしい。

##### 【設問別解説】

A 中世の荘園絵図や近世初期に刊行されたいわゆる行基図を利用して、古代・中世の土地制度や、近世初期の政治動向などについて確認した。

##### 問1 1 ②

正しい組合せは②。空欄Aには、鎌倉時代に地頭と荘園領主との間で行われた下地中分が入る。承久の乱後、年貢横領・農民の不当支配など地頭の非法が目立つようになり、地頭と荘園領主との紛争が増加した。その解決のため、荘園領主側が妥協して、地頭請の契約を結んだり、土地を折半する下地中分の取り決めを行ったりした。写真1(伯耆国東郷荘の下地中分図)を見ると、田地などは「地頭分」・「領家分」に二分されており、下地中分の実態をうかがうことができる。以下に、武士の荘園侵略に関して整理しておいたので、参照してほしい。空欄Iには、南が入る。写真2を見ると、国名などから、南を上に、北を下に描かれていることがわかるであろう。

## ◆武士の莊園侵略

## 鎌倉期

地頭請……地頭が莊園の年貢納入を請け負う  
下地中分…莊園の土地と莊民を地頭と莊園領主  
で折半

## 南北朝期

守護請…守護が莊園の年貢納入を請け負う  
半済令…莊園・公領の年貢半分を守護が徵収す  
る権限を認める(1352年)  
のちに全国化、土地折半へ

## 問2 [2] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。律令国家は、6年ごとに作成される戸籍にもとづいて、6歳以上の男女に口分田を班給した。その面積は、良民男子は2段、女子は男子の3分の2と定められていた。Yは誤っている。名(名田)の耕作は、田堵とよばれた有力農民に請け負わせた。受領は、国司の最上席者(通常は守)をさす用語である。9世紀以降、浮浪・逃亡などが増加するとともに、班田收授は次第に行われなくなった。こうした事態を受けて、10世紀前半、政府は政策の転換を余儀なくされ、従来の人頭税中心の税制を改め、土地税中心とした。国司は、口分田などの公領を名(名田)という課税単位に編成し、その耕作を田堵に請け負わせて税を納入させた。

## 問3 [3] ④

正しい組合せは④。aは誤っている。豊臣秀吉が織田信長の後継者たる地位を確立したのは、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破ったことによる。長篠の戦いは、織田信長が足軽鉄砲隊で武田勝頼の騎馬隊を打ち破った戦いである。信長の戦乱と秀吉の戦乱を区別しておこう。bは正しい。秀吉は1585年に朝廷から閑白に任命され、その翌年には太政大臣に任じられ豊臣の姓を与えられた。閑白になった秀吉は、全國の大名に停戦を命じ、全國統一をすすめていった。cは誤っている。徳川家康が征夷大將軍に任じられたのは、関ヶ原の戦い(1600年)の後である。また、当時の天皇は後陽成天皇である。後水尾天皇は、紫衣事件に際して退位した天皇である。dは正しい。家康は、將軍に任じられた2年後に將軍職を子の秀忠に譲り、その後も大御所として実權を握り続けた。

B 近世後期に作製された『大日本沿海輿地全図』の蝦夷(北海道)地図や、明治時代に陸軍が作成した旅順周辺の地図を利用して、列強の接近や明治期の殖産興業、日露戦争などについて確認した。

## 問4 [4] ③

正しい配列は③。列強の接近と幕府の対応について、年代配列の形式で問うた。年代順に解説する。18世紀後半になるとロシア船が南下し蝦夷地周辺に姿をみせるようになった。そのようななか、II 1792年にはロシア使節ラクスマンが根室に来航し、漂流民を送りとどけるとともに通商を要求した。この出来事は、寛政の改革の時期に起こったもので、幕府は江戸湾と蝦夷地の海防の強化を諸藩に命じた。このような北方での対外的な緊張に加えて、I 1808年、イギリス軍艦フェートン号が長崎に侵入して薪水や食料を強要するフェートン号事件が起こった。その後もイギリス船などがしばしば日本近海にあらわれたので、幕府は1825年に異国船打払令を出し外国船の撃退を命じた。III この異国船打払令によって、1837年、アメリカ商船モリソン号が撃退されるという事件(モリソン号事件)が起こった。その後、アヘン戦争による清国の敗北が伝わると、幕府は、1842年に異国船打払令にかえて天保の薪水給与令を出した。

## 問5 [5] ①

正しい組合せは①。Xは、aの富岡製糸場の説明文である。「幕末以来の輸出品」が生糸であると判断できれば、富岡製糸場を選べるであろう。生糸は、南蛮貿易・朱印船貿易などでは主要な輸入品であったが、その後に国産化がすすみ、幕末開港後の貿易では最大の輸出品となった。そのため、技術改良による品質向上は、富国強兵・殖産興業を掲げる明治政府にとって喫緊の課題であった。こうした状況を受けて、群馬県に官営模範工場として富岡製糸場が建設され、フランスの先進技術を導入して輸出品の品質向上がはかられた。ちなみに、富岡製糸場は周辺の絹産業遺産群とともに、2014年ユネスコの世界遺産に登録された。大阪紡績会社については、綿糸の生産拡大に貢献した点も確認しておきたい。Yは、cのクラークの説明文である。「札幌農学校」から、クラークを選べるであろう。クラークは「少年よ、大志を抱け」などの名セリフを残したアメリカ人教師であった。ロエスレルは、憲法など近代法典編纂に活躍したドイツ人である。

## 問6 [6] ④

誤っているのは④。北清事変後、ロシアによる事実上の満州占領が続き、日露間の対立が深まった。日本国内では、伊藤博文らの日露協商論もあったが、当時の第1次桂太郎内閣はイギリスとの同盟を選択し、1902年に第1次日英同盟協約を締結した。日英同盟は日露開戦前に成立していたので、誤りと

なる。①は正しい。開戦前、キリスト教徒の内村鑑三や社会主義者の幸徳秋水・堺利彦らによる非戦論・反戦論はあったが、世論の趨勢は主戦論に傾いていた。②も正しい。日本軍は日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を破るなど戦局を有利にすすめていたが、資金・人員・武器が不足しており、長期戦を戦える状況になかった。ロシアも革命などがあつて国内が混乱していたので、アメリカ大統領セオドア＝ローズヴェルトの斡旋を受け入れ、アメリカのポーツマスで講和会議が開催された。③も正しい。日露間の講和条約(ポーツマス条約)では、日本はロシアに韓国に対する日本の保護・指導権を認めさせるとともに、旅順・大連の租借権や長春以南の鉄道権益などを獲得した。しかし、賠償金が獲得できなかつたため、国内では講和条約に対する不満から日比谷焼打ち事件が起こった。

## 第2問 古代の古墳・寺院

### 【出題のねらい】

本問は、古代の古墳と寺院に関して、豪族と古墳・寺院、朝廷と寺院という2つのテーマをとりあげた。それぞれがどのような関係を有していたかを確認することは、政治や文化など当時をとりまく様々な状況を理解することにもつながっていくので、しっかりと学習してほしい。

### 【設問別解説】

A ここでは、豪族と古墳、豪族と氏寺との関係を、前方後円墳や飛鳥寺を素材に確認した。飛鳥寺は、蘇我馬子によって建立された氏寺である。

### 問1 [7] ④

誤っているのは④。6世紀の古墳時代後期には古墳のあり方に大きな変化がみられた。それまで巨大な前方後円墳が営まれてきた近畿では依然として営まれるのに対し、それ以外の地方では、大きな古墳がみられなくなった。かわって、有力農民の台頭を背景に、彼らによって築造された群集墳とよばれる小古墳が増加した。大規模な前方後円墳ではない。①は正しい。巨大な前方後円墳は近畿以外でも岡山県(吉備)や北関東(毛野)などでもみられ、これらの地域には有力な首領のいたことが推定できる。②も正しい。大仙陵古墳(仁徳天皇陵古墳)は、古墳時代中期を代表する巨大な前方後円墳で、最大規模の古墳である。③も正しい。前方後円墳の墳丘上などには埴輪が並べられ、斜面は葺石でふかれた。以下に、古墳の変遷について整理しておいたので、参照してほしい。

### ◆古墳の変遷

前期	畿内中心 前方後円墳など 竪穴式石室 鏡・玉類などを副葬 → 被葬者は司祭者の性格 箸墓古墳(奈良県)
中期	全国に拡大 巨大な前方後円墳 竪穴式石室 馬具・武器などを副葬 → 被葬者は武人的性格 大仙陵古墳・誉田御廟山古墳(大阪府)
後期	全国に普及・増加 小型の円墳など(群集墳) 横穴式石室 日常生活用具・須恵器などを副葬 岩橋千塚古墳群(和歌山県)

### 問2 [8] ①

正しい組合せは①。史料は仏教が伝来したことを見示す『日本書紀』の記事の一部である。aは正しい。空欄□には百済が入る。仏教は、西域・中国を経て百済に伝わった。百済は日本との関係を緊密にするために仏教を伝えたという。史料によれば、百済の聖明王が仏像・経論などを天皇に献上したことがわかる。そのときの天皇が欽明天皇で、bは誤りとなる。推古天皇は6世紀末に即位した女帝で、欽明天皇よりも後の時代となる。cは正しい。史料によれば、蘇我稻目は「西蕃」の諸国が仏を礼拝しており、日本だけが背くべきではないと主張しており、仏教の受容に積極的であったことがわかる。dは誤っている。史料によれば、物部尾輿・中臣鎌子は、「蕃神」を礼拝すれば、國神の怒りを招くと主張し、蘇我氏とは反対の排仏の立場をとっていたことがわかる。このように仏教受容において、蘇我氏は崇仏を、物部氏は排仏をそれぞれ主張し、対立していたことを確認しておきたい。

### 問3 [9] ③

正しい配列は③。年代順に解説する。II「蘇我馬子」がキーワードである。6世紀中ころには物部氏と蘇我氏が対立するようになり、587年に大臣蘇我馬子が大連物部守屋を滅ぼした。さらに馬子は592年に崇峻天皇を暗殺し、政治権力を掌握した。I「蘇我蝦夷」がキーワードである。蘇我蝦夷は馬子の子で、父の跡をついで大臣となった。また、蝦夷とその子の入鹿は、大化のクーデターである乙巳の

変(645年)で滅ぼされた。したがって、この文はおよそ7世紀前半の動向であることがわかる。III「壬申の乱」がキーワードであり、7世紀後半である。大化の改新で成立した新政府の方針は、天智天皇に継承されたが、この天智天皇の死後に起こったのが壬申の乱である。このときに大友皇子方につき、乱後流罪となったのが蘇我赤兄である。ただし、この人物については覚える必要はない。

B ここでは、嵯峨天皇と東寺をとりあげ、朝廷と寺院との関係を確認した。8世紀末、南都仏教勢力の強い平城京から長岡京をへて遷都された平安京において、嵯峨天皇は新しい国家仏教として空海による真言宗に注目し、その実践・布教の拠点とさせたのが東寺であった。

問4 [10] ②

誤っているのは②。嵯峨天皇が令外官である檢非違使を設置したことは正しいが、檢非違使は京内の治安維持にあたるもので、国司交替の監督を行うものではない。桓武天皇の時代に設置された勘解由使が、国司交替に際する事務の引継ぎを監督した。①は正しい。嵯峨天皇は兄の平城太上天皇と対立し、「二所朝廷」とよばれる政治的混乱が生じた。嵯峨天皇方が勝利し、平城太上天皇方が敗北した(平城太上天皇の変、または薬子の変)。その政変に際して設置された令外官が藏人頭で、北家の藤原冬嗣らが任命され、天皇の機密をあつかった。③も正しい。8世紀後半から9世紀になると、農民の浮浪・逃亡・偽籍などで律令税制が動搖し、国家財政の維持が困難になった。そこで、政府は9世紀前半に大宰府管内に公営田を設けて、有力農民を利用した直営方式を採用し、財源を確保しようとした。④も正しい。嵯峨天皇の時代は、文芸によって国家の隆盛をめざす文章経国思想がさかんとなり、漢文学が発展した。そこで、嵯峨天皇の命によって最初の勅撰漢詩文集『凌雲集』が編まれ、その後、『文華秀麗集』『経国集』も編纂された。

問5 [11] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。空海がもたらした真言宗は、秘密の呪法(加持祈禱)を通じて仏の世界に接しようとする密教であり、現世利益(この世での仏の恵み)を願う貴族の要求に応えようとした。なお、密教に対して、南都六宗のように釈迦の教えを經典にもとづいて学ぼうとするものを顯教という。Yは誤っている。円仁・円珍は天台宗の僧侶である。最澄が開いた天台宗は、最澄の死後、円仁・円珍が本格的に密教を取り入れた。真言宗の密教を東密とよぶのに対し、天台宗の密教を台密とよんで

いる。

問6 [12] ③

正しいのは③。これは「教王護國寺(東寺)両界曼荼羅」の一部(胎蔵界)である。曼荼羅は、大日如来を中心とした密教の仏教世界を構図化したもので、不動明王像とともに代表的な密教絵画である。①は「平等院鳳凰堂阿弥陀如来像」で、国風文化期の淨土教美術を代表するものである。②は「扇面古写経」である。院政期を代表する装飾経の一つである。ちなみに、この作品は四天王寺に所蔵されている。④は「正倉院螺鈿紫檀五絃琵琶」で正倉院宝物の一つ。天平文化期の作品である。

### 第3問 女性からみた中世の社会・経済

#### 【出題のねらい】

本問は、中世の女性の地位や相続、そして経済活動をとりあげ、当該期における社会や経済の動向を中心にあつかった。中世の社会経済に関しては、鎌倉時代と室町時代を比較することによって、どのような発展をとげていったかを理解することが重要である。また、社会経済史の分野は、文化史とともに学習が遅れがちな分野である。本問を通して、学習の進捗状況を確認してほしい。

#### 【設問別解説】

A 中世の武家社会における女性の相続や地位を、御成敗式目の条文を素材にあつかった。設問では、女性の動向、執権政治の展開、史料の内容などを確認した。

問1 [13] ③

正しい組合せは③。X源頼朝の死後、弟(北条義時)とともに幕政を主導したのは、頼朝の妻で尼将軍とも称された北条政子(b)である。承久の乱の際にには、御家人らに結束をよびかけて幕府を勝利に導いた。日野富子は、室町幕府の8代將軍足利義政の妻で、鎌倉時代の女性ではないので排除できたと思う。Y相続争いの訴訟のため、京都から鎌倉に下った際の旅日記で、阿仏尼が著したのは『十六夜日記』(c)である。『十六夜日記』は、阿仏尼が実子への遺領相続を鎌倉幕府に訴えに行った際の紀行文である。『東闇紀行』も、鎌倉時代の代表的な紀行文であるが、筆者は未詳である。

問2 [14] ②

正しいのは②。執権北条泰時は、執権を補佐する連署を置くとともに、有力御家人や政務に優れた者を評定衆とし、執権・連署とともに幕府の政務や訴訟にあたらせ、合議による政治体制を整備した。①は誤っている。侍所の初代別当である和田義盛を滅

ぼし、政所と侍所の別当を兼務して執権の地位を確立したのは、北条義時である。③も誤っている。蘭溪道隆に帰依し建長寺の開山としたのは、北条時頼である。北条時宗が帰依し、円覚寺の開山とした無学祖元と混同しないようにしたい。④も誤っている。武蔵国に金沢文庫をつくり、和漢の書籍を収集したのは、北条実時である。北条実時は義時の孫で、評定衆として時頼や時宗を補佐したが、執権には就任していない。

問3 [15] ④

正しい組合せは④。Xは誤っている。史料2行目に「右、法意の如くばこれを許さず」とあり、律令では認められていないことがわかる。Yも誤っている。「大将家御時以来當世に至るまで、…不易の法勝計すべからず。しかのみならず都鄙の例、先蹤これ多し」と、源賴朝の時代以来の先例であり、かつ武家社会の慣習となっていたことがわかる。

B 中世における女性の経済活動を中心にあつかった。設問では、商工業者、貨幣・金融、京都の町・町衆などについて確認した。

問4 [16] ②

誤っているのは②。運上・冥加は江戸時代の営業税で、中世の商工業者に課せられた税ではない。江戸幕府は株仲間を公認して営業独占を認めるかわりに、運上・冥加を上納させた。①は正しい。平安時代末期以降、商工業者らが同業者組織である座を結成するようになり、室町時代になると、その種類や数は著しく増加した。座は本所の保護のもと、関銭の免除や販売の独占権などを認められた。③も正しい。鑄物師とは、金属をとかして鋳型に流し込み、鍋・釜などを作る職人である。平安時代末期には朝廷に属していたが、やがて自立性を強め、原料と需要を求めて諸国を遍歴し、各地に鑄物業を広めた。④も正しい。番匠は大工職のことであるが、センター試験レベルではやや詳細な知識なので、正誤の判断を保留してもかまわない。

問5 [17] ③

正しいのは③。為替は、遠隔地間の取引に際して金銭の輸送を手形で決済する方法で、鎌倉時代後半から発達した。①は誤っている。永楽通宝は明銭の一つで、明からの輸入銭である。鎌倉幕府や室町幕府は銭貨を鋳造することはなく、中世では中国からの輸入銭である宋銭や明銭などが使用された。②も誤っている。撰銭令は、撰銭を規制する法令で、年貢の銭納を奨励するものではない。室町時代には粗悪な私鑄銭が流通し、取引に際して良銭だけを選び取る撰銭が行われて円滑な流通が阻害された。その

ため、幕府や戦国大名は撰銭を規制する撰銭令を出した。④も誤っている。問丸(問)は、港や交通の要地などで商品の中継や運送などを担う業者で、高利貸業者ではない。鎌倉時代には借上、室町時代には土倉・酒屋などの高利貸業者が活躍した。以下に、中世の貨幣・金融に関して整理しておいたので、参照してほしい。

◆中世の貨幣・金融

【鎌倉時代】

- 輸入銭の宋銭が流通
- 年貢の銭納(代銭納)
- 遠隔地間の取引で為替を利用
- 借上などの金融業者が活動

【室町時代】

- 輸入銭の明銭(永楽通宝など)が流通
- 年貢の銭納が一般化
- 為替の利用が普及
- 撰銭の横行 → 撰銭令で規制
- 土倉・酒屋などの金融業者が活動

問6 [18] ①

正しい組合せは①。aは正しく、bは誤っている。京都の町を自治的に運営したのは、月行事である。月行事は、センター試験レベルではやや詳細な知識であるが、bの会合衆が堺の自治的運営にあたった有力商工業者であることがわかれば、消去法で判断できる。cは正しく、dは誤っている。応仁の乱で荒廃した京都は、富裕な商工業者である町衆によって復興され、祇園祭も町を母体とした町衆の祭りとして再興された。新嘗祭は、祈年祭とともに農耕儀礼から生まれたもので、秋に収穫を感謝する祭祀である。

第4問 近世の江戸

【出題のねらい】

本問は、近世の江戸に関して、二つの時期に焦点をあて、各時期の動向を幅広く出題した。一つは16世紀末～17世紀前半の時期で、江戸城と城下町江戸の造成を追ながら、幕藩体制確立期の諸相を問うた。もう一つは、18世紀前半～19世紀前半の時期で、江戸の都市対策や関東農村との関係、農村復興策をあつかい、幕藩体制動搖期の諸相を問うた。各時期の動向を正しく理解できているかを確認してほしい。

【設問別解説】

A 德川家康の江戸入城から、城下町江戸がほぼ完成する3代將軍家光の時代までをあつかった。

問1 [19] ④

正しい組合せは④。空欄 [ア] には、石高が入る。年貢銭納高である貫高は、戦国大名が家臣に軍役などを負担させる際の基準であった。その後、豊臣秀吉による太閤検地で石高制が採用され、石高(米の生産高)が賦課基準となった。江戸幕府は大名に領地の石高を基準に軍役を課したり、手伝普請(幕府が大名に課した土木工事)を課したりした。空欄 [イ] には、狩野探幽が入る。探幽は江戸時代初期に幕府御用絵師となり、江戸城・二条城・名古屋城など、当時幕府が造成した城郭建築の障壁画の制作などを手がけた。なお、俵屋宗達は、京都町衆出身の画家で、装飾画に新様式を生み出した。代表的な作品には「風神雷神図屏風」がある。

問2 [20] ①

誤っているのは①。寛永年間とは、下線部に「1624~44年」とあり、およそ3代将軍徳川家光の時代であることがわかる。朝廷統制の基準を明示した禁中並公家諸法度が制定されたのは1615年で、将軍秀忠の時代(家康の大御所時代)である。同年の1615年には、大坂の役・一国一城令発布・最初の武家諸法度(元和令)公布などの出来事があった。②は正しい。3代将軍家光の時代には、1635年に武家諸法度(寛永令)が発布され、参勤交代の制度化と大船建造の禁に関する条項が新たに追加された。③も正しい。寛永の飢饉を背景に、将軍家光は本百姓体制の維持につとめ、その一環として1643年に田畠永代売買の禁令を出して田畠の永代売買を禁止した。④も正しい。将軍家光の時代には、いわゆる鎖国体制が完成した。島原の乱(1637~38年)鎮圧後の1639年にはポルトガル船の来航が禁止され、1641年にはオランダ商館が平戸から長崎出島に移された。

問3 [21] ①

正しい配列は①。年代順に解説する。Iは「将軍徳川家綱」がキーワードである。徳川家綱は4代将軍にあたり、この時代には慶安の変(由井正雪の乱)を契機に文治政治への転換がはかられた。なお、問題文にある領知宛行状に関しては、センター試験では必要のない知識である。II将軍の呼称を「日本國大君」から「日本國王」にかえさせたことがポイントとなる。新井白石による正徳の治では、朝鮮通信使の待遇を簡素化するとともに、朝鮮からの国書に記す將軍の呼称に関してそれまで「日本國大君」とあったものを「日本國王」にかえさせて、將軍の権威を高めようとした。III「将軍徳川綱吉から3代にわたって続いた側用人政治を廃止」がポイントとなる。5代将軍徳川綱吉の時代から6代将軍家宣・7代将軍家継の時代(正徳の治)までは、側用人政治が

行われていた。8代将軍となった徳川吉宗は、それまでの側用人政治を廃して老中らを中心とする幕府本来の政治のあり方にもどすことによって將軍権威の強化をはかった。以上より、I徳川家綱の時代、II正徳の治の時代、III享保の改革の時代であることがわかれれば、正解を導くことができる。

B 巨大都市となった江戸が抱えた都市問題や、関東農村の荒廃などに対して幕府が講じた施策、農政家の活動などをあつかった。

問4 [22] ②

正しい組合せは②。空欄 [ウ] には、儒学者で『政談』を著したということから、荻生徂徠が入る。本居宣長が国学者であることがわかれれば、消去法でも正解を導くことができる。徂徠は、朱子学・陽明学などを批判し、直接原典から孔子・孟子の真意を学ぼうとする古学派の学者で、古典を古文辞(古代の中国語)の考証に従って読解すべきと主張し古文辞学を創始した。彼は江戸に叢園塾という私塾を開いた。また、彼の著した『政談』は、8代将軍吉宗の諮問に応えて政治改革論を述べたもので、武士士着論など自給経済に復帰すべきことなどを述べている。空欄 [エ] には、天明の大飢饉を背景に江戸で起こったということから、打ちこわしが入る。1782年の冷害からはじまった飢饉は、翌年の浅間山の大噴火で被害が拡大し、東北地方を中心に多くの餓死者を出した。この天明の大飢饉によって多くの百姓一揆が起こるとともに、江戸や大坂などの都市では大規模な打ちこわしが発生した。なお、世直し一揆は、社会変革を求めた百姓一揆で、幕末期を中心に起こったもので、天明の大飢饉のときにはまだ起こっていない。

問5 [23] ③

正しい組合せは③。aは誤っている。小石川に養生所が設置されたのは、享保の改革のときである。8代将軍吉宗は、広く庶民らの意見を求めて目安箱を設け、その投書によって建てられたのが小石川養生所で、貧民を対象とした医療施設である。bは正しい。農村から窮乏化した農民らが江戸に流入し、江戸では無宿人が激増したため、治安対策として設けられたのが石川島の人足寄場である。無宿人を収容し、職業指導を行った。cは正しい。江戸の町費の節約分の7割を積み立てておき、江戸の困窮者の救済財源にあてようとした七分積金(七分金積立)の制度がつくられた。dは誤っている。江戸に流入した農民を強制的に帰村させる人返しの法が出されたのは、天保の改革のときである。寛政の改革では、江戸に流入した貧民で帰村を希望するものに旅費な

どを支給して帰村を奨励する旧里帰農令が出された。以下に、幕府の都市政策と農村復興策を整理しておいたので、参照してほしい。

#### ◆幕府の都市政策と農村復興策

##### 享保の改革

小石川養生所の設置(貧民の医療施設)

町火消の組織

##### 寛政の改革

旧里帰農令(帰村を奨励)

七分積金(町費節約分の7割を財源に貧民救済)

石川島人足寄場の設置(無宿人を収容)

社倉・義倉の設置(圃米)

(凶作に備えて貯穀を命ずる)

##### 天保の改革

人返しの法(帰村を強制)

#### 問6 [24] ④

正しい組合せは④。X関東農村の治安維持のために、幕領・私領を問わず博徒などを取締ったのは、bの関東取締出役である。將軍徳川家斉の時代の19世紀初頭に設置された。なお、aの勘定吟味役は、勘定奉行を補佐し勘定所の業務などを担った役職である。元禄小判などの悪貨鋳造を建議した荻原重秀がその任にあったことを想起すれば、19世紀初めに新設された役職でないことがわかる。Y報徳仕法で荒廃した農村の復興に尽力したのは、dの二宮尊徳である。尊徳は、19世紀前半に小田原藩領での農村復興事業で成果をあげた。彼はその農村復興策を体系化した報徳仕法で、天保の大飢饉以降、幕藩領主から依頼を受け、北関東などの荒廃した農村の復興事業に尽力した。なお、cの安藤昌益は江戸時代中期の医者・思想家で、『自然真諦』を著して万人がみずから耕作して生活する自然の世を理想とし、当時の身分制社会などを批判した。

#### 第5問 明治時代の石炭業をめぐる動向

##### 【出題のねらい】

石炭は、江戸時代には薪炭の代用や製塩の燃料などとして一部使われていたが、幕末の開国貿易以後はまず船舶燃料として需要が増えた。さらに、明治時代中・後期の産業革命期になると、石炭を燃やして水を沸騰させ、発生した蒸気の力によって機械を動かす蒸気機関が、船舶・機関車、工場の機械を動かす動力源として使われ、石炭は近代日本の経済発展を下支えする重要な鉱物資源となった。本問では、こうした石炭の使途の変化とともに発展した石炭業について、グラフや表などの素材を使用しながら設問した。とくに得

点が低かった受験生は、明治期の経済・社会の復習に早急に取り組んでほしい。

##### 【設問別解説】

#### 問1 [25] ②

正しい組合せは②。空欄Aには、工部省が入る。空欄直前の「1870年に設置した」ということから判断したい。内務省は、征韓論政変(明治六年の政変 1873年)後まもなく設置され、その長官である内務卿には大久保利通が就任した。工部省は鉄道・鉱山事業などを担い、内務省は軽工業・農牧業などの殖産興業のほか地方行政や警察なども担った。空欄Bには、八幡製鉄所が入る。空欄の前後から「官営」の製鉄所であることや、筑豊炭田から石炭を供給されたことなどから判断したい。鞍山製鉄所は、第一次世界大戦にもなう大戦景気のころに満鉄が満州に設立した製鉄所である。

#### 問2 [26] ④

誤っているのは④。三井ならびに三井財閥の歴史について確認した。三井の持株会社である三井合名会社の理事長として三井財閥を指揮した团琢磨が暗殺されたのは、五・一五事件ではなく血盟団事件においてであった。五・一五事件で暗殺されたのは、犬養毅首相である。①は正しい。三井は、17世紀後半に伊勢松坂の商人であった三井高利が江戸に越後屋という呉服店を出し「現金掛値なし」の新商法で大成功をおさめたことにはじまる。その後、三井は京都・大阪にも店を出し、両替商などにも商売を広げた。②も正しい。三井は、明治期になると政府とのつながりを深め、小野組とともに第一国立銀行を設立したり、三井銀行を設立したりした。三井銀行は日本最初の私立銀行で、明治時代初期(1876年)に設立されたが、この点は詳細な内容なので判断を保留にして、明確な誤りの内容をもつ選択肢を見つけてほしい。③も正しい。産業革命期の三井は、銀行・商社・鉱山・呉服店など、事業を多角的に展開した。そして、1909年に持株会社の三井合名会社を設立し、そのもとに多数の傘下企業を組織しコンツェルン形態を整えたことで、財閥として成長した。その後、大戦景気から反復恐慌の時代に、ますます傘下企業を増やすなどして強大化していった。

#### 問3 [27] ④

正しい組合せは④。三菱が経営していた高島炭鉱で起こった高島炭鉱事件について問うた。Xは誤っている。雑誌『日本人』は、民友社ではなく政教社の雑誌である。以下の整理を参照し、区別しておいてほしい。明治時代中期の高島炭鉱では、鉱夫らは、仕事の差配なども行う親方の厳しい監視のも

と、宿舎(納屋という)で生活し酷使されていた。1888年、その惨状をとりあげた記事を掲載したのが雑誌『日本人』であり、これを機に劣悪な労働環境が社会問題化した。Yは誤っている。衆議院議員を辞職した田中正造が天皇に直訴しようとしたのは、足尾銅山の鉱毒問題に関してであり、高島炭鉱事件についてではない。

#### ◆明治時代中期に発刊された雑誌・新聞

雑誌『国民之友』	民友社 徳富蘇峰らが発刊 平民政義の立場
雑誌『日本人』	政教社 三宅雪嶺らが発刊 国粹主義の立場
新聞『日本』	陸羯南らが発刊 国民主義の立場

#### 問4 [28] ③

正しいのは③。表の読み取り問題である。1901年以降、「工場用」の消費割合が50%を超えている。これは、産業革命の進展によって工場が増加し、そうした工場の動力源が主に蒸気機関であったためである。①は誤っている。石炭の内地消費高は、1886年に1,312千トンだったのが、1911年に12,071千トンへ増え、約9倍に増加している。「約15倍に増え」ではない。②も誤っている。製塩用の消費については、たしかに消費割合は減っている。しかし、母数である内地消費高が増えているので、1886年は約456千トン、1911年は約724千トンと、製塩用の消費量は増えている。「消費量そのものが激減し」の部分が誤っている。④も誤っている。表中で鉄道用の消費割合が最も多かったのは1911年ではなく、1906年であった。また、鉄道国有法が成立したのも日露戦争後の1906年で、第1次西園寺公望内閣のときであった。

### 第6問 石橋湛山の人物史

#### 【出題のねらい】

石橋湛山の人物史を素材に、大正時代から戦後の政治・外交を中心に問うた。センター試験の近現代史の問題では、このように特定の人物を取りあげて出題されることが多いので、本問ではそれにならった。ただし、その人物についての特別な知識が必要とされるわけではなく、基本的事項が理解できていれば高得点がとれるようになっている。

#### 【設問別解説】

A 大正時代における石橋湛山の活動を素材に、当該期のマスメディアや思想・社会運動、第一次世界大戦後の国際秩序などについて確認した。

#### 問1 [29] ①

正しい組合せは①。Xは正しい。大正・昭和初期には新聞が発行部数を伸ばし、多くの雑誌も創刊された。『キング』は「日本一面白くて為になる」をうたい文句に創刊された大衆雑誌で、創刊号は70万部を超える、後には100万部を突破する売れ行きを見せた。Yも正しい。ラジオ放送は、1925年に東京・大阪・名古屋で開始され、翌年には日本放送協会(NHK)が設立された。ニュースを伝える媒体としては新聞が中心だったが、ラジオ放送の開始によってニュースの速報性が高まった。

#### 問2 [30] ④

正しい組合せは④。aは誤っている。吉野作造の唱えた民本主義は、政策の決定は民衆の意志によるところ、政治の目的は国民の福利にあるとするもので、その実現のために普通選挙と党政内閣を主張した。しかし、この民本主義は、明治憲法下の天皇主権を前提としたもので、国民主権を前提としたものではなかった。bは正しい。美濃部達吉の天皇機関説は、天皇は国家の最高機関として憲法の条規に従って統治権を行使するという学説である。統治権は天皇に属し無制限であるとする上杉慎吉らの天皇主権説も存在したが、天皇も憲法に制約されるとする美濃部の学説がこの当時、学界・政界の主流を占めた。cは誤っている。普通選挙運動が高揚するなか、原敬首相は普通選挙の導入には慎重で、選挙権の納税資格を直接国税10円以上から3円以上に引き下げるにとどめた。憲政会などの野党が普通選挙法案を衆議院に提出したが、原敬内閣は時期尚早として拒否し、衆議院を解散した。dは正しい。女性運動も活発になり、1920年に市川房枝・平塚らいでうらによって新婦人協会が結成された。1900年に制定された治安警察法第5条には女性の政治運動参加を禁止するなどの条項があったため、新婦人協会はその改正を要求し、その結果、1922年に治安警察法第5条の一部が改正され、女性も政治集会に参加できるようになった。その後、市川らは女性参政権の獲得を要求する運動を展開した。

#### 問3 [31] ②

誤っているのは②。史料の「一切を棄つるの覚悟」は、植民地の放棄などを主張したもので、「小日本主義」とよばれる石橋湛山の代表的な主張である。第一次世界大戦中、日本は中国におけるドイツの根拠地青島を占領し、さらに二十一カ条の要求を突きつけて山東省の旧ドイツ権益を日本が継承することなどを中国に認めさせた。大戦後のパリ講和会議でヴェルサイユ条約が結ばれ、日本は山東省権益

を継承することを列国に認められた。しかし、その後、日本の対外膨張を警戒するアメリカの提唱によってワシントン会議が開かれ、その際の日中交渉によって山東省権益の中国への返還が取り決められた。史料の内容だけから、この会議がワシントン会議であると判断するのは難しいかもしれないが、他の選択肢から判断できてほしい。**①**は正しい。先述した通り、この国際会議とはワシントン会議である。この会議によって成立したワシントン体制は、パリ講和会議で成立したヴェルサイユ体制とともに、第一次世界大戦後の国際秩序を形成した。**③**も正しい。ワシントン会議では四カ国条約が締結され、太平洋地域の現状維持が約された。これによって日英同盟協約は廃棄されることになった。**④**も正しい。第一次世界大戦後、列国は大幅な軍艦建造計画を立てており(建艦競争)，その費用が国家財政を圧迫していた。とくに戦後恐慌以来の不況で歳入が減少していた日本にとって、軍艦建造費は大きな負担となっていた。そこで、ワシントン会議では海軍軍縮条約が結ばれ、主力艦(戦艦など)の保有量が制限され、米・英・日の保有率が5：5：3と定められた。以下に、ワシントン会議について整理しておいたので、参照してほしい。

#### ◆ワシントン会議

アメリカ大統領ハーディングの提唱
日本全権：加藤友三郎(海軍大臣)ら
<b>四カ国条約</b> (1921)
太平洋地域における現状維持
→ 日英同盟協約廃棄
<b>九カ国条約</b> (1922)
中国の主権尊重・門戸開放・機会均等
→ 石井・ランシング協定廃棄
日中交渉で山東省の旧ドイツ権益を中国に返還
<b>海軍軍縮条約</b> (1922)
主力艦の保有量の制限
10年間の主力艦の建造禁止

**B** 昭和戦前期における石橋湛山の活動を素材に、政党内閣期から十五年戦争期の政治・外交の動向を確認した。**⑥**

#### 問4 [32] ⑥

正しい組合せは**⑥**。空欄**[ア]**には、山東出兵が入る。1920年代後半、中国では、北方軍閥の打倒をめざして国民革命軍の蒋介石が北伐とよばれる軍事行動をすすめていた。憲政会の第1次若槻礼次郎内閣は、外相幣原喜重郎の協調外交のもと中国への内政不干渉路線をとったが、「軟弱外交」との非難を

あげた。かわって成立した立憲政友会の田中義一内閣は、満蒙権益を擁護するため居留民保護を名目に山東省に軍隊を派遣し、北伐に干渉した。選択肢のシベリア出兵は、ロシア革命に干渉するためのもので、第一次世界大戦中から戦後にかけて実施された。空欄**[イ]**には、金解禁が入る。日清戦争後、日本は金本位制をとっていたが、第一次世界大戦時に欧米諸国が金輸出を禁止したのにならい、実質的に金本位制から離脱していた。浜口雄幸内閣の蔵相井上準之助は、為替相場を安定させ輸出増加をはかるために1930年に金輸出を解禁した。しかし、解禁による不況と世界恐慌の影響をうけて、日本経済は昭和恐慌におちることになった。その後、犬養毅内閣の蔵相高橋是清が1931年に金輸出を再禁止した。

#### 問5 [33] ⑥

正しい配列は**⑥**。年代順に解説する。**Ⅲ**日中戦争が勃発し長期化の様相を示すと、戦時体制の構築がめざされた。第1次近衛文麿内閣は、1938年、議会の承認なしに政府が労働力・物資などを動員できるとする国家総動員法を制定し、経済統制を強めた。

**I** 日中戦争が膠着状態にあるなか、第二次世界大戦が勃発した。日本は当初、ヨーロッパの戦争に不介入の方針をとっていたが、1940年、第2次近衛内閣は日独伊三国同盟を締結し、ドイツ・イタリアとの提携を強めた。これは日本の中国侵略を非難するアメリカを牽制するねらいがあった。**Ⅱ**太平洋戦争勃発後、ミッドウェー海戦の敗北を機に日本は敗退をくりかえした。戦局悪化のなか、東條英機内閣は、1943年、中国の汪兆銘政府・満州國などの親日政権および占領地の代表者らを東京に集めて大東亜会議を開き、大東亜共栄圏の結束強化をはかった。

**C** 戦後における石橋湛山の活動を素材に、戦後復興から55年体制期の政治・外交および軍備などに関して確認した。

#### 問6 [34] ②

正しい組合せは**②**。空欄**[ウ]**には、傾斜生産方式が入る。戦後の猛烈なインフレを抑えて経済を復興させるため、第1次吉田茂内閣は資材と資金を石炭・鉄鋼業などの重要産業部門に集中投下する傾斜生産方式を採用した。この傾斜生産方式は、つづく片山哲・芦田均両内閣のもとでも継承されたが、復興金融金庫による巨額の資金投入によってインフレがますます進行することになった。経済安定九原則は、占領政策の転換にともない、日本の経済的自立を急いだアメリカが第2次吉田内閣に指令したデフレ政策である。空欄**[エ]**には、田中角栄が入る。

戦後、中国は共産党の中華人民共和国(大陸)と国民党の中華民国(台湾)に分裂していた。サンフランシスコ平和条約の発効によって主権を回復した日本は、1952年に台湾の中華民国と平和条約を結んだ。しかし、1972年、米中接近などの国際情勢をうけて、田中角栄首相は訪中し、中華人民共和国の周恩来首相と日中共同声明を発表し、国交を正常化させた。これによって中華民国との国交は断絶することになった。佐藤栄作内閣は、日韓基本条約や沖縄返還協定などを締結した内閣であり、中華人民共和国に対しては敵視の姿勢をとっていた。

問7 [35] ①

誤っているのは①。鳩山内閣は「憲法改正」をかけ、自衛隊の合憲化と再軍備の強化をはからうとした。安保条約改定は岸信介内閣が行った政策である。また、社会党はサンフランシスコ平和条約の批准をめぐって左右に分裂していたが、鳩山内閣の「憲法改正」に反対し、1955年、総選挙で改憲阻止に必要な3分の1以上の議席を確保し、再統一をはたした。以後、自民党政権は解釈改憲による自衛隊の合憲化をすすめた。②は正しい。左右社会党の再統一をうけて、保守陣営でも日本民主党と自由党的保守合同が行われ、自由民主党が結成された。初代総裁には首相の鳩山が選ばれた。③も正しい。鳩山内閣は「自主外交」の方針をとり、アメリカが敵視するソ連との国交回復をめざした。1956年、鳩山首相みずからソ連を訪れ、日ソ共同宣言に調印し国交

の回復を実現した。④も正しい。日ソ共同宣言の調印により、それまで日本の国際連合加盟を拒否していたソ連が支持にまわったので、1956年、日本の国際連合加盟が実現した。

問8 [36] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。戦後、GHQの指示によって憲法改正がすすめられた。幣原喜重郎内閣が提出した改正案は、依然保守的なものだったため、マッカーサー司令官は「主権在民・戦争放棄・基本的人権の尊重」などを含む草案を示した。これをもとに帝国議会で若干の修正を加えて、第1次吉田茂内閣の下で日本国憲法として公布・施行された。この憲法の第9条第1項では「國權の發動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、國際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と戦争の放棄を定めている。また、同じく第9条第2項では、「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。」と戦力の不保持と、國の交戦権を認めないと定めている。Yは誤っている。朝鮮戦争の勃発によって1950年に警察予備隊が創設され、これによって実質的な再軍備が始まつた。その後、サンフランシスコ平和条約の発効にともなって、1952年に警察予備隊は改組されて保安隊となつた。さらに、MSA協定(日米相互防衛援助協定など)の締結によって、1954年に自衛隊が発足した。

●写真・図版提供・協力

四天王寺／正倉院／東京国立博物館 Image:TNM Image Archives／東京大学総合図書館／  
東京都立中央図書館特別文庫室／東寺／東北大学蔵外邦国デジタルアーカイブ／徳島県立博物館／平等院／  
便利堂／『伯耆国河村郡東郷庄之図』東京大学史料編纂所所蔵模写

# 地理 A

## 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	③	3		
	問2	2	①	3		
	問3	3	①	2		
	問4	4	④	2		
	問5	5	③	3		
	問6	6	④	3		
	問7	7	⑨	2		
	問8	8	①	3		
第1問 自己採点小計				(21)		
第2問	問1	9	④	3		
		10	⑤	3		
	問2	11	⑥	3		
	問3	12	③	3		
	問4	13	④	3		
	問5	14	④	3		
	問6	15	⑤	3		
第2問 自己採点小計				(21)		
第3問	問1	16	④	3		
	問2	17	②	3		
	問3	18	②	3		
	問4	19	⑤	3		
	問5	20	②	3		
	問6	21	③	3		
	問7	22	⑥	3		
第3問 自己採点小計				(21)		
第4問	問1	23	②	3		
	問2	24	③	3		
	問3	25	⑥	3		
	問4	26	③	3		
	問5	27	①	3		
	問6	28	⑤	3		
第4問 自己採点小計				(21)		

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	30	①	3		
	問2	31	④	3		
	問3	32	②	3		
	問4	33	①	2		
	問5	34	⑧	3		
	問6	35	②	2		
第5問 自己採点小計				(16)		
自己採点合計				(100)		

※の正解は順序を問わない。

## 【解説】

### 第1問 地理の基礎的事項

#### 【出題のねらい】

正距方位図法、緯度、時差のほか、世界の河川、農牧業、言語と宗教、産業と景観、尾根と谷の読み取りについて出題した。地理の問題では、図表が利用されることが多い。本問を解く場合、縮尺や方位などの意味、時差計算の方法などを習得しておくことはもちろんだが、提示された地図などの図表から必要な情報を読み取ることも大切である。

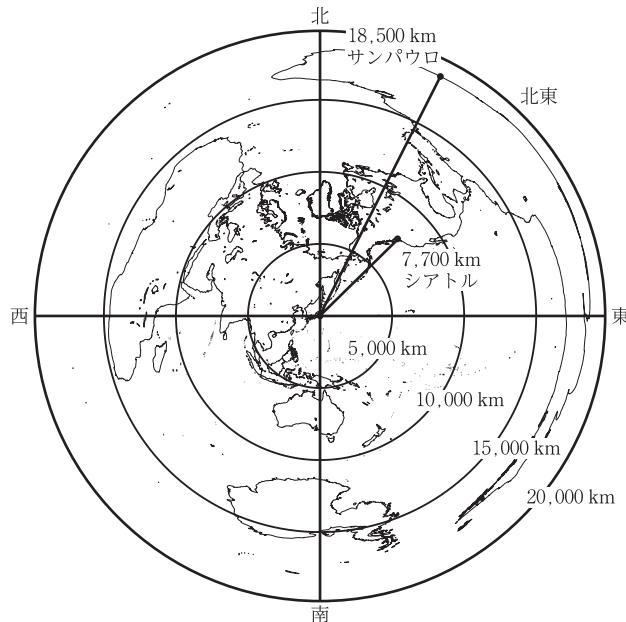
#### 【設問別解説】

##### 問1 1 ③

正距方位図法では、図の中心から任意の地点に引いた直線が、大圏航路(大圏コース：地表上の最短コース)となり、この直線の長さや方向によって、図の中心からの距離と方位を知ることができる(図①)。よって適当な文は⑩である。この図法で世界地図を描くと、地球は円で表現され、その円周が図の中心の対蹠点(地球の中心をはさんだ正反対の地点)であるから、図の中心から対蹠点までの距離は、地球の半周、すなわち地球の1周(4万km)の半分の2万kmである(④は誤り)。①誤り。各大陸の面積を比較するには、面積を正しく表現する正積図法による地図を利用しなければならない。正距方位図法は正積図法ではなく、周辺部ほど面積が大きく表現され、歪みも大きくなる。②誤り。東京から二つの都市へ引いた直線の長さを比べると、サンパウロまではシアトルまでの2倍以上ある(サンパウロへの実際の距離は18,500km、シアトルへの距離は7,700km)。

##### 問2 2 ①

地球は、太陽を回る面(公転面)に対して、地軸が直角より23.4度傾いて自転しているため、季節に



図① 東京中心の正距方位図法による世界地図

よって太陽高度が異なり、赤道上を除き昼夜の時間が異なる。したがって、北半球と季節が逆になる南半球では、**冬至**(12月21日前後)は北半球の夏至と同様に1年で最も昼の時間が長く、それも高緯度ほど長くなる。図1中の④は南極圏(南緯66.6度)に位置し、冬至には太陽が1日中沈まない**白夜**とよばれる現象がみられる。③は南緯45度付近、②は南回帰線(南緯23.4度)上に位置し、昼の時間は③のほうが長い。一方、①は赤道上に位置するから、1年中どの日も昼が12時間、夜が12時間であり、日の出・日の入りの時刻も毎日ほぼ同じである。以上から、冬至の日の昼の時間は、①が最も短い。なお、**夏至**(6月21日前後)はこの逆で、①の昼の時間が最も長く、④では極夜とよばれる太陽が1日中昇らない**白夜**と逆の現象がみられる。

## 問3 [3] ①

1日は日付変更線から始まり、地球は北極上空からみると反時計回りに自転しているため、日付変更線から西へ移動すると時間が遅れる。また、地球は**1日(24時間)**で**1回転(360度)**しているため、**経度差15度で1時間の時差**が生じる。まず、シアトル到着時刻は日本の時間では、1月17日1時35分である。次に時差を考える。**標準時子午線に東経135度を採用している日本は、世界標準時である経度0度(本初子午線)が通過するロンドンよりも9時間早い**。一方、シアトルは図1から西経120度に近い位置にあるとわかる(図の経線は18本だから、20度ご

とに引かれている)。これがシアトルの標準時だとすると、ロンドンよりも8時間遅れている。よってシアトルは東京より時刻が17時間(9+8)遅れている。これをもとに日本時間からシアトル時間を求める(1月17日1時35分から17時間引く)と、1月16日8時35分となる。

## 問4 [4] ④

ウはガングジス川で、④にあるように新期造山帯の山脈(ヒマラヤ山脈)や高原(チベット高原)に源流をもつ。支流の一つであるスマトラ川は、侵食力の非常に大きな河川で、チベット高原南部を東へ流れ、ヒマラヤ山脈を横切るように南下し、アッサム地方を西へ流れる。その後、ガングジス川と合流してベンガル湾に注ぎ、河口には巨大な**三角州**(ガングジスデルタ)を形成している。アはナイル川で④が該当する。「この大陸最大の湖」はヴィクトリア湖である。イはヴォルガ川で、①が該当する。本流の源流部は構造平野である**東ヨーロッパ平原**の中央ロシア高地、支流は古期造山帶のウラル山脈などから流れる。流域は全体に標高が低く、流れは非常に緩やかであり、流入先のカスピ海の水面標高は海面より低く(-28 m)、湖周辺の陸地は世界最大の海面下の土地となっている。エはミシシッピ川で、②が該当する。この川は長さ、流域面積とも北アメリカ最大で、西の新期造山帶(ロッキー山脈)と東の古期造山帶(ア巴拉チア山脈)の両方から支流が流れ出る。ただし本流はスペリオル湖西方の湿地帯が源で、構

造平野である北アメリカ中央平原を流れるため、河川勾配が非常に小さい。

問5 5 ⑧

Pには⑧が該当する。Pはマリーダーリング盆地で、オーストラリア最大の河川が流れる大農牧業地帯である。付近は、年降水量500mm前後であり、小麦や綿花の栽培が盛んなほか、降水量が比較的多いため、単位面積当たりの飼育頭数の多い集約的な羊の飼育が行われている。自然の草を飼料とする放牧中心で粗放的な牧羊が行われるグレートアーテジアン(大鑽井)盆地などに比べ飼育頭数も多い。

問6 6 ④

④正しい。旧ソ連地域を除くヨーロッパで「ウラル系の言語の使用者が多数を占める国」は、ハンガリー(ハンガリー語)とフィンランド(フィンランド語)である。また「イスラームを信仰する住民が多数を占める国」は、バルカン半島に位置するアルバニアやボスニア・ヘルツェゴビナなどである。①誤り。北ヨーロッパ諸国は、フィンランド以外ではゲルマン系の言語を使用し、「カトリック」ではなくプロテスタン트を信仰する住民が多数を占める。②誤り。南ヨーロッパ諸国は、イタリア、スペイン、ポルトガルのように「スラブ系」ではなくラテン系の言語を使用し、「プロテスタンント」ではなくカトリックを信仰する住民が多数を占める国が多いが、ギリシャのようにギリシャ語を使用し、東方正教を信仰する住民が多数を占める国もみられる。③誤り。東ヨーロッパに位置するルーマニアは、「ラテン系」の言語を使用し、「東方正教」を信仰する住民が多数を占める。しかし、ほかの東ヨーロッパ諸国は、チェコ、ポーランドなどのようにスラブ系の言語を使用し、カトリックを信仰する住民が多数を占める国や、ハンガリーのようにウラル系の言語を使用し、カトリックを信仰する住民が多数を占める国、セルビア、ブルガリアなどのようにスラブ系で東方正教を信仰する住民が多数を占める国もみられる。したがって、「ラテン系の言語を使用し、東方正教を信仰する住民が多数を占める」は誤り。

問7 7 ⑨

フランスの説明は文cである。フランス国民はワインを愛飲し、その生産は世界一(2011年)である。フランスでは、ローヌ川など主要河川沿いの地域を中心に原料のブドウが栽培され、ワインもそこで生産されている。写真クは、フランス南部リヨン付近のブドウ畑である。文aはスイスの説明である。この国では観光業が主要産業の一つであり、小国であるため来訪者数ではスペイン、フランスなどに及ば

ないが、国民1人当たりの観光収入はスペイン、フランス、イタリア、ドイツに比べて多い。スイスの観光拠点はアルプスの山々で、観光用の登山鉄道や宿泊施設が充実している(写真力)。文bはフィンランドの説明である。この国は国土面積の7割以上が森林で、針葉樹に恵まれる(写真キ)。軟材である針葉樹は、パルプに向いており、パルプ生産量は世界6位、紙・板紙の生産量は世界7位で、世界有数の生産国となっている(2011年)。

問8 8 ①

尾根は両側に比べ標高が高い地点を連ねたものであり、谷はその逆である。地形図での尾根と谷の見分け方は、等高線が低いほうに向かって凸になっているところを結んだ線が尾根、等高線が高いほうに向かって凸になっているところを結んだ線が谷である。図3中のQと①~④の各地点との直線距離はそれほど違わないが、尾根を図示すると距離の違いは明らかで、Qからの距離が最も長いのは①である。次ページの図②に実線で示したものが尾根であり、①までの距離が長いのは、Qと①の間に南に下る谷(図②に破線で示す)があり、これを迂回するからである。

## 第2問 国境を越えた結びつき

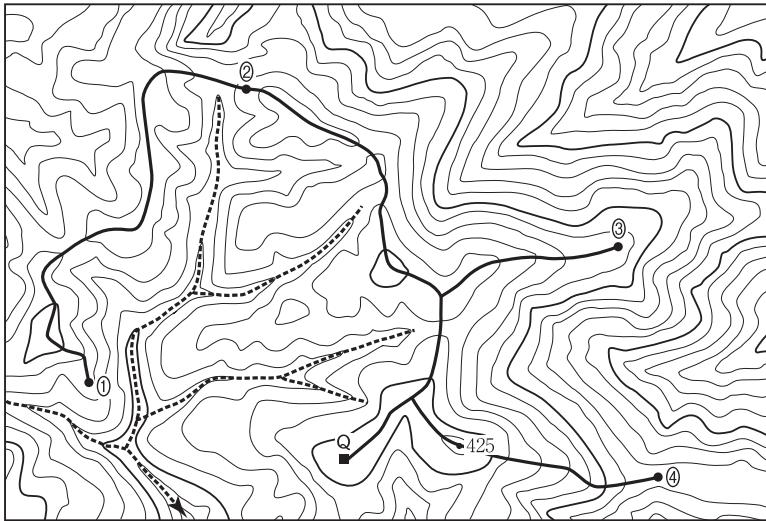
【出題のねらい】

北中アメリカを中心に、交通、貿易、投資、人口移動、国家群など国境を越える結びつきについて出題した。センター試験では本問のように図表が多く出題されるので、それぞれ背景から理解して図表の読み取りができるようにしておこう。

【設問別解説】

問1 9 10 ④・⑥

①誤り。NAFTA(北米自由貿易協定)はアメリカ合衆国、カナダ、メキシコの3か国で締結された自由貿易地域であり、EU(ヨーロッパ連合)のような労働力の移動の自由化を目指すものではない。②誤り。アメリカ合衆国、カナダともに大陸横断鉄道の路線が複数あるが、ともに鉄道交通による輸送量は貨物輸送の占める割合が高い。③誤り。カナダとアメリカ合衆国では、第二次世界大戦後、鉄道建設よりも道路建設を積極的に進め、特に自動車(乗用車・バス)の普及が進んだ。両国ともに広大な国土であり航空機の利用が盛んであるが、旅客輸送の9割近くを自動車が担っており、隣国との国境を越える交通機関も、鉄道はわずかで自動車が圧倒的に多い。④正しい。大型拠点空港(ハブ空港)は、乗客数の多い幹線航空路の結節点であり、広域航空路網



図②

の中心である。航空路網を自転車などの車輪に見立てると、結節点に位置する空港がハブであり、その航空路がスポークにあたる。ハブ空港の多くは大都市にあり、航空路は世界の大都市と結ばれるほか、国内の地方都市とも結ばれ、その乗り継ぎ空港となっている。アメリカ合衆国は、国土が広く国内の航空路網が発達しているため、アトランタ、ロサンゼルス、シカゴ、ダラスなど乗降客数の多い複数のハブ空港があるが、**国内の大都市間を結ぶ路線が幹線航空路**となっており、乗降客数も国内線の方が国際線よりも多い空港が上位(表①)となっている。⑥正しい。五大湖と大西洋は運河や河川などを介してつながっており、アメリカ合衆国やカナダの重要な水上輸送路となっている。⑥誤り。中米のパナマに建設され100年ほど前から利用がはじまった**パナマ運河**は、太平洋とカリブ海を結ぶ国際運河である。パナマ運河が完成するまでは、太平洋と大西洋を結ぶ海路は、南アメリカ大陸の南端を迂回するものが利用されていたが、運用開始後は大幅に距離も時間も短縮された。建設後、約100年が経過し施設の老朽化が進み、船舶の大型化によって通行できない船舶が増えているが、拡張工事も進められており、現在多くの船舶が通行する国際運河である。

表①  
アメリカ合衆国の乗降客数上位空港の総乗降客数と総乗降客数に占める国内線の乗降客数の割合

都市(空港名)	総乗降客数(千人)	総乗降客数に占める国内線の乗降客数の割合(%)
アトランタ(ハーツフィールド)	90,629	89.0
ロサンゼルス	64,817	73.6
シカゴ(オヘア)	64,539	83.6
ダラス・フォートワース	58,059	88.9
デンバー	50,968	96.2
ニューヨーク(JFK)	50,146	47.8

統計年次は2013年。

アメリカ合衆国運輸省の資料により作成。

## 問2 [11] ⑥

NAFTAは、アメリカ合衆国とカナダの自由貿易協定にメキシコを加え、1994年に発効したものであり、関税や非関税障壁を段階的に撤廃し、巨大な自由貿易市場をめざすものである。3か国の中、**アメリカ合衆国は世界最大の経済規模で世界各国との貿易が盛ん**であるが、カナダ、メキシコではアメリカ合衆国との貿易が大きな割合を占める。よって、**A・Bともに輸出額と輸入額の大半を占めるC**は、アメリカ合衆国である。また、**イギリスが輸出上位に入っているB**は、かつてイギリスに植民地支配を受けた、歴史的に関係の深いカナダであり、同様に**スペインが輸出上位に入っているA**は、かつて

スペインに植民地支配を受けたメキシコである。

問3 [12] ③

日本における小麦の自給率は12%，大豆は8%，豚肉は53%(2012年)であり，いずれも多くの北アメリカからの輸入に依存しているため，アメリカ合衆国とカナダ以外の上位国から判定する。アは，2位にブラジルが入っているので大豆が当てはまる。ブラジルは，アメリカ合衆国に次ぐ世界2位の大豆の生産(2012年)，輸出(2011年)国である。イは3位にオーストラリアが入っているので小麦と判定する。オーストラリアは世界6位(2012年)の小麦の生産国であり，輸出は世界3位(2011年)である。ウは3位にデンマークが入っているので豚肉と判定する。デンマークは畜産が盛んであり，豚肉生産は世界11位(2012年)，輸出は世界4位(2011年)となっている。

問4 [13] ④

アメリカ合衆国からの直接投資(対外直接投資)とは，アメリカ合衆国の企業が，外国に子会社を設立したり，企業を買収したり，工場を建設したりする企業活動のことである。一方，アメリカ合衆国への直接投資(対内直接投資)とは，外国の企業がアメリカ合衆国国内に進出し，工場建設などの企業活動を行うことである。アメリカ合衆国は，対外直接投資，対内直接投資ともに世界1位(2012年)であり，国内企業の海外進出が盛んである一方，海外からの企業進出も積極的に受け入れている。一般に，投資は資本に余裕があり競争力をもつ企業が行うものであり先進国の企業の投資額は多いが，発展途上国の企業の投資額は少ない。よって，図2ではアメリカ合衆国からの直接投資額に対して，アメリカ合衆国への直接投資額が極めて少ないGが発展途上国のメキシコである。他は判定できなくてよいが，アメリカ合衆国への直接投資額，アメリカ合衆国からの直接投資額ともに多いDがイギリスであり，金融・保険業における投資が多いため金額は大きい。また，アメリカ合衆国への直接投資額は多いが，アメリカ合衆国からの直接投資額がG(メキシコ)と変わらな

いEが日本であり，Fはカナダである。日本は，海外への企業進出は多いが，日本市場が海外からの投資に対して閉鎖的であることなどにより海外からの企業進出が少ないことを覚えよう。

問5 [14] ④

アメリカ合衆国への入国者数合計は日本とXでは多く，インドとYでは少ない。アメリカ合衆国では，先進国を中心とする一部の国から観光・商用目的で入国する場合，短期間(90日以内)の滞在に限り審査が簡便になっている。一方，ほとんどの発展途上国からの入国は，不法就労など目的外での入国を防ぐため審査が厳しいうえに，多くの国民が貧困であるため渡航できる者は少ない。よって，Xはイギリスであり，Yは中国である。また，入国者数合計のうち力の占める割合は日本とXで高く，Yとインドでは低めである。これは，先進国では観光目的での渡航が多いが，発展途上国では少ないためである。表2からもわかるように，発展途上国では，一時的労働や留学・交流などの他の目的での入国が多い。したがって，力は観光・商用目的，キは留学・交流目的であり，アメリカ合衆国への留学・交流目的での入国は，イギリスや日本よりも，発展途上国である中国やインドの方が多い。

問6 [15] ⑥

ASEAN(東南アジア諸国連合)は10か国，EUは28か国，NAFTAは3か国で構成される(2014年4月現在)。3つの国家群の人口規模は同程度だが，面積とGNI(国民総所得)は大きく異なる。表3ではの面積はシヤヌよりもはるかに広く，GNIが最も多いことから，カナダや，世界最大の経済大国であるアメリカ合衆国が加盟するNAFTAである。カナダの面積はロシアに次いで世界2位，アメリカ合衆国は3位であり，南アメリカ大陸の大部分の国が加盟するMERCOSUR(南米南部共同市場)や，ロシアを除く大部分のヨーロッパの国々が加盟するEUや東南アジアのASEANよりもはるかに面積が広大であるので，地図帳掲載の正積図法による世界

表②

国家群	加盟国数	面積(千km <sup>2</sup> )	人口(千人)	GNI(百万ドル)	輸出額(百万ドル)	輸入額(百万ドル)
NAFTA	3	21,578	473,190	18,056,357	2,379,512	3,175,754
MERCOSUR*	6	13,889	290,276	3,273,110	436,596	365,491
ASEAN	10	4,488	610,415	2,220,678	1,247,655	1,222,409
EU	28	4,380	508,381	17,655,594	5,679,265	5,685,179

\*ボリビアは，加盟各国議会の批准待ち。

統計年次は，面積とGNIが2011年，他は2012年。

『世界国勢図会』により作成。

地図で確認しよう。次にシは、GNIがサやスより大幅に小さいので、発展途上国が中心の ASEAN である。NAFTAとEUは先進国中心で、ともにGNIは大きいのでスがEUである。これら3つの国家群と MERCOSUR の規模の比較を表②に示したので、それぞれの特徴をとらえよう。

### 第3問 東アジア地誌

#### 【出題のねらい】

東アジア地域の山脈、気候、産業、生活文化に加え、近年の中国の動向についても出題した。教科書では近隣諸国として、中国、韓国、ロシアを取り上げられており、それぞれ図表や写真が多く使用されている。教科書の記述や図表を丁寧に読み、地図帳や統計集なども利用して学習を進めよう。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [16] ④

④誤り。Dはチンリン山脈で、古生代に造山運動を受けた後に、現在まで侵食され低くなだらかになった古期造山帯に分類される。したがって、日本のようなプレートのせばまる境界に位置する新期造山帯ではなく、地震もほとんど発生せず、火山もみられない。①正しい。Aは中国北西部に位置するテンシャン山脈である。古期造山帯に分類されるテンシャン山脈とその周辺は、Dのチンリン山脈、Cの大シンアンリン山脈のように低くなだらかになっていたとされる。しかし、ヒマラヤ山脈(B)やチベット高原などの高く険しい山脈や高原を形成したインド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの衝突による断層運動で再隆起したため、古期造山帯に属する山脈であるが、最高峰が7,000mを超える。②正しい。ヒマラヤ山脈は、インド、中国、ネパール、ブータンなどの国境付近を走る高く険しい山容である。新期造山帯のアルプス・ヒマラヤ造山帯に属するヒマラヤ山脈周辺は、せばまるプレート境界に位置し、中生代末からの造山運動によって形成された標高8,000m級の山々が連なる。③正しい。Cはトンペイ平原と西のモンゴル高原を分ける古期造山帯に属する大シンアンリン山脈であり、最高峰が1,500m程度の低くなだらかな山脈である。

##### 問2 [17] ⑦

タイペイは、図1中の4都市の中で最も低緯度側に位置するため、最寒月の平均気温が高く、気温の年較差が小さい⑦が当てはまる。台湾島はほぼ全域が温暖湿潤気候(Cfa)であり、年降水量は多く、降水の季節配分は海洋からの季節風の影響により夏季

多雨となっている。残る3都市のうち、高緯度の内陸に位置するウルムチは年降水量が少ない④(BS)である。ほぼ同緯度で海洋側に位置するチャンチエンは①(Dw)であり、夏季は海洋からの季節風の影響を受け降水がみられるが、冬季は大陸上に発達するシベリア高気圧からの北西季節風の影響を受け寒冷で少雨である。残った⑦は、新潟(Cfa)である。日本の日本海側は、冬季の北西季節風が、暖流の対馬海流が北上する日本海で水蒸気を供給されて雪雲を形成し、脊梁山脈にぶつかり、風上側の日本海側で雪(雨)を降らせるため、冬季の降水量が多い。

##### 問3 [18] ②

Wには⑦が当てはまる。モンゴルは、国土の大部分が乾燥気候の高原や山地で、羊や馬などの遊牧が盛んである。遊牧は、一定地域内を自然の草や水を求めて家畜とともに家族単位で移動するものであり、モンゴルでは馬の遊牧が有名で、ゲルとよばれるテント式の住居が利用してきた。Xには①が当てはまる。チベット高原は平均高度が4,000mを超えるため、図1では低緯度側に位置するものの年中冷涼であり、最暖月平均気温が10°Cを超えて、ツンドラ気候(ET)が卓越する。このため農耕は盛んではなく、一部の地域で麦類が栽培されているほかは、羊やヤクなどの放牧が行われている。ヤクはチベットやヒマラヤ山麓で飼育されるウシ科の家畜で、荷物運搬用に利用されるほかに、毛・乳・肉・糞が利用される。Yには⑨が当てはまる。トンペイ平原を含むYでは、灌漑による畑作が伝統的に盛んな地域であり、この付近に位置するヘイロンチャン省は、豆類やトウモロコシの生産量が、省・自治区別で最も多い。ここでは、夏季高温となる気候をいかして稲作も近年盛んになっており、生産責任制の導入や1990年代前半に発生した日本の米不足と緊急輸入などを契機として栽培面積を急速に増加させ、ヘイロンチャン省は、省・自治区別で長江流域のフーナン省に次ぐ2位の米の産地となっている。Zには④が当てはまる。中国の南東部で、1月の平均気温が10°Cを上回る地域では、同じ耕地で1年に二度、稲の作付けが行われる二期作が一般的である。また、長江以南で排水が良好な丘陵地域では、高温多雨の気候を利用して茶の栽培が盛んであり、Z付近のフーチエン省は中国国内で生産が最も多い(以上、生産統計は2012年)。

##### 問4 [19] ⑥

産業別人口割合は、経済発展とともに農業や水産業などの第1次産業の割合が低下し、工業化とともに製造業などの第2次産業の割合が上昇する。第2

次産業人口割合は、脱工業化とサービス経済化、すなわち国内の賃金上昇などを背景とする海外への工場移転などにより低下し、第3次産業人口割合が急激に上昇する。また、輸出依存度は、GDP(国内総生産)に対する輸出額の割合を示す指標であり、アメリカ合衆国や日本のように人口が多い先進国では、国内需要が大きいためその割合は低くなる。したがって、表1中、最も経済発展が進んでいる日本(2012年の1人当たりGNI:48,324ドル、以下同じ)は、第1次産業人口割合が低いPであり、輸出依存度は最も低い。一方、最も経済発展が遅れている中国(5,958ドル)は、第1次産業人口割合が30%台のRが当てはまる。韓国(23,180ドル)はアジアNIEs(新興工業経済地域)と称される1960年代後半から工業化が進んだ国で人口は4,900万人であり、国内市場が大きい中国や日本と比べ輸出依存度は高いと考えられるので、Qが韓国である。

問5 [20] ②

②正しい。中国には、約9割を占める漢民族と55の少数民族が居住しており、少数民族のうちウイグル族、チベット族、モンゴル族などの五つの民族は自治区を形成している。少数民族の居住地は、多くが貧困な内陸地域にあり、漢民族との経済格差が問題となっている。このため、少数民族の居住地においては、地域振興策として豊かな自然や独自の文化をいかした観光開発も進められており、都市へ出稼ぎに行かなくても経済的に成り立つ地域もみられるようになった。しかし、開発による環境破壊や、少数民族の居住地へ流入する漢民族との対立もみられる。①誤り。中国では1960年代後半から人口が急激に増加し始めたため、1970年代初頭から人口抑制政策を実施している。当初は緩やかな晚婚政策であったが、1979年からは、より強制力のある一人っ子政策に移行し、出生率を短期間に低下させた。一般に、出生率の低下と平均寿命の伸長は、老年人口割合の上昇を促す。しかし、これが短期間に進むと、高齢化は急速に進行し若年労働力不足に陥り、社会全体の活力が失われ、社会福祉の維持が困難になることが危惧されている。これに対し中国政府は、第2子の出産に対して、一人っ子同士が結婚した場合や、農村地域において第1子が女子であった場合など、条件付きではあるが従来の規制を緩和している。しかし、少子高齢化が進んではいるが人口は減少していない。③誤り。中国では、経済成長が著しい沿海部と開発が遅れた内陸部との経済格差が大きな問題となっており、その格差是正のため2000年頃から西部大開発とよばれる内陸地域の開発計画を実

施している。この計画は、中国の総面積の7割以上に及ぶ地域の開発をめざすものであり、具体的には、チベット高原などにおける鉄道建設や道路建設、タリム盆地などから東部沿海部へパイプラインによる原油や天然ガスのエネルギー資源輸送や送電事業などの社会・産業基盤の整備が挙げられる。また、経済特区や経済技術開発区も内陸に設け、外国資本の導入も進めている。しかし、沿海部と内陸部の経済格差は現在も解消されていない。④誤り。中国の自動車生産台数は、急速な経済成長にともなう旺盛な国内需要を背景として、2009年に日本を抜いて世界一となり、2013年には2,212万台を生産し、世界生産2、3位のアメリカ合衆国、日本の約2倍以上となっている。しかし、自動車の輸出台数は、生産台数ほど多くはなく、2012年は102万台であり、世界1位の日本(480万台)の5分の1程度である。

問6 [21] ③

図3で、SはT、Uとの輸出入額がともに多いことから、輸出額世界一(2012年)の中国と決める。中国は2009年に輸出額で世界1位となった。輸入額においてもアメリカ合衆国に次いで世界2位となっており、輸出入額を合わせた貿易額はアメリカ合衆国とほぼ同じである。残るTとUは、それぞれの経済規模から考えよう。日本の人口は1.27億人で、韓国は4,900万人である。一方、1人当たりGNIは日本は韓国の約2倍である。したがって、経済規模の大きい日本は中国からの輸入額が韓国より多いと考えて、Uを日本、Tを韓国と判定する。

問7 [22] ⑥

アは、説明文の「相撲」、「競馬」、写真の馬などからモンゴルと判断する。ナーダムはモンゴルで行われる祭典であり、年に数回実施され、相撲や競馬、弓などの競技が開催される。イは、説明文の「春節」、「爆竹」、写真のにぎやかなお祭りなどから中国と判断する。春節とは旧暦の正月の期間を指し、中国では休日が設けられ、さまざまな伝統行事・儀式が行われる。春節を地元で迎えようと多くの帰省客で交通機関が混雑している様子や、爆竹を鳴らしにぎやかに春節を祝う光景が日本でも報道される。ウは写真の人物の衣装(チマ・チョゴリ)やハングルなどから韓国と判断する。「茶礼」は朝鮮半島でみられる先祖を供養する法事で、旧暦の正月や先祖の誕生日に行われる。先祖をまつる祭壇に多くの供えをして、さまざまな儀式を行う伝統となっているが、韓国ではキリスト教徒も多くなり、簡略化した形で行っている所もある。

## 第4問 地球的課題と国際協力

### 【出題のねらい】

地球温暖化、再生可能エネルギー、農業の生産性の地域格差、都市・居住問題、人口問題、日本の援助について出題した。この分野では、今回出題したようないくつかの重要なテーマについて、問題点や背景を理解することが必要である。

### 【設問別解説】

#### 問1 [23] ①

①正しい。地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量増加が最大の原因とされている。二酸化炭素は、化石燃料の燃焼などによって排出され、かつては工業化が進んだ先進国で排出量が多かったため、1997年に採択された京都議定書では、先進国についてのみ温室効果ガスの排出量の削減目標が定められた。しかし、近年は工業化が進む発展途上国で排出量が増加し、2011年の二酸化炭素排出量は、中国、アメリカ合衆国、インド、ロシア、日本の順となっている。ただし、1人当たり排出量は依然として先進国が多い。②誤り。温暖化による気温上昇は、低緯度地方より高緯度地方で大きく、極地方の氷河の融解や海水温の上昇にともなう海水の膨張によって海面が上昇すると予想されている。近年は、北極海の海水の融解が進んでいるが、海上に浮かんだ氷が融けても海面は変化せず、グリーンランドなどの陸上の氷河が融解すると海面は上昇する。③正しい。シベリアやアラスカなどの高緯度地方では、年中凍結したメタンを含む永久凍土が存在しているが、温暖化により融解すると、地面が陥没して湖沼が形成され、湖底からメタンが排出される。メタンは二酸化炭素より温室効果が大きく、温暖化を促進すると考えられている。④正しい。海水温が上昇すると、サンゴは共生していた光合成を行う藻類などを失って白化し、この状態が長く続くと死滅する。

#### 問2 [24] ③

③誤り。日本は火山国で、地熱発電が行われてきたが、火山地域は開発が規制されている国立公園内にあることが多いため、新規の発電所建設は難しく、発電量は停滞しており、総発電量に占める地熱発電の割合は0.2%で、8.3%を占める水力発電よりも低い(2011年)。しかし、建設が禁止されているわけではない。①正しい。カナダでは、古くから東部のラブラドル高原を中心に多くのダムが建設され、現在も総発電量に占める水力発電の割合は約6割(2011年)に達する。②正しい。中国ではエネルギー消費の中心は石炭で、電力も火力発電が約8割

(2011年)を占めるが、今世紀に入り、世界最大級の水力発電所が長江流域に完成したことにより、風力発電の導入も進み、風力発電の設備容量はアメリカ合衆国を抜いて世界一になっている。また、太陽光発電も、太陽電池パネルの生産が盛んで、設備容量は世界4位である(2012年)。④正しい。ブラジルは、広い国土を有しているが、大部分が安定陸塊で石炭や石油などの化石燃料の生産量が少なかったため、ブラジル高原を中心とする大規模な水力開発が行われ、現在も総発電量に占める水力発電の割合は約8割(2011年)に達する。1970年代の石油危機後、サトウキビを原料とするバイオエタノールをガソリンに混合して利用はじめ、液体バイオ燃料の生産では、トウモロコシを主原料とするアメリカ合衆国に次ぐ世界2位(2011年)となっている。近年は、バイオエタノールや、砂糖を製造する際に発生するサトウキビの搾りかすを火力発電の燃料にするバイオマス発電も行われるようになった。なお、近年は、リオデジャネイロ沖などの海底油田の開発が進んだため、原油は自給できるようになっている。

#### 問3 [25] ⑥

第1次産業人口の割合は発展途上国で高いので、人口が多く、発展途上国中心のアジアとアフリカで割合の高いアが、農林水産業活動人口である。イとウをみると、アジアでは他地域に比べ、ウに対してイの割合が高い。アジアは人口密度が高く、1人当たりの耕地面積が狭いため、大量の労働力を投入する集約的な農業が行われ、単位面積当たりの穀物生産量が多いが、1人当たりの穀物生産量は少ない。すなわち、土地生産性は高いが労働生産性は低い。よって、イが穀物生産量で、ウが耕地面積である。アとイをみると、農業人口率が低いヨーロッパや、大規模農業が行われる新大陸では、労働生産性が高いことが読み取れる。

#### 問4 [26] ③

③誤り。産業革命を世界で最初に迎えたイギリスのロンドンでは、大気汚染などの環境問題や過密などにより労働者の居住環境が劣悪となっていた。これを改善しようという試みが19世紀末のハワードの田園都市構想であり、この構想は第二次世界大戦の大ロンドン計画へ引き継がれた。大ロンドン計画は、市街地の郊外への無秩序な拡大(スプロール現象)を防ぐ目的で、既成市街地の周囲にグリーンベルト(開発規制区域)を設け、その外側に職住近接型のニュータウンを建設するものであった。しかし、郊外開発を積極的に進めたことにより、都心周辺では中高所得層や工場の郊外への転出が進み、都心周

辺の空洞化やスラム化、治安の悪化などの問題が生じた。このような都心周辺部の衰退にともなう問題をインナーシティ問題とよび、前述の活発な経済活動による過密やそれにともなう居住環境の悪化はインナーシティ問題とはいわないので注意したい。したがって、「インナーシティ問題が深刻化したため、郊外に職住近接型のニュータウンが建設された」は因果関係が逆であるため誤りである。この問題に対して、テムズ川沿いの港湾地区であるドックランズでは再開発が行われ、オフィスや商業施設、住宅などが建設され、人口の都心回帰もみられるようになった。**①**正しい。インドネシアの首都ジャカルタをはじめ発展途上国の大都市では、農村から都市への人口流入が盛んで人口が急増しているが、道路や公共交通機関の整備が遅れているため、渋滞がひどく大気汚染も深刻化している。**②**正しい。発展途上国の大都市では、雇用機会を求めて農村から多くの人口が流入しているが、流入人口に見合う雇用がないため低所得者が多く、市街地周辺の空き地を不法占拠したスラム(不良住宅地区)がみられる。リオデジャネイロはサンパウロに次ぐブラジルの大都市で、市街地周辺の傾斜地にはファベーラとよばれるスラムが広がっている。**④**正しい。日本では、高度経済成長期に工業化が進んだ太平洋ベルトに人口が流入し、東京、大阪、名古屋の三大都市圏を中心に、郊外に大規模なニュータウンが建設された。しかし、その後、ほぼ同世代の入居者が年を重ね、高齢化が進んでいる。

#### 問5 [27] ①

経済発展とともに、人口動態は、多産多死型から多産少死型を経て、少産少死型へと移行し、これを**人口転換**という。出生率の高い発展途上国では、幼年(年少)人口(14歳以下)の割合が高いため、生産年齢人口(15~64歳)の割合は低い。出生率が低下すると、生産年齢人口の割合は高まるが、その後、高齢化が進むと、老年人口(65歳以上)の割合が高まり、生産年齢人口の割合は低下する。よって、**経済発展が早かった国から、生産年齢人口割合は高まることになる**。イギリスは、4か国の中で、最初に人口転換が進んだため、1950年代に生産年齢人口割合が最も高い**②**が該当する。日本では、第二次世界大戦後のベビーブーム後に出生率が急速に低下したため、1960年に生産年齢人口が急速に高まった**⑨**が該当する。しかし、近年の高齢化の進行で、**老年人口割合が世界一**となっているため、生産年齢人口割合は低下している。中国は、1979年から**一人っ子政策**がはじまり、その後出生率が急速に低下したため、1980

年代に割合が高くなっている**①**が該当する。割合が低いままの**④**は、依然として出生率が高いエチオピアであるが、今後の出生率の低下で割合は高まると予想されている。生産年齢人口割合が高まった時期は、労働力が豊富で、経済成長が続くことが多い。

#### 問6 [28] ⑥・[29] ①

力は、2011年にスーサンから分離独立した**南スーサン**なので、新国家の成立と書かれた**⑥**が該当する。独立前に続いた内戦により、経済活動が停滞しているため、多くの国から援助が行われており、日本は、自衛隊の協力により首都の道路整備などを実行している。キはシリアで、2011年から独裁政権に対する反政府抗議活動が始まり、その後、内戦状態となっていることから、**④**が該当する。クはタイで、2011年にチャオプラヤ川が氾濫し、洪水被害が拡大した。**首都バンコク**も浸水し、日本企業の自動車工場なども被害を受けた。よって、**③**が該当する。ケはインドネシアの**ジャワ島**で、新規造山帯に属し、多数の火山が分布する。2010年には中部のメラピ山が噴火し、大きな被害が生じた。よって、**②**が該当する。コはニュージーランド**南島**で、最大都市クライストチャーチ付近では2011年に大地震が発生し、日本人も犠牲となった。ニュージーランドも新規造山帯に属するが、火山は北島に集中し、南島には高峻なサザンアルプス山脈が走っている。よって、**①**が該当する。

## 第5問 地域調査

#### 【出題のねらい】

富山県と富山市を対象として、気候、新旧の地形図読図、工業、観光、環境問題について出題した。地域調査の問題では、日本の特定地域の特別な知識が求められてはいない。ここでは、日本の自然環境や産業など、日本に関する一般的な知識と理解をもとに正答を導くことができるようにしておきたい。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1地形図「富山」である。

#### 【設問別解説】

#### 問1 [30] ①

**気温の年較差**は、海洋の影響を受け温度変化の小さい沿岸部より内陸部の方が大きいので、表1中、最も気温の年較差の大きいアには高山市が該当する。高山市は、周囲を高峻な飛騨山脈や飛騨高地に囲まれた盆地に位置し、最寒月の平均気温が-1.4℃(1月)、最暖月の平均気温が24.1℃(8月)で年較差が大きい。日照時間は天気と大きく関係し、日本海側に位置する富山県は、**冬季の北西季節風**が、

暖流の対馬海流が北上する日本海上で水蒸気を供給されて雪雲ができ、日本列島の脊梁山脈にぶつかるため降水(雪)量が多く、曇りである日が多いため日照時間は短い。よって、年間日照時間に占める12月～2月の3か月間の占める割合が低いイには富山市が該当する。残ったウが太平洋側に位置する名古屋市であり、年間日照時間に占める12月～2月、6月～8月の割合はほぼ同じで、特に冬季は北西季節風に対して脊梁山脈の風下側に位置するため、晴天が続き、高山市や富山市に比べ日照時間が長い。

問2 [31] ④

④正しい。新図(2011年発行)の富山県庁や市役所、博物館など大規模な公共施設が位置する付近は、旧図(1934年、昭和9年発行)では、富山駅南側の市街地と富山城下の市街地に挟まれた荒れ地などが広がる湾曲した土地である。ここは市街地の西部を流れる神通川のかつての本流があったところで、明治30年代までは市街地を大きく蛇行して流れていた(現在も小河川として松川が残っている)。これを自然の堀として利用した富山城は城下町の北西端に位置するが、新旧図からもわかるように、付近は低湿な氾濫原であるため、しばしば洪水の被害に見舞われた。洪水の被害を軽減するため、明治時代後期には流路を直線化する改修工事が進められ、旧河道に県庁や市役所などの公共施設が建設された。①誤り。上述したように、富山市の市街地は低湿な氾濫原に位置するため「防御のため台地の端に築かれ」は誤りであるが、新旧図ともに市街地の南東部には寺院が多くみられる。これは寺町とよばれ、広い境内をもつ寺院は兵士を集めることができるので、城下町では防御目的で縁辺に設けられることが多かった。②誤り。新図をみると、JR線よりも北側の市街地には、かつての神通川の流路を流れる河川と、赤江川がみられるが、これらの流路は一部直線化されているものの旧図とほぼ同じで大幅に変更されていない。③誤り。JR線よりも南側の市街地の道路網を新旧図で比べると、大きく変化していることが読み取れる。これは、富山市は1945年8月の戦災によって市街地のほとんどを消失し、戦後に復興計画を策定して道路を拡幅し碁盤目状の町並みを整備したためである。

問3 [32] ②

①正しい。新旧図を比べると、新図の「おくだちゅうがっこうまえ」から富山駅北側にかけて新たに路面電車の線路が敷設されたことがわかる。②誤り。JR線よりも南側の市街地を新旧図で比べると、東田地方町付近に南北にあった線路などが廃止され

ていることが読み取れる。③正しい。鉄道交通は自動車交通に比べ輸送量当たりの二酸化炭素の排出量が少なく、環境負荷が小さい公共交通機関であり、環境対策を重視するヨーロッパの都市では路面電車が多く利用されている。富山市でも路面電車が積極的に利用されており、JR線よりも北側にみられる路線がそうであるように、都市内の市街地では路面電車となり、郊外では専用軌道を走る鉄道となるLRT (Light Rail Transit : 次世代型路面電車) の利用を進め、これにより都心部の自家用車の利用を減らし環境負荷の軽減を目指している。富山市では、自家用車以外の移動手段を確保しつつ、駅周辺に居住地や商業施設などを集めることで、公共交通機関と徒歩圏を結合させて小さな行動圏内で済むようにしたまちづくりを推進して、弱者にやさしい住みやすい都市を目指している。④正しい。写真1のような路面電車は超低床型の車両であり、身障者や高齢者、子どもの乗降に配慮したものである。

問4 [33] ①

アルミニウムは、主に熱帯で産出するボーキサイトを原料としてつくられる中間生産物のアルミナを電気分解して生産される。中間生産物であるアルミナからアルミニウムに電気分解する際、大量の電力を消費するため「電気の缶詰」ともよばれ、安価な電力が得られることが絶対的な立地条件である。日本におけるアルミニウム精錬工業は、第二次世界大戦前の1937年頃から、航空機製造などの軍需を背景として国家的な保護を受け急激に成長した。富山県内にも当時、富山市と高岡市に精錬工場があり、これらは山間部に建設されたダムによる安価な水力電力を活用したものであった。第二次世界大戦後は、高度経済成長期にアルミニウム精錬工業へ新規参入する企業も現れて生産量は急増し、1970年代には100万トンを超えるソ連、アメリカ合衆国などと並ぶ世界的なアルミニウム生産国となった。しかし、戦後は石油火力発電を利用する精錬工場に多くを依存していた日本のアルミニウム精錬工業は、1970年代、2度の石油危機による原油価格の高騰で、決定的な打撃を受け、生産量は急減した。①誤り。前述したようにアルミニウムの原料であるボーキサイトは熱帯に多く埋蔵される鉱産資源であり、中間生産物であるアルミナはボーキサイトの産出国で生産されることが多い。また、1981年頃はソ連を中心とする東側諸国とアメリカ合衆国を中心とする西側諸国との間での対立が深刻化しており、日本とソ連との間の貿易が積極的に行われていたこともなかった。②正しい。第二次世界大戦後の復興を

目指し、1951年から電源開発など河川の多目的な利用を図る特定地域総合開発計画が実施され、1962年には**全国総合開発計画**が実施され、拠点開発方式により**新産業都市や工業整備特別地域**が設定された。富山・高岡は新産業都市の一つであり、港湾などの産業基盤の整備が積極的に進められ、山間部のダムを利用した豊富な水力電力や用水を背景としたアルミニウムの精錬業や加工業の集積が進んだ。**⑨正しい。**前述したように1970年代の2度の石油危機による電力費の高騰により、国内のアルミニウム精錬工業は衰退し、富山県内の精錬工場も1980年代に閉鎖された。**⑩正しい。**国内ではアルミニウム精錬工業は衰退したが、建物などの窓枠(サッシ)として用いる建材などを製造するアルミニウム加工は盛んに行われており、なかでも富山県はアルミサッシの生産が全国1位(2012年)である。

問5 **[34] ⑧**

力は、「扇状地の広がる平野には散村がみられる」とあるので、図2・図6からわかるようにほぼ全域が平野に位置する砺波市が当てはまる。砺波市の位置する砺波平野では、近世(江戸時代)にこの地を治めた加賀藩の政策の影響によって、現在でも広大な耕地に**家屋が散らばって点在する散村**がみられる。また、力には「自治体のシンボルとなっている花の咲き誇る季節には、多くの観光客が訪れる」とあり、表2では年間観光客入込数に占める4~6月の観光客入込数の割合が約半分を占める**R**がこれに当てはまる。富山県は日本一の球根の産地であり、砺波市ではチューリップが特に有名で、毎年4月下旬から5月上旬にかけて「となみチューリップフェア」が開催され、多くの観光客が訪れる。**キ・ク**は、ともに山間部の観光地についての説明であるが、**ク**には「氷河」、「巨大なダムをもつ水力発電所」とあるので、図2・図6より**飛騨山脈**が東部に位置する立山町が当てはまり、**キ**は南砺市である。飛騨山脈の多くは中部山岳国立公園に指定され、富山県に位置する立山や剣岳のいくつかの万年雪は近年氷河と認定されており、巨大な黒部ダムなどの水力発電所も位置する。表2では、期間別観光客入込数の1~3月の極端に少ない**Q**が当てはまり、雪に

閉ざされる冬季の入込数は少ない。なお、近年は台湾やタイなどから雪を抱く雄大な景観を求める観光客も増加しており、富山空港にはタイペイなどとの間に国際定期便もみられる。南砺市の南部の**五箇山**は「茅葺きで急勾配の屋根が特徴的な合掌造りの家屋」のある村落で、隣接する**岐阜県の白川郷**とともに1995年に**世界文化遺産**に登録され、年間を通じて多くの観光客が訪れる観光地となっている(**P**)。

問6 **[35] ⑨**

神通川の上流部に位置する岐阜県神岡町(現在は飛騨市)にかつてあった神岡鉱山からの廃水に重金属のカドミウムが含まれ、神通川流域ではカドミウム汚染が広がった。流域住民の間では、カドミウムに汚染された水を飲用したり、流域で生産された農畜産物を摂取したりしたことによる深刻な健康被害が生じ、**イタイイタイ病**とよばれた。この公害は、わが国で初めて(1968年)公害病と認定された。図7中**④**は、**熊本県水俣市**付近で、1930年代から1960年代にかけて化学工場からの廃水に有機水銀が含まれ、健康被害が深刻となった(**水俣病**)。**⑨**は、**三重県四日市市**付近で、第二次世界大戦後、日本で初めて本格的な石油化学コンビナートが建設され、工場から大量の亜硫酸ガスが排出され大気汚染が深刻化し、**四日市ぜんそく**とよばれる集団喘息障害が発症した。**⑩**は、**新潟県東蒲原郡鹿瀬町**(現阿賀町)付近で、1950年代に阿賀野川中流にある鹿瀬町にある化学工場からの廃水に有機水銀が含まれ、これによる健康被害が深刻となった。熊本水俣病と同じく、食料連鎖により引き起こされた公害であり、**新潟水俣病**(第二水俣病)とよばれる。**⑫**は、**栃木県旧足尾町**(現日光市)付近で、明治時代中頃、栃木県西部の旧足尾町の**足尾銅山**では、精錬時の燃料による排煙や精製時に発生する二酸化硫黄などの鉛毒ガスにより周辺の森林は枯死し、廃水に含まれる鉛毒により魚類が大量に死滅したり、鉱山の下流側の農地では稲が立ち枯れたりするなどの被害が次々と発生した。この事件は、当時の国会議員であった田中正造が先頭に立って住民による公害反対運動を起こしたことで知られ、日本における公害の原点ともよばれる。

●写真提供

PPS通信社／時事通信フォト

地 理 B

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 番 答 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1 ④	2		
	問 2	2 ①	3		
	問 3	3 ⑥	3		
	問 4	4 ④	2		
	問 5	5 ①	3		
	問 6	6 ③	3		
第1問 自己採点小計			(16)		
第2問	問 1	7 ⑥	3		
	問 2	8 ③	3		
	問 3	9 ⑥	3		
	問 4	10 ①	2		
	問 5	11 ①	3		
	問 6	12 ②	3		
第2問 自己採点小計			(17)		
第3問	問 1	13 ②	3		
	問 2	14 ⑥	3		
	問 3	15 ②	3		
	問 4	16 ③	3		
	問 5	17 ③	3		
	問 6	18 ③	2		
第3問 自己採点小計			(17)		
第4問	問 1	19 ②	3		
	問 2	20 ①	3		
	問 3	21 ④	2		
	問 4	22 ④	3		
	問 5	23 ④	3		
	問 6	24 ④	3		
第4問 自己採点小計			(17)		
第5問	問 1	25 ③	3		
	問 2	26 ④	3		
	問 3	27 ②	2		
	問 4	28 ①	3		
	問 5	29 ②	3		
	問 6	30 ①	3		
第5問 自己採点小計			(17)		

問題番号	設問	解 番 答 号	正解	配点	自己採点
第6問	問 1	31 ①	3		
	問 2	32 ④	3		
	問 3	33 ②	3		
	問 4	34 ①	2		
	問 5	35 ⑧	3		
	問 6	36 ②	2		
第6問 自己採点小計			(16)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 世界の自然環境

【出題のねらい】

南回帰線付近の自然環境、ハイサーグラフの判定、河川の月別流量、レス、日本の火山、潟湖の地形図の読図を出題した。地形や気候、土壤は分布を地図帳で確認し、成因も理解しておこう。地形図では、地形の判読ができるようにし、地図記号も再確認しておこう。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行5万分の1地形図「城崎」である。

【設問別解説】

問1 1 ④

①正しい。南アメリカ大陸の西部には新期造山帯のアンデス山脈が南北に走っているが、アフリカ大陸の新期造山帯は北部のアトラス山脈だけで南回帰線付近にはみられず、オーストラリア大陸には新期造山帯は分布しない。②正しい。南アメリカ大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸は、かつての古大陸であるゴンドワナ大陸の一部であり、南回帰線付近には、それぞれ安定陸塊のブラジル楯状地、アフリカ楯状地、オーストラリア楯状地が分布している。③正しい。プレートの広がる境界に形成される海嶺は、三大洋とともに分布し、東太平洋海嶺、大西洋中央海嶺、インド洋中央海嶺が南回帰線付近にみられる。④誤り。回帰線付近は亜熱帯高圧帯に覆われるため、三つの大陸ともに乾燥帯が分布するが、南アメリカ大陸の乾燥帯は太平洋側のアタカマ砂漠などアンデス山脈付近に限られ、その東側には温帶や熱帯が広がっている。これに対して、アフリカ大陸とオーストラリア大陸では、東部に温帶や熱帯がみられるが、乾燥帯が大部分を占めている。

問2 2 ①

ラサは、4都市の中では最も緯度が低いが、標高約3,650 m のチベット高原に位置するので、年較

差は小さいが気温は低くなる。よって、①か②となるが、モンスーン(季節風)の影響を受けるため、夏季には南西季節風により多雨となり、冬季には北東季節風により少雨となるので、①が該当する。ただし、南西季節風は南側のヒマラヤ山脈にさえぎられるため、山脈の南側の地域に比べると、降水量はかなり少ない。②は夏季に少雨、冬季に多雨であることから、大陸西岸に分布する地中海性気候と判定でき、シアトルが該当する。沖合を寒流のカリフォルニア海流が南下するため、夏季の気温は低めである。ヨーロッパでは北緯45度付近より高緯度では西岸海洋性気候となるが、北アメリカでは、アメリカ合衆国とカナダとの国境の北緯50度付近まで地中海性気候が分布する。モスクワとイルクーツクはどちらも亜寒帯であるが、冬季にシベリア高気圧に覆われるユーラシア大陸北東部には、冬季寒冷で少雨の亜寒帶冬季少雨気候が分布する。よって、冬季の気温が低く少雨の④がイルクーツクである。⑤はモスクワで、冬季も降水があり、亜寒帶湿润気候に分類される。

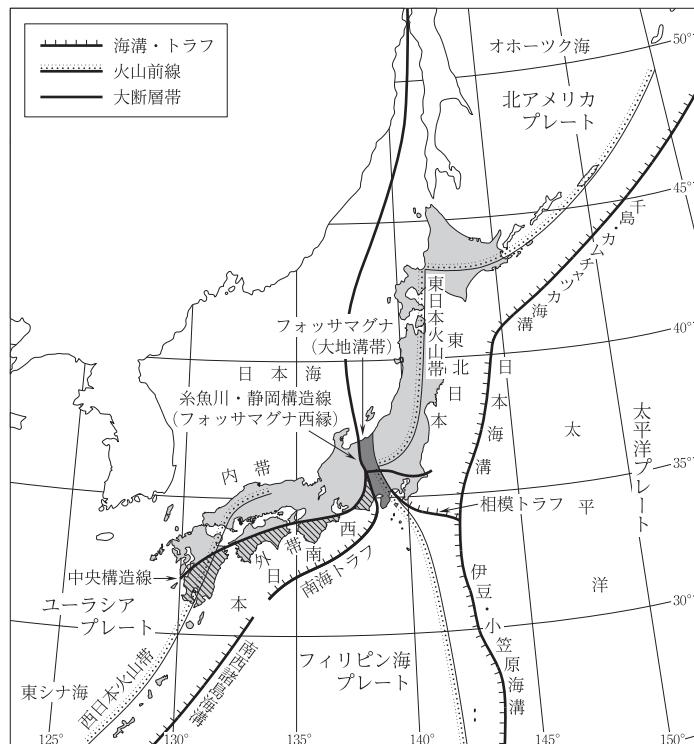
問 3 3 ⑥

河川の流量は、流域の気候の影響を強く受ける。  
A(ユーコン川)のように北極海周辺の寒冷地域を流

れる河川は、冬季は凍結し流量が少なく、春の融雪、融水とともに一気に増水し、融雪洪水が発生する。よって、5月から6月にかけて流量が急増するウが該当する。B(サンフランシスコ川)は、サバナ気候のブラジル高原を流れるので、雨季の夏季に流量が多く、乾季の冬季に流量が少ないイが該当する。南半球なので、北半球と季節が逆になることに注意しよう。C(コンゴ川)は赤道付近を流れ、流域には年中多雨の熱帯雨林気候が分布するので、流量が安定しているアが該当する。

問 4 4 ④

問題文にあるように、P～Rの地点付近には、風で運ばれた細かな砂や土が堆積している。このような風積土はレス(黄土)とよばれる。レスには氷河起源や砂漠起源のものがあり、北アメリカ中央平原のP地点とヨーロッパ中部のQ地点は、いずれも氷期に大陸氷河に覆われた地域の縁辺に位置している。氷河の末端付近には、運ばれた砂礫が堆積したモレーンや融冰水が運んだ土砂が堆積した平野がみられ、そこから風で運ばれた細粒物質が堆積してレスが形成された。一方、R地点は黄河中流域のホワンツー(黄土)高原で、付近のゴビ砂漠やタクラマカン砂漠から運ばれた細かな砂が堆積している。より細



図① 日本の地体構造

粒のものは、日本にも黄砂として飛来する。レスは、水はけがよく肥沃なため農耕に適し、P～R地点付近はいずれも畑作が盛んである。よって、①～③は正しいが、④は誤っている。なお、地図帳の土壤分布図には、気候や植生に対応して形成されるラトルソルやポドゾルなどの成帯土壤の分布が示されており、局地的に分布するレスなどの間帯土壤は記されていないので注意しておこう。

#### 問5 [5] ①

図4の火山は、日本にある110の活火山のうち、「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として火山噴火予知連絡会によって選定された47火山で、気象庁が火山活動を24時間体制で常時観測・監視している。①誤り。活火山は、概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山(火山噴火予知連絡会)と定義されており、富士山など明治以降は噴火していない火山も含まれている。②正しい。日本の火山は、前ページの

図①に示したように、プレートが沈み込む海溝に平行して約300km離れた陸側に火山前線を形成している。これは、海洋プレートが深さ100km程度まで沈み込むとプレートの一部が高温高圧で溶けてマグマとなって上昇し、地表に噴出するからで、海溝と火山前線の間には火山は分布しない。奥羽山脈の火山は、この火山前線に対応し、日本海溝に平行している。③正しい。伊豆諸島は伊豆・小笠原海溝に平行し、火山島が並んでいる。激しい噴火が起こると島外への避難が必要になり、近年も、三宅島(2000年)や伊豆大島(1986年)で全住民が島外へ避難した。④正しい。九州では、阿蘇山のカルデラ(噴火とともに陥没した鍋状の窪地)が有名であるが、鹿児島県の霧島山や桜島付近などにもカルデラがみられる。

#### 問6 [6] ③

①正しい。久美浜湾は、水面標高が0mと記されており、下の図②に示したように、北部の湊大橋



図②

がかかるところに狭い水路があつて外洋とつながっていることがわかる。水路の東側にある砂れき地の記号が示された細長い低地は砂州で、久美浜湾は、砂州によって入江が外洋から切り離されて形成された潟湖(ラグーン)であることが読み取れる。②正しい。砂州は、海岸線に沿う潮の流れである沿岸流によって砂礫が運搬されて形成される。この砂州は図の北東部から水路まで続いており、東から西へと流れる沿岸流によって形成されたことがわかる。③誤り。海食崖は、波の侵食によって形成された崖で、岩がけの記号で表されることが多い。水路の西側の海岸沿いには海食崖が発達しているが、久美浜湾内にはみられない。これは、潟湖では外洋と違って強い波浪が生じないからである。④正しい。干潟は、干潮時に海面上に現れる砂泥地で、久美浜湾に注ぐ多くの河川の河口部に小規模なものがみられる。

## 第2問 農林水産業

### 【出題のねらい】

世界の農業景観、中国の農業、牛・牛肉・牛乳の統計、日本の食料問題、木材の生産・輸出入上位国、各国の水産業について出題した。農業は、自然条件と社会条件から各地の特徴を理解し、水産業と林業については教科書をもう一度読み返して、基本事項を確認しておこう。

### 【設問別解説】

#### 問1 7 ⑥

アの写真は棚田で、稲作はアジアに集中することからCが該当する。棚田は、Cのフィリピンのルソン島やインドネシアのジャワ島、中国の華南など、山がちで人口密度の高い地域に多くみられ、日本でも各地にみられる。イの写真は油脂用樹木作物とあることから、地中海周辺のオリーブ栽培と考え、Bと判定する。地中海周辺では夏に乾燥するため、灌漑によってオリーブやブドウ、かんきつ類、コルクガシなどの樹木作物が栽培されている。Bのスペインは世界一のオリーブ生産国であり、オレンジ類の輸出も世界一である。ウは大規模な肉牛の肥育場なので、企業的牧畜が盛んなアメリカ合衆国のAが該当する。アメリカ合衆国では、西経100度付近の年降水量500mmの線を境に、多雨の東部では農耕が、少雨の西部では牧畜が行われ、境界付近の黒色土分布地域では小麦栽培が盛んである。Aは、肉牛飼育頭数が最も多いテキサス州のフィードロット(肥育場)で、放牧していた牛を集めてトウモロコシなどを与え、短期間で肥育して出荷している。

#### 問2 8 ⑩

中国の農業地域区分で最も重要なのは、黄河と長江の間にあるチンリン山脈とホワイ川付近を走る年降水量1,000mmの線で、少雨の北側では畑作が、多雨の南側では稻作を中心に行われている。稻作の中心は長江の中下流域で、米は①が該当するが、近年は、夏の気温が高く平野の広がる東北でも稻作が盛んになっており、ロシアと国境を接するヘイロンチヤン(黒竜江)省が、華中のフーナン(湖南)省に次いで生産2位となっている。小麦は黄河下流域周辺の華北平原が生産の中心なので、④が該当する。生産1位はホーナン(河南)省である。茶は、華南のユンナン(雲南)省付近が原産地とされ、高温多雨の傾斜地に適するので、長江以南の山がちな地域で生産が多い。よって、②が該当し、生産1位はフーチエン(福建)省である。綿花は、以前は華北平原が生産の中心であったが、灌漑によって乾燥地域でも栽培が盛んになり、西部のシンチヤンウイグル自治区が生産1位となっている。よって、②が該当する(以上、統計は2012年)。

#### 問3 9 ⑥

牛はヒンドゥー教で聖なる動物とされることから、近年までインドが飼育頭数1位であったが、アマゾン地方の開発によって大牧場が多く拓かれたブラジルで飼育頭数が急増したため、両国がほぼ同数となっている。よって、力、キがインドかブラジルで、インドでは人口の8割を占めるヒンドゥー教徒が食用としないため、牛肉生産が少ないキがインドで、多い力がブラジルである。ただし、インドでは牛乳は利用され、牛乳生産は世界2位、バター生産は世界一である。クはアメリカ合衆国で、問1の写真に示したフィードロットを利用して短期間で出荷するため、放牧に依存するブラジルより牛肉生産が多い。また、乳製品の利用が多いため、牛乳生産は世界一である(以上、統計は2011年)。

#### 問4 10 ①

①誤り。小麦の自給率は12%で低いが、味噌や豆腐、納豆、醤油などの原料となる大豆も自給率は低く、8%にすぎない(2012年)。小麦の輸入先は、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアの3か国で輸入量の約95%を占め、大豆の輸入先はアメリカ合衆国が約6割を占める(2013年)。②正しい。肉類の自給率は55%、牛乳・乳製品の自給率は65%であるが(2012年)、家畜の飼料の中心となるトウモロコシは全量を輸入に依存しており、日本は世界一のトウモロコシ輸入国となっている。③正しい。日本は世界一の農産物輸入国であり、近隣のアジアだけでなく、アメリカ合衆国やオーストラリアなど遠方から

も大量に輸入しているため、輸送にかかるエネルギーが非常に多い。輸入量に輸送距離をかけたものをフードマイレージといい、日本は世界一で、地球温暖化に影響する温室効果ガスを大量に排出していることになる。④正しい。日本は農産物輸入が多いため、農薬・薬品の使用や遺伝子組換作物などで安全性が問題になっている。遺伝子組換作物を使用した食料品については、2001年からその表示が義務づけられている。

問5 [11] ①

木材生産上位国には、国土面積が広く人口の多い国が並ぶが、輸出上位国には、カナダ、ニュージーランド、スウェーデンといった人口が少なく人口密度も低い国がみられる。よって、輸出1位のZは、中国、アメリカ合衆国より人口が少なく、木材需要も少ないロシアと考えられる。輸出3位、輸入2位に入っているXはアメリカ合衆国で、丸太を中心に入出も多いが、国内需要が多いためカナダなどから製材の輸入が多い。輸入1位のYは、近年経済成長が続き、木材消費量が急増している中国である。日本は1997年まで木材輸入が世界一であったが、経済の停滞による木材需要の減少によって、輸入量も減少している。日本の輸入先(2013年)は、カナダ、アメリカ合衆国、ロシア、フィンランドの順である。

問6 [12] ②

①正しい。中国では、経済発展とともに1980年代後半から漁業生産量が急増し、1995年以降は世界一を維持している。漁業生産量(約1,600万t)のうち、川や湖での内水面漁業が14%を占め、養殖業生産量は約5,000万tで、漁業生産量の約3倍となっている(2011年)。②誤り。ノルウェーは、伝統的に漁業が盛んで、ロシアを除くヨーロッパで最大の水産物輸出国である。しかし、高緯度に位置するため、養殖が盛んなのはサケであり、マグロではない。ヨーロッパでのマグロの養殖(稚魚を捕獲して養殖する蓄養)は地中海で行われている。③正しい。ベトナムやタイ、インドネシアなどの東南アジア諸国では、沿岸部のマングローブを伐採してエビ養殖池を造成し、エビを日本など各国へ輸出している。④正しい。ペルーの西方沖には寒流のペルーアンダ流が北上しているが、貿易風によって表層の海水が沖合に運ばれ、それを補う湧昇流によって冷たい深層水が上昇するため、海水温は低い。深層水は栄養分に富むため、プランクトンが発生し、アンチョビ(カタクチイワシ)などの漁獲が盛んである。しかし、貿易風が弱まるとき湧昇流も弱まり、海水温が上昇するエルニーニョ現象が発生し、栄養分が供給されなく

なるため漁獲量も減少する。アンチョビは、魚粉に加工され、飼料・肥料用に輸出されている。

### 第3問 都市と生活

#### 【出題のねらい】

先進国と発展途上国の都市化、発展途上国の都市、人口・居住を指標とした大都市の内部構造、日本の都市・居住問題、各国の消費生活、余暇生活について出題した。この分野は、用語などの知識だけでなく、グラフや統計を読み取る力も必要であり、それらの問題も含めた。

#### 【設問別解説】

問1 [13] ②

一般に、都市人口率は工業化の進展とともに高くなるため、先進国では早くから都市人口率が高い。1950年時点でも最も都市人口率が高い④は、先進国のアメリカ合衆国である。発展途上国では、第二次世界大戦後の人口爆発により、農村の余剰人口が都市へ流入し、都市人口率が急激に上昇した。このうち、ラテンアメリカでは、農村は大土地所有制の大農園が多いため人口が少なく、都市は工業化が進展していく中でも、植民地開拓の拠点として、もともと人口が多かった。このため、発展途上国の中では例外的に早くから都市人口率が比較的高いという特徴がある。よって、①～③のうち、1950年時点での他の2か国よりも都市人口率が高い②がブラジルである。残りの①・③のうち、人口100万人以上の都市数の多い②がインドで、人口100万人以上の都市数の少ない①がナイジェリアである。インドはナイジェリアよりも国土面積が大きく、人口も多いので、国内各地に大都市が発達している。このため、都市人口率が低くても大都市の数は多くなる。

問2 [14] ⑥

アは「金鉱の発見」、「白人と黒人の居住地区が完全に分断」などから南アフリカ共和国のヨハネスバーグと判定する。ヨハネスバーグの起源は、19世紀末に現在の市域で金が発見されたことに始まる。これにより人口が増え、その後は工業も発展し、現在では南アフリカ共和国最大の都市となっている。アパルトヘイト(人種隔離政策)が実施されていた頃は、白人と黒人(非白人)の居住地区が完全に分けられていた。イは「標高の高い盆地」、「山地斜面には不良住宅地区」などからメキシコシティと判定する。メキシコシティは、かつてアステカ帝国の首都があったメキシコ高原上の盆地底(標高約2,300m)に位置する。このため、自動車の排ガスなどにより汚染された空気が滞留しやすく、大気汚染が深刻で

ある。また、周辺の山地斜面には**不良住宅地区(スラム)**が広がっている。ウは「イギリスの植民地」、「高原に位置」などからナイロビと判定する。ナイロビは、標高約1,600mの高原に位置し、19世紀末にモンバサとウガンダを結ぶ鉄道建設工事のキャンプ地となつたことから発展した。イギリスの植民地であったケニアの首都であるとともに、国連環境計画(UNEP)、国連人間居住計画(UN-HABITAT)という二つの国連機関の本部が置かれている。

問3 [15] ②

東京や大阪などの大都市では、高度経済成長期以降、地価の高騰や居住環境の悪化によって都心周辺の人口が減少し、郊外の人口が増加する**ドーナツ化現象**がみられた。しかし、1990年代初めにバブル経済が崩壊し、地価が下落すると、都心周辺の再開発が進んで高層マンションが建設され、人口の**都心回帰現象**がみられるようになった。また、都心周辺では地価が高く、ワンルームマンションなどの狭い住居が多いので、単独世帯の割合が高い。よって、人口増加率と単独世帯の割合が最も高い力が大阪市の中心部の区(A)である。都心から離れるにつれて地価は低下し、住宅の面積は広くなるため、単独世帯の割合は低くなっていく。よって、クが中心部以外の大坂市の区(B)、キが大阪市に隣接する市(C)である。中心部以外の大坂市の区は古くからの市街地(インナーシティ)で、人口の高齢化が進んでいるため、65歳以上人口の割合が最も高い。人口がやや減少しているのは、高齢化が進み、死亡率が高くなっているためである。大阪市に隣接する市もインナーシティとしての性格を持っているが、大阪市内に比べると都市化の時期が遅れ、住宅地の建設も新しいため、65歳以上人口の割合はやや低い。

問4 [16] ③

①正しい。高度経済成長期には多摩(東京都)、千里(大阪府)などの大規模ニュータウンが建設されたが、その当時の入居者は、20~30歳代の夫婦と子供からなる核家族を中心であった。これらの入居者のうち、成長した子供は独立し、現在は高齢者となった親だけが居住し続けていることが多い。このため、ニュータウンは、他の地区と比べても人口の**高齢化**が著しいところが多い。しかし、建設当時の建物は、こうした高齢者に対応したものとはなっていないため、エレベーターの設置や段差の解消などのバリアフリー化を進める必要が生じている。②正しい。日本の大都市の郊外では、無計画に都市化が進む**スプロール現象**がみられ、かつて農地だったところには広い道路が建設されていても、駅前などの古

くからの市街地では道路が狭いまで、交通渋滞が激しいところがみられる。③誤り。地方都市では、中心市街地の衰退が問題になっている。自動車の普及により郊外に大規模なショッピングセンターが建設され、中心部では商業が衰退し、公共施設や医療機関なども郊外に移転した結果、中心部に人が集まらなくなってしまったためである。④正しい。少子高齢化が進んだ結果、高齢者が死亡した後に继承者のいない住居が空き家として放置されている問題は、地方都市だけでなく大都市でも問題になっている。

問5 [17] ③

1人当たり小売売上高は、国民の生活水準、物価水準などいくつかの要素が関係するが、一般に、先進国では多く、発展途上国では少ないので、1人当たり小売売上高が最も少ない④はインドネシアである。人口100万人当たり食料品店店舗数は、1店舗の商圈(買い物客が集まる範囲)の小さい国では多くなり、商圈の大きい国では少なくなる。アメリカ合衆国のように、大規模なスーパーマーケットが発達し、自動車による買い物が普通の国では、1店舗の商圈が大きいから人口100万人当たりの食料品店店舗数が少なくなるので、①はアメリカ合衆国である。②、③はイタリアか韓国のいずれかであるが、両者は小売売上高に占める非店舗小売売上高の割合が大きく異なる。表の注にあるように、これは自動販売機による販売、カタログ販売、インターネット販売などの合計である。このうち現在ではどの国もインターネット販売が最も多い。この値が日本やアメリカ合衆国よりも大きい④は、インターネットの普及率が高く、ネット関連産業も発達している韓国と判断できる。残りの②はヨーロッパ諸国の中でもインターネット普及率が低いイタリアである。

問6 [18] ③

①正しい。ワーキング・ホリデーは、若者の交流を目的とした制度で、二国間の協定に基づき、現地での滞在費用を補うための就労を認めている。日本のワーキング・ホリデー制度は、1980年にオーストラリアとの間で最初に結ばれ、その後、ニュージーランドやカナダ、韓国など約10か国との間で結ばれている。②正しい。西ヨーロッパ諸国では、3週間程度の有給休暇が認められており、夏のバカンスには、ドイツ、イギリスなどの北の国からイタリア、スペイン、フランスなどの南の国、特に地中海沿岸地域への移動が多い。③誤り。メッカに巡礼するのは**イスラム教徒**(ムスリム)であるが、フィリピンは国民の大多数が**キリスト教徒**である。④正しい。ロ

シアの都市住民には、ソ連時代から郊外にダーチャとよばれる別荘を持つ人が多く、付属の家庭菜園で野菜などを作っている。

#### 第4問 ヨーロッパ地誌

##### 【出題のねらい】

ヨーロッパの地形、雨温図、家畜の飼育頭数、工業都市、人口動態、EUについて出題した。地誌学習では、自然、産業、社会の重要事項について地図や統計を用いた学習を心がけ、地域性を理解できるようにしておこう。

##### 【設問別解説】

###### 問1 [19] ①

①正しい。Aはアイスランド島で、名前の通りヨーロッパ最大級の氷河に覆われている。プレートの広がる境界に形成された大西洋中央海嶺に噴出した火山島で、氷河の下で火山が噴火することもある。②誤り。Bはエルベ川で、チェコ南部の古期造山帯に属する山脈を源としている。流域の起伏が小さいため、運搬される土砂が少なく、氷期に海面が低下していたときに形成された河口部の谷が埋め立てられておらず、河口はラッパ状に開いたエスチュアリー(三角江)となっている。北海周辺に注ぐ河川にはエスチュアリーがみられるものが多く、フランスのジロンド川、ロアール川、セーヌ川、イギリスのテムズ川も地図帳でみておこう。これらの河川の河口部には港湾都市が立地し、エルベ川の河口には、ドイツ最大の貿易港を有するハンブルクが位置している。③正しい。Cはスペイン北西部のリアスバハス海岸で、リアス海岸の名称の発祥地である。リアス海岸は、河食によるV字谷をもつ山地が沈水し、岬と入江が交互に並ぶ鋸歯状の海岸で、日本でも三陸海岸など各地にみられる。沈水海岸には、河口が沈水したエスチュアリー、氷食によるU字谷が沈水したフィヨルド(ノルウェーが有名)も含まれる。④正しい。Dはイタリアのシチリア島で、地中海周辺は新期造山帶のアルプス・ヒマラヤ造山帶に属しており、同島最高峰のエトナ山は活動的な火山である。

###### 問2 [20] ①

ベルゲンとヘルシンキは高緯度に位置するので、気温が低い①か③、最も低緯度のマドリードは最も高温の②と考えられるので、パリは④と判定できる。ベルゲンとヘルシンキはほぼ同緯度であるが、ベルゲンは沖合を北上する暖流の北大西洋海流の影響を受けるため、冬季の気温が高い①が該当する。背後にはスカンディナヴィア山脈が迫り、暖流上を

吹く湿った偏西風がぶつかって上昇気流が生じ、地形性降雨が多いため、ヨーロッパ有数の多雨地域になっており、降水量が多いことも判定材料となる。気候区は西岸海洋性気候(Cfb)で、暖流の影響で、スカンディナヴィア半島西岸に沿って細長く西岸海洋性気候が分布することを地図帳で確認しておこう。一方、スカンディナヴィア半島に囲まれたバルト海は、冬季は凍結し、暖流の影響も低下するため周辺は低温となり、③のヘルシンキは亜寒帯湿潤気候(Df)に区分される。④のパリも、ベルゲンと同じ西岸海洋性気候であるが、地形性降雨はみられないため降水量は多くない。②のマドリードは、夏乾燥し、冬湿潤な地中海性気候(Cs)である。

###### 問3 [21] ④

アは羊、イは豚、ウは牛である。ヨーロッパでは古くから有畜農業が行われ、表からわかるように、基本的には人口の多い国で家畜の頭数が多い。羊は家畜の中では乾燥に強く放牧に適しており、ヨーロッパでは夏に乾燥する地中海周辺諸国で頭数が多いことからアと判定できる。1位のイギリスは、国土面積に占める牧場・牧草地の割合が約45%と高く、羊の放牧が盛んで、羊の頭数は世界7位に入っている。地中海周辺では、夏乾燥して低地では牧草が不足するため、牧草が豊富な山地に家畜を移動させて放牧する移牧が行われていることも覚えておこう。豚は、ヨーロッパでは混合農業で飼育されることが多く、ハム・ソーセージで有名なドイツとイベリコ豚で有名なスペインは、豚の頭数が世界5・6位に入っている。ヨーロッパで5位のデンマークは、豚肉の輸出が多く、ドイツ、アメリカ合衆国に次ぐ世界3位である。デンマークは、耕地の割合が約6割と高く、舍飼いできる豚の頭数が多い。牛は、混合農業や酪農で飼育されるが、緯度が高く冷涼で穀物栽培に不利な地域では酪農が行われ、イギリスとともに牧場・牧草地率が高いアイルランドでは牛の放牧が盛んである(以上、統計は2011年)。

###### 問4 [22] ④

①正しい。Oは、オランダのロッテルダムで、ライン川の河口に位置し、ヨーロッパ最大の貿易港を有している。原油の輸入も多く、ヨーロッパ最大の石油精製基地があり、原油はパイプラインでドイツのルール地方などに送られている。②正しい。Pはドイツ南部のミュンヘンで、伝統的なビール工業が有名であるが、自動車工業や先端技術産業も集積するドイツ有数の工業都市である。③正しい。Qはスペイン第二の都市のバルセロナである。スペインは、1986年のEC加盟後、西ヨーロッパでは労働費

が安価であったことから、外国企業の進出が盛んになり、自動車生産はヨーロッパではドイツに次ぐ2位となっている。バルセロナにも日本企業を含む外國の自動車工業が進出している。**④**誤り。**R**はイタリア南部のタラントで、臨海型製鉄所が立地している。イタリアは石炭、鉄鉱石とも産出しないので、鉄鋼業は輸入原料を利用している。イタリアは**南北の経済格差**が大きく、その是正のため南部開発が行われ、タラントの製鉄所建設はその一例である。

問5 [23] **④**

東西冷戦の終結後、旧ソ連、東ヨーロッパ諸国では社会主義政権が崩壊し、計画経済から市場経済に移行したが、経済の停滞や社会の混乱を招き、出生率の低下と死亡率の上昇によって自然増加率がマイナスに転じた国が多かった。近年出生率は上昇しているが、死亡率は依然として高く、自然減少となっている国が多い。よって、旧ソ連、東ヨーロッパ諸国の多くが低位となっている力が自然増加率である。西ヨーロッパ諸国では、早くから**少子高齢化**が進行したため、**少子化対策**を積極的に行い、出生率を上昇させた国がみられ、近年は特にフランスでの出生率が高くなっている。一方、ドイツやイタリアでは、日本と同様に出生率が低い今まで、自然増加率はマイナスになっている。よって、**キ**が出生率で、**ク**が死亡率である。

問6 [24] **④**

①正しい。EU(ヨーロッパ連合)の前身であるEC(ヨーロッパ共同体)は、1967年にECSC(ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体)、EEC(ヨーロッパ経済共同体)、EURATOM(ヨーロッパ原子力共同体)を統合して結成された。②正しい。単一通貨ユーロは、2014年現在、EU加盟国28か国中18か国で導入されているが、EU発足時の加盟国の中では、イギリス、スウェーデン、デンマークで導入されていない。③正しい。2004年以降加盟した東ヨーロッパ諸国は、西ヨーロッパ諸国に比べて経済水準が低く、域内の経済格差は拡大した。**④**誤り。旧ソ連構成国では、エストニア、ラトビア、リトアニアのバルト三国が、旧ユーゴスラビア構成国では、スロベニア、クロアチアが加盟している。

表① EU の発展

1952年	ECSC 結成。
1958年	EEC, EURATOM 結成。
1967年	ECSC, EEC, EURATOM を統合してEC 結成。 (原加盟国：ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、旧西ドイツ、フランス、イタリア)
1973年	イギリス、アイルランド、デンマーク加盟。
1981年	ギリシャ加盟。
1986年	スペイン、ポルトガル加盟。
1993年	マーストリヒト条約の発効によりEUと改称。
1995年	オーストリア、スウェーデン、フィンランド加盟。 シェンゲン協定により人の移動自由化。
2002年	単一通貨ユーロ通貨流通開始。
2004年	エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー、スロベニア、マルタ、キプロス加盟。
2007年	ルーマニア、ブルガリア加盟。
2013年	クロアチア加盟により現在28か国。

## 第5問 現代世界の諸課題

### 【出題のねらい】

エネルギー問題、水に関係した環境問題、ヨーロッパの民族問題、ODA供与先、女性議員の割合、農産物自給率と食料供給量について出題した。この大問は、さまざまな分野が含まれるので、苦手な分野がないかチェックして本番に臨もう。

### 【設問別解説】

問1 [25] **③**

1人当たり一次エネルギー供給量は、先進国で多く、発展途上国で少ないので、①は中国である。先進国の中では、エネルギー生産が多くエネルギー多消費型社会となっている新大陸で国土の広い国、すなわちカナダ、アメリカ合衆国、オーストラリアで特に多いので、④はオーストラリアである。②、③は、日本かフランスで、1人当たり一次エネルギー供給量はあまりかわらないが、1人当たり二酸化炭素排出量は、②のほうがかなり多い。二酸化炭素は、化石燃料の燃焼によって発生するので、一次エネルギーに占める化石燃料の割合が高い国では多く、低い国では少なくなる。フランスは発電量の75.3%が二酸化炭素をほとんど排出しない**原子力発**

電で、一次エネルギー全体に占める割合でも42.6%を占める(2010年)。よって、1人当たり二酸化炭素排出量が少ない④がフランスで、②が日本である。中国とオーストラリアは、一次エネルギーの大部分が化石燃料で、その中でも二酸化炭素排出量が多い石炭が中心となっているので、1人当たり一次エネルギー供給量に対して1人当たり二酸化炭素排出量は多くなっている。

問2 [26] ④

①正しい。Aはナイル川河口部である。ナイル川では、エジプト南部にアスワンハイダムが建設され、洪水調整や発電、灌漑などに利用されている。しかし、ダム建設によって洪水がなくなり、土砂の運搬量が減少したため、河口部では海岸侵食が発生し、海岸線の後退が生じている。また、不適切な灌漑による塩害、肥沃な土砂が供給されなくなったことによる地力の低下などの問題も発生している。②正しい。Bはアラル海周辺で、ソ連時代に湖に流入するアムダリア川とシルダリア川から灌漑用水を取水し、綿花栽培地域が拡大した。また、アムダリア川とカスピ海を結ぶカラクーム運河の建設も進められた。このためアラル海に流入する水量が大幅に減少し、湖は大きく縮小した。③正しい。Cは黄河下流部で、中上流域での農業用水や生活用水の需要増加で、流量が減少し、1990年代には河口まで水流が達しない断流現象が発生した。森林破壊による農地の拡大は、砂漠化も招いたため、対策として植林が行われている。④誤り。Dは小スンダ列島で、火山島も多く、標高は全般に高いので、地球温暖化による海面上昇で島全体が水没する恐れはない。

問3 [27] ②

①正しい。アイルランドはイギリス植民地となり、1937年に独立したが、イギリス人の多い北アイルランドは、イギリスに残留した。このため、アイルランド統一をめざすカトリックのアイルランド系住民と、プロテstantのイギリス系住民との間で対立が続いてきた。②誤り。スペイン北東部のフランス国境付近に居住しているのはバスク人で、スペインからの分離独立運動を続けてきた。バスク語は単独でバスク語族を構成し、独自の文化を築いてきた。ケルト人は、イギリスやアイルランドの一部、フランスのブルターニュ半島に居住する民族で、ケルト語はインド・ヨーロッパ語族のケルト語派に属している。③正しい。ベルギーは北部にオランダ系住民が、南部にフランス系住民が居住し、南東部の一部にはドイツ系住民も居住しているため、オランダ語、フランス語、ドイツ語が公用語とされてい

る。オランダ系住民とフランス系住民は古くから対立を続けており、境界付近に位置する首都のブリュッセルは、両言語の併用地域となっている。④正しい。旧ユーゴスラビアは、現在、スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、マケドニア、コソボの7か国に分裂しているが、冷戦終結後の連邦解体時に激しい内戦が起きたのはボスニア・ヘルツェゴビナである。この国では、イスラームを信仰するムスリム人が多数を占めるが、カトリックを信仰するクロアチア人、正教会を信仰するセルビア人も居住しているため、独立時に三民族間での内戦が続いた。セルビアから2010年に独立したコソボも、イスラム教徒(アルバニア系)が多数派であることに注意しておこう。

問4 [28] ①

ODA(政府開発援助)は、先進国から発展途上国に対して行われ、一般的に、地理的に近く、歴史的に関係の深い国への供与が多い。イは、アジア諸国が上位を占めていることから日本と判定する。ウは、アフリカ諸国が多く、モロッコ、コンゴ共和国、コートジボワールは旧フランス領なので、フランスと判定する。コンゴ民主共和国は旧ベルギー領であるが、フランス語が公用語とされており、フランスからの援助が多くなっている。アはアメリカ合衆国で、戦争や内戦が起きた国が上位に入っており、安全保障上重要な国への供与が多い。なお、ODA支額(2012年)は、アメリカ合衆国、イギリス、ドイツ、フランス、日本の順であるが、アメリカ合衆国と日本は、ヨーロッパ諸国に比べて支額のGNI比が低い。

問5 [29] ②

①誤り。先進国では、発展途上国に比べて女性の地位が高く、女性議員の割合が比較的高いが、日本は10%を下回っている。②正しい。北ヨーロッパ諸国は、女性の社会進出が盛んで、労働率も高く、女性議員の割合は30%以上で、特にスウェーデンとフィンランドは40%を超えており。③誤り。イスラームでは男女の役割分担が明瞭で、女性の社会進出や教育機会も少ないと、女性議員の割合が高い国もあり、アルジェリアでは30%を超えており、20%以上の国もみられる。④誤り。社会主義国では男女平等の観点から女性議員の割合の高い国が多かったが、旧ソ連構成国では現在割合が低下しており、ウクライナでは10%を下回っている。

問6 [30] ①

穀物や肉類などの輸出は先進国が中心で、先進国では肉類の供給量が多いことから、穀物、イモ類、

肉類とも自給率が高く、肉類の供給量が多い④はカナダである。②はイモ類の供給量が非常に多いことから、アフリカのナイジェリアと判定する。アフリカの熱帯地域では、焼畑農業でキャッサバやタロイモ、ヤムイモなどのイモ類が栽培され、イモ類が食料供給の中心となっている国が多い。残った①と③がインドかマレーシアであるが、インドで主に信仰されているヒンドゥー教では、牛は聖なる動物で食されることではなく、牛以外の肉も食さない菜食主義者も多いので、肉類の供給量は少ない。一方、穀物生産は多収量品種を導入する緑の革命の影響もあり、米、小麦、トウモロコシとも自給できている。よって、③がインドで、①がマレーシアである。マレーシアはほぼ全域が熱帯雨林気候で、小麦とトウモロコシはほとんど栽培されず、油ヤシ(パーム油の原料)や天然ゴムなどのプランテーションが盛んなため、穀物の自給率は低い。インドに比べると所得水準は高く、肉類の供給量は多い。

## 第6問 地域調査

### 【出題のねらい】

富山県と富山市を対象として、気候、新旧の地形図、工業、観光、環境問題について出題した。地域調査の問題では、日本の特定地域の特別な知識が求められてはいない。ここでは、日本の自然環境や産業など、日本に関する一般的な知識と理解をもとに正答を導くことができるようにしておきたい。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1地形図「富山」である。

### 【設問別解説】

#### 問1 [31] ①

気温の年較差は、海洋の影響を受け温度変化の小さい沿岸部より内陸部の方が大きいので、表1中、最も気温の年較差の大きいアには高山市が該当する。高山市は、周囲を高峻な飛騨山脈や飛騨高地に囲まれた盆地に位置し、最寒月の平均気温が $-1.4^{\circ}\text{C}$ (1月)、最暖月の平均気温が $24.1^{\circ}\text{C}$ (8月)で年較差が大きい。日照時間は天気と大きく関係し、日本海側に位置する富山県は、冬季の北西季節風が、暖流の対馬海流が北上する日本海上で水蒸気を供給されて雪雲ができる、日本列島の脊梁山脈にぶつかるため降水(雪)量が多く、曇りである日が多いため日照時間は短い。よって、年間日照時間に占める12月～2月の3か月間の占める割合が低いイには富山市が該当する。残ったウが太平洋側に位置する名古屋市であり、年間日照時間に占める12月～2月、6月～8月の割合はほぼ同じで、特に冬季は北西季節風

に対して脊梁山脈の風下側に位置するため、晴天が続き、高山市や富山市に比べ日照時間が長い。

#### 問2 [32] ④

④正しい。新図(2011年発行)の富山県庁や市役所、博物館など大規模な公共施設が位置する付近は、旧図(1934年、昭和9年発行)では、富山駅南側の市街地と富山城下の市街地に挟まれた荒れ地などが広がる湾曲した土地である。ここは市街地の西部を流れる神通川のかつての本流があったところで、明治30年代までは市街地を大きく蛇行して流れていた(現在も小河川として松川が残っている)。これを自然の堀として利用した富山城は城下町の北西端に位置するが、新旧図からもわかるように、付近は低湿な氾濫原であるため、しばしば洪水の被害に見舞われた。洪水の被害を軽減するため、明治時代後期には流路を直線化する改修工事が進められ、旧河道に県庁や市役所などの公共施設が建設された。①誤り。上述したように、富山市の市街地は低湿な氾濫原に位置するため「防御のため台地の端に築かれ」は誤りであるが、新旧図とともに市街地の南東部には寺院が多くみられる。これは寺町とよばれ、広い境内をもつ寺院は兵士を集めることができるので、城下町では防御目的で縁辺に設けられることが多かった。②誤り。新図をみると、JR線よりも北側の市街地には、かつての神通川の流路を流れる河川と、赤江川がみられるが、これらの流路は一部直線化されているものの旧図とほぼ同じで大幅に変更されていない。③誤り。JR線よりも南側の市街地の道路網を新旧図で比べると、大きく変化していることが読み取れる。これは、富山市は1945年8月の戦災によって市街地のほとんどを消失し、戦後に復興計画を策定して道路を拡幅し碁盤目状の町並みを整備したためである。

#### 問3 [33] ②

①正しい。新旧図を比べると、新図の「おくだちゅうがっこうまえ」から富山駅北側にかけて新たに路面電車の線路が敷設されたことがわかる。②誤り。JR線よりも南側の市街地を新旧図で比べると、東田地方町付近に南北にあった線路などが廃止されていることが読み取れる。③正しい。鉄道交通は自動車交通に比べ輸送量当たりの二酸化炭素の排出量が少なく、環境負荷が小さい公共交通機関であり、環境対策を重視するヨーロッパの都市では路面電車が多く利用されている。富山市でも路面電車が積極的に利用されており、JR線よりも北側にみられる路線がそうであるように、都市内の市街地では路面電車となり、郊外では専用軌道を走る鉄道となる

LRT (Light Rail Transit : 次世代型路面電車) の利用を進め、これにより都心部の自家用車の利用を減らし環境負荷の軽減を目指している。富山市では、自家用車以外の移動手段を確保しつつ、駅周辺に居住地や商業施設などを集めることで、公共交通機関と徒歩圏を結合させて小さな行動圏内で済むようにしたまちづくりを推進して、弱者にやさしい住みやすい都市を目指している。④正しい。写真1のような路面電車は超低床型の車両であり、身障者や高齢者、子どもの乗降に配慮したものである。

問4 [34] ①

アルミニウムは、主に熱帯で産出するボーキサイトを原料としてつくられる中間生産物のアルミナを電気分解して生産される。中間生産物であるアルミナからアルミニウムに電気分解する際、大量の電力を消費するため「電気の缶詰」ともよばれ、安価な電力が得られることが絶対的な立地条件である。日本におけるアルミニウム精錬工業は、第二次世界大戦前の1937年頃から、航空機製造などの軍需を背景として国家的な保護を受け急激に成長した。富山県内にも当時、富山市と高岡市に精錬工場があり、これらは山間部に建設されたダムによる安価な水力電力を活用したものであった。第二次世界大戦後は、高度経成長期にアルミニウム精錬工業へ新規参入する企業も現れて生産量は急増し、1970年代には100万トンを超え、旧ソ連、アメリカ合衆国などと並ぶ世界的なアルミニウム生産国となった。しかし、戦後は石油火力発電を利用する精錬工場に多くの依存していた日本のアルミニウム精錬工業は、1970年代、2度の石油危機による原油価格の高騰で、決定的な打撃を受け、生産量は急減した。①誤り。前述したようにアルミニウムの原料であるボーキサイトは熱帯に多く埋蔵される鉱産資源であり、中間生産物であるアルミナはボーキサイトの産出国で生産されることが多い。また、1981年頃は旧ソ連を中心とする東側諸国とアメリカ合衆国を中心とする西側諸国との間での対立が深刻化しており、日本と旧ソ連との間の貿易が積極的に行われていたこともなかった。②正しい。第二次世界大戦後の復興を目指し、1951年から電源開発など河川の多目的的な利用を図る特定地域総合開発計画が実施され、1962年には全国総合開発計画が実施され、拠点開発方式により新産業都市や工業整備特別地域が設定された。富山・高岡は新産業都市の一つであり、港湾などの産業基盤の整備が積極的に進められ、山間部のダムを利用した豊富な水力電力や用水を背景としたアルミニウムの精錬業や加工業の集積が進んだ。③正し

い。前述したように1970年代の2度の石油危機による電力費の高騰により、国内のアルミニウム精錬工業は衰退し、富山県内の精錬工場も1980年代に閉鎖された。④正しい。国内ではアルミニウム精錬工業は衰退したが、建物などの窓枠(サッシ)として用いる建材などを製造するアルミニウム加工は盛んに行われており、なかでも富山県はアルミサッシの生産が全国1位(2012年)である。

問5 [35] ⑧

力は、「扇状地の広がる平野には散村がみられる」とあるので、図2・図6からわかるようにほぼ全域が平野に位置する砺波市が当てはまる。砺波市の位置する砺波平野では、近世(江戸時代)にこの地を治めた加賀藩の政策の影響によって、現在でも広大な耕地に家屋が散らばって点在する散村がみられる。また、力には「自治体のシンボルとなっている花の咲き誇る季節には、多くの観光客が訪れる」とあり、表2では年間観光客入込数に占める4~6月の観光客入込数の割合が約半分を占めるRがこれに当てはまる。富山県は日本一の球根の産地であり、砺波市ではチューリップが特に有名で、毎年4月下旬から5月上旬にかけて「となみチューリップフェア」が開催され、多くの観光客が訪れる。キ・クは、ともに山間部の観光地についての説明であるが、クには「氷河」「巨大なダムをもつ水力発電所」とあるので、図2・図6より飛騨山脈が東部に位置する立山町が当てはまり、キは南砺市である。飛騨山脈の多くは中部山岳国立公園に指定され、富山県に位置する立山や剣岳のいくつかの万年雪は近年氷河と認定されており、巨大な黒部ダムなどの水力発電所も位置する。表2では、期間別観光客入込数の1~3月の極端に少ないQが当てはまり、雪に閉ざされる冬季の入込数は少ない。なお、近年は台湾やタイなどから雪を抱く雄大な景観を求める観光客も増加しており、富山空港にはタイペイなどの間に国際定期便もみられる。南砺市の南部の五箇山は「茅葺きで急勾配の屋根が特徴的な合掌造りの家屋」のある村落で、隣接する岐阜県の白川郷とともに1995年に世界文化遺産に登録され、年間を通じて多くの観光客が訪れる観光地となっている(P)。

問6 [36] ②

神通川の上流部に位置する岐阜県神岡町(現在は飛騨市)にかつてあった神岡鉱山からの廃水に重金属のカドミウムが含まれ、神通川流域ではカドミウム汚染が広がった。流域住民の間では、カドミウムに汚染された水を飲用したり、流域で生産された農畜産物を摂取したりしたことによる深刻な健康被害

が生じ、**イタイイタイ病**とよばれた。この公害は、わが国で初めて(1968年)公害病と認定された。図7中④は、**熊本県水俣市付近**で、1930年代から1960年代にかけて化学工場からの廃水に有機水銀が含まれ、健康被害が深刻となった**(水俣病)**。⑤は、**三重県四日市市付近**で、第二次世界大戦後、日本で初めて本格的な石油化学コンビナートが建設され、工場から大量の亜硫酸ガスが排出され大気汚染が深刻化し、**四日市ぜんそく**とよばれる集団喘息障害が発症した。⑥は、**新潟県東蒲原郡鹿瀬町(現阿賀町)付近**で、1950年代に阿賀野川中流にある鹿瀬町にある化学工場からの廃水に有機水銀が含まれ、これによる

健康被害が深刻となった。熊本水俣病と同じく、食物連鎖により引き起こされた公害であり、**新潟水俣病**(第二水俣病)とよばれる。⑦は、**栃木県旧足尾町**(現日光市)付近で、明治時代中頃、栃木県西部の旧足尾町の**足尾銅山**では、精錬時の燃料による排煙や精製時に発生する二酸化硫黄などの鉱毒ガスにより周辺の森林は枯死し、廃水に含まれる鉱毒により魚類が大量に死滅したり、銅山の下流側の農地では稲が立ち枯れたりするなどの被害が次々と発生した。この事件は、当時の国会議員であった田中正造が先頭に立って住民による公害反対運動を起こしたことで知られ、日本における公害の原点ともよばれる。

●写真・図版提供

PPS 通信社／帝国書院

# 【公 民】

## ■ 現代社会 ■

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	①	2		
	問2	2	③	3		
	問3	3	②	3		
	問4	4	①	3		
	問5	5	④	2		
	問6	6	③	3		
	問7	7	⑤	3		
	問8	8	①	3		
第1問 自己採点小計			(22)			
第2問	問1	9	②	3		
	問2	10	③	3		
	問3	11	①	2		
	問4	12	④	3		
	問5	13	④	3		
第2問 自己採点小計			(14)			
第3問	問1	14	③	3		
	問2	15	①	3		
	問3	16	⑤	3		
	問4	17	②	2		
	問5	18	①	3		
	問6	19	④	3		
	問7	20	③	3		
	問8	21	③	2		
第3問 自己採点小計			(22)			
第4問	問1	22	③	3		
	問2	23	④	2		
	問3	24	③	3		
	問4	25	③	3		
	問5	26	④	3		
第4問 自己採点小計			(14)			

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	27	②	3		
	問2	28	③	3		
	問3	29	④	3		
	問4	30	①	3		
	問5	31	②	2		
第5問 自己採点小計			(14)			
第6問	問1	32	④	3		
	問2	33	①	3		
	問3	34	③	3		
	問4	35	④	3		
	問5	36	②	2		
第6問 自己採点小計			(14)			
自己採点合計			(100)			

### 【解説】

#### 第1問 青年と社会

##### 【出題のねらい】

卒業の近づいた大学生の悩みをテーマとする会話文を題材として、青年期の行動や心理、青年を取り巻く社会状況を総合的にまとめることをねらいとしている。社会状況に関しては、近年の動向や制度改革も視野に入れている。

##### 【設問別解説】

###### 問1 1 ①

経済民主化政策は連合国軍総司令部(GHQ)によって進められ、農地改革・財閥解体・労働民主化の三つを柱としていた。この労働民主化政策によって労働組合の育成が図られ、労働者の地位向上や労働条件の改善が実現された。

②成果主義や能力給の導入は、高度経済成長期ではなく、1990年代以降に経済成長が減速する中で広がっていった。高度経済成長期には、日本の経営の特徴とされる、終身雇用・年功序列型賃金・企業別組合が大企業を中心に広くみられ、賃金制度に関しては、勤続年数など年功序列に基づいて算定されるものが主流であった。③完全失業率を歴史的にみると、大まかに1970年代が1~2%台、80年代が2~3%台、90年代が2~4%台で、長期にわたって景気が低迷した90年代が一番高く、特に後半には3~4%台となった。④「非正規労働者の雇用が減少し

続いている」というのは誤り。経済のサービス化の進展によって、流通業などをはじめとしてアルバイト・パートなどの非正規労働者が増加し、また、経済のソフト化の進展によって、システムエンジニアなどの職種で派遣社員や契約社員のような非正規労働者が増加した。一般にサービス業(第三次産業)は労働集約的で、労働生産性が低いため、企業は人件費を削減するために非正規労働者を増やす傾向がみられる。

問2 [2] ⑧

男女雇用機会均等法では、募集・採用・配置・昇進・福利厚生などの面で性別による差別が禁止され、また、事業主にセクシュアル・ハラスメントの防止措置を講ずることを義務づける規定も設けられている。

①労働者派遣法(1985年制定)では、当初は、派遣元企業は、専門的な知識や高度な技術を必要とする業務に従事する労働者のみを派遣することができるとしていたが、その後の改正により、建設業務など一部の業務を除くすべての業務に派遣できるようになった。したがって、派遣先企業は、「専門的な知識や高度な技術を必要とする業務」ではない業務に従事する派遣社員でも受け入れることができる。なお、派遣社員(派遣労働者)とは、派遣元企業に雇用され、その業務命令によって他の企業に派遣され、派遣先の指揮命令の下で働く人のことを言う。②「法定労働時間の規定が削除され」という記述は誤り。労働基準法は、1日8時間、1週40時間を超えてはいけないと定めている。裁量労働制とは、特定の業務についての労働時間をあらかじめ定めておいて、その業務の進め方や時間配分を労働者の裁量に委ね、実際の労働時間に関係なく所定の労働時間、働いたものとみなす労働制のことを言う。④労使紛争を調整する「労働委員会による斡旋・調停・仲裁」の制度は、労働関係調整法に定められているものであって、労働契約法に定められているものではないので誤り。また、この労働委員会による調整は、企業(使用者)と労働組合との間の紛争に関するものであって、「企業(使用者)と個々の労働者の間の民事紛争」に関するものではないので、その点でも誤り。労働契約法は労働契約に関する基本的なルールを定めるもので、同法に基づいて、企業と個々の労働者の間の紛争を法的に解決するために労働審判の制度が設けられている。労働審判は、裁判によるものよりも、早期の解決が期待できる。

問3 [3] ②

携帯電話・PHSの契約数は、2000年代初めには

7,000万契約(2001年3月末で6,678万契約)に届かなかったが、2014年3月末には1億5,000万契約(1億4,956万契約)に達しようとしている(総務省調べ)。したがって、「契約数が減少」というのは誤りである。また、2004年から、電気通信事業の参入規制が緩和され、許可制を廃止して、届出・登録制とした。すなわち、携帯電話(スマートフォンを含む)や固定電話のような通信事業は、電気通信事業法に基づく届出と登録が必要だが、以前に必要とされていた総務大臣の許可是不要になった。したがって、「参入の規制が強化された」というのも誤り。ただし、使用する電波の周波数の割当てを受けるため、電波法に基づく免許は必要である。

①通常のソフトウェアでは処理できないほど膨大なデータをビッグデータと呼び、これを分析できれば企業活動や政策的課題に役立つ知見が得られるのではないかと期待されている。しかし、その利用にあたっては個人情報保護への配慮も必要である。例えば、多数の乗客がICカードを使って鉄道を利用した履歴というビッグデータを、鉄道会社が他の企業に販売しようとして批判されたという最近の事例が、この選択肢の内容である。②SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)は便利なコミュニケーションの手段だが、不用意に写真や住所などの個人情報を公開したり、身元の確認ができない相手に個人情報を送ったりして、性犯罪などの被害にあう事例が増加している。特に、判断力の不十分な未成年者の被害が目立つと言われており、メディアリテラシーの強化やサービスの使用内容の制限などが議論されている。③インターネット上で公開された他人の論文を不正にコピーする行為が問題とされるなど、知的財産権を侵害する事例がたびたび生じている。

問4 [4] ①

様々な欲求が対立し、どの欲求を選択したらいいか決めかねる状態を葛藤(コンフリクト)と言う。葛藤には、接近したい欲求が二つあるのにいずれか一つしか選択できない場合(接近-接近の葛藤)、どちらの対象も避けたいのに同時に避けることができない場合(回避-回避の葛藤)、接近したい対象と避けたい対象が併存する場合(接近-回避の葛藤)がある。この問題では回避-回避の葛藤の例にあたるもののが問われており、休日出勤を避けたい気持ちと、勤務評定の悪化を避けたい気持ちの間の葛藤を示した①が正解となる。

②は接近-接近、③と④は接近-回避の事例である。

問5 [5] ④

生活保護は社会保障のうち公的扶助にあたり、公費(税金など)を財源として、生活に困窮するすべての国民を対象として、生活・医療などの扶助が実施されている。したがって、この選択肢にあるような、社会保険料の納付は不要である。

①障害者雇用促進法に基づき、民間企業や官公庁などに対して障害者の法定雇用率が定められており、達成企業には調整金を給付し、未達成企業からは納付金を徴収している。②失業者を減らす手段として、一人あたりの労働時間を短縮するなどして多くの労働者を雇用できる条件を作ることを、仕事の分かち合いという意味でワークシェアリングと言う。③バリアフリーは、階段の代わりにエスカレーターやエレベーターを設けたり、低床バスを運行したりして、障害者や高齢者が自由に活動できるような条件を作ることである。ユニバーサルデザインとは、性別、国籍の違いや障害の有無を問わずに、誰にとっても使いやすい製品、施設、情報の設計(デザイン)を言い、バリアフリーの考え方を一步進めた考え方である。このどちらも、ノーマライゼーションの理念を具体化したものである。

問6 [6] ③

ドメスティック・バイオレンス(DV)は、夫婦や恋人の間での暴力や虐待である。その増加に対応するために、2001年にドメスティック・バイオレンス防止法が制定された。同法は、配偶者(事実婚、元配偶者も含む)からの暴力を防止し、またその被害者を保護することを目的としている。

①「遺伝上の親子関係」が「法律上の親子関係」とならない場合があるので、「つねに」という部分は誤りとなる。生殖医療の発達や家族形態の多様化によって、遺伝上の親子関係と法的な親子関係の整合性が問われるケースが増えている。現状では、民法などに法的な規定がある場合、遺伝上の親子関係より法的な親子関係を優先するというのが基本となっている。例えば、人工授精では精子提供者が遺伝上の父親にあたるが、法的には精子提供を受けて出産した母親の夫が父親とされる。2014年7月には、DNA鑑定で血縁関係がないことが証明されても、民法上の父子関係を取り消すことができないという最高裁の判断が示された。また、民法は、遺伝上の親子関係とはかかわりなく、養子縁組を通じて法的な親子関係を発生させることを認めている。②夫婦で異なる姓(氏)を使える選択的夫婦別姓制度は、現在のところ法的に導入されていない。しかし、女性の社会進出の増加に伴い、結婚による改姓

が不便などの理由で夫婦別姓を求める意見も強く、企業などで通称として認めるケースも出ている。④「高齢者単身世帯や高齢者の夫婦のみの世帯の比率は低下」という記述は誤り。高齢化の進展とともに問題となっているのは、高齢の夫婦のみの世帯や、高齢者単身世帯の増加である。これらは、いわゆる「老老介護」や「孤独死」が生まれる背景である。

問7 [7] ⑥

A：エリクソン(1902~94)はライフサイクル(人生周期)を八つの発達段階に区分した。このうち青年期の課題として、過去から現在、そして将来まで自己が連続的に存在しているという確信や、自分が他者から承認されているという感覚を基礎とする自分が自分であることへの確信、すなわちアイデンティティ(自我同一性)を確立することを挙げた。したがって、イが該当する。

B：マズロー(1908~70)は、欲求を生理的欲求・安全の欲求・所属と愛情の欲求・自尊の欲求・自己実現の欲求の五つの階層に分類し(欲求階層説)，自己実現の欲求を最も高次元のものとして位置づけた。したがって、ウが該当する。

C：ハヴィガースト(1900~91)は、人間が健全な発達を遂げるためには、人生のそれぞれの時期に見合う知識や態度を身につける必要があるとして、これを発達課題と呼んだ。青年期の発達課題としては、「両親や他の大人から情緒的に自立することや、結婚と家庭生活の準備をすること」のほかに、同年齢の男女との洗練された新しい交際を学ぶこと、男性として、また、女性としての社会的役割を学ぶことなどを挙げている。したがって、アが該当する。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問8 [8] ①

アドルノ(1903~69)とホルクハイマー(1895~1973)は、共著『啓蒙の弁証法』において、近代的理性は、産業化の進展の中で、経済合理性を追求するものとなり、自然や人間を支配するための道具となつたとし、こうした近代的理性を道具体的理性と呼んで批判した。

②ウェーバー(1864~1920)の定義した官僚制は、上意下達の指揮命令系統をもち、規則に基づく権限の配分、文書主義などの合理的組織運営がみられることが特徴である。この選択肢ではこれと全く逆のことが述べられていて、誤りである。③フロム(1900~80)は、ナチスを支持するに至ったドイツ国民の社会的性格を分析して、そこには権威ある者には絶対的に服従し、自己より弱い者に対しては攻撃的にふるまうという性格があると指摘し、このよう

な社会的性格を**権威主義的人格**と呼んだ。したがって、「自己よりも上に立つ一切の権威を否定する現代人の社会的性格を権威主義的人格」と呼んだとする記述は誤り。**④リースマン(1909~2002)の説く他人指向型**という概念に照らして誤りである。リースマンは、現代のアメリカ人の中産階級に典型的にみられる社会的性格を他人指向型と特徴づけた。これは、他者の動向を自己の行動や態度の基準とする性格類型を言う。これに対し、近代社会の人々にみられる社会的性格を、リースマンは**内部指向型**と呼んだ。これは、親から受けたしつけや学校教育を通じて形成された内面的な規範に基づいて行動するという性格類型を言う。選択肢の記述内容は、近代社会に典型的にみられる社会的性格である。

## 第2問 経済活動及び文化と伝統

### 【出題のねらい】

本問では、豊かで便利な社会を取り上げた本文を題材にして、人間の経済活動及び文化と伝統に関する知識の習得状況を試すとともに、資料の読み取り、「調べ学習」にかかる用語を取り上げ、その理解の到達度を図ることをねらいとした。

### 【設問別解説】

#### 問1 9 ②

**表1**から、1990年、2000年、2010年と一次エネルギー総供給量が年を追うごとに増加しているのは中国だけであるとわかる。アメリカとイギリスは2000年から2010年にかけて減少し、ロシアは1990年から2000年にかけて減少している。

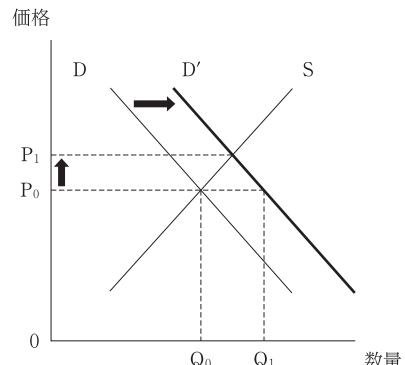
①表1から2010年の一次エネルギー総供給量が最も多かったのは中国なので、いずれの年もアメリカが最も多いとする記述は誤り。②表2から、石油の占める割合が最も高いのはアメリカ(36.3%)であって、イギリス(31.3%)ではないので、イギリスが最も高い割合というのは誤り。③表2から、ロシアでは天然ガスが54.5%で最大の割合を占めている。したがって、ロシアでは石油が最大の割合を占めるというのは誤り。

#### 問2 10 ⑧

アメリカの経済学者ガルブレイス(1908~2006)は、『ゆたかな社会』において、企業の広告や宣伝には、消費者の欲望を喚起する働きがあると指摘し、広告や宣伝がもたらすその効果を「**依存効果**」と呼んだ。

①「持続可能な開発」とは、現在世代は将来世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、自己のニーズを満たすような開発を行うべきである

とする理念である。したがって、「将来世代のニーズは考慮に入れずに現在世代のニーズを満たすこと専念すべきであるとする考え方」という記述は誤りである。この理念は、1987年に環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)が出した報告書によって広く知られるようになったもので、1992年に開催された国連環境開発会議で採択された**リオ宣言**にも盛り込まれた。②「衣食住や教育の充実」と「生産関連社会資本の整備」を入れ替えれば正しい文になる。**人間の基本的ニーズ(BHN)**という概念は、発展途上国への経済協力について考える際に用いられたもので、人々にとって最低限必要とされる衣食住などの基本的な物質と、保健衛生や教育など地域社会における基本的なサービスのことを言う。④「下落」は上昇の誤り。市場メカニズムが有効に機能する完全競争市場では、流行が発生し需要量が増加すると、下の図に示したように、需要曲線は右方向にシフト(DからD'へと移動)し、その結果、元の均衡価格(P<sub>0</sub>)では、需要量が供給量を上回り(超過需要、Q<sub>1</sub>-Q<sub>0</sub>)、価格は上昇(P<sub>0</sub>からP<sub>1</sub>へと上昇)する。



#### 問3 11 ①

アメリカの文化人類学者ベネディクト(1887~1948)は、『菊と刀』において、日本人には、他人や世間からどのように評価されるかということを気にかけ、恥をかかないように自己の行動を律する傾向があることから、日本文化を「恥の文化」と特徴づけた。選択肢にあるような「罪の文化」は、日本の「恥の文化」と対比して、西洋の文化を特徴づけたものである。ベネディクトは、西洋人は自己の内面的な規範に基づいて自己の行動を律する傾向をもつことから、西洋の文化をそのように特徴づけた。

②④はそれぞれ正しい記述である。②日本の伝統的な行事の中には、「この世」と「あの世」がつながっており、往き来が可能なものとみなしていることを示すものがある。選択肢に示した盆がその例

である。祖先の靈は、お盆には、山や海のかなたにある「あの世」から子孫が暮らす「この世」に戻ってくる。この世に暮らす子孫は、祖先の靈を家に迎え入れ、もてなすのである。なお、お盆には、**祖靈**を死後の苦惱世界より救済するという仏教の盂蘭盆会の影響もあると言われている。**⑨「外来文化を変容させつつ受け入れ、独自のものへと発展させていった例」**の一つに鎌倉仏教がある。**法然**(1133~1212)は、中国の僧である善導(613~81)の影響を受けつつ、ひたすら南無阿弥陀仏と唱えること(**専修念佛**)により阿弥陀仏の救済を得て淨土に往生できると説き、**親鸞**(1173~1262)は、衆生の救済の本願を立てた阿弥陀仏を絶対的に信じ、阿弥陀仏にいっさいを委ねること(**自然法爾**)の大切さを説いた。また、**道元**(1200~53)は、ひたすら坐禅すること(**只管打坐**)を通じて、身心から一切の執着心をそぎ落とすこと(**身心脱落**)により、涅槃の境地に至ることができると言った。彼らは、大陸の仏教がもつ多様な要素をそぎ落とし、単純な信や行が救いに至る道であると説くなど独自の仏教思想を展開し、その教えは民衆に浸透していった。**⑩社会人類学者の中根千枝**(1926~)は日本人の集団においては、個人の「資格」よりも、先輩と後輩、上司と部下などの**タテの関係**が重視されていると指摘した。こうした点から、中根は『タテ社会の人間関係』において日本社会を「タテ社会」と特徴づけた。

#### 問4 [12] ④

イスラム教は、ムハンマド(571?~632)が唯一神アッラーの啓示を受けて開いたとされる宗教である。イスラム教では、信者の務めとして、アッラー・天使・啓典・預言者・来世・天命の六つを信じること(**六信**)と、信仰告白・礼拝・断食・喜捨・聖地メッカへの巡礼など五つの実践(**五行**)が求められる。

①イスラム教もキリスト教も一神教である。②仏教を開いたブッダ(前463?~前383?, 前566?~前486?)は、涅槃の境地に至るために、正しい修行を通じて苦しみの原因となっている煩惱を消し去る必要があると説いた。**禊**や**祓**はツミ(罪)や穢れを取り除くために行われる**神道の宗教的儀礼**である。③主として16世紀にヨーロッパに広がった**宗教改革運動**により、西方のキリスト教では、カトリックからプロテスタントが分かれ、宗派間の対立を背景に激しい宗教戦争も起きている。また、その他に東方正教会(ギリシャ正教会など)もある。したがって、「統合され……分派は存在しなくなった」というのは誤り。

#### 問5 [13] ④

A: ブレインストーミングとは、集団的思考法の一つで、調査テーマをめぐって互いに自由に意見を述べたりアイデアを出したりして、独創的なアイデアを引き出そうというもの。したがって、ウが該当する。

B: ディベートとは、ある論題について、肯定側と否定側に分かれて討論を行い、討論を聞いた審判員役が勝ち負けを判定する討論ゲームのことで、論理的思考力などを育てるために行われている。したがって、アが該当する。

C: プレゼンテーションとは、研究成果などを聴衆に発表することを言う。その際、研究成果などを効果的に伝えるために、レジュメを作り配布したりプロジェクトを用いたりすることもある。したがって、イが該当する。

以上のことから、最も適当な組合せは④となる。

### 第3問 民主社会の倫理と人間の尊厳

#### 【出題のねらい】

本問は、民主社会の倫理と人間の尊厳をテーマとする本文を題材にして、国民の政治参加と人権の保障に関する基本事項を確認することをねらいとしている。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [14] ⑩

政治資金規正法により、**政治家個人及び政治家個人の資金管理団体**に対する**企業・団体献金**は禁止されている。ただし、政党や政党の政治資金団体に対する**企業・団体献金**は認められている。

①「自ら政権獲得を目指して活動している」という記述が誤り。**圧力団体**とは、政策の決定に圧力を加えて、自己の**特殊利益**の実現を目指そうとする団体を言う。圧力団体も政党も政治的意思決定にかかる団体であるが、一般に、政党が政権獲得を目指すのに対し、圧力団体は政権獲得を目指さないという点で、両者の間には大きな違いがある。②1955年から93年まで続いた自由民主党一党優位の政党政治のあり方は、**55年体制**と呼ばれる。この55年体制の下では、一貫して自由民主党が**政権**を維持していたのであって、「たびたび政権が交代」するような「二大政党制」という政治状況にはなかった。④「政府が事前に報道内容を審査して、不適当と認める場合に発表を禁止する制度」は**検閲**と呼ばれるものであるが、日本国憲法の第21条2項によって、検閲は**禁止**されているので、日本にはこの選択肢にあるような制度は存在しない。

問2 [15] ①

住民投票条例に基づく住民投票の結果には法的拘束力はない。したがって、「法的拘束力がある」とする記述は誤り。日本国憲法で定められている**地方特別法の制定の際の住民投票や、地方自治法上の直接請求に伴う住民投票**(長・議員の解職請求及び議会の解散請求の際の住民投票)の結果には法的拘束力があるので、区別して押さえておこう。

②慣習法に関する記述として正しい。議会制定法以外にも、**慣習法や判例法**など、法的規範として機能するものがある。国際社会における慣習・慣行が、各国が守るべき法として広く承認されたものは、**慣習国際法(国際慣習法)**と呼ばれる。③上で触れた地方特別法を制定する際の住民投票のことである。④民主政治は「世論による政治」と言われるよう、世論には政治的影響力がある。新聞など報道各社は、内閣支持率をはじめとする世論の動向をしばしば調査し、その結果を報道している。

問3 [16] ⑥

A : 「相対的平等」とは、各人の性別、能力、年齢などの種々の事実的・実質的差異を前提として、同一の事情と条件の下では均等に取り扱うことを意味する。したがって、「相対的平等」は、**合理的な区別**を認めるものである。これに対して、「絶対的平等」は、すべてを一律に扱うことを意味するので、合理的であるか否かを問わず、区別自体を認めない。「合理的な理由があるものに関しては区別を認めるもの」という記述から、「相対的平等」が該当する。

B : 「機会の平等」とは、すべての個人に平等の機会を与えることを言う。この平等観では、平等に与えられた機会をどのように生かすかは、個人の自由と能力に委ねられ、その結果として人々が平等でなくなることは、平等原則に反するものではないと考えられた。これに対し、「結果の平等」は、競争の結果生じた様々な格差(負の遺産)を取り除き、実質的な均等を確保すべきであるという平等観を言う。「自由な競争がもたらす格差を許容している」という記述から、「機会の平等」が該当する。

C : アメリカの思想家ロールズ(1921~2002)は、『正義論』を著し、幸福の最大化を説く功利主義の考え方を批判して、**公正としての正義**を説いた。彼が説く公正としての正義は、次の二つの原理を中核としている。すなわち、第一の原理は、基本的自由の権利は平等に配分されるべきである(平等な自由の原理)ということであり、第二の原理は、社会的・経済的不平等は、最も不遇な立場にある人々の

便益を最大化するよう配慮すること(格差原理)、公正な機会均等が確保されること(公正な機会均等原理)，という二つの条件を満たさなくてはならないということである。この第二原理に照らして、「ロールズ」が該当するとわかる。一方、セン(1933~)は、各人に對し自ら価値あると考える生き方を選択する自由(**潜在能力[ケイパビリティ]**=生き方の幅)を等しく保障することが重要であると説いて、福祉は、所得や富の量ではなく、ケイパビリティがどれだけ存在するかによって評価されるべきであると主張したインドの経済学者である。

問4 [17] ②

イギリスの植民地であったインドの独立運動を指導した**ガンディー**(1869~1948)は徹底した**非暴力**(アヒンサー)の立場をとり、その例外を認めていない。ガンディーは、非暴力主義を掲げ、相手の暴力に対しても非暴力・不服従によって抵抗し、相手の良心に訴えかけることを説いた。

①ドイツの哲学者カント(1724~1804)の**目的の王国**についての記述として正しい。カントは、すべての人間には、理性に基づいて自律的に生きる**人格**としてそれぞれ尊厳をもった存在なのだから、他者を単に手段としてのみならず、同時に目的としても取り扱うことを求めた。そして、自律的自由を有する人格として相互に尊重し合う社会を目的の王国と名づけ、それを理想とした。②フランスの哲学者サルトル(1905~80)は、「**実存は本質に先立つ**」と述べ、人間は、モノとは異なり、あらかじめその本質が規定される存在ではなく、たえず新たな自己を創造していく自由な存在であると捉えた。そして、自由な選択は他人に對してもなんらかの影響を与えることから、人間は自分の選び取った行動について、**人類全体**に対し、その責任を負わなければならないと説いた。③イギリスの哲学者ミル(1806~73)は、『**自由論**』において、個々人の多様な個性の自由な発展こそが社会の進歩をもたらすのであるから、**他者に危害を加えない限り、自由を規制すべきではない**(他者危害の原則)と説いた。

問5 [18] ①

「製造者に過失がない場合、損害賠償の責任を免除している」のではなく、製造者に過失がない場合でも、損害賠償の責任を負うというのが正しい。1994年に制定された**製造物責任法**は、製品の欠陥によって損害が発生した場合、製造者に**無過失責任**を負わせた。

②**刑事免責**、**民事免責**についての記述として正しい。**労働組合法**によれば、正当な争議行為について

は、威力業務妨害罪など刑事上の責任を問われない刑事免責と、損害賠償などの民事上の責任を問われない民事免責が認められている。⑨国会議員の免責特権についての記述として正しい。国会議員は、議院で行った演説・討論・表決について、院外で責任を問われない(名誉毀損罪などの刑事上の責任や、プライバシーの侵害による損害賠償などの民事上の責任を問われない)。ただし、議院の内部で、懲罰の対象となることがある。⑩行政権行使についての内閣の国会に対する連帯責任の一つの仕組みとしての内閣不信任決議に関する記述として正しい。日本国憲法は、「内閣は、衆議院で不信任の決議案を可決し、又は信任の決議案を否決したときは、10日以内に衆議院が解散されない限り、総辞職しなければならない」(第69条)と定めている。

問6 [19] ④

刑事事件の裁判は、窃盗や殺人などの犯罪の処罰に関する裁判であり、罪を犯したと思われる者(被疑者)を検察官が起訴することによって裁判が開始される。検察官は、被疑者を起訴するかどうかを自由に判断できるので、起訴すべき事件が不起訴となってしまうおそれもある。そこで、有権者(衆議院議員の選挙権を有する者)の中から無作為に選ばれた11名の審査員によって組織される検察審査会が、検察官の不起訴処分の当否を審査する制度が設けられている。

①「すべての刑事裁判の第一審」、「有権者の中から選ばれた裁判員が有罪か無罪かを決定し、裁判官が量刑を行う」という記述が誤り。裁判員裁判は、重大な刑事案件の第一審に限られるので「すべて」ではないし、また、裁判員と裁判官が合議を行い、有罪か無罪かを決め、有罪の場合の量刑を行うというものであり、裁判員のみで有罪・無罪の認定を行い、裁判官のみで量刑を行うものではない。②公聴会が開かれるのは「本会議」ではなく委員会である。両議院には各種の委員会(17の常任委員会といくつかの特別委員会)が設けられ、国会における実質的な審議は委員会で行われる(委員会中心主義)。そして、必要に応じて学識経験者(専門家や大学教員など)や利害関係人の意見を聴く公聴会が開催される。③「オンブズマン制度」をパブリックコメント制度に直せば、正しい記述となる。オンブズマン(行政監察官)とは、住民の訴えに基づいて行政運営を監視・調査し、問題がある場合には、是正勧告などをを行う機関を言う。19世紀初めにスウェーデンで創設された制度で、日本でも地方自治体の中にはこの制度を導入しているところもある。

問7 [20] ③

表現の自由などの精神的自由権が制約されると、自由な政治活動が阻害され、民主政治を維持することが困難となる。そのため、精神的自由権を制約する法律の憲法適合性の審査は厳格に行われなければならないとされている。

①の論理では、経済的自由権を制約する法律の方を、精神的自由権を制約する法律よりも、より厳格に審査すべきである、とする結論になってしまふ。この選択肢は憲法適合性の審査にまでは言及していないと考えたとしても、この記述内容は精神的自由権の審査が厳格でなければならないという理由とはならない。②日本国憲法では、憲法で保障されている経済的自由権である居住・移転及び職業選択の自由(第22条)と財産権(第29条)のいずれにも、公共の福祉による制約が規定されているが、精神的自由権(第19条の思想・良心の自由、第20条の信教の自由、第21条の表現の自由、第23条の学問の自由)には、公共の福祉による制約は明文では定められていない。③設問文で示されている説は、国会が経済的自由権や精神的自由権を制約する法律を制定することがある、ということを前提にしている。「経済的自由権も精神的自由権も制約することは許されない」とすれば、その前提そのものが成立なくなる。

問8 [21] ③

所得税には、課税所得が増えるにつれて税率が高くなる累進課税制度が採用されている。したがって、景気が拡大して所得が増えると平均税率(所得に占める所得額の割合)も上昇することになる。その結果、好況期には、所得の伸びよりも所得税の伸びが大きくなるので、家計の可処分所得(所得から直接税と社会保険料を差し引いた金額)はそれほど増えず、景気の過熱は自動的に抑制されることになる。このような財政制度自体に組み込まれた景気を自動的に安定化する仕組みのことを、ビルトイン・スタビライザー(景気の自動安定化装置)と言う。

①法人税は、「担税者と納税者が異なる間接税」ではなく担税者と納税者が同一の直接税である。②「消費税」には、累進課税制度は採用されていない。③相続税も酒税も「地方税」ではなく国税である。なお、相続税は直接税であり、酒税は間接税である。

#### 第4問 国際社会の課題

##### 【出題のねらい】

本問は、経済のグローバル化をテーマとする本文を

基に、国際社会の課題として、企業などの経済の分野、国連の役割や発展途上国の現状などの政治や社会の分野、さらには地球環境問題などの幅広い問題を取り上げ、その理解度を試した。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [22] ⑧

大企業だけでなく、中小企業の中にも海外進出を行い、国際的に事業展開している企業がある。中小企業の国際的な事業展開については、中小企業庁が最近の調査データを公表している。それによると、およそ154万社の法人企業のうち約1万社が海外に子会社、関連会社、事業所をもっている(2013年度「中小企業実態基本調査」)。また、政府も中小企業の海外事業展開を支援している。

①日本政府は、海外企業の国内進出を促す政策を推進している。したがって、「海外企業が日本企業を買収することを法律で禁止」というのはそれに逆行する政策ということになり、誤りである。また、海外企業の日本への進出は、新規に企業を設立した場合など国内の雇用機会を増加させる要因となるので、「国内の雇用機会の減少を防ぐため」という記述も誤り。②「国際業務を行う金融機関に対する国際的な規制が存在しない」という記述は誤り。例えば、国際決済銀行(BIS)は、国際業務を行う銀行に対して、自己資本比率が8%以上となることを求めている。また、「グローバル化の進展が著しく遅れている」という記述も誤り。国際的な金融取引については、1980年代頃から自由化が著しく進展し、取引はよりグローバルになり取引額も増大した。④文化や芸術活動に対して企業が行う支援は、メセナと呼ばれる。コンプライアンスは法令遵守のことであり、社会的存在である企業にとって、法律を守ったり、納税をしたり、あるいは企業倫理を守ったりすることは当然の責務であることを意味している。

##### 問2 [23] ④

グローバル化の進展によって、企業は様々な国で事業活動を展開するようになった。その際に、国によって商慣行や製品規格、法制度などが異なっていると、企業にとってはその国の基準に合わせるためにコストが高くなる。したがって、世界的に広く使われている基準があれば、それに合わせることで事業活動はやりやすくなる。こうしてグローバルスタンダードが国境を越えて用いられるようになっていく。

①中国は、国内総生産(GDP)の額では83,584億ドルで、アメリカの162,446億ドルに次いで世界第2位の規模であるが、人口が多いため一人あたりの

国内総生産では、世界で第88位である(2012年)。②東日本大震災が起こった2011年以降の日本の貿易収支は、赤字が続いている。したがって、「貿易黒字が拡大」という記述は誤り。③深刻な国際金融危機の発生を受けて、主要先進国からなるG7に新興国などを加えて世界経済の安定と成長のために協議をすることが1999年のケルン・サミットで合意された。こうして、G7に加えて、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、韓国、メキシコ、ロシア、南アフリカ、サウジアラビア、トルコ、およびEU(欧州連合)をメンバーとするG20(20か国・地域財務大臣・中央銀行総裁会議)が創設された。その後、2008年からはG20サミット(20か国・地域首脳会合)も開催されている。したがって、G20は先進国に対抗して新興国や発展途上国が組織したものではない。

##### 問3 [24] ③

モントリオール議定書は、正式には「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」と言い、1987年に採択された。その後、オゾン層破壊物質の規制強化が締結国によって図られ、1996年以降の特定フロンの新たな使用・製造の禁止が定められた。

①『成長の限界』は、カーソン(1907~64)の著作ではないし、地球温暖化に警鐘を鳴らしたものでもない。カーソンは、1962年に『沈黙の春』を著し、農薬による環境汚染について警告を発した。『成長の限界』は、ローマクラブが1972年に発表した報告書で、人口増加と経済成長がこのまま続ければ、環境悪化と資源の枯渇により、人類の成長が限界に達すると警鐘を鳴らしたものである。②ラムサール条約は、1971年にイランのラムサールで採択された条約で、水鳥の重要な生息地である湿地を守ることを目的としている。絶滅のおそれのある野生動植物の保護のために国際取引を規制している条約は、1973年に採択されたワシントン条約である。④「かけがえのない地球」は持続可能な開発の誤り。国連環境開発会議は、1992年にリオデジャネイロで開催され、地球サミットとも呼ばれている。この会議では、「持続可能な開発」を理念とするリオ宣言と、その行動計画であるアジェンダ21が採択され、気候変動枠組み条約、生物多様性条約の署名が始まった。「かけがえのない地球」は、1972年にストックホルムで開催された国連人間環境会議でのスローガンである。

##### 問4 [25] ③

A: スーダンでは、独立前の1955年から北部のア

ラブ系(イスラム教)と南部のアフリカ系(キリスト教、土着信仰など)との間で内戦が勃発していた。70年代に内戦は一旦終結したが1983年から再び内戦が始まり、民族紛争が絶えなかった。2011年には南部が南スудانとして独立し、同年国連に加盟したが、南北間の国境地域の油田をめぐって現在も対立が続いている。したがって、イが該当する。

B：イランが核兵器開発につながるおそれのあるウラン濃縮を行っていることに關し、国連安全保障理事会はその停止を求めてイランに対する経済制裁を決議した。したがって、アが該当する。

C：ルワンダでは、1962年の独立以前から全人口の約85%を占めるフツ族と約14%のツチ族との間で対立がみられたが、独立後はフツ族が政権を掌握してツチ族に対する迫害が始まった。1990年にはツチ族主体のルワンダ愛国戦線とフツ族政府との間で内戦が勃発し、1994年にはフツ族過激派がツチ族およびツチ族稳健派を虐殺する事態になった(ルワンダ虐殺)。したがって、ウが該当する。

以上のことから、最も適當な組合せは③となる。

問5 [26] ④

国際復興開発銀行(IBRD)は、1944年に締結されたブレトンウッズ協定に基づいて、翌45年に設立された機関である。それに対し、国連ミレニアム宣言は、2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択されたもので、IBRDの設立とは関連がない。IBRDは、戦災からの復興と発展途上国の開発を進めるために必要な長期資金の供給を目的として設立され、国際通貨基金(IMF)と関税及び貿易に関する一般協定(GATT)とともに第二次世界大戦後の資本主義世界の発展に重要な役割を果たした機関である。一方、国連ミレニアム宣言は、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッドガバナンス(良い統治)、アフリカの特別なニーズなどを国際社会の課題として掲げたもので、この宣言などを基に、ミレニアム開発目標が設定され、極度の貧困と飢餓の撲滅、普遍的な初等教育の達成、ジェンダー平等の推進と女性の地位向上、乳幼児死亡率の削減などが目指されている。

①開発援助委員会(DAC)は、1961年の経済協力開発機構(OECD)発足に伴い、傘下の委員会の一つとして設立された。対途上国援助の量的拡大とその効率化を図ることなどを目的としている。現メンバーは34か国のOECD加盟国中の28か国及び欧州連合(EU)からなっている。②国連開発計画(UNDP)は、1966年に発足し、貧困の解消、民主的統治の確立、環境・エネルギー問題の解決、自然災

害の予防と復興、エイズ対策などに取り組んでいる。1994年の『人間開発報告書』において、飢餓・疾病・抑圧などの恒常的な脅威からの安全の確保と、日常の生活から突然断絶されることからの保護を含む概念として「人間の安全保障」を提示した。③国連貿易開発会議(UNCTAD)は、南北問題を討議する国連の機関として1964年に創設された。

## 第5問 技術の進展と社会の変化

### 【出題のねらい】

本問では、技術の進展と産業社会の変化をテーマとする本文を題材として、公害問題、消費者問題などについて標準的な知識や理解を試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 [27] ②

ケインズ(1883~1946)は、『雇用・利子及び貨幣の一般理論』などを著し、伝統的な自由放任主義の政策を批判したイギリスの経済学者である。彼は、不況と失業問題の原因は消費や投資などの社会全体の有効需要(購買力を伴った需要)の不足にあると指摘し、不況を脱出して非自発的失業のない完全雇用を実現するためには、政府が公共投資によって有効需要を創出しなければならないと論じた。

①「計画経済」は、資本主義経済ではなく社会主義経済の特徴である。社会主義経済では、工場や機械設備などの生産手段は社会全体の共有物とされ(生産手段の社会的所有)，商品の生産や流通は政府の計画に基づいて運営される(計画経済)。②アメリカ大統領ローズベルト(在任1933~45)が実施したニューディール政策は、公共事業や産業の統制など、経済に対する政府の積極的介入を特徴としている。したがって、「小さな政府」や「大胆な規制緩和」という記述は誤り。なお、市場メカニズムを信頼して政府の経済活動を最小限のものにとどめようとする「小さな政府」の考えは、古典的にはアダム・スミス(1723~90)にみられるが、1970年代以降、ケインズ主義的な「大きな政府」を批判し、小さな政府を唱える新自由主義の主張が勢いを増してきた。③社会主義経済と資本主義経済を併存させる「一国二制度」は、香港やマカオの返還にあたって中国で導入されたものである。ロシアは冷戦崩壊後に市場経済に移行し、現在は資本主義経済を採用している。

問2 [28] ③

A：正しい。インドとバングラデシュは、2006年から2012年にかけて、各年の指数が前年を上回って

いることから、各年とも前年より鉱工業生産が増加していることが分かる(2006年も、2005年を100としているので、前年を上回っている)。その他の国は、前年を下回っている年がある。日本は2008年、2009年、2011年、アメリカは2008年と2009年、マレーシアは2009年が、それぞれ前年を下回る指數となっており、鉱工業生産の水準が前年に比べて低下していることが分かる。

B：誤り。日本は2006年の104.4に対し、2012年は92.0で、鉱工業生産の水準が低下している。したがって、「5か国すべてにおいて…大きくなっている」という記述は誤り。

C：誤り。アメリカは、2008年と2009年がその前の年を下回っている。したがって、「前年を下回った年が1年しかない」という記述は誤り。

以上のことから、最も適当な組合せは④となる。

#### 問3 [29] ④

2000年に制定された金融商品販売法についての正しい記述である。この法律では、株式や投資信託などの金融商品を販売する業者に対して、元本割れリスクなどの重要事項の説明義務を課している。業者が説明義務に違反して顧客の商品が元本割れを起こした場合には、業者にはその損害を賠償する責任も課されている。

①消費者保護基本法(現：消費者基本法)が制定されたのは1968年であり、高度経済成長期(1955年ごろから73年ごろまで)の出来事であるが、消費者庁の設置は2009年のことなので、「高度経済成長期には、消費者保護基本法に基づいて…消費者庁が設けられた」という記述は誤り。消費者庁は、内閣府の外局として設置された機関であり、消費者行政の司令塔として、国民生活センターや地方自治体などと連携して、消費者事故などに関する情報の集約・分析・発信や、各省庁への措置要求などを行っている。②「違約金を支払えばいつでも」という箇所が誤り。クーリング・オフ制度は、一定期間内であれば違約金なしで契約を解除できるというものであり、割賦販売法や特定商取引法などで導入されている。③消費者金融の金利に関しては、法律で上限金利が定められている。したがって、「規制が撤廃された」という記述は誤りである。

#### 問4 [30] ①

公害を防止するため、工場の排煙や廃液などに含まれる有害物質については規制が敷かれている。規制の手法には、それぞれの企業に対して一定濃度以上の有害物質を排出させない濃度規制と、一定の地域全体での排出の総量を規制する総量規制とがあ

る。1970年代の大気汚染防止法や水質汚濁防止法の改正によって、濃度規制に加えて総量規制も導入できようになっている。

②「原告の被害者側は敗訴した」という記述は誤りである。四日市ぜんそくは、熊本水俣病、イタイイタイ病、新潟水俣病となるべ四大公害の一つである。石油化学コンビナートから排出された亜硫酸ガスのために住民がぜんそくになったとして、コンビナートを構成していた複数の企業の責任が追及され、1972年7月、原告は裁判で全面勝訴した。③汚染者負担の原則(PPP)は、公害の防除や患者の救済にかかる費用は公害発生源である企業に負担させるべきであるという原則である。したがって、「公害防除費用を全額公費でまかなう」という記述は誤りである。汚染者負担の原則は、1972年に経済協力開発機構(OECD)が勧告したもので、日本では1973年制定の公害健康被害補償法などで採り入れられている。④「…法律は制定されていない」という箇所が誤りである。石綿(アスベスト)は、耐熱性などに優れているとして建材に広く使われてきた物質であるが、中皮腫や肺がんなどの健康被害をもたらすことが明らかになっている。建設現場などで作業中に石綿を吸い込んだ労働者の場合、業務上の災害と認定されれば労働者災害補償保険(労災保険)に基づく給付が受けられるが、家族や周辺住民など、労災補償の対象とならない人々も多く、これらの人々に対して迅速に救済給付を行うため、2006年に石綿健康被害救済法が制定された。

#### 問5 [31] ②

iPS細胞(人工多能性幹細胞)は、あらゆる組織や臓器の細胞に分化する能力と無限に増殖する能力とをもつ細胞であり、再生医療や創薬への応用が期待されている。類似のものとしてES細胞(胚性幹細胞)があるが、ES細胞が生命の萌芽である受精卵を壊して作られるのに対して、iPS細胞は皮膚などの体細胞を基に作られる。したがって、「受精卵を壊さなければならない」という記述は誤りである。

残りの選択肢の記述はすべて適当である。パソコンやスマートフォンの普及を背景として、①スマートフォンへの中毒的な依存や、②違法コピーの問題が指摘されている。また、④病害虫への耐性や除草剤への耐性をもたせるなど、遺伝子組み換え技術を用いた農作物はすでに商品化されており、日本にも輸入されている。このように、農作物に遺伝子組み換え技術を応用することについては、農業の生産性の向上や食料増産という観点に立った賛成意見もあるが、生態系や健康への悪影響を懸念する声も少な

くない。なお、遺伝子組み換え生物の国境を越える移動については、その手続を定めたカルタヘナ議定書が2000年に採択されていることも押さえておこう。

## 第6問 近代国家と議会制民主主義

### 【出題のねらい】

本問は、社会における利害対立を調整する働きのある議会制度を、多数決という視点から取り上げた本文を題材にして、国家とその意思決定をめぐる様々な問題を取り上げ、その理解度を試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

#### 問1 [32] ④

国家のほとんどが单一民族国家であるという趣旨の記述は誤り。国家は、基本的に複数の民族によって構成されている。そうしたこともあり、国内に民族問題を抱えている国は少なくない。

①国際司法裁判所は、紛争当事国の同意に基づいて、国家間の紛争を裁判することができる。②宗教改革に端を発した三十年戦争(1618~48)の処理のためウェストファリア条約が結ばれ(1648年)、各国の主権が相互に確認されたことにより、**主権国家**を基本的な構成単位とする**国際社会**が始まったとされる。③国家は、基線から12海里(約22km)以内の**領海**における主権を有するとともに、領海の外側にあり基線から200海里(約370km)以内に設定できる**排他的経済水域**においては、生物資源や鉱物資源の探査・開発・保存・管理に関する排他的な権利を有する。

#### 問2 [33] ①

A：イギリスでは、**非民選**の議員で構成される上院(貴族院)と、**民選**の議員で構成される下院(庶民院)による二院制が採用され、1911年の議会法により**下院優越の原則**が定められている。したがって、Aが該当する。

B：アメリカの連邦議会は、上院(元老院)と下院(代議院)からなる。そのいずれも有権者による直接選挙によって選出される。したがって、Bが該当する。

C：中国では、憲法上、一院制の**全国人民代表大会(全人代)**を「国家の最高権力機関」とする**民主集中制(民主的権力集中制)**が採用されている。したがって、Cが該当する。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。

#### 問3 [34] ③

参議院議員選挙の仕組みとして正しい記述であ

る。参議院議員の定数は242名で、そのうち146名が選挙区選出議員、96名が比例代表選出議員である。選挙区選挙では、都道府県ごとに2~10名の定数が割り振られ、3年ごとにその半数が改選されることになっている。比例代表選挙も同様に、3年ごとに半数ずつ改選される。参議院の比例代表選挙には、**非拘束名簿式**が採用されている。衆議院の比例代表選挙で採用されている拘束名簿式では、有権者は政党名を記入して投票し、当選者は政党が提出する候補者名簿に記載されている順位に従って決まるのに対し、参議院の選挙で採用されている非拘束名簿式は、有権者は政党名を名簿登載者名(個人名)を記入して投票し、政党が提出する候補者名簿には順位が付けられておらず、個人名での得票数の多い順に当選者が決まる。

①「当選が無効になることはない」という記述が誤り。公職選挙法により、選挙運動責任者や候補者の秘書、親族などの連座制対象者が選挙違反で有罪の刑が確定し、連座制が適用されると、候補者はその当選が無効になるとともに、同一選挙区からの立候補が5年間禁止される。②公職選挙法は、投票所に行かず、自宅からインターネットを利用して投票することを認めていない。なお、2002年2月施行の電子投票法により、地方選挙においては**電子投票**が可能になっている。ただしこれは、投票所の投票機を用いてタッチパネル方式で入力する方法であり、自宅からインターネットを用いて行う方法ではない。③公職選挙法は、何人も選挙に関し、投票を得る目的で**戸別訪問**を行うことができないとしている。

#### 問4 [35] ④

法律案の国会への提出は、議員だけでなく内閣にも認められている。

①「出席議員」は総議員の誤り。憲法、国民投票法、国会法によれば、憲法改正の手続は次の通りである。憲法改正原案は、衆議院議員あるいは参議院議員が国会に提出する。その原案について衆参各院において、憲法審査会による審査及び議院における審議を経て、**総議員の3分の2以上の賛成**が得られると、国会がその改正の発議をし、国民に提案した案が、**国民投票**にかけられる。国民投票において有効投票総数の過半数の賛成が得られると憲法の改正が成立する。②内閣には法律案の拒否権はない。③「禁止されている」という記述は誤り。政党が所属議員に対して、議決や発言内容などについて党の決定に従うよう求めることを**党議拘束**と言うが、日本では党議拘束がかかることが多い。これに反する行

動をとった場合には政党から除名などの処分を受ける場合もある。

問5 [36] ⑧

日本の年金の財源調達方式は、主として**賦課方式**が採用されている。賦課方式は、年金給付にかかる費用を現役世代の保険料と公費でまかうというものなので、急速に少子高齢化が進んでいる日本では、現役世代の社会保障負担や租税負担が増すと考えられている。

①**財政投融資制度**は2001年度に大幅な見直しが行われたが、制度自体は廃止されていない。現在の財政投融資制度は、政府が発行する財投債を主たる原資として、特殊法人や地方公共団体に投融資を行うというものである。②国の**プライマリーバランス**(基礎的財政収支)は赤字であり、また、国債残高も

増加している。プライマリーバランスとは、国の財政の健全度を示す指標であり、国債発行による収入を除く歳入から国債の元利払い費を除く歳出を差し引くことで求められる。2013年度(当初予算)は23.2兆円ほどの赤字、2014年度(当初予算)は18.0兆円ほどの赤字であり、やや改善はしているが、近年は赤字が続いている、「黒字に転換し」たという事実はない。また、国債残高(普通国債残高)は、2013年度末では約751兆円で増加の一途をたどっている。④日本の一般会計予算は、2014年度の当初予算でみると95.9兆円ほどであり、日本の国内総生産(GDP)、は2012年度の名目値でみると472.6兆円ほどである。したがって、一般会計予算の規模が、GDPの「50%」を超えているという記述は誤り。

# 倫 理

## 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	5	3		
	問2	2	8	3		
	問3	3	1	3		
	問4	4	2	2		
	問5	5	1	3		
	問6	6	4	3		
	問7	7	1	3		
	問8	8	1	3		
	問9	9	1	2		
	問10	10	2	3		
第1問 自己採点小計				(28)		
第2問	問1	11	1	3		
	問2	12	3	3		
	問3	13	3	3		
	問4	14	2	2		
	問5	15	3	3		
	問6	16	3	2		
	問7	17	4	3		
	問8	18	4	2		
	問9	19	1	3		
	第2問 自己採点小計				(24)	
第3問	問1	20	3	2		
	問2	21	2	2		
	問3	22	1	3		
	問4	23	4	2		
	問5	24	6	3		
	問6	25	4	3		
	問7	26	5	3		
	問8	27	1	3		
	問9	28	2	3		
	第3問 自己採点小計				(24)	

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第4問	問1	29	1	2		
	問2	30	1	3		
	問3	31	3	3		
	問4	32	4	2		
	問5	33	2	3		
	問6	34	7	3		
	問7	35	4	2		
	問8	36	2	3		
	問9	37	3	3		
第4問 自己採点小計					(24)	
自己採点合計					(100)	

## 【解説】

### 第1問 環境と生命をめぐる諸問題

#### 【出題のねらい】

本問は、環境倫理・生命倫理・医療倫理を中心に、発達課題や女性論に関する問い合わせを設け、これらについての知識と理解を試すことをねらいとしている。あわせて、センター試験で出題される図表問題と資料文読解問題の実践力を試そうとするものである。

#### 【設問別解説】

##### 問1 1 ⑥

心理学者のエリクソン(1902~94)は、人生を、乳児期・幼児期・遊戯期・学童期・青年期・成人初期・成人期・円熟期の各段階に区分し、それぞれの段階の心理・社会的危機(発達危機)について考察した。

彼によれば、青年期の主要な対人関係の範囲は、イ「リーダーシップのモデルになる人々」であるとし、成人初期のそれは、ウ「友愛・競争・協同などでの相手」だとしている。これに対し、ア「近隣・学校における仲間集団」が主要な対人関係の範囲だとされるのは、学童期である。したがって、aにはイが、bにはウが、それぞれ入る。

そして、成人期に直面する発達危機として、オの「生産性の感覚と停滞の感覚との間」の危機を、円熟期の発達危機として、カの「自己完成の感覚と絶望や嫌悪の感覚との間」の危機をあげている。これに対し、エの「基本的信頼感覚と不信の感覚との間」の危機に直面するのは、乳児期だとしている。

倫  
理

したがって、**c**には才が、**d**には力が、それぞれ入る。

以上のことから、正解は⑥となる。

問2 **2** ⑧

アトイは誤文。アの後半にある「元始、女性は実は太陽であった」と述べたのは平塚らいてう(1886~1971)であり、イの後半にある「人は女に生まれない、女になるのだ」と述べたのはボーウォール(1908~86)である。すなわち、アトイの前半部分と後半部分を入れ替えれば、ともに正文となる。

ウも誤文。功利主義の哲学者として知られるミル(1806~73)は、民主的な社会改良を説き、その一環として女性選挙権の実現に尽力したので、これに「反対した」とするのは誤り。

以上のことから、正解は⑧となる。

問3 **3** ①

クローン技術は現在、様々な応用されているが、これを人間に応用することについては倫理的・技術的にも様々な問題が指摘されており、日本ではヒトクローン技術規制法(2000年制定)によってヒトクローン(クローン人間)の作成は禁止されている。同様の規制は、諸外国でも実施されている。

②ES細胞(胚性幹細胞)は受精卵を破壊して作製されるので、これを「破壊することがないため」とする記述は不適当。ES細胞は、病気や事故等で失われた細胞を補填し組織を修復する再生医療への応用が期待されているものの、人になる可能性のある受精卵を用いて作製されることから倫理的問題を指摘する声がある。なお、同じように再生医療への応用が期待されているiPS細胞(人工多能性幹細胞)は、受精卵を破壊することなく体細胞から作られるという特徴がある。④遺伝子組換え技術を用いた食用農作物は、日本では禁止されておらず、実際に流通している。したがって、これが「法律で禁止されている」とする記述は不適当。⑤ヒトゲノムの解読は、すでに日本を含む複数国との協力のもとで進められ、2003年にはその解読完了宣言が出されている。したがって、これが「まだ着手されていない」とする記述は不適当。

問4 **4** ⑧

ベーコン(1561~1626)が説いた「洞窟のイドラー」は、好き嫌いや思い込みなど個人的資質に根ざした先入見のことである。「個々の事物を超えた普遍的な本質を想定することから生じる」ものではない。

残る選択肢は、いずれも適当である。ベーコンがその排除を主張した四つのイドラーの特徴について、確認しておこう。

問5 **5** ①

それぞれの図と選択肢とを見比べれば、特定の知識がなくても正解できる設問である。「40歳以上」のところを見ると、三つの図のいずれにおいても、「男性」よりも「女性」が高得点となっている。

②「低い」ではなく高いが正しい。「女性」について見ると、三つの分野のいずれについても、「40歳未満」よりも「40歳以上」のほうが高得点となっている。③「電気工学」と「ロボット工学」については、当てはまらない。「40歳未満」の場合、この二つの分野については「女性」の方が高得点である。④「高い」ではなく低いが正しい。「男性」について見ると、三つの分野のいずれについても、「40歳未満」よりも「40歳以上」の方が低得点となっている。

問6 **6** ④

A:「種差別」とは、人間は動物より優位にあるとして人間が動物を支配することを正当化する考え方で、これに対する批判が、「動物の権利」を唱える倫理学者のシンガー(1946~)らによって主張された。ウは「動物も人間と同様」なのに「人間の利益」が優先されることを批判している例なので、これがAの例に当てはまる。

B:「自然の生存権」は、近年の環境倫理において注目されているもので、人間のみならず動植物にも生存の権利を認めるべきだとする考え方。アは「ある動物種」が生存の権利を確保するための「開発差止め訴訟」を主張しているのだから、これがBの例に当てはまる。

C:「世代間倫理」とは、現在世代は将来世代に対する責任を負っているのだとする考え方である。イは「未来の人間への責務」を現在の人間は負っているのだとする内容なので、これがCの例に当てはまる。

以上のことから、正解は④となる。

問7 **7** ①

資料文は、科学哲学者のP.K.ファイヤアーベント(1924~94)によるもので、村上陽一郎・村上公子共訳『自由人のための知~科学論の解体』(新曜社、1982年刊)から引用した。ファイヤアーベントについての特段の知識は不要である。

資料文の冒頭では「科学的方法がすばらしい質のものである」というのは「ただそのように思い込まれている」にすぎないことが述べられ、それを受け「科学的思考法……以外のやり方をまったく想像することもできない」のだと述べられている。①の記述が、この趣旨に合致しているので正解。

②資料文では「科学的思考法……以外のやり方をまったく想像することもできない」と述べているのだから、「宗教的思考方法」をも使っているとする内容の記述は不適当。③④資料文の最後の一文には、「かつて神学に関する論争のおはこであった議論やあてこすりの方法は今日そのまま科学に移植されている」とある。すなわち、かつての神学の方法は今日の科学の方法と同じだとしているのであるから、③の「科学と神学とでは……大きな違いがある」という記述や、④「かつての教会に見られた……思い上がりを科学は克服している」という記述はともに不適当。

問8 [8] ①

日本の法律では、乳幼児もドナー(臓器提供者)となることは可能なので、これを「なることはできない」としている記述は不適当。かつて臓器移植法(1997年制定)では、15歳未満の者の脳死体から移植のために臓器を摘出することは認められていなかった。しかし、同法が改正され(2009年)、この年齢制限は撤廃された。改正前の臓器移植法では、本人の書面による同意が摘出の絶対条件であったが、改正後は、本人の意思が不明な場合でも、家族の書面による同意があれば摘出が可能となった。乳幼児の場合には本人の意思は不明であるだろうが、その場合でも、家族の同意によって摘出できるわけである。

残る選択肢は、いずれも適当である。倫理的な議論となっている点を確認しておこう。なお、④の「患者の自己決定を重んじるべきだとする主張」の典型が、インフォームド・コンセント(医師が患者に十分に情報を与えた上で患者本人の同意や決定に基づいて治療を進めていくこと)である。

問9 [9] ①

シェヴァイツァー(1875~1965)は、アフリカでの医療奉仕とキリスト教布教に努めたことで知られる人物。彼は、あらゆる生命を畏れ敬うこと、すなわち生命への畏敬こそがあらゆる倫理の根本になければならないと說いた。

②ハーディン(1915~2003)は、環境問題において、各人の経済的利益の追求がやがて全員にとって大きな損失になり得ることを、「共有地の悲劇」と言われるモデルによって説明した生物学者。これは、共有の牧草地で放牧している人が自己の利益のために放牧数をどんどん増やしていくと、最終的には牧草が不足しすべての家畜が死んでしまう、という例示によって、各人の自由経済活動に再考を促すきっかけとなったモデルである。③ポールディング(1910~93)は、「宇宙船地球号」という言葉で地球

環境や資源の有限性に注意を喚起した経済学者。④マザー・テレサ(1910~97)は、インドにおいて貧者などへの献身的な奉仕に尽くしたことで知られるカトリックの修道女。⑤レオポルド(1887~1948)は、人間と自然との関係は生態学的に平等であるとする倫理(土地倫理)を唱えた生態学者。問6で扱った「自然の生存権」という考えに大きな影響を与えた。

問10 [10] ②

本文の会話のなかで、Cは科学のあり方について「それを使う人間の側にかかっている」としているのに対して、Fは「例えば、生命工学だと医療技術への応用が目指されている」として、「もっと広く、科学を規定する社会のあり方も考えないといけない」と述べている。このように②は、Cの発言内容ともFの発言内容とも合致している。

①本文の会話のなかで、Fは「科学万能主義も科学全否定も極論だとは思う」と述べており、科学を全否定する立場を探っていない。また、CもFを「反科学主義」と決めつけているわけではない。③本文の会話のなかで、Fは、「人間を離れた『科学そのもの』があるわけではない」としている。しかし、この選択肢では「お父さんのFは、科学が人間を離れた活動だと」述べているとしており、この点で本文の内容と合致していない。④本文の会話のなかで、Cは、「科学そのものが善になるのか悪になるのかは、それを使う人間の側にかかっている」と述べているのであって、この選択肢で述べられているような「科学というものは人間に対して様々な恩恵を与えてきた善なるものだということを前提に議論を開いてはいないので、この点で本文の内容と合致していない。

## 第2問 源流思想総合

### 【出題のねらい】

本問は、他者の尊重や自己の人格形成の重要性について、先哲の思想を踏まえて言及した文章を掲げつつ、古代ギリシア哲学・宗教・中国思想に関する知識の習得度を幅広く試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 [11] ①

ユダヤ教は、ユダヤ人の民族宗教である。ユダヤ教では、唯一神ヤハウェからの救済にあずかるために、ヤハウェがユダヤ人に授けた律法に従うことが重視される。そのため、ユダヤ人が自らの国を失い、苦難に立たされると、律法を厳格に遵守することによってのみ、神から救われるという考え方方が広まり、律法が絶対視されるようになっていった(律

**法主義**)。律法主義は、律法を形式的に遵守していればよいという風潮さえ生み出していったが、こうした律法主義を批判したのがイエス(前4?~29?)である。イエスは、律法を守ることは大切であるとしたうえで、それを形式的に守るのではなく、律法に込められている精神、言い換れば神の愛を知り、これを完成させることが重要であると説いた。イエスは、神からの愛は、すべての人に対して無償で向けられる愛(アガペー)であり、人はその愛に応えて神を感じ愛すべきであると述べた。さらには、すべての人を分け隔てなく愛すること(隣人愛)が必要であるとも主張した。

②ユダヤ教は、唯一神ヤハウェが世界を創造したと捉えるので、「ユダヤ教が、世界は……破壊神などの神々によって秩序づけられている」という記述は誤り。③ユダヤ教では、ユダヤ人を苦境から解放する救世主(メシア)があらわれ、神の国が実現されることを待望する。一方イエスは、「神の国は、あなたがたの心のただなかにある」と述べ、神の国とは地上において実現するユダヤ人の栄光の国ではなく、人間が自分本位の考えを改めることで、人間の内面に実現するものであるとした。神の国の中の捉え方は、このようにユダヤ教とイエスとで異なってはいるが、イエスが「救世主の存在そのものを否定」したわけではない。④イエスの死後成立したキリスト教では、ヤハウェとユダヤ人との律法を内容とした契約を「旧約」と呼び、イエスを救世主(キリスト)とする新たな教えを「新約」と呼ぶ。①の解説で述べたように、イエスはヤハウェから授けられた律法の精神を重視しており、「旧約聖書を全面的に否定」したわけではない。

#### 問2 [12] ③

a : 「一切の苦しみから解放」された境地とあることから「涅槃寂靜」が入る。仏教の開祖ゴータマ・ブッダ(前463?~前383?)は存在を相互依存・相互関係的なものとして捉えた。このように、存在を「縁あって起こる」と捉える彼の考え方を「縁起」と呼ぶ。そして彼は、縁起を忘れ、自分一人で生きられるかのように誤解することが、様々な迷いとしての煩惱の基底にあるとした。だからこそ、煩惱を滅却し、縁起について正しく理解することで、悟りの境地に至ることができると主張した。彼はこの境地を涅槃寂靜と呼び、理想の境地と位置づけた。なお、諸法無我とは、それ自体で単独で存在するものはないというブッダの教えを示す言葉である。また、梵我一如は、バラモン教のウパニシャッド哲学において説かれるもので、宇宙の根源である

ブラフマン(梵)と、自己の永遠不変の実体であるアートマン(我)が本来一体であることを悟れば、生まれ変わりを繰り返す輪廻の苦しみから解放される(解脱)，ということを示す言葉である。

b : 「『空』の思想」を説いたとあるから「ナーガールジュナ」が入る。ブッダの死後、仏教は様々な部派に分裂した。その後、生きとし生けるもの一切が、ブッダとなる可能性があることを強調する大乗佛教が生まれた。この大乗佛教の思想は、ナーガールジュナ(竜樹, 150?~250?)によって確立したとも言われる。彼は、縁起の思想を発展させて、すべての事物は、固定した不变の実体をもたない(無自性)という、空の思想を説いた。なお、アサンガ(無著, 310?~390?)やヴァスバンドウ(世親, 320?~400?)も大乗佛教の理論家だが、彼らは、すべての事柄は、心によって生み出された表象にすぎないという唯識の思想を説いた人物である。

#### 問3 [13] ③

朱子(1130~1200)は、万物に内在する宇宙の根本原理である理と、物質的な氣によって、世界を捉えた(理氣二元論)。そして、理は人間にも内在しており(性即理), 理を把握するためには、私欲を抑制して(居敬), 理を探求すること(窮理)が必要であると主張した。

①「厳しい法律や刑罰により政治の安定を図る」という考え方方は韓非子(?)~前233?)の思想である。孔子(前551?~前479)は、為政者は徳を身につけた君子となることを目指して自らを修め、その為政者の徳の感化によって民衆を支配すること(修己治人)を理想とする、徳治主義の立場に立った。②孟子(前370?~前290?)によれば、人には徳の端緒である四端(他人の不幸を見過ごせない惻隱の心、自分の悪を恥じる羞惡の心、互いに譲り合う辞讓の心、善惡を判断する是非の心)が、生まれつきそなわっている。そして、四端を正しく育てることにより、仁・義・礼・智の四徳が身につくとした。さらに、四徳が心身に充実してくると、人生のいかなる局面においても動じない、浩然の氣があらわれてくると主張した。したがって、浩然の氣を「生来そなわる」としている点で誤っており、「惻隱の心」の定義も誤っている。④「良知がそなわっているわけではない」というのは誤り。王陽明(1472~1528)は、人には物事の正しい判断能力である良知が、生まれつきそなわっていると考え、良知を十分に働かせて生きること(致良知)を理想とした。

#### 問4 [14] ②

アリストテレス(前384~前322)は、事物の成り立

ちを、事物の本質でありその事物に内在する形相(エイドス)と、事物の素材である質料(ヒュレー)によって捉えようとした。すなわち、質料に内在する形相が、次第に自らを実現していくことによって事物は成り立つと考えた。

①プラトンについての記述である。プラトン(前427～前347)は、理想的な国家を実現させるためには、哲学者が政治を担うか、政治を担う者が知恵を身につけ哲学者となること(哲人政治)が必要だとした。これに対して、アリストテレスは、多数の中産市民によって担われる共和制の政治を理想とした。②アリストテレスは、徳を、思考に関する知性的徳と、行為に関する習性的徳(倫理的徳)に分けて捉えた。知性的徳は、理性を働かせ真理を探求する生活である観想的生活を送れば、身につけることができる。一方、習性的徳は、正しい行為を積み重ねること(習慣化)によって身につけることができる。したがって、観想的生活を送れば習性的徳が「おのずから身につく」わけではないので、この選択肢は誤り。③調整的正義と配分的正義の説明が逆である。アリストテレスは、釣り合いのとれた平等な状態の実現である正義について、名誉や報酬などを各人の働きに応じて与える配分的正義と、裁判などにおいて各人を公平に扱う調整的正義とに分けて捉えた。

#### 問5 [15] ③

ア：正文。プラトンは、眞の実在であり個々の事物を成り立たせているイデアは、理性でのみ捉えることができるのであって、感覚で捉えることはできないと主張した。

イ：誤文。デモクリトス(前460?～前370?)は、万物の根源であるアルケーを探求した自然哲学者の一人とされる。彼はアルkeeを原子(アトム)と考え、万物はアトムの離合集散により成り立つと考えた。

ウ：正文。ストア派は、ゼノン(前335?～前263?)を祖とするヘレニズム期の代表的な思想潮流の一つである。ストア派では、自然は理性(ロゴス)の支配する世界であり、人間も自然の一部として理性が与えられていると考える。そして、その理性に従って生き、欲望や情念に動かされることのない境地(アパティア)に至ることで、人間は幸福を実現できるとした。

以上により、正解は③である。

#### 問6 [16] ⑧

快樂を「その強さや持続性などを基準に計算できる」という快樂計算の考え方とは、イギリス功利主義の思想家ベンサム(1748～1832)が唱えたものであ

る。エピクロス(前341?～前270?)は、快樂が善であり、快樂が幸福をもたらすとする快樂主義の立場に立ったが、眞の快樂は、刹那的な肉体的快樂ではなく、精神的な快樂であるとし、これによって得られる永続的な心の平安(アタラクシア)を理想とした。

①パウロ(?～60?)は、イエスを救世主と捉えるキリスト教を、ユダヤ人以外の異邦人にも伝道し、キリスト教が世界宗教へと発展するきっかけを作ったとも言われる人物である。彼は、人間というものは、根源的な罪を負っている存在であるとし、その罪が人間のなかに欲望を引き起こし、それを満たそうとすることによって人間は逆に滅びに近づいていくと考えた。それゆえ人間は、神から授けられた律法を忠実に守り正しく生きようとしても、それはかなはず、自分の罪深さをかえって自覚し、絶望することになる。このような罪深い人間は、ただ神の導きによってのみ、絶望から救われるとパウロは唱えた。②老子(生没年不詳)は、儒家の説く道徳を、作為的なものだとして退け、万物を生み出す原理としての道に従って生きていくべきだと説いた。すなわち、この世界は、万物が無から生まれやがて無に帰るということを繰り返しており、人はこの無為自然の道に身を委ねるべきであると老子は考えた。そして、虚飾や私欲を捨て去り(無欲恬淡)、他と争わない(柔弱兼下)生き方を理想とした。③ジャイナ教の開祖であるヴァルダマーナ(マハーヴィーラ、前549?～前477?)は、徹底した禁欲を主張し、断食などの苦行の実践と不殺生の戒めを説いた。

#### 問7 [17] ④

資料文は、『荀子(上)』(金谷治訳注、岩波文庫)からの引用である。資料文には、君子が「他人に辱しめられることを恥とはしない」「他人に信ぜられないことを恥とはしない」と記されている。また、「道徳に従って実践し正しくわが身を修め」ができるのが君子である、とも記されている。したがって、この趣旨に合致する④が正解となる。

①資料文によれば、君子は「わが身の修正でないことを恥とする」「わが身の信実でないことを恥とする」ので、君子が「自分を責めることをしない」と捉えているのは誤り。②資料文によれば、君子は「名誉にも誘われ」ないものなので、「君子は、何よりも名誉を重んじるものである」という記述は誤り。③資料文によれば、君子は「道徳を自ら実践すること……によって他人に必ず自分を尊敬させることはでき」ず、また「誠実さ…によって他人に必ず自分を信じさせることはできない」存在である。し

たがって、「他者から尊敬され信頼される者でなければ、君子と言うことはできない」という記述は誤り。

問8 [18] ④

イスラーム教において、信者のつとめとされるものが、**信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼**という五行である。そのうち巡礼とは、生涯に一度、聖地メッカを訪ることである。

①信仰告白とは、「アッラーをおいて神ではなく、ムハンマドは神の使徒である」と証言することである。イスラーム教は唯一神アッラーへの絶対的帰依を説く宗教であり、ムハンマドがアッラーから授かった教えがその中心となっている。イスラーム教では、キリスト教のような**神の子や救世主の存在を認めず**、ムハンマドはあくまで預言者、すなわち人間にすぎない。したがって、「ムハンマドの他に神の子はない」という記述が、イスラーム教の思想内容と矛盾する。②礼拝とは、一日に5度、聖地メッカの方角に向かって跪拜することである。イスラーム教は**偶像崇拜を固く禁じている**ので、「アッラーの像をつく」るという記述が、イスラーム教の思想内容と矛盾する。③喜捨とは、弱者を救済するため、信者が財力に応じて税を負担することである。④断食とはイスラーム暦9月(断食月)に、日の出から日没まで、水を含めた一切の飲食を断つことである。「昼夜を問わず一切の飲食を断つこと」ではない。

問9 [19] ①

本文の第4段落の「他者を思いやり配慮することが、自己の生き方を正しく導くうえでも不可欠である」という記述や「他者のためを思い、他者に喜びを与えるような実践を心がけるならば……かえって『自分らしく生きる』ことができるようになる」という記述に注目しよう。これらの主張に合致する①が正解となる。

②本文の第2段落で、**墨子**(前470?~前390?)が「自他を分け隔てなく愛する『兼愛』の大切さを説いた」ことが記されているので、「墨子のように、すべての他者を分け隔てなく尊重することは不可能である」と語る先哲もいる」という記述は誤り。また、本文の第4段落では、利己心だけではなく他者の尊重に基づく行動の重要性を指摘しているので、「ただひたすら自分自身が正しい生き方をしているかどうかを内省することに努めれば、道徳的に生き、実りある人生を送ることができる」という記述も誤り。③本文で言及している他者の尊重は、「自らの利益になる限りにおいてのみ、他者を尊重す

る」というような、自己の利益を実現するための手段ではない。④「自己の人格の向上を意識することはせず」という、自己の人格向上のための努力を否定する内容の記述は、先哲の教えから自らが正しく生きようと努力しているのかを、常に自己に問い続けることが大切である、とする本文の趣旨と矛盾している。

## 第3問 日本思想の特質

### 【出題のねらい】

本問のねらいは、日本思想について総合的な知識と理解の程度を試すことである。特に、空海(問2)、本居宣長(問6)、西田幾多郎および和辻哲郎(問8)については、キーワードを覚えているだけでは解答を絞り込みにくいように設問を工夫してある。本問を通じて、日本思想に関する理解度を各自で確認してほしい。

### 【設問別解説】

問1 [20] ③

a : 「祀られる神であると同時に祀る神」が入る。**天照大神**は、高天原の中心的な神として祀られる存在であるが、記紀(『古事記』と『日本書紀』)の神話では、他の何ものかを祀る存在としても描かれている。なお、天照大神は人間とは区別された存在であり①②にあるように「神であると同時に人間」としては描かれていない。

b : 「まれびと」(客人)が入る。**折口信夫**(1887~1953)は、共同体の外部から時を定めて来訪する客人が、日本人にとっての神の原像であるとした。②④**社稷**とは、古代中国で、天子や諸侯が祭った土地の神(社)と五穀の神(稷)のことである。日本の神々の原像とは言えないでの当てはまらない。なお、「民を貴しとなし、社稷これに次ぎ、君を軽しとなす」という言葉は、孟子の民本思想(民衆を尊重する政治思想)を示すものとして知られる。

問2 [21] ②

空海(774~835)は、**真言宗**の開祖。真言宗とは、空海が中国で学んだ**密教**をベースに体系化した日本における仏教の一宗派である。空海の教えは、衆生救済を旨とする大乗仏教の理想を現実化しようとする精神にあふれたものであり、民衆の教育機関である**綜芸種智院**の開学も、このような「衆生救済の教えの実践」の一環である。

①仏の超自然的な力が人に加わり、人がそれを受け取ることを**加持**と言い、このような仏の超自然的な力により病気や災難などを除くための祈りのことを**加持祈禱**と言う。空海は加持祈禱を重視したの

で、それを「認めず」という記述が不適当。ただし、「宇宙の真理……修行」とは空海の説いた即身成仏のことであり、この部分は適当である。⑨最澄(767~822)についての記述。最澄は、日本天台宗の開祖。『法華經』を重視し、命あるものにはすべて仮性が宿っており、悟りへの道が開かれている(一切衆生悉有仮性)とした。⑩鑑真(688~763)についての記述。753年に来日して戒律を伝え、正式な僧侶としての資格(戒)を授けるために、東大寺に戒壇を設けた。

#### 問3 [22] ①

資料文は『法然全集第三卷』(大橋俊雄訳、春秋社、1989年刊)から引用した。この問答は、法然(1133~1212)の開いた浄土宗が、男女の別や身分・職業の違いにかかわらず、阿弥陀仏の本願を信じてひたすら「南無阿弥陀仏」をとなえること(専修念佛)で、すべての人が往生できると説くものであることをよく表している。法然は遊女からの問い合わせに対して、遊女であることは罪深いが、往生のためには、阿弥陀の力を信じて、ただひたすら念佛をとなえなさい、としている。この趣旨に合致する①が正解となる。

②資料文の5~6行目には、「いのちをも心にかけないほどの強い悟りを求める心が起きたならば、かまいませんから、現在の境遇のままで、ただひたすら念佛を申なさい」、つまり、命を捨てる覚悟ができなければそれでもかまわないので、遊女を続けながらでも、ひたすら念佛をしなさいという趣旨のことが書かれている。したがって、「すみやかに命を捨てて……と促している」という選択肢の記述は誤り。③資料文の7行目の「そなたのような罪深い人のためにこそ」以下を、「阿弥陀仏の救いの対象になるのは遊女のよう一部の罪人だけである」と読めないこともないが、万人の救済を説く浄土思想に照らして、そのような読み方は誤読であり、資料文から法然が「罪ある生活……に誇りをもち」と述べているとは言えない。④「この世で罪ある生活を送れば救われることはなくなる」とあるが、法然は、遊女の生活について資料文の1~2行目で「罪のさわりが重い」としつつも、「すぐに世俗を離れ」なければ救われないとし言わずに、資料文の6行目で「現在の境遇のままで、ただひたすら念佛」することによっても救われるとしているので、「すぐに世俗を離れ……急がしている」という記述が不適当。

#### 問4 [23] ④

道元(1200~53)は日本曹洞宗の開祖。主著の『正

法眼藏』は、当時としてはめずらしく和文で叙述されたものである。

①『立正安國論』は、日蓮宗の開祖日蓮(1222~82)の主著。②『往生要集』は、天台宗の僧侶で、後の浄土教の発展の基礎を築いた源信(942~1017)の主著。③『歎異抄』は、浄土真宗の開祖親鸞(1173~1262)の弟子である唯円の著作。

#### 問5 [24] ⑥

ア：西川如見についての説明である。西川如見(1648~1724)は、儒学や西洋の学問を学び、独自の学識に至った町人思想家。主著『町人叢』のなかで、「ただこの町人こそ樂しけれ」として、江戸に花開いた独自の町人文化に積極的な意味を見いだした。

イ：石田梅岩についての説明である。石田梅岩(1685~1744)は、商人としての体験を踏まえながら、儒学、神道、仏教などを学び、独自の心学(石門心学)を確立した。彼は、万物・万人は「我と天地と渾然たる一物」であり本来すべて同じ一つのものであるとした(「天の一物」)。そこから、封建的な身分関係を上下関係ではなく職分の相違とし、農民や商人・町人もそれぞれの職分について正しい実践をすることが天理にかなうとした。そして、商人の場合には、正当な商行為を心がけ(正直)，物を浪費しないこと(儉約)が正しい生き方であると論じた。

ウ：山崎闇斎についての説明である。山崎闇斎(1618~82)は、藤原惺窓(1561~1619)に始まる京学ではなく、南村梅軒(生没年不詳)に始まる南学の系譜に属する朱子学者。朱子学における敬の重視を一層推し進め、それを厳格な修養の実践に反映させる独自の学風(崎門学派)の祖となる。また、儒学と神道を融合した垂加神道を創始した。

#### 問6 [25] ④

本居宣長(1730~1801)は、国学の大成者。仏教や儒教などの外来思想を、作為的な道理や理屈を重視する(「物事を理屈において捉えようとする」)漢意として批判した。そして、生まれついたありのままの心で、様々な出会いに素直に反応する真心(「事物の有様を素直に感受し、感動するような心」)に従って生きることこそ、古来、日本に伝わる理想的な生き方であるとした。真心とは、なにごとも素直に感情を動かすもののあはれを知る心である。

①前半の漢意への批判的な言及や、「各人が善悪を超えて…」以下の文は正しい。しかし、「古代の聖人が人為的に作った道に従って」は誤り。本居宣長にとっての理想の道とは、神々のふるまいから生まれた習俗であり、人為が加わっていない道(惟神)

の道)のこと。「古代の聖人が人為的に作った道」という表現は、荻生徂徠(1666~1728)の先王の道(安天下の道、経世済民の道)を想定したもの。②「男性的でおおらかな精神」を、ますらをぶりあるいは高く直き心として古代の理想的な気風としたのは賀茂真淵(1697~1769)。また、「何事にも動じない」という記述は、何事にも柔軟に反応する本居宣長の真心とは正反対の精神。③の「自分の感情を抑え」も②と同様、真心とは正反対の精神的態度を表しているので正解とはならない。

#### 問7 [26] ⑥

ア: 誤文。「二つのJ」は、明治以降の日本が進むべき道をキリスト教の精神のなかに見いだした内村鑑三(1861~1930)の言葉。彼はこの言葉で、キリスト教の眞の実現は、日本の伝統的な精神(武士道)においてこそ可能であるとし、愛国心と信仰心の両立は可能であるとした。徳富蘇峰(1863~1957)は、文明開化以来の日本の表層的な西洋化を批判し、平民の立場での西洋文化の受容を推進する平民主義を主張した人物。

イ: 正文。河上肇(1879~1946)は、『貧乏物語』において「文明国における多数人の貧乏」の問題を取り上げ、「各個人が無用のぜいたくをやめる」という「人心の改造」による貧困問題の解決を提唱した。しかし、こうした議論の限界に気づき、マルクス主義の研究に進んでいった。

ウ: 正文。中江兆民(1847~1901)は、民権を、為政者が人民に恵み与える恩賜的民権と、人民が自ら獲得する恢復(回復)的民権に分けた。そして恢復(回復)的民権の確立を理想としたが、すでに天皇主権を原理とする明治憲法制作りが本格化していく日本の状況をみて、自由民権運動の現実的な方向として、恩賜的民権の内容を高めて実質的に恢復(回復)的民権へと育てていくべきだと説いた。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

#### 問8 [27] ①

西田幾多郎(1870~1945)は、『善の研究』において、主観と客観という区別以前の、主客未分の直接的な体験を「純粹経験」と呼び、そうした境地こそが根源的な哲学的探求の対象であるとした。そして、「個人あって経験あるにあらず、経験あって個人あるのである」として、個人としての自己は、体験(純粹経験)を通してあらわれてくるとした。このような彼の思索の方向性は、主観と客観、精神と物質などの区別を根本的なものだと考える西洋哲学を乗り越えていくこうとする、独創的なものであった。

②西田幾多郎ではなく、和辻哲郎の『風土』につ

いての記述。このなかで、和辻は、世界の風土をモンスーン型、砂漠型、牧場型に分け、それぞれのもとで形成される民族の性格を論じた。このうち、この選択肢はモンスーン型について論じたもの。③和辻哲郎ではなく、夏目漱石(1867~1916)についての記述。④和辻哲郎(1889~1960)は『倫理学』において、個人も社会もそれ自体として存在しているのではなく、互いにあいまって存在するとした。そして、「人間とは、『世の中』であるとともにその世の中における『人』である」とし、「相互に絶対に他者であるところの自他がそれにもかかわらず共同的な存在において一つになる」という「二重性格の弁証法的統一」としての人間のあり方を間柄的存在と表現した。したがって、「人は生まれ落ちた共同体においてはじめて『人間』となり得る」という意味で「間柄的」と表現したわけではなく、「(共同体としての)社会こそが個人に先んじて存在している眞の实在」であるとして、社会が個人に先行しているとしたわけでもない。

#### 問9 [28] ②

本文はまず、「己を空しくする」思想が、清明心という日本固有の精神においてだけでなく、「外来思想の受容と展開のなかで様々に変奏されてきた」(第2段落)としている。そして、その具体例として、鎌倉時代においては、他力本願を唱えた浄土宗、自力による悟りを唱えた道元(第3段落)、江戸時代においては、古学や国学(第4段落)、明治以降においては西田幾多郎や和辻哲郎の思想(第5段落)などを挙げている。この趣旨に合致する②が正解である。

①『己を空しくする』精神に通じる部分だけを学び、そうでない部分についてはまったく受け入れてこなかったことが分かる」とあるが、本文は「己を空しくする」思想が外来思想を変容させてきた、としているのであって、最初から「己を空しくする」精神に通じる部分だけしか受け入れなかつた、としているわけではない。②本文は、「外来思想をそのまま受容しようとした」とは述べていない。④本文は、日本特有の思想を、「外来思想との徹底的な敵対関係において」発展してきたとは捉えていない。

### 第4問 西洋の近現代思想

#### 【出題のねらい】

本問のねらいは、言語哲学や分析哲学などを意識した近年のセンター試験の傾向に配慮し、「アダムの言語」の探求や普遍言語の構想などにはじまる言語学の

興隆が西洋近現代思想にどのような影響を与えてきたかを理解してもらうことにある。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [29] ①

ルネサンスを代表するヒューマニスト(人文主義者)であるエラスムス(1466～1536)は、『痴愚神礼讃(愚神礼讃)』を著し、教会や聖職者の腐敗、戦争に明け暮れる王侯貴族の愚行を痛烈に批判し、キリスト教倫理に基づく平和を訴えたことで知られている。エラスムスに関しては、当時ラテン語訳しか公認されていなかった『新約聖書』のギリシア語原典を出版するなど文献学的な聖書研究への道を開いたことや、『自由意志論』において、信仰における自由意志の積極的な意義を主張したことも覚えておこう。

②カント(1724～1804)の倫理思想の説明である。カントは、自然法則に抗して道德法則に従い得る存在者である人間を「人格」と呼び、そのことに人間の尊厳の根拠を求めた。③「人間は考える葦である」と述べたパスカル(1623～62)の人間観の説明である。④「プロテスタント教会」を「カトリック教会」にすれば、ルター(1483～1546)ら宗教改革者を想定した文章になる。

##### 問2 [30] ①

資料文は、スピノザ(1632～77)の『神学・政治論(下)』(吉田量彦訳、光文社古典新訳文庫)からの引用である。資料文の主旨は、聖書は道徳的な著作でしかなく、これに基づく神学と、理性を基にして自然のあり方を探求する哲学は区別されるべきものであり、両者を混同してはいけないということである。なぜなら、スピノザによれば、聖書を理性(合理性)に従って解釈しようとすると、哲学は聖書の記述に対してそこに載っている以上の余計な解釈を施すことになり、逆に、哲学を神学のための基礎学問あるいは導入学間に据えようとすると、哲学は聖書の記述を理性(合理性)に反して神聖なものであると信じるように強要されることになるからである。つまり、「哲学は神学の侍女」と捉えたトマス・アクィナス(1225?～74)などのスコラ哲学者らとは異なり、スピノザは近代の合理論者らしく、哲学と神学の分離を主張しているのである。この趣旨に合致する①が正解となる。

②スピノザは「神はすなわち自然(神即自然)」と主張したことで知られているが、これは哲学という営みと神学という営みが同じであるということを意味しているわけではない。むしろスピノザは、哲学と神学の分離を主張しているのだから、「神学の営

みは哲学の営みに、哲学の営みは神学の営みに合致させなければならない」という記述は、資料文の趣旨に適合しない。③同様に、哲学と神学の分離を唱えていることに照らして、哲学が聖書にある話を「合理的に再解釈」したのでは、哲学の神学に対する越権となり、資料文の趣旨に適合しない。④資料文から「哲学は神や自然の仕組みを完全に解き明かすことはない不完全なもの」という内容は読み取れない。また、神学が哲学の不完全性を補完したのでは、神学が哲学を包含することになり、哲学と神学の分離を唱える資料文の趣旨に適合しない。

##### 問3 [31] ③

ルソー(1712～78)は、『社会契約論』や『人間不平等起源論』などにおいて、自然状態における人間は、自己愛と「憐れみの情(思いやりの情)」とをそなえ、自由・平等で平和な状態にあったと主張した。しかし、人間は文明化(私有財産制の成立)によって堕落し、不自由で不平等な状態に陥ってしまったと考えた彼は、自由と平等を回復するためには、人々は社会契約を結び、新たな政治社会を形成しなければならないと論じた。ただし、ルソーは「代表民主制において、人は自らの主権者とはなり得ない」として、新たな政治社会においては、主権(政治の決定権)は人民にあり(人民主権)、政治は全人民の参加により(直接民主制)、全人民の共同の利益を追求する一般意志に沿って行われるものでなければならないとした。

①ルソーら社会契約論者が批判した王権神授説についての説明である。②ヘーゲル(1770～1831)の思想の説明である。彼によれば、国家とは、家族のもつ人間相互の結びつきと市民社会のもつ個人の独立性がともに生かされた最高の共同体である。それゆえ、国家が形成されてはじめて、人間の自由も最高の形態で実現される。③人民に「権力を濫用する政府を改變する権利」すなわち革命権・抵抗権を認められたロック(1632～1704)の社会契約説の説明である。

##### 問4 [32] ④

フランスの実証主義者コント(1798～1857)は、18世紀のフランス啓蒙思想の理性重視の伝統のうえに、19世紀前半の新しい産業時代における社会の再組織化には科学による実証的精神が必要であるとして、「予見するために観察する。予知するために予見する」を旨とする実証科学としての社会学の確立の必要性を訴えた。

①自然の質的側面を重視しようと努め、分析の結果「死せる自然」となり果てた自然ではなく「生きた自然」それ自体を探究しようとして、有機的自然

觀を主張したゲーテ(1749~1832)の言葉である。仮に、このことを知らなくても、コントが科学による実証的精神が必要であることを訴えたことに照らして、「愛によってのみ」という記述はコントの主張として不適当と判断できる。②絶対的真理を志向するヘーゲルの哲学体系に対して、個別的・具体的に実存する自分のための真理、すなわち万人が承認する真理ではなく、実存する自分が納得する真理である主体的真理を求めたキルケゴー(1813~55)の言葉である。③あらゆる現象は合理的(理性的)に理解できるとするヘーゲルの言葉である。

問5 [33] ②

ライプニッツ(1646~1716)は、非物質的な極小の単位である無数のモナド(單子)を想定し、精神と物体の連関について一つ的回答を与えた。すなわち、実体としての精神と物体を想定したデカルト(1596~1650)の残した問題(物心二元論、身心二元論)に対して、「モナドによって満たされている宇宙においては、精神と物体も調和するように作られている」という予定調和説を唱えた。

①「合理論の立場を徹底させて」を「経験論の立場を徹底させて」とすれば、心を「知覚の束」と考えたヒューム(1711~76)の認識論の説明である。③ライプニッツは合理論者であるから、ライプニッツの説明として「経験論の立場に立って」は不適当である。これは、心をタブラ・ラサ(白紙)と考えた経験論者のロックの認識論の説明である。④「存在することは知覚されることである」と主張した経験論者であるバークリー(1685~1753)の思想の説明である。

問6 [34] ⑦

ア：実存主義の先駆的な思想家であるニーチェ(1844~1900)の思想についての説明である。彼は、『悲劇の誕生』において、芸術を「アポロン的なもの」と「ディオニソス的なもの」という二つの衝動によって規定し、ショーペンハウアー(1788~1860)の意志哲学と作曲家のワーグナー(1813~83)の音楽にディオニソス的な力の再生を垣間見た。しかし、両者の生否定的なペシミズムには反対した彼は、キリスト教信仰が急速に影響力を失った(「神は死んだ!」)19世紀後半のヨーロッパ世界にあって、人は、無意味なことが永遠にくり返される永劫回帰(永遠回帰)の世界であろうとも、生を肯定する力への意志に従ってたくましく生きるべきであるとする超人思想を唱えるに至った。

イ：パレスチナで生まれアメリカで活躍した文学研究者のサイード(1935~2003)の思想についての説

明である。彼は、『オリエンタリズム』のなかで、近代西洋社会が東洋(オリエント)を後進的とみなすことによって、逆に自分たちを先進化され文明化された存在だと考え、植民地支配や人種差別を正当化してきたと批判した。彼は、このような思考方法を「オリエンタリズム」と呼んだ。

ウ：『全体性と無限』などで知られるレヴィナス(1906~95)の思想についての説明である。彼は、ハイデッガー(1889~1976)の思想に代表される西洋思想は、理性的主体による自己中心的な暴力性(全体性)をそなえた思想であると批判した。しかし彼は、構造主義者やフーコー(1926~84)のように、近代的思考が作り出したとする「理性的主体」などは無効であると主張することはなかった。むしろ、現象学などに依拠して、他者と共に生きる人間が倫理性に行動せざるを得ないことから、現代社会において解体された人間の主体性の回復を試みた。すなわち、レヴィナスは、「顔」として現前し「汝殺すなれ」という他者の要求に応えざるを得ない存在となるとき、人は暴力的ではない、倫理性の主体となり得るのであるとして、「他者への責任を果たすことを出発点とした倫理を構築すべきであると主張した」。

以上により、⑦の組合せが正解となる。

問7 [35] ④

a：「試行錯誤を重ねて科学的探究を推し進めていく人間の能力」に注目すれば、「創造的知性」が入る。プラグマティズムを大成させたデューイ(1859~1952)は、人間の知性を、行動を通じて環境との関係を調整して生きていくための道具として捉え、問題解決能力とも言える創造的知性を育む教育の必要性を説いた。なお、道具としての知性を用いて社会を改良することを説く彼の考え方を道具主義と言ふことも覚えておこう。「道具的理性」は、フランクフルト学派第一世代のホルクハイマー(1895~1973)とアドルノ(1903~69)が近代的理性のあり方を批判的に表現した用語。彼らによれば、近代的理性は、人間を野蛮から解放する啓蒙的理性であるだけでなく、人間や自然を支配・操作する道具的理性でもある。

b：デューイが、社会を改良し、人間生活の明るい未来を創造していくべきことを主張したことや、「為すことによって学ぶ」ことを基本とする問題解決学習の重要性を説いたことに照らして、創造的知性によって作成されるプランや行動原理は常に「仮説」とならざるを得ず、「定説」で「あり続け」ることはないと。

以上により、④の組合せが正解となる。

問8 [36] ⑧

[a]：歴史的な順番を考え、直前の「近代の」という語句に注目すれば、「資本主義」が入る。マルクス(1818~83)は、常に発展する生産力と固定化する傾向のある生産関係との矛盾を原動力として発展する人類の歴史は、これまで原始共産制から奴隸制、封建制、資本主義へと発展してきたのであり、貧富の差の拡大や失業者の増大といった矛盾を抱える資本主義も、生産と配分の手段・方法を社会全体で共有する社会主義へと必然的に移行すると考えた。

[b]：上記のマルクスの思想を考慮し、「増大・変化していく」と、対比されている「固定化する傾向をもつ生産関係」に注目すれば、「生産力」が入る。なお、「存在が意識を規定する」とマルクスが主張したことによれば、「想像力」は不適当である。

[c]：上記の思想の結論として、マルクスは、労働者(プロレタリア)階級こそが、生産物を搾取している資本家(ブルジョワ)階級との階級闘争を通じて社会主義社会を作るという歴史的使命を担っていると主張した。こうしたマルクス独自の歴史観を唯物史観(史的唯物論)と言う。なお、「社会有機体説」とは、生物有機体になぞらえて社会の構造・機能・変動を説明する理論であり、近代においてはサン=シモン(1760~1825)やコントラが唱えた社会観である。

以上により、⑧の組合せが正解となる。

問9 [37] ⑧

本文によれば、ルネサンス以後のヨーロッパは俗語が台頭し、思想が混乱した。この混乱に対して、ヨーロッパの人々は「アダムの言語」を求めたり普

遍言語を構築したりしようとして、ヨーロッパ文化の統一を確保しようとした(第2、第3段落)。その流れのなかから現代の言語学が生まれた(第3、第4段落)が、それは、「規範倫理学を思想界から駆逐していった」(第5段落)。しかし、「人は言語を用いて思想を表現する」(第1段落)以上、現代の倫理学においても、言語学の成果を無視することもできない。それゆえ、ロールズ(1921~2002)らに代表される現代の倫理学は、言語学の成果を取り入れつつ、規範倫理学を駆逐しかねない言語学との対峙において成長していくことになる(第5段落)。この本文の趣旨に合致する⑧が正解である。

①「ルネサンス以後の俗語の台頭は、……現代の言語学が発展してきたとも言える」は、本文の趣旨と合致する。しかし、本文は「(言語学の発展に随伴して)それまで曖昧であった正義や善の概念規定も客觀的なもの」になったとも、「(言語学の発展に随伴して)現代の規範倫理学の思索内容も豊かさを増してきた」とも述べていない。むしろ第5段落にあるように、言語学の発展は「規範倫理学を思想界から駆逐していった」ので、正解とはならない。②ルネサンス以降のヨーロッパの思想界において「バベル以前に存在したと想定される……『アダムの言語』」を求める動きがあったとする第2段落の記述に照らして、「ルネサンス以後の思想界は、客觀性を欠く聖書をめぐる議論を駆逐しようとした」という記述が本文の趣旨と合致しない。また、①と同様、後半の記述も本文の趣旨と合致しないため正解とはならない。④後半の記述は本文の趣旨に合致するが、⑧同様、前半部分の記述が本文の趣旨と合致しないため正解とはならない。

## ＝＝＝ 政治・経済 ＝＝＝

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	④	2		
	問2	2	⑥	3		
	問3	3	④	2		
	問4	4	③	3		
	問5	5	②	3		
	問6	6	③	3		
	問7	7	②	3		
	問8	8	⑤	3		
	問9	9	①	3		
	問10	10	④	3		
第1問 自己採点小計				(28)		
第2問	問1	11	①	3		
	問2	12	⑥	3		
	問3	13	③	3		
	問4	14	②	2		
	問5	15	②	3		
	問6	16	④	3		
第2問 自己採点小計				(17)		
第3問	問1	17	④	3		
	問2	18	①	3		
	問3	19	①	2		
	問4	20	⑦	3		
	問5	21	②	2		
	問6	22	②	3		
	問7	23	②	3		
第3問 自己採点小計				(19)		
第4問	問1	24	③	2		
	問2	25	③	3		
	問3	26	④	3		
	問4	27	②	3		
	問5	28	①	3		
	問6	29	②	3		
	問7	30	④	2		
第4問 自己採点小計				(19)		

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	31	⑤	3		
	問2	32	①	3		
	問3	33	①	3		
	問4	34	④	3		
	問5	35	④	3		
	問6	36	⑤	2		
第5問 自己採点小計				(17)		
自己採点合計				(100)		

### 【解説】

#### 第1問 日本の政治・経済の新たな動向

##### 【出題のねらい】

本問は、主に1990年代以降の日本の政治・経済各分野における動向や改革の動きに焦点を当て、それについての知識の有無や理解の程度を測ることをねらいとして作問した。

##### 【設問別解説】

問1 1 ④

**独占禁止法**は、市場の独占や不当な取引の制限、不公正な取引を禁止し、自由競争を促進して市場の働きを円滑化することを目的として1947年に制定され、**公正取引委員会**がその運用にあたっている。

①戦前の内閣総理大臣が権限の上では他の国務大臣と同列におかれていた(「同輩中の首席」)のに対して、日本国憲法は、内閣総理大臣を内閣の「首長」と位置づけ(第66条1項)、**他の国務大臣の任命・罷免権**(第68条)を始めとして多くの権限を与えており、その地位や権限は著しく強化されている。しかし、**条約の締結や政令の制定**は内閣の権限(第73条3号、6号)であり、また、**国会の召集**は内閣の助言と承認に基づく天皇の國事行為(第7条2号)であって、内閣総理大臣の権限ではない。②戦前も、政党は、1940年に大政翼賛会の設立とともに解散させられるまで、設立が認められていた。また、戦前の日本でも、大正の中頃から昭和にかけての一時期、日本初の本格的な政党内閣といわれる原敬(立憲政友会)内閣(1918~21年)にみられるように、政党内閣が成立していたことがあるので、戦後初めて政党内閣の成立が可能になったという記述は誤りである。③日本銀行は、1882年に設立され、すでに戦前から発券銀行、政府の銀行として中央銀行の役割を果たしており、戦後に新たに導入された制度とは

いえない。

問2 [2] ⑥

ア 「部族対立で大量虐殺が起こった国」は、ルワンダである。ルワンダでは、1990年以降、少数民族のツチ族と多数派のフツ族の対立から内戦が続いていたが、とくに1994年になるとフツ族によるツチ族の大量虐殺が頻発し、大量の難民が発生した。この難民の救援(人道的な国際救援活動)のため、PKO(国連平和維持活動)協力法に基づき1994年に要員が派遣されたが、ルワンダ国内ではまだ内戦が続いていたため、派遣された国はルワンダではなく、多くの難民が避難していた隣国のザイール(現コンゴ民主共和国)であった。したがって、図中のCが派遣された国・地域に該当する。

イ 日本が「1996年から要員を派遣していた」PKOは、シリアとイスラエル両国の停戦と兵力引離しを監視するためにゴラン高原(シリア領のイスラエル占領地域)で活動しているUNDOF(国連兵力引離し監視軍)である。このPKOが開始されたのは1974年からであるが、日本が要員を派遣したのは1996年である。しかし、シリアの内戦が激化したため、2012年末に自衛隊は活動を終了し、翌13年には全員が帰国した。したがって、図中のBが派遣された国・地域に該当する。

ウ 「内戦が終結した国家」とはカンボジアであり、「自衛隊が参加した初めてのPKO」はUNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)である。UNTACは、カンボジアの新政府の樹立を支援するため、文民警察、選挙の監視、難民の帰還、国土の復旧など多様な活動を行い、自衛隊は1992年から翌93年にかけて参加した。したがって、図中のAが派遣された国・地域に該当する。

以上から、⑥が正解となる。

問3 [3] ④

2009年の衆議院議員総選挙で自民党は惨敗し(議席数が300から119に減少)、野党に転落した。他方、単独で過半数(241議席)を大きく上回る308議席(選挙前は115議席)を獲得した民主党は、社会民主党や国民新党と連立し、鳩山内閣が成立した。なお、野党が衆議院議員総選挙で単独過半数を獲得して政権が交代したのは戦後初めてである。

①1993年の衆議院議員総選挙で自民党は大敗し、政権を降りたため、代って成立したのが7党1会派の連立による非自民・非共産の細川内閣(1993~94年)である。したがって、自民党が共産党と連立政権を形成したというのは誤りである。②無党派層とは、政治的関心は比較的高いが、「支持政党がない」

あるいは「どの政党も支持しない」とする有権者層で、政治状況により選挙のたびごとに投票行動を変えるという特徴がある。今日では、有権者の40~50%が無党派層であるといわれており、「減少する傾向にある」とはいえない。③かつて野党第一党の地位にあったのは、「社会民主党」ではなく社会党である。社会党的勢力は1990年代以降、急速に後退し、1996年には社会党から社会民主党に改称した。

問4 [4] ③

3ヶ月以上海外に在住し、在外選挙人名簿に登録している日本国民は、大使館などの在外公館で、比例代表選挙だけではなく、衆議院の小選挙区と参議院の選挙区も含め、すべての国政選挙で投票することができる。かつては、比例代表選挙でしか投票できなかったが、2005年に最高裁判所により違憲判決が下されたため、それを受け翌2006年に公職選挙法が改正され、現行の制度になった。

④重複立候補は衆議院議員選挙でのみ認められている制度で、小選挙区選挙の候補者を比例代表選挙の名簿にも登載することができるため、候補者が小選挙区選挙で落選しても、比例代表選挙で当選できる(復活当選)可能性がある。ただし、小選挙区選挙で落選した重複立候補者の得票数が、当該選挙区の有効投票総数の10分の1未満の場合には復活当選は認められない。⑤参議院の比例代表選挙は、全国を一つの単位として投票する方式であるが、その場合、有権者は候補者個人(名簿登載者)に投票しても、政党に投票してもどちらでもよい(非拘束名簿式比例代表制)。それに対して、衆議院の比例代表選挙では、全国を11のブロックに分け、各ブロックの有権者は政党に投票する(拘束名簿式比例代表制)。⑥衆議院や参議院の比例代表選挙で選出された議員は、選挙時に名簿を提出していた他の政党に移籍すると議席を失う。ただし、選挙後に結成された新党に移籍したり無所属になることは認められている。

問5 [5] ②

1998年に金融庁の前身である金融監督庁が新設され、大蔵省(現財務省)がもっていた金融機関に対する検査・監督の権限を引き継ぎ、2000年にはさらに同省から金融制度の企画・立案の権限を受け継いで、名称も金融庁に改められた。そして、2001年に中央省庁再編で新設された内閣府の外局となり、現在に至っている。

⑦第二次臨時行政調査会(1981~83年)の答申に基づき実施されたのは、三公社の民営化である。また、行政委員会は、アメリカで発達した制度を参考

に、第二次世界大戦後、連合国が占領下にあった日本で導入された合議制の行政機関で、1990年代の行政改革により新設されたものではない。なお、行政委員会の例としては、国には公正取引委員会や人事院などが、地方自治体には教育委員会や選挙管理委員会などがそれぞれ設置されている。**③**上の説明でも触れたように、内閣府は2001年の中央省庁再編の際に新設された行政機関で、総理府、経済企画庁、沖縄開発庁を統合して発足した。**④**独立行政法人は、中央省庁から国立研究所や国立病院など政策の実施部門を切り離し、効率的な運営を図ることを目指して2001年から導入されており、「民営化や特殊法人化が進められている」というのは誤りである。

問6 **[6] ⑧**

地方交付税(交付金)とは、地方自治体の財源不足を補い、地方自治体間の財政格差を是正することを目的として、国税である所得税、酒税、法人税などの一定割合を国が地方自治体に交付するものをいう。図を見ると、Cは、国の歳入のうち、Bの一部が歳出にあてられたものであり、それが地方の歳入の一部となって歳出をまかなっていることがわかる。したがって、このCが地方の歳入不足を補填している地方交付税であり、Bが国税ということになる。参考までにあげておくと、Aは公債金、Dは地方税、Eは地方債を示している。

以上から、**⑧**が正解となる。

問7 **[7] ②**

1990年代後半以降になると、特例国債(赤字国債)の発行額が建設国債の発行額を上回るようになり、2000年代以降は国債発行額の7~8割を占めるまでになっている。たとえば2012年度の場合、国債発行額474,650億円のうち、特例国債の発行額は360,360億円で、国債発行額の約76%に達している。

①1990年代の初めの一時期(1990~93年度)に発行がゼロになったのは特例国債だけであり、建設国債はその間も継続して発行されている。**②**国債残高(過去に発行された国債のうち、まだ償還されていない国債の合計額)は、日本で戦後初めて国債が発行された1965年以来、毎年一貫して増加を続けていく。したがって、2000年代以降は減少する傾向にあるというのは誤りである。なお、2014年度末の国債残高は、約780兆円になると見込まれている。**④**1980年代から今日までの国債依存度の推移をおおまかに見ると、1980年度から88年度まではほぼ下がり続け、89年度から91年度は横ばいとなり、92年度以降は上昇傾向を示している(この間、年度ごとに細かく見れば、下降局面でも上昇している年度はある

し、上昇局面でも下降している年度もある)。したがって、「1980年代から今日まで一貫して上昇を続けている」というのは誤りである。

問8 **[8] ⑥**

**A 指定管理者制度**は、地方自治体が設置する公共施設(図書館、美術館など)の管理運営を、指定を受けた民間企業、NPO、ボランティア団体などに委託し、運営の効率化による経費削減やサービスの向上を図る制度である。日本では2003年の地方自治法改正により導入された。

**B 特殊法人**は、公共性の高い事業を遂行するため、特別の法律に基づいて設立された法人で、公団、公庫、事業団などの名称で呼ばれる。非効率な経営などが問題視され、整理統合や民営化・独立行政法人化が進められたため、かつて100以上あった特殊法人は、33に減少している(2014年4月現在)。

**C PFI**(Private Finance Initiative)は、社会資本の整備を民間主導で行うための仕組みで、社会資本の設計、資金調達、建設、運営に至るまで、できる限り民間企業に委ねることで公共事業の効率化を図ることを目的としており、1999年にPFI法(民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律)が制定されている。

以上から、**A**と**C**が設問の制度に該当し、**⑥**が正解となる。

問9 **[9] ①**

預金保険機構が設立されたのは1971年であり、1990年代に行われた改革や自由化の一環として設立されたわけではない。なお、預金保険機構が運営する預金保険制度(ペイオフ)は、本来、金融機関が破綻した場合に特定の預金(普通預金や定期預金など)の預金者に一定額(預金者一人当たり元本1,000万円とその利息が上限)の払戻しを行う制度である。しかし、金融機関が相次いで経営破綻し、不安が高まったバブル崩壊後の1996年にペイオフは一時凍結(すべての預金の払戻しを無制限に保証)され、その後2005年に決済用預金(当座預金や無利息の普通預金)を除き解禁された(本来の制度に戻された)。

②かつて政府は金融機関を保護するために金利の規制を行ってきたが(護送船団方式)、1993年に定期性預金の金利が自由化され、翌94年には普通預金などの流動性預金の金利も自由化された。③1992年に金融制度改革法が制定され、銀行と証券会社はそれぞれ子会社を設立して相互の業務に参入できるようになった(たとえば、銀行が子会社として証券会社を設立し、株式の売買などを行う)。④1997年に外国為替管理法が改正され、**外国為替法**と改称された

上で、外国為替取引(外貨の両替など)が自由化された。

問10 [10] ④

ア 市中銀行は、受け入れた預金の一定割合を日本銀行に支払い準備金として預けておかなければならぬが、この割合を預金準備率(支払準備率)という。インフレーションを抑制するには、この預金準備率を引き上げなければならない。また、日本では、金融政策の一環としてこの預金準備率を操作する預金準備率操作は1991年以降、行われていない。したがって、この選択肢は誤りである。

イ 日本銀行は、1990年代末から不況対策として政策金利(無担保コール翌日物金利)を実質ゼロにする金融政策(ゼロ金利政策)を断続的に行ってきました(1999~2000年、2001~06年、2010年~)。したがって、この選択肢は正しい。なお、無担保コール翌日物金利とは、金融機関同士が担保なしで短期資金(翌日に返済)を貸し借りする際の金利である。

ウ 日本銀行は、景気を刺激しデフレーションから脱却するために、2001年から06年にかけて買いオペレーションを実施し、市中銀行の資金保有量(日銀当座預金残高)を増加させる政策(量的緩和政策)を行った。したがって、この選択肢は正しい。

以上から、④が正解となる。

## 第2問 経済のグローバル化

### 【出題のねらい】

本問は、経済のグローバル化について議論している学生の会話を題材に、国際経済を中心とする経済各分野の基本的な知識や理解の程度を試すことを目的として幅広く出題した。また、センター試験でよく出題されている図表を用いた問題に慣れてもらうため、産業構造の変化に関する図表の読み取り問題や、日本における円相場の推移に関するグラフの問題も出題した。

### 【設問別解説】

問1 [11] ①

2011年、インドと日本との間でEPA(経済連携協定)が締結され、同年に発効した。EPAとは、貿易の障害となる関税の軽減・撤廃だけでなく、投資や人的交流など幅広い分野で経済的協力を進めることを目的とする協定である。

②中国の外貨準備高は、2006年に日本を上回って以来、世界第1位となっている。したがって、2010年以降に「アメリカ、日本に次ぐ世界第3位となった」という記述は誤り。なお、外貨準備高とは、国際収支の不均衡の是正や為替相場介入のために一国の通貨当局が保有する準備資産のことである。

金・SDR(IMF特別引出し権)などからなる。③「上回っている」は誤り。2012年の一人当たりGDP(国内総生産)は、韓国が23,180ドルであるのに対し、日本は48,324ドルとなっている。④「下回っている」は誤り。シンガポールの輸出依存度(輸出額の対GDP比)はもともと高い傾向にあり、日本のそれをはるかに上回っている。2012年の輸出依存度は、シンガポールが147.7%であるのに対し、日本は13.4%となっている。

問2 [12] ⑥

まず、Cの付加価値総額が3か国の中で最も大きいので、このCが日本であると判断できる。あるいは、近年の産業別GDP構成比(付加価値総額に占める農林水産業の付加価値の割合)で見た日本の第1次産業(農林水産業など)の割合は約1%なので、このことを知つていればCが日本であると判断することもできる。

次に、付加価値総額に占める農林水産業の付加価値の割合は、一般に開発途上国(ブラジル)のほうが先進国(フランス)よりも大きいはずであるから、農林水産業の付加価値の割合が最も大きいAがブラジル、残るBがフランスであると判断できる。あるいは、1970年から1990年にかけての付加価値総額の伸び率(経済成長率)と1990年から2012年にかけてのそれを比べ、後者のほうが大幅に上回っているAが、近年、経済成長が著しいブラジルであると判断することもできる。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

問3 [13] ③

「進出先の国」の法人税率が「進出元の国」の法人税率よりも高ければ、相手国に進出するメリットはないので、企業が海外移転を進める要因とはならない。

①「進出元の国」の為替レートの上昇は、外貨建ての輸出価格を上昇させるので、輸出が減る要因となる。この場合、生産拠点を海外に移転して、「進出先の国」で生産・販売体制を確立すれば、こうした為替レートの上昇のデメリットを回避することができる。したがって、企業は生産拠点の海外移転を進めることになる。②「進出元の国」よりも「進出先の国」のほうが低賃金労働力の確保が容易であれば、企業にとって相手国に進出するメリットがあるので、企業は生産拠点の海外移転を進めることになる。④「進出元の国」に比べて「進出先の国」の規制が緩やかであれば、企業にとっては生産活動の障害が軽減され、商機(収益機会)の拡大につながるので、企業は生産拠点の海外移転を進めることにな

る。

問4 [14] ②

日本では、大豆やトウモロコシなど、安全性基準をクリアし認可を受けた遺伝子組換え作物については輸入を認めている。なお、JAS法(農林物資の規格化および品質表示の適正化に関する法律)や食品衛生法は、一定の遺伝子組換え作物およびその加工食品について表示ルールを定めており、遺伝子組換えの表示が義務づけられている。

①「TPP(環太平洋経済連携協定)の交渉の結果」、コメの輸入について関税化の開始を決定したとする説明は誤り。日本は、GATT(関税および貿易に関する一般協定)のウルグアイ・ラウンド(1986~94年)での交渉の結果、1995年からミニマム・アクセス(コメの部分輸入)の受け入れに踏み切り、その後、1999年にはコメの輸入の関税化を実施した。なお、TPP(環太平洋経済連携協定)とは、ニュージーランド、チリ、シンガポール、ブルネイの4か国の中で2006年に発足した協定で、貿易を初めとして広範囲に渡り自由化を進め、経済関係の強化を図ることを目指している。日本は、2013年からTPPへの参加を目指して交渉に加わっているが、参加が決まれば農産物に対する関税の撤廃を余儀なくされ、日本の農業に大きな影響を与えることが予想される。②ドーハ・ラウンドでの交渉の結果により、「減反政策を廃止することが決定された」といった事実はないので、この選択肢の記述は誤り。ドーハ・ラウンドとは、2002年に始まったWTO(世界貿易機関)の新ラウンドのことであり、農業・鉱工業・サービスの自由化のみならず、貿易手続の透明化や簡素化による貿易の円滑化、ダンピング防止のルールの策定など幅広い分野で交渉が行われてきたが、先進国、とくにアメリカと新興国の対立で現在までのところ交渉は妥結に至っていない。なお、減反政策とは、コメの作付面積を制限するコメの生産調整政策のこと。この減反政策は1970年から実施されているが、2013年に日本政府が発表した「農林水産業・地域の活力創造プラン」によれば、2018年度をめどに廃止されることになっている。④政府が国内産のすべてのコメを買い上げるという制度は、かつて食糧管理法の下で行われていた食糧管理制度(1942~95年のこと)である。この制度は、食糧管理法に代わる食糧需給価格安定法(食糧法)が1995年に施行されたことで廃止された。現行の制度では、備蓄米としてコメの一部を政府が買い上げることはあるが、この備蓄米と輸入米以外のコメは原則として政府を通さず、市場において取り引きされ

ている。

問5 [15] ②

Bの時期に円高が急速に進んだのは、1985年にG5(先進5か国財務相・中央銀行総裁会議)で先進5か国がドル高是正に向けて外国為替市場に協調介入(ドル売り)を行うことで合意した(プラザ合意)ことによる。この合意の目的は、1980年代前半にアメリカのレーガン政権の経済政策によって拡大した貿易赤字と財政赤字という「双子の赤字」のうち、貿易赤字を縮小するため、ドル安に導くことにあった。プラザ合意に基づく協調介入の結果、急速に円高ドル安が進み、輸出に依存する日本経済は苦境に立たされた(円高不況)。

①アジア通貨危機はAの時期ではなく、1997年に発生した。この通貨危機はタイにおける通貨暴落をきっかけに生じ、その影響はアジアの各国に波及した。通貨暴落の理由は、大量に流入していた外国資本が急激に逃避したことにあるとされる。②「ギリシャの財政危機をきっかけとしたヨーロッパ経済の混乱」が起こったのはCの時期ではなく、2010年である。ギリシャでは、2009年に政権が交代したことをきっかけに粉飾財政が表面化し、財政赤字が深刻化していることが明らかになった(ギリシャ財政危機)。この影響により、ユーロに対する信用が揺らいだため、ユーロ安が進んだ。こうしたヨーロッパ経済の混乱が進んだ2010年には、経常収支の黒字国である日本の円に人気が集中し、円相場の高値傾向がみられた。④Dの時期に「日本の貿易収支の黒字額が大幅に増加した」というのは誤り。日本の貿易収支は、1980年代から2010年まで黒字を続けていたが、2011年に赤字に転落し、翌2012年も赤字を記録した。これは、東日本大震災後に各種機械製品の生産が停滞したことや歴史的な円高の影響を受けて輸出が減少したことによる。原子力に代わる火力発電用の燃料の輸入が拡大したためである。なお、Dの時期に「円の対ドル為替相場が戦後最高値を記録した」とする記述は適当である(2011年10月には1ドル75円台の最高値を記録した)。

問6 [16] ④

UNCTAD(国連貿易開発会議)は、開発途上国の経済開発を促進することにより南北間の格差是正などを図ることを目的として、1964年に国連(国際連合)が設けた会議である。

①OPEC(石油輸出国機構)は、NIEO(新国際経済秩序)樹立宣言に基づき設立されたわけではないので誤り。OPECは、メジャー(国際石油資本)が握っていた石油の生産および価格に対する支配権

を、産油国側に取り戻すこと目的として、1960年にイラク・イラン・クウェート・サウジアラビア・ベネズエラによって結成された国際資源カルテルである。なお、NIEO(新国際経済秩序)樹立宣言は、開発途上国にとって不利にならない国際経済構造の実現を目指して国連資源特別総会により1974年に採択された。②OECD(経済協力開発機構)は、「EU(欧州連合)の設立を準備すること目的として設立された」わけではないので誤り。OECDは、先進国間の経済協力を目的として1961年に設立された国際機構である。一方、1993年に発足したEU(欧州連合)は、通貨統合・経済、共通外交・安全保障政策、警察・刑事司法協力など幅広い分野での協力を進めている欧州諸国の政治・経済統合組織である。

③「BRICSと呼ばれる5か国の提唱によって開催されるようになった」という記述は誤り。APEC(アジア太平洋経済協力会議)は、アジア太平洋地域の経済協力関係の強化を目的として、オーストラリアの提唱により1989年から開催されている会議である。なお、BRICSとは、経済成長が著しい5か国(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)の頭文字をとった名称で、それら新興5か国を指す。なお、BRICSのうちAPECに参加しているのはロシアと中国だけである。

### 第3問 日本国憲法と立憲主義

#### 【出題のねらい】

本問は、近代民主政治の基本的原理の成立過程と、それらの原理が日本国憲法にどのように反映されているかということについて、基本的知識を確認することをねらいとしている。

#### 【設問別解説】

##### 問1 17 ④

グロチウス(1583~1645)はオランダの法学者である。彼は、ヨーロッパを舞台とした宗教戦争である三十年戦争(1618~48)の最中に『戦争と平和の法』(1625年)を著し、国際社会においても、諸国家が守るべき法(国際法)が自然法として存在すると説いた。そのため、グロチウスは「国際法の父」と呼ばれる。また、彼は、自然法が神の法に由来するとする中世の自然法思想に対し、自然法を人間の本性(理性)に基づく法ととらえたため、「近代自然法の父」とも呼ばれる。

①自然法の歴史は古く、その起源は古代ギリシャやローマに遡ることができる。また、近代、とくに19世紀のヨーロッパでは、自然科学の飛躍的な発達を背景に、実証主義(科学の対象を経験的事実に限

定し、超経験的な实在を認めないとする思想)が台頭し、大きな影響力をもつようになつたため、自然法思想は衰退した。したがって、「自然法思想は、自然科学の…発達を背景として、近代のヨーロッパで生まれた」というのは誤り。②ルソー(1712~78)がいう、「人民の一般意志によって制定される法」は、自然法ではなく、法律などの実定法(人為の法)であるから誤り。また、自然法は、人間の本性や理性に基づき、あらゆる時代において普遍的に妥当する法であり、実定法のように人間の作為によってつくられるものではないから、自然法が人民によって「制定される」という表現自体が、そもそも誤りである。③法の支配は、為政者の権力の行使を法で拘束し、権力の濫用から国民の人権を守ろうとする原理であるから、自然法であるか否かを問わず、法によって国民の自由を制限する原理であるというのは誤りである。なお、イギリスの裁判官コーク(クック)(1552~1634)が引用したことで有名な「国王といえども神と法の下にある」という同じくイギリスの裁判官ブラクトン(1216~68)の言葉には、法の支配の原理が端的に示されている。

##### 問2 18 ①

アメリカ独立宣言(1776年採択)は、アメリカ東部13の植民地がイギリスから独立するにあたり、全会一致で採択された宣言であり、のちに第3代アメリカ大統領になるジェファーソン(1743~1826)によって起草された。ロック(1632~1704)の自然権思想の影響を受け、この宣言には自然権や人民の革命権については明記されているが、「男女平等の普通選挙」は明記されていない。

②バージニア権利章典(1776年制定)は、アメリカ東部13州がそれぞれ制定した憲法に先駆けて制定されたもので、自然権を保障した世界で最初の権利宣言である。③フランス人権宣言(1789年採択)は、正式名称を「人および市民の権利の宣言」といい、フランスの軍人・政治家のラファイエット(1757~1834)によって起草された。人間の自由や平等などを自然権として保障するとともに、「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されないすべての社会は、憲法をもつものではない」(第16条)と規定して、権力の分立が人権保障にとって不可欠であることを強調している。④権利章典(1689年制定)は、歴史的に形成してきたイギリス国民の伝統的な権利(自然権としてとらえられてはいない)を議会が国王に承認させ、成文化したものである。王権の制限と議会主権、国民のさまざまな権利が明記され、「国王は君臨すれども統治せず」というイギリスの立憲

君主制の出発点となった。

問3 [19] ①

選択肢にある国の中、**不文憲法**をもつ国はイギリスのみであり、アメリカ・ドイツ・日本は**成文憲法**をもつ。

また、イギリスには憲法典が存在せず、憲法は議会が制定した法律や裁判所の判例などの形式をとっているので、議会は通常の法律と同様の改正手続で憲法を改正することができる。したがって、イギリスの憲法は基本的に**軟性憲法**である。

他方、成文憲法は、その改正について通常の法律の改正の場合よりも厳格な手續が求められる場合が多く、成文憲法であるアメリカ・ドイツ・日本の憲法も**硬性憲法**である。

以上のことから、①はA、②・③・④はDに、それぞれ該当する。

問4 [20] ⑦

A 正しい。日本が**ポツダム宣言**を受諾し、連合国の占領下におかれた後、連合国軍最高司令官のマッカーサーから憲法改正の示唆を受けた幣原内閣(1945~46)は、**憲法問題調査委員会**を発足させ、大日本帝国憲法の改正作業に着手した。

B 正しい。憲法問題調査委員会は、国務大臣の松本烝治(1877~1954)を委員長として憲法改正作業を進めたが、同委員会が作成した憲法改正案(**松本案**)は、天皇が統治権を総揽するなど大日本帝国憲法の基本原則を維持したものであったため、GHQはこれを拒否した。日本政府の姿勢に不信をもったGHQは、マッカーサー三原則(天皇を元首とすること、戦争放棄、封建的諸制度の廃止)に基づいて、自ら憲法改正案を作成し(**マッカーサー草案**)、日本側に提示した。

C 正しい。マッカーサー草案はいくつかの修正を加えられた後、日本政府の憲法改正案として確定された。その後、この憲法改正案は、大日本帝国憲法の改正手続に従い、枢密院での審議を経て帝国議会に提出され、一部修正された上で可決された。議会を通過した憲法改正案は、日本国憲法として1946年11月3日に公布され、1947年5月3日に施行された。

以上から、⑦が正解になる。

問5 [21] ⑧

**内閣不信任決議権**は衆議院のみに認められているため(日本国憲法第69条)、たとえ参議院で内閣に対する不信任を決議(問責決議)したとしても、内閣を総辞職させる法的な効果は生じない。また、衆議院において内閣不信任決議案が可決された場合も、

「10日以内に衆議院が解散されない限り、総辞職をしなければならない」(日本国憲法第69条)のであって、ただちに総辞職をせずに衆議院を解散するという選択肢もある。なお、衆議院の内閣不信任決議の有無にかかわらず、内閣は任意に衆議院を解散できるとされており、その場合、内閣は天皇に**助言と承認**を行い、天皇の**國事行為**として衆議院を解散する(日本国憲法第7条3号)。

①内閣によって制定される命令を**政令**と呼ぶ。政令には、法律を執行するためのもの(執行命令)と、**法律の委任**に基づくもの(委任命令)がある。後者は、本来法律において定めるべき事柄を、法律の委任を受け政令において定めることで、この場合に限っては政令に罰則を設けることができる(日本国憲法第73条6号)。②公正な裁判を行うために、裁判官には職権の独立が保障されており(日本国憲法第76条3項)，それを担保するために、「裁判官の懲戒処分は、行政機関がこれを行ふことはできない」(日本国憲法第78条)ことになっている。③地方自治体の首長およびその議会の議員は、住民の直接選挙で選ばれる(日本国憲法第93条2項)。

問6 [22] ⑧

ア **湾岸戦争**(1991年)の際に、とくにアメリカから強く人的貢献を求められた日本は、戦争終結後の1991年に、海上自衛隊の掃海部隊をペルシャ湾に派遣し、イラク軍が敷設した機雷の除去を行った。

イ イラク戦争終結後の2003年に**イラク復興支援特別措置法**が制定され、自衛隊がイラクに派遣された。

ウ 2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロを受け、同年10月に**テロ対策特別措置法**が制定され、アフガニスタンで「対テロ戦争」を行うアメリカ軍の後方支援を行うために、自衛隊の艦船がインド洋へ派遣された。

以上から、正解は⑧となる。

問7 [23] ⑧

**愛媛玉串料訴訟**では、靖国神社に愛媛県が玉串料として公金を支出したことが日本国憲法第20条3項および第89条が規定する**政教分離の原則**に反するかどうかが争われた。最高裁判所は、愛媛県の行為は、憲法が規定する政教分離の原則に違反するとして違憲判決を下した(1997年)。

①④は、いずれも日本国憲法第14条の**法の下の平等**に関して争われた訴訟事件であり、政教分離の原則をめぐって争われた訴訟事件ではないので、正解とはならない。①かつて刑法は、自己または配偶者の父母・祖父母などを殺害する尊属殺人の法定刑

死刑もしくは無期懲役に限り、通常の殺人より著しく重い罰則規定(第200条)を設けていた。しかし、父親から性的虐待を受けていた娘が父親を殺害した事件において、最高裁判所は、この重罰規定は日本国憲法第14条1項に定められた法の下の平等に違反するとして違憲判決を下した(1973年)。③法律上の<sup>ちやくしゅつし</sup>結婚をしていない男女の間に生まれた子(非嫡<sup>ちやく</sup>出子/婚外子)の遺産相続分を、法律上の結婚をしている男女の間に生まれた子(嫡出子)の2分の1と定めていた民法の規定(第900条4号)が、日本国憲法第14条1項に定められた法の下の平等に反しているかどうかが争われた事件である。最高裁判所は、父母が法律上の婚姻関係になかったという、子にとっては自ら選択・修正する余地のない事柄を理由として、その子に不利益を及ぼすことは許されないとして、違憲判決を下した(2013年)。④議員定数の不均衡は、以前から選挙区によって一票の価値に差が生じる「一票の格差」問題として、日本国憲法第14条1項の法の下の平等に反するかどうかが何度も争われてきた。1972年に行われた衆議院議員選挙では最大4.99倍の格差が生じ、最高裁判所は違憲判決を下した(1976年)。また、1983年の衆議院議員選挙においても、最高裁判所は4.40倍の格差に対して違憲判決を下した(1985年)。ただし、両判決とも、選挙結果は有効とした。なお、参議院議員選挙については最高裁判所が違憲判決を下したことは一度もない。

## 第4問 日本の社会保障

### 【出題のねらい】

本問は、社会保障の歴史や日本の社会保障制度の内容などについて基本的な知識を幅広く試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

#### 問1 [24] ③

アメリカでは、ニューディール政策の一環として公的扶助と社会保険を統合した社会保障法が制定された(1935年)が、全国民を対象とした医療保険制度は整備されなかった。したがって、「全国民を対象とした医療保険制度が実現された」という記述は誤りである。

①イギリスで制定されたエリザベス救貧法(1601年)に基づき実施された生活困窮者に対する慈惠的な救済は、**公的扶助の始まり**とされている。②ドイツの首相ビスマルク(1815~98)は、**世界最初の社会保険制度**を創設した(1880年代)。その一方で、彼は社会主義者鎮圧法により労働運動などを弾圧した(「アメとムチの政策」)。④ベバリッジ報告(1942年)

は、「ゆりかごから墓場まで」の標語で有名な、戦後に整備されたイギリスの社会保障制度の原型を示した報告書で、国家の責任でナショナル・ミニマム(国民生活の最低基準)を実現することを目指した。

#### 問2 [25] ③

日本国憲法第27条は、国民に対して**勤労権**を保障している。この権利を実現するために**職業安定法**が制定され、**公共職業安定所(ハローワーク)**が設置されている。

①最高裁判所は、生活保護基準の違憲性が争われた朝日訴訟において、日本国憲法第25条の生存権の規定は国政運営上の指針を示したものであって、直接個々の国民に具体的な権利を保障したものではないとする考え方(プログラム規定説)を示した。したがって、「具体的な権利を与えたものであるとした」という記述は誤りである。②堀木訴訟は、障害福祉年金と児童扶養手当の併給禁止規定の違憲性が争われた訴訟である。最高裁判所は、この訴訟においても、日本国憲法第25条の意義について朝日訴訟判決と同様の考え方を示した上で、法律で併給禁止規定を設けるかどうかは国会の裁量に委ねられていると判断した。したがって、「障害福祉年金と児童扶養手当の併給を禁止した法規定を違憲であるとした」という記述は誤りである。④**労働組合法**は労働者が労働組合を結成し、団体交渉や争議行為をする権利、すなわち**労働三権(団結権、団体交渉権、争議権)**を具体的に保障している。この労働者の組合活動を妨害する使用者の行為を**不当労働行為**といい、労働組合法は使用者によるこのような行為を禁止している。しかし、使用者が工場や事業所を閉鎖する**作業所閉鎖(ロックアウト)**は、労働者の争議行為に対する対抗防衛手段として使用者に認められている争議行為で、不当労働行為にはあたらない。したがって、労働組合法が「使用者による作業所閉鎖…を不当労働行為として禁止している」という記述は誤りである。

#### 問3 [26] ④

1985年度の傷病・障害者世帯は44.7%で、被保護世帯の4割以上を占めている。

①被保護世帯の総数は、1985年度が約80万世帯、2010年度が約140万世帯であるから、2010年度の総数は1985年度の総数の約1.75倍になる。したがって、「1985年度の総数の2倍以上になっている」という記述は誤りである。②1995年度以降については高齢者世帯数が最も多いが、1985年度と1990年度については傷病・障害者世帯数が最も多い。したがって、「どの年度についても、高齢者世帯数が最も多

い」という記述は誤りである。③母子世帯の割合は、1985年度から2000年度にかけて減少しているが、2005年度はわずかに増加し、2010年度に再び減少している。したがって、「1985年度をピークに、その後は一貫して減少している」という記述は誤りである。

問4 [27] ②

合計特殊出生率は、1人の女性が生涯に出産する子どもの数の平均値のこと。日本の合計特殊出生率は、2005年に過去最低となる1.26となつたが、2012年には1.41にまで回復した。したがって、「1.0を下回っている」という記述は誤りである。

①平均寿命が伸びたことも高齢化の要因の一つであるが、一国の総人口に占める高齢者の割合の上昇が高齢化であるから、高齢化の最大の要因は少子化(出生率の低下)である。②1946年以降、日本の総人口は増え続けてきたが、2005年に初めて前年を下回り、「人口減少社会」へと突入した。④高齢化率(65歳以上の高齢者が総人口に占める割合)が7%(高齢化社会)から14%(高齢社会)に達するのに要した年数を先進国で比較すると、フランスが115年、スウェーデンが85年、イギリスが47年、ドイツが40年であるのに対し、日本は1970年に7%を超えてから1994年に14%を超えるまで24年しかかからなかつた。

問5 [28] ①

医療保険は、職種によって加入する制度が異なっている。民間の被雇用者は健康保険に、公務員などは共済組合保険に、被雇用者以外の自営業者や農家などは国民健康保険に、それぞれ加入することになっている。

②後期高齢者医療制度とは、老人保健法(1982年制定)に基づく老人保健制度に代わって導入された75歳以上の高齢者を対象とする医療保険のことである。2008年4月からスタートした。したがって、「65歳以上の全国民を対象とした」という記述は誤りである。③健康保険の被保険者本人の窓口負担(自己負担)の割合は、1984年にゼロから1割に、1997年に1割から2割に、2003年には2割から3割に引き上げられた。したがって、「徐々に引き下げられ、現在はゼロになっている」という記述は誤りである。④日本で初めての医療保険制度は、戦前の健康保険法(1922年制定)により導入された。したがって、「戦後になって初めて設けられた」という記述は誤りである。

問6 [29] ②

民間の被雇用者や公務員は、それぞれ厚生年金や

共済組合年金と基礎年金に加入することになっているが、被雇用者以外の自営業者などは国民年金(基礎年金)にのみ加入することになっている。

①年金の財源調達の方式には、主に二つのものがある。一つは積立方式で、在職中に積み立てた保険料で退職後の年金給付をまかなう方式である。もう一つは賦課方式で、年金給付に必要な財源をその年度の保険料などでまかなう方式である。したがって、「在職中に積み立てた保険料で退職後の年金給付をまかなう賦課方式」という記述は誤りである。なお、日本の財源調達方式は、積立方式から始まったが、現在は実質的に賦課方式に移行している。③国民年金(基礎年金)には、原則として20歳以上のすべての国民が加入しなければならず、学生や専業主婦なども加入義務がある。したがって、「学生や専業主婦などは加入しなくてもよい」という記述は誤りである。④厚生年金の定額部分および報酬比例部分の支給開始年齢は段階的に60歳から65歳へ引き上げられることが決まっており、男子の定額部分についてはすでに引き上げが完了している。また、年金財源の悪化への対策として、2004年の法改正で、厚生年金の保険料を段階的に引き上げるとともに、給付水準は厚生年金の受給開始時点で現役世代の年収の50%以上とすることになった。したがって、「支給開始年齢が引き下げられる一方、給付水準は現役世代の所得並みに引き上げられた」という記述は誤りである。

問7 [30] ④

ノーマライゼーションとは、高齢者や障害者を問わず、すべての人々が共に生活を送ることができる社会を目指そうとする考え方のことをいう。

①ワーク・ライフ・バランスの説明。ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と家事・育児・介護などの生活を調和させ、両立させることである。日本では、2007年に、政府と経済界、労働界、地方自治体の合意によって「ワーク・ライフ・バランス憲章」が策定され、その実現に向けた取組みが行われている。②ユニバーサルデザインの説明。ユニバーサルデザインとは、年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいように工夫された道具や建築物のデザインのことをいう。③ワーク・シェアリングの説明。ワーク・シェアリングとは、景気の後退などで業務量が減少したときに、雇用を確保するため、一人当たりの労働時間を減らし、仕事を分かち合うことをいう。

第5問 今日の人権保障の課題

### 【出題のねらい】

本問は、今日の人権保障について、人権の不可侵性とその制約、人身の自由、公務員の人権、人権の国際的保障など幅広い分野から出題し、日本国憲法が保障している人権について包括的な理解を深めてもらうことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

#### 問1 [31] ⑥

A 正しい。日本国憲法第37条3項は、刑事被告人が自ら弁護人を依頼することができないときは、国が弁護人を付すという**国選弁護人制度**を規定している。

B 誤り。憲法第38条3項は、「自己に不利益な唯一の証拠が本人の自白である場合には、有罪とされ、又は刑罰を科せられない」と規定している。したがって、自白が任意であるか強制であるかにかかわりなく、**証拠が本人の自白しかない場合は、有罪とされ刑罰を科されることはない**。

C 正しい。憲法第40条は、刑事手続において抑留または拘禁された被告人の無罪判決が確定した場合、被告人がその間に被った損失・不利益に対する補償を国に請求する権利(**刑事補償請求権**)を定めている。

以上から、正しい組合せは⑥となる。

#### 問2 [32] ①

設問文で説明した通り、各人がおかれている現実の状況を考慮し、取扱いに合理的な差異を設けて格差を是正しようというのが実質的平等の考え方である。従業員の一定割合を障害者の雇用にあてるなどを企業に義務づけるという施策は、障害者は健常者に比べ雇用の面で不利な立場におかれやすいという現状を考慮し、障害者の雇用を企業に義務づけるという、健常者とは異なる取扱いをすることで、障害者の権利を積極的に保障し、健常者との格差の是正を図ろうとするものであるから、この施策は実質的平等の考え方に基づくといえる。

②国民に対して等しく裁判を受ける権利を認めること、③すべての国民に対して義務教育を無償とすること、④性別を問わず、すべての国民に職業選択の自由を保障することは、いずれもすべての人を一律に取り扱おうとする形式的平等の考え方に基づく施策である。

#### 問3 [33] ①

難民条約第33条は、難民を迫害の恐れのある領域(国・地域)へ送還・追放してはならないという原則(**ノン・ルフルマンの原則**)を定めている。

②日本が1995年に**人種差別撤廃条約**の批准を機に

制定したのは、出入国管理法ではなく、**アイヌ文化振興法**(1997年)である。出入国管理法(出入国管理および難民認定法)は、1951年に制定された出入国管理令が、1981年に日本が**難民条約**と難民追加議定書に加入したのに伴い、改称・制定されたものである。③1966年に採択された**国際人権規約**は、**法的拘束力を有する条約**である。④**国際人権規約の自由権規約(B規約)**に付属する**第二選択議定書(死刑廃止条約)**は1989年に採択され、91年に発効しているが、死刑制度を存続させている日本やアメリカは同条約を批准していない。

#### 問4 [34] ④

日本国憲法第15条1項は**公務員の選定罷免権**を定めているが、日本には内閣総理大臣を国民投票で罷免するという制度は存在しない。

①公務員は、その職務の公益性から、**労働基本権**が制限されている。現行法では、警察職員・消防職員・防衛省職員・海上保安庁職員・刑事施設職員は、団結権・団体交渉権・争議権のすべてが否認されている。また、非現業の一般公務員は団体交渉権が制限されるとともに争議権が否認され、現業の公務員は争議権が否認されている。②国家公務員は、**国家公務員倫理規程(国家公務員倫理法)に基づき**、禁止される行為などを定めた内閣の政令により、許認可等の相手方、補助金等の交付を受ける者など、国家公務員の職務と利害関係を有する者(利害関係者)から金銭・物品の贈与や接待を受けたりすることなどを、社会通念上許容される場合を除き、禁止されている。③今日では、日本国籍を有さない者にも、一般行政職公務員の採用試験の受験資格を認めている地方自治体がいくつか存在する。

#### 問5 [35] ④

現政権の政策を批判したという理由で書籍の出版を差し止めることは、日本国憲法で保障されている**思想・良心の自由**(第19条)や**表現の自由**(第21条1項)の不当な侵害にあたるので、許されない。

①日本国憲法第18条は、「犯罪に因る処罰の場合を除いては、その意に反する苦役に服させられない」と規定しており、刑罰として刑事施設に拘置して所定の作業を行わせる(懲役)ことは認められている。②憲法第29条3項は、正当な補償の下に私有財産を公共のために用いることを認めている。③日本国憲法第22条1項は**職業選択の自由**を定めているが、同時にこの自由が「**公共の福祉**」により制限されることを明記している。それは、職業活動を無制限に認めると、場合によっては人々の安全や社会秩序が脅かされる恐れがあるからである。高度な専門

的知識や技能が求められる弁護士や医師など一定の職業に資格制を設けて、そうした知識や技能をもつ者に限り就業を認めているのはそのためである。

問6 [36] ⑥

A 「人種、信条、性別などに関係なく」というのは「すべての人間が人権を有する」という意味であるから、「普遍性」がこれに対応する特性となる。

B 「人間であることにより当然に有する」とは、人権は人間に「本来備わっている」という意味であるから、「固有性」がこれに対応する特性となる。

C 「奪うことはできない」とは、人権は「侵害されない」という意味であるから、「不可侵性」がこれに対応する特性となる。

以上から、正しい組合せは⑥となる。

## 倫理、政治・経済

### 【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	⑤	2		
	問2	2	⑧	3		
	問3	3	②	3		
	問4	4	①	3		
	問5	5	①	3		
第1問 自己採点小計				(14)		
第2問	問1	6	②	3		
	問2	7	③	2		
	問3	8	①	2		
	問4	9	⑥	3		
	問5	10	③	3		
	問6	11	①	2		
	問7	12	②	3		
第2問 自己採点小計				(18)		
第3問	問1	13	①	2		
	問2	14	②	2		
	問3	15	④	3		
	問4	16	⑦	3		
	問5	17	④	3		
	問6	18	④	2		
	問7	19	③	3		
第3問 自己採点小計				(18)		
第4問	問1	20	③	2		
	問2	21	③	3		
	問3	22	②	2		
	問4	23	②	2		
	問5	24	①	3		
	問6	25	④	2		
第4問 自己採点小計				(14)		

問題番号	設問	解番	答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	26	④	3		
	問2	27	①	3		
	問3	28	①	2		
	問4	29	⑦	3		
	問5	30	②	3		
	問6	31	②	2		
	問7	32	②	2		
第5問 自己採点小計				(18)		
第6問	問1	33	③	3		
	問2	34	③	2		
	問3	35	④	3		
	問4	36	②	2		
	問5	37	①	2		
	問6	38	②	3		
	問7	39	④	3		
第6問 自己採点小計				(18)		
自己採点合計				(100)		

### 【解説】

#### 第1問 環境と生命をめぐる諸問題

##### 【出題のねらい】

本問は、生命倫理・医療倫理を中心に、発達課題や女性論に関する問い合わせも設け、これらについての知識と理解を試すことをねらいとしている。あわせて、センター試験で出題される資料文読解問題の実践力も試そうとするものである。

##### 【設問別解説】

###### 問1 1 ⑥

心理学者のエリクソン(1902~94)は、人生を、乳児期・幼児期・遊戯期・学童期・青年期・成人初期・成人期・円熟期の各段階に区分し、それぞれの段階の心理・社会的危機(発達危機)について考察した。

彼によれば、青年期の主要な対人関係の範囲は、イ「リーダーシップのモデルになる人々」であるとし、成人初期のそれは、ウ「友愛・競争・協同などでの相手」だとしている。これに対し、ア「近隣・学校における仲間集団」が主要な対人関係の範囲だとされるのは、学童期である。したがって、a

にはイが、**b**にはウが、それぞれ入る。

そして、成人期に直面する発達危機として、才の「生産性の感覚と停滞の感覚との間」の危機を、円熟期の発達危機として、力の「自己完成の感覚と絶望や嫌悪の感覚との間」の危機をあげている。これに対し、工の「基本的信頼感覚と不信の感覚との間」の危機に直面するのは、乳児期だとしている。

したがって、**c**にはオが、**d**にはカが、それぞれ入る。

以上のことから、正解は⑥となる。

#### 問2 **2** ⑧

アトイは誤文。アの後半にある「元始、女性は実際に太陽であった」と述べたのは平塚らいてう(1886~1971)であり、イの後半にある「人は女に生まれない、女になるのだ」と述べたのはボーヴォワール(1908~86)である。すなわち、アトイの前半部分と後半部分を入れ替えれば、ともに正文となる。

ウも誤文。功利主義の学者として知られるミル(1806~73)は、民主的な社会改良を説き、その一環として女性選挙権の実現に尽力したので、これに「反対した」とするのは誤り。

以上のことから、正解は⑧となる。

#### 問3 **3** ②

ベーコン(1561~1626)が説いた「洞窟のイドラー」は、好き嫌いや思い込みなど個人的資質に根ざした先入見のことである。「個々の事物を超えた普遍的な本質を想定することから生じる」ものではない。

残る選択肢は、いずれも適当である。ベーコンがその排除を主張した四つのイドラーの特徴について、確認しておこう。

#### 問4 **4** ①

資料文は、科学哲学者のP. K. ファイヤーベント(1924~94)によるもので、村上陽一郎・村上公子共訳『自由人のための知~科学論の解体へ』(新曜社、1982年刊)から引用した。ファイヤーベントについての特段の知識は不要である。

資料文の冒頭では「科学的方法がすばらしい質のものである」というのは「ただそのように思い込まっている」にすぎないことが述べられ、それを受けて「科学的思考法……以外のやり方をまったく想像することもできない」のだと述べられている。①の記述が、この趣旨に合致しているので正解。

②資料文では「科学的思考法……以外のやり方をまったく想像することもできない」と述べているのだから、「宗教的思考方法」をも使っているとする内容の記述は不適当。③④資料文の最後の一文には、「かつて神学に関する論争のおはこであった議

論やあてこすりの方法は今日そのまま科学に移植されている」とある。すなわち、かつての神学の方法は今日の科学の方法と同じだとしているのであるから、⑤の「科学と神学とでは……大きな違いがある」という記述や、⑥「かつての教会に見られた……思い上がりを科学は克服している」という記述はともに不適当。

#### 問5 **5** ①

日本の法律では、乳幼児もドナー(臓器提供者)となることは可能なので、これを「なることはできない」としている記述は不適当。かつて臓器移植法(1997年制定)では、15歳未満の者の脳死体から移植のために臓器を摘出することは認められていなかった。しかし、同法が改正され(2009年)、この年齢制限は撤廃された。改正前の臓器移植法では、本人の書面による同意が摘出の絶対条件であったが、改正後は、本人の意思が不明な場合でも、家族の書面による同意があれば摘出が可能となった。乳幼児の場合には本人の意思は不明であるだろうが、その場合でも、家族の同意によって摘出できるわけである。

残る選択肢は、いずれも適当である。倫理的な議論となっている点を確認しておこう。なお、⑦の「患者の自己決定を重んじるべきだとする主張」の典型が、インフォームド・コンセント(医師が患者に十分に情報を与えた上で患者本人の同意や決定に基づいて治療を進めていくこと)である。

## 第2問 日本思想と東洋源流思想

### 【出題のねらい】

本問は、日本思想を中心に、東洋源流思想に関する問い合わせを設け、それらについての知識と理解を試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

#### 問1 **6** ②

空海(774~835)は、真言宗の開祖。真言宗とは、空海が中国で学んだ密教をベースに体系化した日本における仏教の一宗派である。空海の教えは、衆生救済を旨とする大乗仏教の理想を現実化しようとする精神にあふれたものであり、民衆の教育機関である総芸種智院(じゅうげいしゅぎょういん)の開學も、このような「衆生救済の教えの実践」の一環である。

①仏の超自然的な力が人に加わり、人がそれを受け取ることを加持と言い、このような仏の超自然的な力により病気や災難などを除くための祈りのことを加持祈禱と言う。空海は加持祈禱を重視したので、それを「認めず」という記述が不適当。ただし、「宇宙の真理……修行」とは空海の説いた即身

成仏のことであり、この部分は適当である。③最澄(767~822)についての記述。最澄は、日本天台宗の開祖。『法華經』を重視し、命あるものにはすべて仮性が宿っており、悟りへの道が開かれている(一切衆生悉有仮性)とした。④鑑真(688~763)についての記述。753年に来日して戒律を伝え、正式な僧侶としての資格(戒)を授けるために、東大寺に戒壇を設けた。

問2 [7] ③

[a] :「一切の苦しみから解放」された境地とあることから「涅槃寂靜」が入る。仏教の開祖ゴータマ・ブッダ(前463? ~前383?)は存在を相互依存・相互関係的なものとして捉えた。このように、存在を「縁あって起る」と捉える彼の考え方を「縁起」と呼ぶ。そして彼は、縁起を忘れ、自分一人で生きられるかのように誤解することが、様々な迷いとしての煩惱の基底にあるとした。だからこそ、煩惱を滅却し、縁起について正しく理解することで、悟りの境地に至ることができると主張した。彼はこの境地を涅槃寂靜と呼び、理想の境地と位置づけた。なお、諸法無我とは、それ自体で単独で存在するものはないというブッダの教えを示す言葉である。また、梵我一如は、バラモン教のウバニシャッド哲学において説かれるもので、宇宙の根源であるグラフマン(梵)と、自己の永遠不变の実体であるアートマン(我)が本来一体であることを悟れば、生まれ変わりを繰り返す輪廻の苦しみから解放される(解脱)，ということを示す言葉である。

[b] :「『空』の思想」を説いたとあるから「ナーラガルジュナ」が入る。ブッダの死後、仏教は様々な部派に分裂した。その後、生きとし生けるもの一切が、ブッダとなる可能性があることを強調する大乗仏教が生まれた。この大乗仏教の思想は、ナーラガルジュナ(竜樹、150? ~250?)によって確立したとも言われる。彼は、縁起の思想を発展させて、すべての事物は、固定した不变の実体をもたない(無自性)という、空の思想を説いた。なお、アサンガ(無著、310? ~390?)やヴァスパンドゥ(世親、320? ~400?)も大乗仏教の理論家だが、彼らは、すべての事柄は、心によって生み出された表象にすぎないという唯識の思想を説いた人物である。

問3 [8] ①

資料文は『法然全集第三卷』(大橋俊雄訳、春秋社、1989年刊)から引用した。この問答は、法然(1133~1212)の開いた浄土宗が、男女の別や身分・職業の違いにかかわらず、阿弥陀仏の本願を信じてひたすら「南無阿弥陀仏」をとなえること(専修念

仏)で、すべての人が往生できると説くものであることをよく表している。法然は遊女からの問い合わせに対して、遊女であることは罪深いが、往生のためには、阿弥陀の力を信じて、ただひたすら念佛となえなさい、としている。この趣旨に合致する①が正解となる。

②資料文の5~6行目には、「いのちをも心にかけないほどの強い悟りを求める心が起きなかつたらば、かまいませんから、現在の境遇のままで、ただひたすら念佛を申しなさい」つまり、命を捨てる覚悟ができなければそれでもかまわないので、遊女を続けながらでも、ひたすら念佛をしなさいという趣旨のことが書かれている。したがって、「すみやかに命を捨てて……と促している」という選択肢の記述は誤り。③資料文の7行目の「そなたのような罪深い人のためにこそ」以下を、「阿弥陀仏の救いの対象になるのは遊女のような一部の罪人だけである」と読めないこともないが、法然は①の解説でも触れたように、阿弥陀仏の本願にすがって念佛すれば、すべての人が往生できると説いたので、そのような読み方は誤認であり、資料文から法然が「罪ある生活……に誇りをもち」と述べているとは言えない。④「この世で罪ある生活を送れば救われることはなくなる」とあるが、法然は、遊女の生活について資料文の1~2行目で「罪のさわりが重い」としつつも、「すぐに世俗を離れ」なければ救われないとは言わずに、資料文の6行目で「現在の境遇のままで、ただひたすら念佛」することによっても救われるとしているので、「すぐに世俗を離れ……急がしている」という記述が不適当。

問4 [9] ⑥

ア：西川如見についての説明である。西川如見(1648~1724)は、儒学や西洋の学問を学び、独自の学識に至った町人思想家。主著『町人囊』(ちょうにんぶくろ)のなかで、「ただこの町人こそ樂しけれ」として、江戸に花開いた独自の町人文化に積極的な意味を見いたした。

イ：石田梅岩についての説明である。石田梅岩(1685~1744)は、商人としての体験を踏まえながら、儒学、神道、仏教などを学び、独自の心学(石門心学)を確立した。彼は、万物・万人は「我と天地と渾然たる一物」であり本来すべて同じ一つのものであるとした(「天の一物」)。そこから、封建的な身分関係を上下関係ではなく職分の相違とし、農民や商人・町人もそれぞれの職分について正しい実践をすることが天理にかなうとした。そして、商人の場合には、正当な商行為を心がけ(正直)，物を浪費

しないこと(僕約)が正しい生き方であると論じた。

ウ：山崎闇斎についての説明である。山崎闇斎(1618~82)は、藤原惺窓(1561~1619)に始まる京学ではなく、南木梅軒(生没年不詳)に始まる南学の系譜に属する朱子学者。朱子学における敬の重視を一層推し進め、それを厳格な修養の実践に反映させる独自の学風(崎門学派)の祖となる。また、儒学と神道を融合した垂加神道を創始した。

問5 [10] ⑧

朱子(1130~1200)は、万物に内在する宇宙の根本原理である理と、物質的な氣によって、世界を捉えた(理気二元論)。そして、理は人間にも内在しており(性即理)、理を把握するためには、私欲を抑制して(居敬)、理を探求すること(窮理)が必要であると主張した。

①「厳しい法律や刑罰により政治の安定を図る」という考え方は韓非子(?)~前233(?)の思想である。孔子(前551?~前479)は、為政者は徳を身につけた君子となることを目指して自らを修め、その為政者の徳の感化によって民衆を支配すること(修己治人)を理想とする、徳治主義の立場に立った。②孟子(前370?~前290?)によれば、人には徳の端緒である四端(他人の不幸を見過ごせない惻隱の心、自分の悪を恥じる羞惡の心、互いに譲り合う辞讓の心、善悪を判断する是非の心)が、生まれつきそなわっている。そして、四端を正しく育てることにより、仁・義・礼・智の四徳が身につくとした。さらに、四徳が心身に充実してくると、人生のいかなる局面においても動じない、浩然の氣があらわれてくると主張した。したがって、浩然の氣を「生来そなわる」としている点で誤っており、「惻隱の心」の定義も誤っている。③「良知がそなわっているわけではない」というのは誤り。王陽明(1472~1528)は、人には物事の正しい判断能力である良知が、生まれつきそなわっていると考え、良知を十分に働かせて生きること(致良知)を理想とした。

問6 [11] ①

西田幾多郎(1870~1945)は、『善の研究』において、主觀と客觀という区別以前の、主客未分の直接的な体験を「純粹経験」と呼び、そうした境地こそが根源的な哲学的探求の対象であるとした。そして、「個人あって経験あるにあらず、経験あって個人あるのである」として、個人としての自己は、体験(純粹経験)を通してあらわれてくるとした。このような彼の思索の方向性は、主觀と客觀、精神と物質などの区別を根本的なものだと考える西洋哲学を乗り越えていくこうとする、独創的なものであった。

④西田幾多郎ではなく、和辻哲郎の『風土』についての記述。このなかで、和辻は、世界の風土をモンスーン型、砂漠型、牧場型に分け、それぞれのもとで形成される民族の性格を論じた。このうち、この選択肢はモンスーン型について論じたもの。⑤和辻哲郎ではなく、夏目漱石(1867~1916)についての記述。⑥和辻哲郎(1889~1960)は『倫理学』において、個人も社会もそれ自体として存在しているのではなく、互いにあいまって存在するとした。そして、「人間とは、『世の中』であるとともにその世の中における『人』である」とし、「相互に絶対に他者であるところの自他がそれにもかかわらず共同的な存在において一つになる」という「二重性格の弁証法的統一」としての人間のあり方を間柄的存在と表現した。したがって、「人は生まれ落ちた共同体においてはじめて『人間』となり得る」という意味で「間柄的」と表現したわけではなく、「(共同体としての)社会こそが個人に先んじて存在している眞の実在」であるとして、社会が個人に先行しているとしたわけでもない。

問7 [12] ②

本文はまず、「己を空しくする」思想が、清明心という日本固有の精神においてだけでなく、「外来思想の受容と展開のなかで様々に変奏されてきた」(第2段落)としている。そして、その具体例として、鎌倉時代においては、他力本願を唱えた浄土宗、自力による悟りを唱えた道元(第3段落)、江戸時代においては、古学や国学(第4段落)、明治以降においては西田幾多郎や和辻哲郎の思想(第5段落)などを挙げている。この趣旨に合致する②が正解である。

①「『己を空しくする』精神に通じる部分だけを学び、そうでない部分についてはまったく受け入れてこなかったことが分かる」とあるが、本文は「己を空しくする」思想が外来思想を変容させてきた、としているのであって、最初から「己を空しくする」精神に通じる部分だけしか受け入れなかつた、としているわけではない。③本文は、「外来思想をそのまま受容しようとした」とは述べていない。④本文は、日本特有の思想を、「外来思想との徹底的な敵対関係において」発展してきたとは捉えていない。

### 第3問 西洋の思想

#### 【出題のねらい】

本問は、西洋の近現代思想を中心に、西洋源流思想に関する問い合わせも設け、これらについての知識と理解を

試すことをねらいとしている。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [13] ①

ルネサンスを代表するヒューマニスト(人文主義者)であるエラスムス(1466~1536)は、『痴愚神礼讃(愚神礼讃)』を著し、教会や聖職者の腐敗、戦争に明け暮れる王侯貴族の愚行を痛烈に批判し、キリスト教倫理に基づく平和を訴えたことで知られている。エラスムスに関しては、当時ラテン語訳しか公認されていなかった『新約聖書』のギリシア語原典を出版するなど文献学的な聖書研究への道を開いたことや、『自由意志論』において、信仰における自由意志の積極的な意義を主張したことも覚えておこう。

②カント(1724~1804)の倫理思想の説明である。カントは、自然法則に抗して道德法則に従い得る存在者である人間を「人格」と呼び、そのことに人間の尊厳の根拠を求めた。③「人間は考える葦である」と述べたパスカル(1623~62)の人間観の説明である。④「プロテstant教会」を「カトリック教会」にすれば、ルター(1483~1546)ら宗教改革者を想定した文章になる。

##### 問2 [14] ②

ライプニッツ(1646~1716)は、非物質的な極小の単位である無数のモナド(單子)を想定し、精神と物体の連関について一つの回答を与えた。すなわち、実体としての精神と物体を想定したデカルト(1596~1650)の残した問題(物心二元論、身心二元論)に対して、「モナドによって満たされている宇宙においては、精神と物体も調和するように作られている」という予定調和説を唱えた。

①「合理論の立場を徹底させて」を「経験論の立場を徹底させて」とすれば、心を「知覚の束」と考えたヒューム(1711~76)の認識論の説明である。③ライプニッツは合理論者であるから、ライプニッツの説明として「経験論の立場に立って」は不適当である。これは、心をタブラ・ラサ(白紙)と考えた経験論者のロックの認識論の説明である。④「存在することは知覚されることである」と主張した経験論者であるバークリー(1685~1753)の思想の説明である。

##### 問3 [15] ④

資料文は、実存主義の学者ハイデッガー(1889~1976)の著作『形而上学入門』(川原栄峰訳、平凡社ライブラリー)からの引用である。資料文では、古代ギリシア人は事物の真のあり方を「発現し滞在する支配」に見いだし、それを physis と呼んだが、

この語が単に「生まれる」ことを意味する「自然」<sup>ナトゥーア</sup>というラテン語に訳されたことで、その根源的な意味が損なわれたということ、そしてそのような傾向は中世以降も続き、物質的自然という限定された意味で用いられるようになってしまったということが述べられている。したがって、④の記述は、この趣旨に合致している。

①古代ギリシア人が「あらゆる事物はもともと物質的な本性を持つとした」という記述は、資料文の内容と合致しない。資料文の最後の部分では、すべての物がもともと物質的な本性を持っているという理解は、physis というギリシア語がもつ根源的な意味(「発現し滞在する支配」)を正確に捉えていないという趣旨のことが述べられている。②physis というギリシア語の根源的な意味が「ラテン語で『自然』と訳されたことによって完成され、その後、近代のみならず現代にいたるまで継承されてきている」という後半部分の記述は、資料文の内容と合致しない。資料文の前半部分では、このような「ラテン語訳では physis というギリシア語の初めの意味は既に押しのけられ」、それが中世以降も引き継がれてしまったという趣旨のことが述べられている。③古代ギリシア人が「現代の物理学が対象とするような自然の根本現象を意味する physis」を解説しようとしたという後半部分の記述は、資料文の内容と合致しない。資料文の最後の部分では、physis というギリシア語がもつ根源的な意味(「発現し滞在する支配」)を、現代の物理学の対象である「元素や原子や電子などの運動事象」に矮小化してしまうことに対する批判が述べられている。

##### 問4 [16] ⑦

ア：実存主義の先駆的な思想家であるニーチェ(1844~1900)の思想についての説明である。彼は、『悲劇の誕生』において、芸術を、合理性を意味する「アポロン的なもの」と反合理性を意味する「ディオニソス的なもの」という二つの衝動によって規定し、ショーペンハウアー(1788~1860)の意志哲学と作曲家のワーグナー(1813~83)の音楽にディオニソス的な力の再生を垣間見た。しかし、両者の生否定的なペシミズムには反対した彼は、キリスト教信仰が急速に影響力を失った(「神は死んだ」)19世紀後半のヨーロッパ世界にあって、人は、無意味なことが永遠にくり返される永劫回帰(永遠回帰)<sup>えいごうかいき</sup>の世界であろうとも、生を肯定する力への意志に従ってたくましく生きるべきであるとする超人思想を唱えるに至った。

イ：パレスチナで生まれアメリカで活躍した文学

研究者のサイード(1935~2003)の思想についての説明である。彼は、『オリエンタリズム』のなかで、近代西洋社会が東洋(オリエント)を後進的とみなすことによって、逆に自分たちを先進化され文明化された存在だと考え、植民地支配や人種差別を正当化してきたと批判した。彼は、このような思考方法を「オリエンタリズム」と呼んだ。

ウ：『全体性と無限』などで知られるレヴィナス(1906~95)の思想についての説明である。彼は、ハイデッガーの思想に代表される西洋思想は、理性的主体による自己中心的な暴力性(全体性)をそなえた思想であると批判した。しかし彼は、構造主義者やフーコー(1926~84)のように、近代的思考が作り出したとする「理性的主体」を無効であると主張することはなかった。むしろ、現象学などに依拠して、他者と共に生きる人間が倫理的に行動せざるを得ないことから、現代社会において解体された人間の主体性の回復を試みた。すなわち、レヴィナスは、「顔」として現前し「汝殺すなけれ」という他者の要求に応えざるを得ない存在となるとき、人は暴力的ではない、倫理的な主体となり得るのであるとして、「他者への責任を果たすことを出発点とした倫理を構築すべきであると主張した」。

以上により、⑦の組合せが正解となる。

#### 問5 [17] ④

a：試行錯誤を重ねて科学的探究を推し進めていく人間の能力」に注目すれば、「創造的知性」が入る。プログラマティズムを大成させたデューイ(1859~1952)は、人間の知性を、行動を通じて環境との関係を調整して生きていくための道具として捉え、問題解決能力とも言える創造的知性を育む教育の必要性を説いた。なお、道具としての知性を用いて社会を改良することを説く彼の考え方を道具主義と言うことも覚えておこう。「道具的理性」は、フランクフルト学派第一世代のホルクハイマー(1895~1973)とアドルフ(1903~69)が近代的理性のあり方を批判的に表現した用語。彼らによれば、近代的理性は、人間を野蛮から解放する啓蒙的理性であるだけでなく、人間や自然を支配・操作する道具的理性でもある。

b：デューイが、社会を改良し、人間生活の明るい未来を創造していくべきことを主張したことや、「為すことによって学ぶ」ことを基本とする問題解決学習の重要性を説いたことに照らして、創造的知性によって作成されるプランや行動原理は常に「仮説」とならざるを得ず、「定説」で「あり続け」ることはないと。

以上により、④の組合せが正解となる。

#### 問6 [18] ④

イスラーム教において、信者のつとめとされるものが、信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼という五行である。そのうち巡礼とは、生涯に一度、聖地メッカを訪れることがある。

①信仰告白とは、「アッラーをおいて神はなく、ムハンマドは神の使徒である」と証言することである。イスラーム教は唯一神アッラーへの絶対的帰依を説く宗教であり、ムハンマドがアッラーから授かった教えがその中心となっている。イスラーム教では、キリスト教のような神の子や救世主の存在を認めず、ムハンマドはあくまで預言者、すなわち人間にすぎない。したがって、「ムハンマドの他に神の子はない」という記述が、イスラーム教の思想内容と矛盾する。②礼拝とは、一日に5度、聖地メッカの方角に向かって跪拝することである。イスラーム教は偶像崇拜を固く禁じているので、「アッラーの像をつく」るという記述が、イスラーム教の思想内容と矛盾する。③喜捨とは、弱者を救済するため、信者が財力に応じて税を負担することである。④断食とはイスラーム暦9月(断食月)に、日の出から日没まで、水を含めた一切の飲食を断つことである。「昼夜を問わず一切の飲食を断つこと」ではない。

#### 問7 [19] ④

本文によれば、ルネサンス以後のヨーロッパは俗語が台頭し、思想が混乱した。この混乱に対して、ヨーロッパの人々は「アダムの言語」を求めたり普遍言語を構築したりしようとして、ヨーロッパ文化の統一を確保しようとした(第2、第3段落)。その流れのなかから現代の言語学が生まれた(第3、第4段落)が、それは、「規範倫理学を思想界から駆逐していった」(第5段落)。しかし、「人は言語を用いて思想を表現する」(第1段落)以上、現代の倫理学においても、言語学の成果を無視することもできない。それゆえ、ロールズ(1921~2002)らに代表される現代の倫理学は、言語学の成果を取り入れつつ、規範倫理学を駆逐しかねない言語学との対峙において成長していくことになる(第5段落)。この本文の趣旨に合致する④が正解である。

①「ルネサンス以後の俗語の台頭は、……現代の言語学が発展してきたとも言える」は、本文の趣旨と合致する。しかし、本文は「(言語学の発展に随伴して)それまで曖昧であった正義や善の概念規定も客観的なもの」になったとも、「(言語学の発展に随伴して)現代の規範倫理学の思索内容も豊かさを

増してきた」とも述べていない。むしろ第5段落にあるように、言語学の発展は「規範倫理学を思想界から駆逐していった」ので、正解とはならない。②ルネサンス以降のヨーロッパの思想界において「バベル以前に存在したと想定される……『アダムの言語』」を求める動きがあったとする第2段落の記述に照らして、「ルネサンス以後の思想界は、客觀性を欠く聖書をめぐる議論を駆逐しようとした」という記述が本文の趣旨と合致しない。また、①と同様、後半の記述も本文の趣旨と合致しないため正解とはならない。④後半の記述は本文の趣旨に合致するが、②同様、前半部分の記述が本文の趣旨と合致しないため正解とはならない。

#### 第4問 国際社会の動向と日本の課題

##### 【出題のねらい】

本問は、主に1990年代以降の日本の政治・経済各分野における動向や改革の動きに焦点を当てて、それについての知識の有無や理解の程度を測ることをねらいとしている。

##### 【設問別解説】

###### 問1 [20] ③

3か月以上海外に在住し、在外選挙人名簿に登録している日本国民は、大使館などの在外公館で、比例代表選挙だけではなく、衆議院の小選挙区と参議院の選挙区も含め、すべての国政選挙で投票することができる。かつては、比例代表選挙でしか投票できなかつたが、2005年に最高裁判所により違憲判決が下されたため、それを受け翌2006年に公職選挙法が改正され、現行の制度になった。

①重複立候補<sup>じゅうふくりつこうほ</sup>は衆議院議員選挙でのみ認められている制度で、小選挙区選挙の候補者を比例代表選挙の名簿にも登載することができるため、候補者が小選挙区選挙で落選しても、比例代表選挙で当選できる(復活當選)可能性がある。ただし、小選挙区選挙で落選した重複立候補者の得票数が、当該選挙区の有効投票総数の10分の1未満の場合には復活當選は認められない。②参議院の比例代表選挙は、全国を一つの単位として投票する方式であるが、その場合、有権者は候補者個人(名簿登載者)に投票しても、政党に投票してもどちらでもよい(非拘束名簿式比例代表制)。それに対して、衆議院の比例代表選挙では、全国を11のブロックに分け、各ブロックの有権者は政党に投票する(拘束名簿式比例代表制)。④衆議院や参議院の比例代表選挙で選出された議員は、選挙時に名簿を提出していた他の政党に移籍すると議席を失う。ただし、選挙後に結成され

た新党に移籍したり無所属になることは認められている。

###### 問2 [21] ③

地方交付税(交付金)とは、地方自治体の財源不足を補い、地方自治体間の財政格差を是正することを目的として、国税である所得税、酒税、法人税などの一定割合を国が地方自治体に交付するものという。図を見ると、Cは、国の歳入のうち、Bの一部が歳出にあてられたものであり、それが地方の歳入の一部となって歳出をまかなっていることがわかる。したがって、このCが地方の歳入不足を補填<sup>ほてん</sup>している地方交付税であり、Bが国税ということになる。参考までにあげておくと、Aは公債金、Dは地方税、Eは地方債を示している。

以上から、③が正解となる。

###### 問3 [22] ③

Bの時期に円高が急速に進んだのは、1985年にG5(先進5か国財務相・中央銀行総裁会議)で先進5か国がドル高是正に向けて外国為替市場に協調介入(ドル売り)を行うことで合意した(プラザ合意)ことによる。この合意の目的は、1980年代前半にアメリカのレーガン政権の経済政策によって拡大した貿易赤字と財政赤字という「双子の赤字」のうち、貿易赤字を縮小するため、ドル安に導くことにあった。プラザ合意に基づく協調介入の結果、急速に円高ドル安が進み、輸出に依存する日本経済は苦境に立たされた(円高不況)。

①アジア通貨危機はAの時期ではなく、1997年に発生した。この通貨危機はタイにおける通貨暴落をきっかけに生じ、その影響はアジアの各国に波及した。通貨暴落の理由は、大量に流入していた外国資本が急激に逃避したことにあるとされる。③「ギリシャの財政危機をきっかけとしたヨーロッパ経済の混乱」が起こったのはCの時期ではなく、2010年である。ギリシャでは、2009年に政権が交代したことをきっかけに粉飾財政が表面化し、財政赤字が深刻化していることが明らかになった(ギリシャ財政危機)。この影響により、ユーロに対する信用が揺らいだため、ユーロ安が進んだ。こうしたヨーロッパ経済の混乱が進んだ2010年には、経常収支の黒字国である日本の円に人気が集中し、円相場の高値傾向がみられた。④Dの時期に「日本の貿易収支の黒字額が大幅に増加した」というのは誤り。日本の貿易収支は、1980年代から2010年まで黒字を続けていたが、2011年に赤字に転落し、2012年も赤字を記録した。これは、東日本大震災後に各種機械製品の生産が停滞したことや歴史的な円高の影響を受けて輸出

が減少したことに加え、原子力に代わる火力発電用の燃料の輸入が拡大したためである。なお、Dの時期に「円の対ドル為替相場が戦後最高値を記録した」とする記述は適当である(2011年10月には1ドル75円台の最高値を記録した)。

問4 [23] ②

1990年代後半以降になると、特例国債(赤字国債)の発行額が建設国債の発行額を上回るようになり、2000年代以降は国債発行額の7~8割を占めるまでになっている。たとえば2012年度の場合、国債発行額474,650億円のうち、特例国債の発行額は360,360億円で、国債発行額の約76%に達している。

①1990年代の初めの一時期(1990~93年度)に発行がゼロになったのは特例国債だけであり、建設国債はその間も継続して発行されている。②国債残高(過去に発行された国債のうち、まだ償還されていない国債の合計額)は、日本で戦後初めて国債が発行された1965年以来、毎年一貫して増加を続けていた。したがって、2000年代以降は減少する傾向にあるというのは誤りである。なお、2014年度末の国債残高は、約780兆円になると見込まれている。④1980年代から今日までの国債依存度の推移をおおまかに見ると、1980年度から88年度まではほぼ下がり続け、89年度から91年度は横ばいとなり、92年度以降は上昇傾向を示している(この間、年度ごとに細かく見れば、下降局面でも上昇している年度はあるし、上昇局面でも下降している年度もある)。したがって、「1980年代から今日まで一貫して上昇を続けている」というのは誤りである。

問5 [24] ①

2011年、インドと日本との間でEPA(経済連携協定)が締結され、同年に発効した。EPAとは、貿易の障害となる関税の軽減・撤廃だけでなく、投資や人的交流など幅広い分野で経済的協力を進めることを目的とする協定である。

③中国の外貨準備高は、2006年に日本を上回って以来、世界第1位となっている。したがって、2010年以降に「アメリカ、日本に次ぐ世界第3位となった」という記述は誤り。なお、外貨準備高とは、国際収支の不均衡の是正や為替相場介入のために一国の通貨当局が保有する準備資産のこと、外貨や金・SDR(IMF特別引出し権)などからなる。③「上回っている」は誤り。2012年の一人当たりGDP(国内総生産)は、韓国が23,180ドルであるのに対し、日本は48,324ドルとなっている。④「下回っている」は誤り。シンガポールの輸出依存度(輸出額の対GDP比)はもともと高い傾向にあり、日本の

それをはるかに上回っている。2012年の輸出依存度は、シンガポールが147.7%であるのに対し、日本は13.4%となっている。

問6 [25] ④

ア 市中銀行は、受け入れた預金の一定割合を日本銀行に支払い準備金として預けておかなければならぬが、この割合を預金準備率(支払準備率)という。インフレーションを抑制するには、この預金準備率を引き上げなければならない。また、日本では、金融政策の一環としてこの預金準備率を操作する預金準備率操作は1991年以降、行われていない。したがって、この選択肢は誤りである。

イ 日本銀行は、1990年代末から不況対策として政策金利(無担保コール翌日物金利)を実質ゼロにする金融政策(ゼロ金利政策)を断続的に行ってきていた(1999~2000年、2001~06年、2010年~)。したがって、この選択肢は正しい。なお、無担保コール翌日物金利とは、金融機関同士が担保なしで短期資金(翌日に返済)を貸し借りする際の金利である。

ウ 日本銀行は、景気を刺激しデフレーションから脱却するために、2001年から06年にかけて買いオペレーションを実施し、市中銀行の資金保有量(日銀当座預金残高)を増加させる政策(量的緩和政策)を行った。したがって、この選択肢は正しい。

以上から、④が正解となる。

## 第5問 日本国憲法と立憲主義

### 【出題のねらい】

本問は、近代民主政治の基本的原理の成立過程と、それらの原理が日本国憲法にどのように反映されているかということについて、基本的知識を確認することをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 [26] ④

グロチウス(1583~1645)はオランダの法学者である。彼は、ヨーロッパを舞台とした宗教戦争である三十年戦争(1618~48)の最中に『戦争と平和の法』(1625年)を著し、国際社会においても、諸国家が守るべき法(国際法)が自然法として存在するとといった。そのため、グロチウスは「国際法の父」と呼ばれる。また、彼は、自然法が神の法に由来するとする中世の自然法思想に対し、自然法を人間の本性(理性)に基づく法ととらえたため、「近代自然法の父」とも呼ばれる。

①自然法の歴史は古く、その起源は古代ギリシャやローマに遡ることができる。また、近代、とくに19世紀のヨーロッパでは、自然科学の飛躍的な発達

を背景に、実証主義(科学の対象を経験的事実に限定し、超経験的な実在を認めないとする思想)が台頭し、大きな影響力をもつようになつたため、自然法思想は衰退した。したがつて、「自然法思想は、自然科学の…発達を背景として、近代のヨーロッパで生まれた」というのは誤り。**②ルソー**(1712~78)がいう、「人民の一般意志によって制定される法」は、自然法ではなく、法律などの**実定法**(人為の法)であるから誤り。また、自然法は、人間の本性や理性に基づき、あらゆる時代において普遍的に妥当する法であり、実定法のように人間の作為によってつくられるものではないから、自然法が人民によって「制定される」という表現自体が、そもそも誤りである。**③法の支配**は、為政者の権力の行使を法で拘束し、権力の濫用から国民の人権を守ろうとする原理であるから、自然法であるか否かを問わず、法によって国民の自由を制限する原理であるというのは誤りである。なお、イギリスの裁判官コーク(クック)(1552~1634)が引用したことでも有名な「国王といえども神と法の下にある」という同じくイギリスの裁判官ブラクトン(1216~68)の言葉には、法の支配の原理が端的に示されている。

問2 [27] ①

**アメリカ独立宣言**(1776年採択)は、アメリカ東部13の植民地がイギリスから独立するにあたり、全会一致で採択された宣言であり、のちに第3代アメリカ大統領になるジェファーソン(1743~1826)によって起草された。**ロック**(1632~1704)の自然権思想の影響を受け、この宣言には自然権や人民の革命権については明記されているが、「男女平等の普通選挙」は明記されていない。

**②バージニア権利章典**(1776年制定)は、アメリカ東部13州がそれぞれ制定した憲法に先駆けて制定されたもので、**自然権を保障した世界で最初の人権宣言**である。**③フランス人権宣言**(1789年採択)は、正式名称を「人および市民の権利の宣言」といい、フランスの軍人・政治家のラファイエット(1757~1834)によって起草された。人間の自由や平等などを自然権として保障するとともに、「**権利の保障**が確保されず、**権力の分立**が規定されないすべての社会は、憲法をもつものではない」(第16条)と規定して、権力の分立が人権保障にとって不可欠であることを強調している。**④権利章典**(1689年制定)は、歴史的に形成されてきたイギリス国民の伝統的な権利(自然権としてとらえられてはいない)を議会が国王に承認させ、成文化したものである。王権の制限と議会主権、国民のさまざまな権利が明記され、「國

王は君臨すれども統治せず」というイギリスの立憲君主制の出発点となった。

問3 [28] ①

選択肢にある国の中、**不文憲法**をもつ国はイギリスのみであり、アメリカ・ドイツ・日本は**成文憲法**をもつ。

また、イギリスには憲法典が存在せず、憲法は議会が制定した法律や裁判所の判例などの形式をとっているので、議会は通常の法律と同様の改正手続で憲法を改正することができる。したがつて、イギリスの憲法は基本的に**軟性憲法**である。

他方、成文憲法は、その改正について通常の法律の改正の場合よりも厳格な手続が求められる場合が多く、成文憲法であるアメリカ・ドイツ・日本の憲法も**硬性憲法**である。

以上のことから、①はA、②・③・④はDに、それぞれ該当する。

問4 [29] ⑦

A 正しい。日本が**ポツダム宣言**を受諾し、連合国占領下におかれた後、連合国軍最高司令官のマッカーサーから憲法改正の示唆を受けた幣原内閣(1945~46)は、**憲法問題調査委員会**を発足させ、大日本帝国憲法の改正作業に着手した。

B 正しい。憲法問題調査委員会は、国務大臣の松本烝治(1877~1954)を委員長として憲法改正作業を進めたが、同委員会が作成した憲法改正案(**松本案**)は、天皇が統治権を総揽するなど大日本帝国憲法の基本原則を維持したものであったため、GHQはこれを拒否した。日本政府の姿勢に不信をもったGHQは、マッカーサー三原則(天皇を元首とすること、戦争放棄、封建的諸制度の廃止)に基づいて、自ら憲法改正案を作成し(**マッカーサー草案**)、日本側に提示した。

C 正しい。マッカーサー草案はいくつかの修正を加えられた後、日本政府の憲法改正案として確定された。その後、この憲法改正案は、大日本帝国憲法の改正手続に従い、枢密院での審議を経て帝国議会に提出され、一部修正された上で可決された。議会を通過した憲法改正案は、日本国憲法として1946年11月3日に公布され、1947年5月3日に施行された。

以上から、⑦が正解になる。

問5 [30] ②

**内閣不信任決議権**は衆議院のみに認められているため(日本国憲法第69条)、たとえ参議院で内閣に対する不信任を決議(問責決議)したとしても、内閣を総辞職させる法的な効果は生じない。また、衆議院

において内閣不信任決議案が可決された場合も、「**10日以内**に衆議院が解散されない限り、総辞職をしなければならない」(日本国憲法第69条)のであって、ただちに総辞職をせずに衆議院を解散するという選択肢もある。なお、衆議院の内閣不信任決議の有無にかかわらず、内閣は任意に衆議院を解散できるとされており、その場合、内閣は天皇に**助言**と**承認**を行い、天皇の**国事行為**として衆議院を解散する(日本国憲法第7条3号)。

①内閣によって制定される命令を**政令**と呼ぶ。政令には、法律を執行するためのもの(執行命令)と、**法律の委任**に基づくもの(委任命令)がある。後者は、本来法律において定めるべき事柄を、法律の委任を受け政令において定めることで、この場合に限っては政令に罰則を設けることができる(日本国憲法第73条6号)。②公正な裁判を行うために、裁判官には職権の独立が保障されており(日本国憲法第76条3項)，それを担保するために、「裁判官の懲戒処分は、行政機関がこれを行ふことはできない」(日本国憲法第78条)ことになっている。③地方自治体の首長およびその議会の議員は、住民の直接選挙で選ばれる(日本国憲法第93条2項)。

#### 問6 [31] ②

ア 湾岸戦争(1991年)の際に、とくにアメリカから強く個人的貢献を求められた日本は、戦争終結後の1991年に、海上自衛隊の掃海部隊をペルシャ湾に派遣し、イラク軍が敷設した機雷の除去を行った。

イ イラク戦争終結後の2003年に**イラク復興支援特別措置法**が制定され、自衛隊がイラクに派遣された。

ウ 2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロを受け、同年10月に**テロ対策特別措置法**が制定され、アフガニスタンで「対テロ戦争」を行うアメリカ軍の後方支援を行うために、自衛隊の艦船が印度洋へ派遣された。

以上から、正解は②となる。

#### 問7 [32] ②

愛媛玉串料訴訟では、靖国神社に愛媛県が玉串料として公金を支出したことが日本国憲法第20条3項および第89条が規定する**政教分離の原則**に反するかどうかが争われた。最高裁判所は、愛媛県の行為は、憲法が規定する政教分離の原則に違反するとして違憲判決を下した(1997年)。

①③④は、いずれも日本国憲法第14条の**法の下の平等**に関する争われた訴訟事件であり、政教分離の原則をめぐって争われた訴訟事件ではないので、正解とはならない。①かつて刑法は、自己または配偶

者の父母・祖父母などを殺害する尊属殺人の法定刑を死刑もしくは無期懲役に限り、通常の殺人より著しく重い罰則規定(第200条)を設けていた。しかし、父親から性的虐待を受けていた娘が父親を殺害した事件において、最高裁判所は、この重罰規定は日本国憲法第14条1項に定められた法の下の平等に違反するとして違憲判決を下した(1973年)。②法律上の結婚をしていない男女の間に生まれた子(非嫡出子/婚外子)の遺産相続分を、法律上の結婚をしている男女の間に生まれた子(嫡出子)の2分の1と定めていた民法の規定(第900条4号)が、日本国憲法第14条1項に定められた法の下の平等に反しているかどうかが争われた事件である。最高裁判所は、父母が法律上の婚姻関係になかったという、子にとっては自ら選択・修正する余地のない事柄を理由として、その子に不利益を及ぼすことは許されないとして、違憲判決を下した(2013年)。③議員定数の不均衡は、以前から選挙区によって一票の価値に差が生じる「**一票の格差**」問題として、日本国憲法第14条1項の法の下の平等に反するかどうかが何度も争われてきた。1972年に行われた衆議院議員選挙では最大4.99倍の格差が生じ、最高裁判所は違憲判決を下した(1976年)。また、1983年の衆議院議員選挙においても、最高裁判所は4.40倍の格差に対して違憲判決を下した(1985年)。ただし、両判決とも、**選挙結果は有効**とした。なお、参議院議員選挙については最高裁判所が違憲判決を下したことはない。

### 第6問 日本の社会保障

#### 【出題のねらい】

本問は、社会保障の歴史や日本の社会保障制度の内容などについて基本的な知識を幅広く試すことをねらいとしている。

#### 【設問別解説】

##### 問1 [33] ③

アメリカでは、ニューディール政策の一環として公的扶助と社会保険を統合した**社会保障法**が制定された(1935年)が、**全国民を対象とした医療保険制度は整備されなかった**。したがって、「全国民を対象とした医療保険制度が実現された」という記述は誤りである。

①イギリスで制定されたエリザベス救貧法(1601年)に基づき実施された生活困窮者に対する慈惠的な救済は、**公的扶助の始まり**とされている。②ドイツの首相ビスマルク(1815~98)は、**世界最初の社会保険制度**を創設した(1880年代)。その一方で、彼は社会主義者鎮圧法により労働運動などを弾圧した

(「アメとムチの政策」)。④ベバリッジ報告(1942年)は、「ゆりかごから墓場まで」の標語で有名な、戦後に整備されたイギリスの社会保障制度の原型を示した報告書で、国家の責任でナショナル・ミニマム(国民生活の最低基準)を実現することを目指した。

問2 [34] ④

日本国憲法第27条は、国民に対して勤労権を保障している。この権利を実現するために職業安定法が制定され、公共職業安定所(ハローワーク)が設置されている。

①最高裁判所は、生活保護基準の違憲性が争われた朝日訴訟において、日本国憲法第25条の生存権の規定は国政運営上の指針を示したものであって、直接個々の国民に具体的権利を保障したものではないとする考え方(プログラム規定説)を示した。したがって、「具体的権利を与えたものであるとした」という記述は誤りである。②堀木訴訟は、障害福祉年金と児童扶養手当の併給禁止規定の違憲性が争われた訴訟である。最高裁判所は、この訴訟においても、日本国憲法第25条の意義について朝日訴訟判決と同様の考え方を示した上で、法律で併給禁止規定を設けるかどうかは国会の裁量に委ねられていると判断した。したがって、「障害福祉年金と児童扶養手当の併給を禁止した法規定を違憲であるとした」という記述は誤りである。③労働組合法は労働者が労働組合を結成し、団体交渉や争議行為をする権利、すなわち労働三権(団結権、団体交渉権、争議権)を具体的に保障している。この労働者の組合活動を妨害する使用者の行為を不当労働行為といい、労働組合法は使用者によるこのような行為を禁止している。しかし、使用者が工場や事業所を閉鎖する作業所閉鎖(ロックアウト)は、労働者の争議行為に対する対抗防衛手段として使用者に認められている争議行為で、不当労働行為にはあたらない。したがって、労働組合法が「使用者による作業所閉鎖…を不当労働行為として禁止している」という記述は誤りである。

問3 [35] ④

1985年度の傷病・障害者世帯は44.7%で、被保護世帯の4割以上を占めている。

①被保護世帯の総数は、1985年度が約80万世帯、2010年度が約140万世帯であるから、2010年度の総数は1985年度の総数の約1.75倍になる。したがって、「1985年度の総数の2倍以上になっている」という記述は誤りである。②1995年度以降については高齢者世帯数が最も多いが、1985年度と1990年度については傷病・障害者世帯数が最も多い。したがつ

て、「どの年度についても、高齢者世帯数が最も多い」という記述は誤りである。③母子世帯の割合は、1985年度から2000年度にかけて減少しているが、2005年度はわずかに増加し、2010年度に再び減少している。したがって、「1985年度をピークに、その後は一貫して減少している」という記述は誤りである。

問4 [36] ②

合計特殊出生率は、1人の女性が生涯に出産する子どもの数の平均値のこと。日本の合計特殊出生率は、2005年に過去最低となる1.26となつたが、2012年には1.41にまで回復した。したがって、「1.0を下回っている」という記述は誤りである。

①平均寿命が延びたことも高齢化の要因の一つであるが、一国の総人口に占める高齢者の割合の上昇が高齢化であるから、高齢化の最大の要因は少子化(出生率の低下)である。②1946年以降、日本の総人口は増え続けてきたが、2005年に初めて前年を下回り、「人口減少社会」へと突入した。③高齢化率(65歳以上の高齢者が総人口に占める割合)が7%(高齢化社会)から14%(高齢社会)に達するのに要した年数を先進国で比較すると、フランスが115年、スウェーデンが85年、イギリスが47年、ドイツが40年であるのに対し、日本は1970年に7%を超えてから1994年に14%を超えるまで24年しかからなかつた。

問5 [37] ①

医療保険は、職種によって加入する制度が異なっている。民間の被雇用者は健康保険に、公務員などは共済組合保険に、被雇用者以外の自営業者や農家などは国民健康保険に、それぞれ加入することになつていて。

②後期高齢者医療制度とは、老人保健法(1982年制定)に基づく老人保健制度に代わって導入された75歳以上の高齢者を対象とする医療保険のことで、2008年4月からスタートした。したがって、「65歳以上の全国民を対象とした」という記述は誤りである。③健康保険の被保険者本人の窓口負担(自己負担)の割合は、1984年にゼロから1割に、1997年に1割から2割に、2003年には2割から3割に引き上げられた。したがって、「徐々に引き下げられ、現在はゼロになっている」という記述は誤りである。④日本で初めての医療保険制度は、戦前の健康保険法(1922年制定)により導入された。したがって、「戦後になって初めて設けられた」という記述は誤りである。

問6 [38] ②

民間の被雇用者や公務員は、それぞれ**厚生年金**や**共済組合年金**と**基礎年金**に加入することになっているが、被雇用者以外の自営業者などは**国民年金(基礎年金)**にのみに加入することになっている。

①年金の財源調達の方式には、主に二つのものがある。一つは**積立方式**で、在職中に積み立てた保険料で退職後の年金給付をまかなう方式である。もう一つは**賦課方式**で、年金給付に必要な財源をその年度の保険料などでまかなう方式である。したがって、「在職中に積み立てた保険料で退職後の年金給付をまかなう賦課方式」という記述は誤りである。なお、日本の財源調達方式は、積立方式から始まったが、現在は実質的に賦課方式に移行している。③**国民年金(基礎年金)**には、原則として**20歳以上のすべての国民**が加入しなければならず、学生や専業主婦なども加入義務がある。したがって、「学生や専業主婦などは加入しなくてもよい」という記述は誤りである。④厚生年金の定額部分および報酬比例部分の支給開始年齢は段階的に**60歳から65歳へ引き上げ**られることが決まっており、男子の定額部分についてはすでに引上げが完了している。また、年金財源の悪化への対策として、2004年の法改正で、厚生年金の保険料を段階的に引き上げるとともに、給付

水準は厚生年金の受給開始時点で**現役世代の年収の50%以上**とすることになった。したがって、「支給開始年齢が引き下げられる一方、給付水準は現役世代の所得並みに引き上げられた」という記述は誤りである。

問7 [39] ④

**ノーマライゼーション**とは、高齢者や障害者を問わず、すべての人々が共に生活を送ることができる社会を目指そうとする考え方のことをいう。

①ワーク・ライフ・バランスの説明。**ワーク・ライフ・バランス**とは、仕事と家事・育児・介護などの生活を調和させ、両立させることである。日本では、2007年に、政府と経済界、労働界、地方自治体の合意によって「ワーク・ライフ・バランス憲章」が策定され、その実現に向けた取組みが行われている。②ユニバーサルデザインの説明。**ユニバーサルデザイン**とは、年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいように工夫された道具や建築物のデザインのこと。③ワーク・シェアリングの説明。**ワーク・シェアリング**とは、景気の後退などで業務量が減少したときに、雇用を確保するため、一人当たりの労働時間を減らし、仕事を分かち合うことをいう。

---

を手放すことを決めたのは筆者自身であるうえ、その決定が取り下げになつたことについては、本文に記されていない。よつて⑥も誤りである。

④「年を取り病氣となつて『樊素』と別れ『駱』を手放す決意をしたが、『駱』の鳴き声を聞き『樊素』の別れの挨拶を受けると、惜別の思いを抑え切れなかつた」は、「年を取り病氣となつて『樊素』と別れ『駱』を手放す決意をした」も「『駱』の鳴き声を聞き『樊素』の別れの挨拶を受けると、惜別の思いを抑え切れなかつた」も、ともに本文に述べられている内容であり、筆者が詩を作った経緯を説明したものとしてふさわしい。

したがつて正解は④である。

いたのである。この訳に従つて選択肢を検討すると、①「別れを望んでいた『樊素』の心情を代弁して」、②「主人の死を予感して悲しみ悼む気持ちが込められている」、④「やつと主人と別れることができたのだから喜んでいる」、⑥「樊素」との別れを惜しむ主人の思いを理解している」は、どれも誤りである。したがつて正解は、③「『駱』の鳴き声には、主人との別れを知つて思いが募つてゐるかのような響きがあった」である。

#### 問5 書き下し文の問題

傍線部Cには、「非<sup>あらざ</sup>——」と「不<sup>はず</sup>——」という二つの否定形が連続して用いられている。このような形を「否定の連用」といふ。(2)基本句形の該当項目を参照)、上に置かれる否定形は「——でなければ」、「——ではない」など条件の意味を示す。つまり、否定形「非<sup>あらざ</sup>——」(——ではない)、「不能<sup>あたへ</sup>——」(——できない)のうち、「非」を「——に非<sup>あらざ</sup>ば」「——に非<sup>あらざ</sup>れば」と、条件の意味になるよう書き下す必要がある。

以上のこと踏まえて選択肢を検討すると、③「聖達を非<sup>あらざ</sup>る」、⑥「聖達に非<sup>あらざ</sup>る」は、「非」を否定形ではなく動詞「非<sup>あらざ</sup>る(批難する)」として讀んでいるので誤りである。また、「不能」を「能くせず」と讀んでいは、②「予聖達に非<sup>あらざ</sup>れば情を忘れる能はず」(私は聖人や達人ではないので感情を忘れ去ることはできない)である。

#### 問6 筆者が詩を作った経緯を説明する問題

本文の流れをまとめるに、次のようになる(本文解説)を参考)。

- 筆者が身辺整理を始める。



- 年老いた筆者が中風にかかる。



・「樊素」には暇を与え「駱」は手放すことにする。

・「駱」が売られていくのを目にして、「樊素」が泣きながら暇乞いをするのを見ると別れがたく、「駱」を引き戻し「樊素」と酒を飲むことにする。



・酒を飲み、感情を制御できない自分をあざ笑う詩を作る。

以上のことを踏まえて選択肢を検討する。

①「老齢になり病に倒れた上に、詩さえも思うように作れなくなつたが、「樊素」と別れの酒を酌み交わしているうちに、いつの間にか詩句を口ずさんでいた」は、「詩さえも思うように作れなくなつていていた」とあるが、筆者は酒を飲みながらとも簡単に詩を作っているうえ、筆者が詩を作れなくなつていてことを示す記述は本文には見えないので、誤りである。

②「病気にかかり人生も残り少なくなつて、財産をなくし「樊素」にも見捨てられてしまつたので、せめて詩人としての名声だけは失いたくないともがいていた」は、「財産をなくし「樊素」にも見捨てられてしまつた」とあるが、筆者は財産を処分しようとしただけであり、また「樊素」に見捨てられたわけでもないので、誤りである。

③「人生も残りわずかになつて、ようやく「樊素」のような素晴らしい女性に出会えたことを喜びつつも、なぜ若く元気な時に彼女に出会えなかつたのかと運命を恨んだ」は、「なぜ若く元気な時に彼女に出会えなかつたのかと運命を恨んだ」という点が本文には書かれていない内容なので、誤りである。

⑥「年老いて病氣となり自分には何も無くなつたと諦めていたが、「樊素」と別れずにすみ「駱」も手放さずにすむことになつたので、作詩の意欲が新たに湧き起つてきた」は、「樊素」と別れずにすみ「駱」も手放さずにすむことになつた」とあるが、身辺整理のために「樊素」と「駱」

残そうとしている」、③「人生に希望が持てず自暴自棄になつていて」、④「世俗とは縁を切つて隠棲しようとしている」、⑤「せめて一日一日を存分に楽しもうとしている」は、すべて傍線部から読み取れる筆者の状況の説明としては誤りであり、②「余生に必要のない家財を処分し始めている」のみが、正しく筆者の状況を説明している。したがつて正解は②である。

### 問3 指示内容の問題

波線部①を含む一文「人多以<sup>クテ</sup>曲名<sup>ヲ</sup>名<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>」を「以<sup>テ</sup>」の用法に注意して訳すと、「人々の多くが曲名を『之』に名づけた（＝『之』のあだ名とした」と訳せる（〔1〕重要語）の該当項目を参照）。この「曲名」は（注5）によれば「楊枝」という楽曲であり、この楽曲を上手に歌うのは、芸妓の「樊素」である。よつて、波線部④は「樊素」を指すと分かる。

波線部⑥の選択肢は、「樊素」と「駱」であり、直前にある「放」は「放<sup>はな</sup>つ」と読んでいるから、「追いやる」「手放す」という意味であると分かる。「放牧」などの熟語を考えると「駱」を選びたくなるかも知れないが、本文中に「駱」が登場するのは波線部⑥の直後であることに注意してほしい。指示語「之」は前に出でてきたものを指すのが原則であるから、後の「駱」を指すとは考えにくい。よつて、波線部⑥は「樊素」を指すことになる。

波線部④の選択肢は、「駱」と「圉人」であり、直前にある「鬻」は「鬻<sup>ひき</sup>ぐ」と読み、意味は（注9）にあるように「売る」である。仮に、波線部④を「圉人」とすると「馬の飼育係を売る」となり、波線部④を含む文の直前にある「籍在<sup>リ</sup>経物中<sup>ニ</sup>」（この馬も出費の項目の一つとしてあげられている）と意味が正しくつながらない。また、「圉人」は波線部④の後に初めて登場するのであるから、波線部④が後にくる「圉人」を指すとは考えられない。よつて、波線部④は「駱」を指すことになる。

以上を踏まえ、④「樊素」・⑥「樊素」・④「駱」とする組合せを選択肢から探すと、合致するのは⑥である。したがつて正解は⑥である。

### 問4 戻り点の付け方と書き下し文の問題

傍線部Bの「似」には文字どおり「——に似ている」という意味もあるが、「A<sup>ハ</sup>似<sup>ヒタリ</sup>——（Aは——のようだ）」（〔1〕重要語）の該当項目を参照）という「A<sup>ハ</sup>如<sup>ヒシ</sup> B（AはBのようだ）と同じ用法がある。また、傍線部の末尾にある「——者（——するもの）・——すること・——する人」（〔1〕重要語）の該当項目を参照）は、「——」部分を名詞にする働きを持つため、「知去而旋恋者」はひとまとまりの名詞だと考えられる。つまり、傍線部の「聲音間（馬の鳴き声）」が「知去而旋恋者」のようだと述べているのである。「間」は、名詞の後に付いて空間や時間を示す語であるが、ここでは、「馬の鳴く声の中」、つまり、「馬の鳴き声」という意味に解しておけばよい。

以上のことを踏まえると、構造を取り違えて「似」の読みを誤つてゐる②・④、「似」が「知<sup>レ</sup>去」までしかかっていない③は、いずれも誤りである。

〔似〕のかかり方を正しく捉えているのは、①・⑥のみであるが、⑥は「知去而旋恋」の部分を「知<sup>レ</sup>去而旋恋」と戻り点を付け、「去りて旋つて恋を知る」と書き下しているが、このように「知」の目的語として「恋」を読むには、「知<sup>レ</sup>恋」の語順のように、「知」の直後に「恋」が置かれてはいけない。よつて、⑥も誤りとなる。

したがつて正解は①であり、戻り点は「聲音間似<sup>ヒタリ</sup>知<sup>レ</sup>去而旋恋者」、書き下し文は「聲音の間去るを知りて旋つて恋ふる者に似たり」となる。

### 解釈の問題

〔i〕で検討した戻り点の付け方と書き下し文に基づいて「恋」の目的語を補つて傍線部を訳すと、「馬の鳴き声はあたかも去る（＝売られる）ことを理解して私（＝白居易）を慕うもののようにあった」となる。つまり、「駱」は主人である白居易との別れを惜しんでいるかのように鳴

○ ○ 善よ<sup>カ</sup>  
以よ<sup>カ</sup>  
テヲ  
（ス）

○ ○ 有レ年と<sup>シ</sup>  
レ年と<sup>シ</sup>  
（ス）

○ ○ 亦あり<sup>ト</sup>  
亦あり<sup>ト</sup>  
（ス）

○ ○ 自由<sup>ヨウ</sup>  
自由<sup>ヨウ</sup>  
（ス）

○ ○ 凡庸<sup>ヨウ</sup>  
凡庸<sup>ヨウ</sup>  
（ス）

○ ○ 因由<sup>ヨウ</sup>  
因由<sup>ヨウ</sup>  
（ス）

○ ○ 基本句形<sup>マサニ</sup>  
基本句形<sup>マサニ</sup>  
（セント）

○ ○ 不<sup>スル</sup>能<sup>コト</sup>  
不<sup>スル</sup>能<sup>コト</sup>  
（スルコト）

○ ○ 非<sup>アラス</sup>ハ<sup>セバ</sup>  
非<sup>アラス</sup>ハ<sup>セバ</sup>  
（セバ）

○ ○ 不<sup>スル</sup>  
不<sup>スル</sup>  
（セ）

※（セ）は活用語の未然形、（シ）は活用語の連用形、（ス）は活用語の終止形、（スル）は活用語の連体形を、それぞれ表す。

## 問1 語の意味の問題

### 【設問解説】

上手に——する  
——を（目的語）——で・を使って（手段・方  
法）／——なので・が原因で（理由・原因）  
（名前・名声など）世間に知れ渡る／申し上げる  
／も同様に・／もやはり  
数年たつ・いく年もたつ  
Aは——のようだ  
そのうえ・さらに／とりあえず（「とりあえず」の  
意味のときは「しばらく」とも読む）  
自分で・自分から／自分で自分を  
すべて・おしなべて  
そこで

いまにも——しようとする／——するつもりだ  
〔再読文字〕

——できない〔否定形〕

——がない・——する〔ことがない〕〔否定形〕

——ではない〔否定形〕

——しない〔否定形〕

——でなければ……しない／——ではないので  
……しない〔否定の連用〕

——できない・——してはならない〔否定形〕

（注7）を参照して「出費」、「長物」は「無用の長物」などを想起する  
と訳しやすいだろう。したがって、「家事」は、「家庭内の仕事」ではなく  
く、「家の中の財物」と解すれば、「経費」「長物」との意味の対比が成り立つ。つまり、病気になった筆者は、老後の生活を考え、身辺の整理を始めたのである（【本文解説】を参照）。

以上のことを見て選択肢を検討すると、①「子どものために遺産を  
記録し、出費を計算し、無用な物を処分しようとした」となる。「経費」  
は（注7）を参照して「出費」、「長物」は「無用の長物」などを想起する  
と訳しやすいだろう。したがって、「家事」は、「家庭内の仕事」ではなく  
く、「家の中の財物」と解すれば、「経費」「長物」との意味の対比が成り立つ。つまり、病気になった筆者は、老後の生活を考え、身辺の整理を始めたのである（【本文解説】を参照）。

## 問2 状況説明の問題

（1）「聞」は、「きく」と読んで「聞く・耳にする」などの意味で用いられることが多いが、「きこゆ」と読んで「（名前・名声などが）世間に知れ渡る」「申し上げる」という意味もある（【1】重要語）の該当項目を参考照）。ここで、傍線部「聞」の主語が「名」（名前・名声）であり、「聞」の直後に「洛下」（洛陽で）とあることに注目する。つまり、傍線部を含む一文は「名聞洛下」と読んで「（上手に『楊枝』を歌う）樊素の名は洛陽中に知れ渡った」と解釈するのが適切であり、文脈にも合致する。そこで、選択肢の中から「世間に知れ渡る」という意味に近いものを探すと、④「知られている」がふさわしい。したがって正解は④である。

（2）「有<sup>スル</sup>年」は、「年有り」と読んで「数年たつ・いく年もたつ」の意味である（【1】重要語）の該当項目を参照）。この意味に基づいて選択肢を検討すると、合致するのは⑨「何年もたつている」だけである。したがって正解は⑨である。

なお、②「年老<sup>リテ</sup>している」がやや紛らわしいが、仮にこの意味を本文にあてはめてみると、「馬」が「年老<sup>リテ</sup>している」ことになる。しかし、それでは（注8）にある「元氣があり乗りやすいさま」という「馬」の形容と矛盾してしまうし、傍線部直前の「乗<sup>リテ</sup>之<sup>タ</sup>亦」（この馬に乗ってやはり）とのつながりも成り立たないことに注意したい。

ちなみに、白居易は自分自身を「不能忘情（情を忘るる能はず）」の人だと嘲笑するが、この考えは南宋の劉義慶が編纂した『世説新語』にある人間の三つの分類に基づいている。上等人間は修養によって「忘情（感情を忘れる）」の状態となつた「聖達（聖人・達人）」であり、下等人間は「不及情（感情を発するまでに至らない）」とし、上等と下等以外の人々は、感情に左右され心が乱される中等の人間であるとするものである。白居易は自分を三等の中では中等の人間だと考えたのである。

### 【書き下し文】

樂天既に老い、又風を病む。すなはち家事を録し、経費を会り、長物を去らんとす。妓に樊素なる者有り、年二十余年なり。綽綽として歌舞の態有り。善く楊枝を唱ふ。人多く曲名を以て之に名づく。是に由りて名洛下に聞こゆ。籍経費の中に在り。将に之を放たんとす。馬に駱なる者有り、駒壯駿。穩たり。之に乗りて亦た年有り。籍経費の中に在り。將に之を駆がんとす。圉人馬を牽き門を出づ。馬首を驥げ反顧して一鳴す。声音の問去るを知りて旋つて恋ふる者に似たり。素馬の嘶くを聞き、慘然として立ち且つ押し、婉變として辭有り。辭畢りて泣下る。予素の言を聞き、亦た愍然として対する能はず。且つ命じて勒を廻らし袂を反し素に酒を飲ましむ。自ら一杯を飲み、快く吟ずること數十有余。声は文を成し、文には定句無く、句は吟の短長に隨ふなり。凡そ二百五十五言なり。噫。予聖達に非ざば情を忘るる能はず。又情に及ばざる者に至らず。事來りて情を攬し、情動きて柵むべからず。因りて自ら哂ひ、其の篇に題して曰はく、「不能忘情吟」と。

### 【全文解釈】

私はもう老年になり、さらに中風にかかつた。そこで家財を記録し、出費を計算し、無用な物を処分しようとした。妓に樊素という者がおり、年齢は二十才ほどである。優美なさまで歌を歌い舞を舞う。上手に「楊枝」を歌う。人々の多くが「楊枝」を樊素のあだ名とした。そのため（樊素の）名は洛陽中に知れ渡った。（樊素も）出費の項目の一つとしてあげられている。

（そこで）樊素に暇を出そうとした。馬に駱というものがおり、元気があり乗りやすい。この馬にも何年も乗っている。（この馬も）出費の項目の一つとしてあげられている。（そこで）馬を売ろうとした。馬の飼育係が馬を引いて門を出た。馬は頭を上げて振り返って一声鳴いた。（馬の）鳴き声には、主人（である私）との別れを知つて思いが募つているかのような響きがあった。樊素は馬の鳴き声を聞き、悲しそうにして立ち上がってお辞儀をし、若く美しい姿態で別れの言葉を述べた。（樊素は）別れの言葉を言い終えると涙を流した。私は樊素の言葉を聞き、またしてもあわれ（み悲し）むあまり（樊素の言葉に）応じることができなかつた。とりあえず命を下して馬の向きを変え（馬を呼び戻し）て、袖口で（樊素の）涙を拭かせ、樊素に酒を飲ませた。（そして私も）自分で一杯の酒を飲み、気持ちよく吟詠すること數十声、声は文（＝詩）となり、文（＝詩）には決まつた句数など無く、句（の長さ）も吟詠の長さの今まであつた。全体で二百五十五文字である。ああ、私は聖人や達人（のよつた立派な人）ではないので感情を（完全に）忘れ去ることはできない。また（下等な）情のない人でもない。（このように感情のある人間なので、悲しい）出来事があると感情がかき乱され、感情がかき乱されたまま止めることができない。そこで（そんな）自分をあざ笑い、この吟詠に題名を付けて、「不能忘情吟（感情を忘れ去ることができない自分をあざ笑つた詩）」とした。

### 【重要語・基本句形】

(1) 重要語	
○ ○ 乃	すなはち スル 者
○ ○ 既	すで二
既	すで二
——、又	（ス） ——し、
——、又……	（ス） ——し、さらに……する／——であり、また……
——、	でもある
もうすでに	もうすでに
そのうえ・さらに	そのうえ・さらに

①は、「児は、……姫君も石山寺に来たことを知つてつらく思い」が間違い。姫君は通夜を終えて帰る児を目撃するが、児が姫君の石山寺滞在を知ったとは、本文に描かれていません。

②は、「侍従は、……他愛ない子どもじみたことで『はづかしきこと』だと思つていた」が間違い。そもそも本文に侍従の考えは一切書かれていません。「はづかしきこと」は【第二段落】の終わりのほうにあるが、これは姫君の心情である。当然、「侍従は、……あえてたしなめることはせず、黙つて見守ることにした」も、本文にまったく根拠のない間違つた内容である。

③は、「業平の中将は、……後に送つた衣に『祈ることのかなはずは、ただ命を取り給へ』と……書きつけた」が間違い。引用されている言葉は、姫君からもらつた衣の袖に児が書きつけていた言葉で、業平も二条の後も関係ない。

④は、「二条の后は、……形見の品を与えるのではなかつたと後悔し」が間違い。【第四段落】に「業平の中将……二条の后に……守りを形見に参らせられたり」とあるように、そもそも形見の品は業平が二条の後に贈つたのである。

⑤が正解である。「姫君は、求愛する多くの人の中で、児には『この御

主のことは心も通ふ』と感じる所もあつた」は、【第四段落】の引用箇所の文脈と一致する。本文引用箇所の直前に「かなたこなたよりの文どもの中に」とあるのが、選択肢の「求愛する多くの人の中で」と同趣旨である。また、「それを知つた石山寺の仏の靈験によつて、児を夢に見、その思いの深さを知ることができた」も、【第四段落】の「仏も知らせ給ひて」以下の内容と一致する。その仏が、石山寺の仏であることは、本文が、石山寺に参籠してそこの仏に祈るなかで起きていることによつて明らかである。そのことによつて、姫君は、児の姿を夢に見、児の気持ちを示す「頼めこし」と言へる歌の言の葉を「仏から受け取ることになつたと思つたのである。

## 第4問 漢文

### 【出典】

白居易『白氏文集』全七十一卷。白居易（七七二～八四六）は、中唐の

詩人で、字は樂天、号は香山居士、太原（現在の山西省太原市）の出身である。官吏登用試験に合格して翰林学士（詔勅の草案を作成する官吏）となり、一時期、地方に左遷されたが、中央に復帰後は刑部尚書（法務大臣）にまで登りつめた。その詩は、平易な言葉を用いて作られていることが特色で、有名なものに「長恨歌」などがある。『白氏文集』は、白居易の詩文集で、詩文およそ三千八百編を収める。日本には平安時代に伝わって『文集』と略称され、教養人の必読書として平安朝の文学に大きな影響を与えた。本文は巻七十一「不能忘情吟并序」から採つた。

### 【本文解説】

「不能忘情吟（感情を忘れて去ることができない自分をあざ笑つた詩）」と題する詩が詠まれ、この「序文」が書かれたのは、開成四年（八三九）のことである。この年の冬、六十八歳の白居易は、脳卒中で倒れ、左足が麻痺してしまつた。幸いなことに、言語機能までは麻痺しなかつたので、作詩活動には支障がなかつたが、老齢でもあつたことから、身辺の整理を始めたのである。

白居易が、今後の生活には不要なものをリストアップすると、そこには芸妓の「樊素」と乗馬の「駱」とが含まれた。病気のために酒宴を開く機会も減り、馬に乗つて外出することもなくなると考えたからである。そこで、白居易は「樊素」には暇を与え、「駱」は手放すことにした。だが、「駱」が売られていくのを目にし、「樊素」が泣きながら暇乞いをするのを見ると別れがたく、「駱」を引き戻し「樊素」と酒を飲むことにしたのだった。酒を飲んでいい気分に酔つた白居易は、その時の思いを詠つて二百五十五字からなる詩を作り、情を抑えられなかつた自分をあざ笑つて「不能忘情吟」と題し、この詩を作るに到つた経緯を「序文」に記したのである。

落の要約の中で示した通りである。

①は、「何を告げる夢なのかと不思議に思う」が間違い。〔第二段落〕で、姫君は、夢に現れた児が残していった衣の袖を見て、自分がかつて堀川あたりに住む人に与えた袖だと知つて不思議に思うが、「何を告げる夢なのか」と考えたとは書かれていない。また、「この児とはいつか現実にめぐり合つて結ばれる宿縁があるのだ信じる」も間違い。〔第四段落〕で、姫君は、児の夢のことは神仏の示現によるのではないかとは考えているが、児と自分の将来について考えたとは書かれていらない。

②が正解。「夢に現れた児から渡された衣の袖を見て、それは昔自分が恋文の返事として人に送つたもので、恋文を送つてきたのは夢に現れた児だつたとわかり」は、〔第二段落〕の「この主は思ひに耐へかねて行方も知らずなりぬ」と申し侍りしほどに」の前後の文脈と一致する。「気に掛かつて忘れられなくなつた」は、〔第二段落〕の終わりの方で、「夢の面影の忘れがたく思し召すこと」と書かれていることと一致する。「現実に児の姿を見かけ」は、〔第三段落〕の出来事の、「衣の袖に書かれた言葉や夢の中で掛けられた言葉の意味を考える」は、〔第四段落〕の出来事の要約になつていている。その過程で姫君が「ますます児への思いを深めていた」ことは、〔第三段落〕に「ただうち臥して案じ入らせ給ひける」、〔第四段落〕に「心ひとつに思ひ続け給ひけり」、「よもやまのことを今さらに思ひ続け給ひけり」と、児についての物思いに耽つていく様子が描かれることがわかるし、特に本文最後の「いつしかこの衣の袖をのみ、『おのがものから』と御身を放ちがたくぞ思ひ給ひける」という、姫君の様子によつて明らかである。

③は、「児のことをそれほど気に掛けはしなかつた」が間違い。姫君が目覚めた後も衣の袖があることに気づいたことを記す〔第二段落〕の後半は、それについて姫君があれこれと物思いに耽る記述で占められている。また、「夢の中での児との会話を思い出すうちに、その児がかつて自分に求愛した男だったことに気づいた」も間違い。姫君がそのことに気づいた

のは、夢の中での会話を思い出したからではなく、夢の中で児が姫君に渡した衣の袖が、かつて求愛してきた男に姫君自身が送つたものだつたからである。さらに、「好意を抱くには至らなかつた」も間違い。④について述べたところで明らかのように、姫君は児への思いを次第に深めていくのである。

④は、「児が自分への思いを残しながらこの世を去つたことを伝えるために現れた」が間違い。〔第三段落〕で児は生きて登場するし、姫君が当初そのように考えたことを示す記述も本文にはない。よつて、当然、「自分を慕つてくれた児の形見として」も間違い。姫君が「この衣の袖を大切にしし」たのは〔第四段落〕にも書かれる事実だが、「児の形見として」大切にしようと思つたわけではない。

⑤は、「児を恋い慕う気持ちは持てなかつたため、周囲の人々にその夢の内容を告げようとも思わなかつた」が間違い。〔第二段落〕で、姫君は、「侍従にのたまひたくは思しけれ」とあるように「告げたい」と思つており、それにもかかわらず児のことを持てあわせなかつたのは「はづかしきことにのみ思ひ給ひて」のことであり、児への恋心を感じなかつたからではない。また、「夢が仮の導きだつたのだと思うにつけ、児を恋の対象として意識するようになつていつた」も間違い。姫君が次第に児に心惹かれていくのは、夢に児が現れ、さらにその児を実際に見かけたことの他、衣の袖に書かれていた言葉や夢の中の児の言葉を思い出して、児の自分への恋心を思い知るにつれてのことであり、「夢が仮の導きだつたのだと思つたからではない。〔第四段落〕で、姫君は夢のことについて「示現にあらたにかうぶりけるよ」と考えてはいるが、それが原因で恋心が深まつたとも書かれていない。

## 問6 文章の内容の説明問題

特定の傍線部についてではなく、本文全体にわたる内容説明問題などで、選択肢の当否をひとつひとつ吟味するかたちで解答する。

係助詞で、文末の「らむ」と呼応しており、「～か」と訳す。「らむ」は現在の原因推量を表す助動詞で、「(どうして)～ているだろう」と訳し、

ここでは「か」の結びで連体形となっている。以上を踏まえ、(注7)の説明を用いて、和歌Aを逐語訳すると、

白露に染めないけれども菊襲の色目の衣、再びどうして人が問うているのだろうか。

となる。

和歌の趣旨は、「再びどうして人が問うているのだろうか」である。和歌の次の行に、この和歌について、「堀川へんよりとて文のありし、その御返事にみづから詠みてつかはせし歌」とあることから、もともと姫君が堀川あたりの人への返事として詠み送ったことがわかる。よつて、再度手紙を送ってきた人に、「どうして再び手紙を送つてくるのか」と姫君が尋ねた歌だと考えられる。

上の句の「菊衣」は、(注7)に示した通り、「菊襲の色目の衣」のことである。衣服を重ねて着ることやその際の配色を「襲」と言うことから、「再び」の意味の「かさねて」を導いている。つまり、「かさね」は、名詞「襲」と副詞「かさねて」の一部の掛詞になっている。露は菊の花を美しい色に染めると言われているため、その「菊衣」に対して、さらに「白露にそめぬものから(＝菊襲の色目の衣は、自然の菊の花とは違つて白露によって染めるとはしないけれども)」という修飾句がついている。前述のとおり、恋文への返事としてのこの歌の趣旨は、「かさねてなどか人のとふらむ」という部分で言い尽くされているのだから、それ以前の「白露にそめぬものから菊衣」は「かさねて」を導く序詞である。また、この「白露にそめぬものから」の部分には、恋文の送り主の求愛に応えるつもりはないという、姫君の気持ちが比喩的に示唆されてもいるだろう。

①は、文脈上「そめ」「初め」の意味があるとは考えられず、間違いである。また、「そめぬ」の「ぬ」は打消で「染めない」と言つてゐるわけだから、この歌の上の句を「染まるように」と解釈することにも無理がある。

ある。

②は、「一句切れが間違いである。句切れとは和歌中の文の切れ目のことだが、「ものから」は接続助詞で、前の部分を後続部分につなぐ役割を果たすので、ここで文が終わるとは考えられない。「児のつらい気持ち」とするのも、この和歌が姫君が詠んだものであることに反しており、「姫君にせめて死後の供養をしてほしと願う」という児の気持ちの内容の説明も、和歌の意味と結びつかない。

③が正解で、「どうして再び手紙を送つてくるのか」と尋ねた和歌の内容は、再度手紙を送つてくる相手の行為を疑問視し、否定することにつながるので、選択肢の「拒絶する気持ち」という説明は正しいと言える。

④は、②と同様「児の」気持ちを訴える歌とする点が誤りである。当然、気持ちの内容の説明も、和歌の意味と結びつかない。児が手紙を送る行為について、和歌では「などか」と疑問視する態度であるのに、この選択肢では「送り続けにはいられない」と送る側である児の意志を強調するもののように説明しているので、まったく違う内容になつていて。

⑤は掛詞の説明は正しいが、「二度と児に返事を送るまいと決心しても」について、本文に根拠となる表現がない。また、「つい返歌をしてしまう」という解釈になるためには、「かさねてなどか人のとふらむ」を姫君の自問自答だと考えなければならなくなるが、和歌の次の行に示されているように、この歌は、堀川あたりに住む人から送られた手紙への返事であり、「じふ」は相手が手紙を送つてくる行為を指すと考えなければ、詠まれた状況に合わない。

## 問5 心情の説明問題

本文の主題となる、児に対する姫君の心情の変化を問う問題である。各選択肢は、「最初は、……」と始め、時の経過とともに姫君の心情が変化する様子を記す書き方になつてている。本文は四つの段落に分かれており、それぞれに姫君の心情が書かれている。その内容は、【本文解説】に各段

波線部dの「る」は、四段活用動詞「給ふ」の已然形（命令形）の下にあるので、完了の助動詞である。以上により、波線部a・c・dの説明がすべて正しい選択肢は①であることがある。

### 問3 心情の説明問題

姫君の夢の中で児が言つた傍線部Xの言葉に、児のどのような気持ちがこめられていると姫君が思ったか、を問うてある。実際の児の気持ちではなく、姫君がそれをどう思ったか、ということだから、本文中から、姫君がこの児の発言について考へている箇所を探さなければならない。

〔第四段落〕の8行目に、この傍線部の発言が再び引用されており、それについて「つくづくと思へば」とあるから、それ以下が、この発言について姫君が考へている箇所であることがわかる。そこを見ると、児の言葉は「頼めこし……」の和歌の一節で、歌の後に「と言へる歌の心にて侍りけり」とあるので、姫君は、この「頼めこし……」の和歌が児の気持ちを表していると思った、ということになる。

和歌の中の「頼め」は、「信頼させる」「期待させる」の意味の、マ行下二段活用動詞「頼む」の連用形で、「頼めこし言の葉」は「期待させてきた言葉」の意味。「今は返してん」の「て」は、完了・強意の助動詞「つ」の未然形、「ん」は、推量・意志などの助動詞「ん（＝む）」である。さらに、「ほるれ」が、「ぼんやりする」「夢中になる」意味のラ行下二段活用動詞「ほる」の已然形であることを考へると、この歌は、

期待させてきた言葉を今は返してしまおう。私が夢中になつて何も

考えられなくなるので、置いておく場所はない。

と訳せる。

次に、この歌が本文でどのような意味を持つかを考へてみる。「頼めこし言の葉」は、姫君が衣の袖に書いて送つた言葉のことで、それが児にとって何らかのことを期待させるものになつてきたということがわかる。

そして、「ほるれ」は、児が姫君に夢中になること、「置き所なし」は、「我が身」についてだけではなく、その「言の葉」について「置いておく場所」という意味にもなるだろう。つまり、全体として、この和歌は、姫君の和歌を手もとに置いておくと恋心がかき立てられてどうしようもなくなるので、それを姫君に返すと言つているのである。選択肢の中からそのような趣旨を述べたものを選ぶとよい。

①は、「手紙で伝えるだけでは飽き足りず」も「直接姫君にそれを伝えたい」も、本文に根拠がなく、姫君が思い出した「頼めこし……」の和歌とも関係がない。

②は、「確かに受け取ったということを示すために……見せよう」と児が考へているとは本文のどこにも書かれておらず、やはり「頼めこし……」の和歌の内容とも結びつかない。

③は、児が姫君に和歌を詠んでほしがつていたとは本文に書かれておらず、「頼めこし……」の和歌の内容とも異なる。

④は、児は「石山寺の仏の導き」にも、自らの「満足」にも、「この世に対する未練は何もない」ということにも、本文では言及してはいないし、姫君が児の気持ちをそのように推測したこと示す記述も本文にはない。「頼めこし……」の和歌の意味とも合致しない。

⑤が正解である。選択肢の「姫君の返事を今まで心の拠り所にしてきたが」は、「頼めこし言の葉」の解釈になつており、「これ以上それを手もとに置いていても……どうしようもない」は、「置き所なし」を、「姫君が恋しくつらいばかりで」は、「我が身ほるれば」を解釈したものである。

### 問4 和歌の説明問題

Aの和歌の「白露にそめぬ」の「ぬ」は、直下の「ものから」が連体形に続くことから、打消の助動詞「ず」の連体形だとわかり、「～ない」と訳す。「ものから」は逆接確定条件を表す接続助詞で、「けれども」などと訳す。「など」は副詞で「どうして」の意味、「か」は疑問・反語を表す

ここでは、動詞の未然形「渡ら」の下に付いているので助動詞「す」で、下に「給ふ」があるので、尊敬の用法の可能性が高い。文脈を考へても、リード文から冒頭は姫君の動作と考えられ、姫君に対する尊敬を表す語と考へると説明がつく。また、誰かを「渡らせる」のように使役を表すとは考へられないでの、尊敬の助動詞と考えるとよい。

波線部**b**と**c**は「なり」の文法的説明が問題になつていて。

「なり」の識別

○ 非活用語・連体形 + 「なり」



断定の助動詞「なり」

○ ラ変型活用語の連体形・ラ変型活用語以外の終止形 + 「なり」



伝聞・推定の助動詞「なり」

☆ ラ変型活用語の連体形 + 「なり」のかたちでは、原則として前記の二種の助動詞のどちらの可能性もあるので、前後の文脈で見分ける。

ただし、その連体形が撥音便を起こしていれば、

ラ変型活用語の連体形の撥音便 + 「なり」



伝聞・推定の助動詞「なり」

と言える。

○ 形容動詞の語幹 + 「なり」



形容動詞の活用語尾

○ 形容詞の連用形「～く」・形容動詞の連用形「～に」・打消の助動詞の連用形「～ず」・格助詞「と」「に」 + 「なり」



四段活用動詞「成る」

波線部**b**「なり」は、非活用語である名詞「袖」の下にあるので断定の助動詞である。

波線部**c**「なり」は、打消の助動詞「～ず」の連用形「～ず」の下にあるので動詞である。

波線部**d**は、「る」の文法的説明が問題になつていて。

「る」の識別

○ 四段・ナ変・ラ変動詞の未然形 + 「る」



受身・尊敬・可能・自発の助動詞「る」

※ 四段・ナ変・ラ変動詞の未然形は、ア段音で終わる。

○ サ変動詞の未然形・四段動詞の已然形（命令形） + 「る」



完了・存続の助動詞「り」

※ サ変動詞の未然形・四段動詞の已然形（命令形）は、エ段音で終わる。

☆ そのほか、

○ 「起くる」「ある」など、動詞の一部

○ 「赤かる」「うつくしかる」など、形容詞の一部

○ 「あはれる」「堂々たる」など、形容動詞の一部

○ 「ける」「らる」など、助動詞の一部

の例もある。

おそし（ク活用形容詞）

遅い。

2 なかなかしない。

※「おそらく動詞」の形で、下の動詞を修飾するかたちで使われることが多い。

3 劣っている。

上る（ラ行四段活用動詞）

1 上の方へ行く。

2 上京する。

3 貴人のもとに参上する。

給ふ（ハ行四段活用動詞）

1 与えなさる。くださる。（「与ふ」の尊敬語）

2 なさる。おくなる。（尊敬の補助動詞）

※「給ふ」には、ハ行下二段活用をする謙譲の補助動詞もあるが、

下二段活用動詞は「給ひ」のかたちにはならないので、ここでは四段活用動詞だとわかる。

ば（接続助詞）

1 ～ならば。（順接仮定条件）

※ 活用語の未然形に接続する。

2 ～ので・～すると。（順接確定条件）

※ 活用語の已然形に接続する。

選択肢はすべて「おそし」の意味に合うし、「上る」の意味も出ている。

「給ふ」の尊敬語の訳もすべての選択肢にある。しかし、⑨には過去の助動詞「けり」の訳がない。①・⑥は「ば」が仮定条件の訳になつていて、が、傍線部の「ば」は、直前の「けれ」が已然形なので、確定条件で訳さねばならない。以上より、正解は②・③・④に絞られる。ただし、文脈から、夜だという設定が読み取れないので、⑨のように「おそらく」を「深

## 問2 文法問題

セントラー試験の古文の問2は、文法問題であることが通例である。近年では、'09年度に敬語問題が出された以外は、紛らわしい語の識別に関する出題が目立つので、同形となる語でいろいろな用法が考えられる表現については、特に意識して識別法を整理し、暗記しておくべきである。  
波線部aは「せ」の文法的説明が問題になつていて、夜」すなわち「夜遅く」の意味と取ることには無理がある。また、「上る」べき制限が決められていたという説明もないのに、④のように「遅れて」と考えることも、何に遅れたのかが明らかでなく、意味をなさない。⑨の「なかなか上京なさらなかつた」のように解釈すると、摂津国に下つた業平の中将の状況を述べる文脈にも合致するので、正解は②だとわかる。

### 「せ」の識別

○ 未然形 + 「せ」 + 「給ふ（おはします・おはす）」

多くは 尊敬の助動詞「す」の連用形

※ ただし、文脈から使役の対象が明らかな場合は、使役の助動詞

「す」の連用形

○ 未然形 + 「せ」（下に、「給ふ（おはします・おはす）」がない）

→

使役の助動詞「す」の未然形／連用形

☆ そのほか、

○ 「せ」「おはせ」など、サ行変格活用動詞（の活用語尾）

○ 「失せ」「見せ」など、サ行下二段活用動詞の活用語尾

○ 「させ」など、尊敬・使役の助動詞「さす」の一部

の例もある。

## 【設問解説】

### 問1 短語句の解釈問題

センター試験では、古文の問1として、例年、短い語句の解釈が三題問われる。古語や文法の基礎知識が試される一方で、傍線部前後の文脈が正確に読み取れていなければ正解に至らない場合もしばしばあり、単純な知識問題だとばかりも言えない。

#### ア 何となくものすぐれなるに

「ものすぐれなる」は形容動詞「ものすぐれなり」の連体形である。「ものすぐれなり」は、意味を構成する要素を考えると、さらに、接頭語「もの」、形容詞「すぐれし」の語幹、接尾語「れなり」に分割して考えることができ。そのうち接頭語「もの」は「なんとなく」の意味を添える働きをするが、傍線部の最初の「何となく」と意味上で重なるので、ここでは無視してもかまわない。「すぐれし」「れなり」は重要である。

#### すげし（ク活用形容詞）

1 ぞつとするほどもの寂しい。

2 気味が悪い。

3 すばらしい。

（接尾語）

1 ～の様子だ。～そうだ。

※ 種々の語について形容動詞を形成する。

「何となく」の意味に合う選択肢は、③「漠然と」・④「どことなく」である。「すぐれし」の意味に合う選択肢は、①「すばらしい」・④「寂しい」である。「れなり」の意味が表されている選択肢は、②「ありさま」・③「感じさせる」・④「様子である」・⑤「雰囲気で」である。これらをすべて満たすものは④しかない。そして、④の選択肢は、姫君が泊まった石山寺の宿舎の様子を表す文脈にあてはめてみて不自然ではないので、正解は④だとわかる。

### (イ) 心にくく思ひ侍りしに

「心にくく」は形容詞「心にくし」の連用形、「侍り」はラ行変格活用動詞「侍り」の連用形、「し」は過去の助動詞「き」の連体形である。

心にくし（ク活用形容詞）

1 心惹かれる。奥ゆかしい。

2 上品だ。

3 ねたましく感じられるほどすばらしい。

侍り（ラ行変格活用動詞）

1 お仕えする。お控えする。「あり・居り」の謙譲語

2 あります。ございます。（「あり」の丁寧語）

3 ～ます。～です。（丁寧の補助動詞）

き（助動詞）

1 ～た。（過去）

※ 連体形が「し」、已然形が「しか」というかたちになることに注意する。

「心にくし」の意味に合う選択肢は、①「心惹かれるように」・③「癪にさわるほどすばらしい」・④「奥ゆかしい」である。「侍り」は動詞「思ひ」に付いて補助動詞として用いられており、前述の3の用法である。「～ます」「～です」など丁寧な言葉遣いで訳されている選択肢は、①・②・④である。以上より、正解は①か④に絞れるが、①の選択肢は、姫君が受け取った恋文に対する印象を述べるという文脈にあてはめてみて不自然ではないのに対し、④の「つづましく」は文脈にも「心にくし」の語義にも適合しないことから、④が正解だとわかる。

(ウ) 遅く上り給ひければ

「遅く」は形容詞「遅し」の連用形、「上り」はラ行四段活用動詞「上る」の連用形、「給ひ」はハ行四段活用動詞「給ふ」の連用形、「ば」は接助詞である。

(その袖に) 一首の歌が（書いて）ある。

（菊襲の色目の衣は、自然の菊の花と違つて）白露によつて染めるこ  
とはしないけれども、（その）菊襲の色目の衣（を着るよう）に、再びど  
うしてあなたは（私に）ものを言い掛けているのだろうか。

とあつたのは、堀川あたりからと言つて手紙があつた、そのお返事に（姫君  
が）みずから詠んで送つた歌で、（それを書き付けた）衣の袖である。これ  
はどういうことだったのかと、夢とも現実ともわからない。「この（手紙の  
送り）主はつらさに耐えかねて行方もわからぬままになつてしまつた」と

（侍従が）申しましたので、（姫君は）しみじみと悲しく思いまして、平生、  
この（手紙の送り主の）手紙の書き方や、歌の様子は、深い思いを抱いてい  
る様子で、心惹かれるように思いましたが、それほど（姫君を）恋い慕う様  
子もなくて（行方が）わからなくなつてしまつたことだけを思つていたが、  
どうしたことであろうかと（不思議に）思われた夢の（児の）面影が、（姫  
君には）我が身に寄り添う感じがして、ただ茫然となさつているばかりであ  
る。このことを、侍従におつしやりたくはお思いになつたけれども、夢の面  
影が忘れがたいとお思いになることを、恥ずかしいことだとばかり思ひな  
さつて（誰にも言わず）、衣の袖をも深く隠しなさつていた。

こうして二、三日が過ぎた時に、（石山寺の御堂にある、姫君の）お籠り  
所に近い部屋で人が夜通しの勤行をしていたと思われて、（そのような）様  
子があつたので、（姫君は）深く身を隠していらつしゃつた。夜も明けゆく  
頃であつただろうが、夜通しの勤行をしていました人が（御堂から）下がり  
なさるかと思われて、大勢の（人の）音がして出なさつたので、（その様子  
を、姫君が）なんとなくちらつとご覧になつたところ、以前の夢（で見た  
の）と少しも違わない児でいらつしゃつた。心が落ち着かず、言葉もない氣  
持ちがしなさつた。（姫君は）宿舎にお帰りになつても、ただ身を横たえて  
考え込みなさつたのは、何年も何箇月にもわたる人の（姫君への恋の）思  
いが積もつた報いであるに違ひない。

女房たちは、この頃の（参籠しての勤行が続く）疲労で、あちらこちらで

休んでいた隙に、（姫君は）夢に見なさつた衣の袖を取り出し、ご覧になつ  
たところ、いろいろの言葉を書きつけなさい、「祈ることが叶わないので  
ば、ただ命をお取りください」と書きつけて、「形見こそ今は仇なれ（＝形  
見の品は今は私に害をなすものである）」と（書いて）あつた。この意味は、  
業平の中将が、摂津国にお下りになつた時、一條の後に筆の柄の模様の錦で  
できたお守りを形見として差し上げなさつた。（しかし）中将が、（摂津国か  
ら）なかなか上京なさらなかつたので、形見を取り出して、

形見の品は今は私に害をなすものである。これがなかつたならば（あ  
なたを）忘れる時もあつただろうに。

と書きなさつて、形見を中将の方へ返しなさつたと（いうことである）。こ  
の（姫君が与えた）衣の袖を身近に置いては、（児に）いつそう物思  
いの種となるからだろか、（児が）仏への願いを書き綴つた書面などのよ  
うに心のうちに祈ることの数々を（衣の袖に）書いて、御厨子の中に籠めな  
さつていたのを、仏もしみじみかわいそうだと思ひなさつて私にお返しくだ  
さつたのかなどと、（姫君は）人知れず思い続けなさつた。「言の葉今は返  
してん」と、（児が）夢の中でおつしやつたことを、つくづくと考へると、  
(その言葉に込められていたのは)

（あなたが私に）期待させてきた言葉を今は返してしまおう。（この言  
葉を見ると、ますます）私が（あなたに）夢中になつて何も考へられな  
くなるので、（自分の身の）置き所がないように感じられ、（あなたの言  
葉を書いたこの衣の袖も）置いておく場所はない（から）。  
と言つた歌の意味でございました。あちらこちらからの（恋の）手紙の数々  
の中で、（姫君が）この（堀川あたりの）お方のことは気持ちも通うようで  
ございましたことを、仏も知りなさつて、「頼めこし」と言つた歌の言葉を、  
お告げとして靈験あらたかに頂戴したことよど、（姫君は）いろいろなこと  
を今改めて思い続けなさつた。今となつては、いつの間にかこの衣の袖ばかり  
りを、「おのがものから（＝自分のものではあるけれども）」と（古歌にある  
ような感じで）御身から離しがたくお思いになつた。

取った時に、姫君が返事を書きつけて送った袖であった。夢に現れた児と堀川あたりから恋文をよこしていた人物とが、姫君の心の中で結びつく。恋文の送り主にはなんとなく関心を持っていた姫君だったが、それほど自分に執着することもなく姿を消したので、それきりになっていた。だから、今夢に現れることを不可解に思うが、その面影を忘れられなくなり、かつての恋文の事情を知る侍女に相談したいと思つたのだが、恥ずかしさから言えなかつた。

【第三段落】 数日後、姫君は、そばの部屋に籠つていた人物が帰るところを見かけて、それが夢に現れた児であることに驚く。あまりのことに、事態をどう受け止めてよいかわからず、姫君は考え込んでしまう。

【第四段落】 周りの人が寝静まっている隙に、姫君は夢で受け取った衣の袖を取り出して、改めて詳しく見てみる。すると、そこには姫君が送つた返事の言葉以外にも、いろいろな言葉が書きつけられていた。中でも「形見こそ今は仇なれ」は、二条の后きさきのひらが業平の中将に形見の品を返す時に送つた古歌の一部で、「形見の品があるせいで恋しい人を忘れられなくてつらい」という意味のものだった。姫君は、児が姫君を恋い慕うあまり、姫君から送られたその衣の袖に自らの思いの丈を書きつけて入れ物にしまつていたのを、仏がかわいそうに思つて夢の中で返してきただのか、と事情を推察する。また、姫君は、夢の中で児が言つた「言の葉今は返してん」という言葉がやはり古歌の一節で、二条の后の歌と同趣旨のものであることに思い当たる。そして、自分が児になんとなく心惹かれていることを仏が知つて、児と自分の縁を結ぼうとしているのではないかと感じて、姫君は、この衣の袖を手放しがたく思い、児への思いを深めていった。

#### 引用されている古歌

「形見こそ……」の歌は、『伊勢物語』や『古今和歌集』に載せられているが、『古今和歌集』では詠み人知らずとなつており、『伊勢物語』でもこの本文に書かれているような話は記されていない。在原業平に送つた藤原高子の歌だというのは、後世の人が創作した話と思われる。

「頼めこし……」の歌は、(注14)に示したとおり、『古今和歌集』の歌である。『古今和歌集』では第四句を「我が身ぶるれば」としており、「我が身が年老いてしまつたので」の意味と思われるが、それでは今回の「はにふの物語」の文脈には合わない。「ほるれば」としたのは、この物語の作者による意図的な改変かもしれない。

また、(注15)に示した歌は、『古今和歌集』では、「頼めこし」の歌の返歌とする。「言の葉」の「葉」に落ち葉のイメージを託し、「あなたが『今はもうおしまいだ』と言つて返してきた私の言葉を、落ち葉を拾つておくよう拾つておいて、もどもと自分のものではあるけれども、あなたの形見だと思つて見ることにしようか」というような意味である。夢で聞いた児の言葉から「頼めこし」の古歌を思い出した姫君が、かつてその歌への返歌として詠まれた歌に、みずから今の今の気持ちを重ねているのである。

#### 【全文解釈】

石山寺の(姫君が泊まる)御宿舎は、少し引っ込んでいる所で静かな場所であるが、どことなく寂しい様子であるなかで、(姫君は)昼は(宿舎に)いらっしゃつて、夜は御堂にお籠り場所を整えて、夜通しの御勤行をし申し上げなさつた。十四日間、お籠りがある予定である。こうして間もなく七日に当たつた夜の夜明け前頃に、(姫君が)少しまどろみなさつていた御夢に、錦の帳(=隔ての布)を押し開きなつて、御年十七、八歳かと思われる御児で、紅色に梅を刺繡していた水干に、大口袴をお召しになつていた者が、お手に衣の袖を持ちなさつて、「言の葉今は返してん(=言葉を今は返してしまおう)」とおっしゃつて、下さつたので、(姫君は)どういうことがはわからぬけれども祈ることが叶つたよと(思われて)うれしくて、(仮様が衣の袖を)下さつたと思いなさつて、夢はさめてしまつた。

(姫君は)目覚めた後も夢の中のうれしさも変わらず、胸がときめいて、お手に物を持ちなさつているのをご覧になると、まさしく夢で下さつた衣の袖であつたので、不思議なことだと思いなさつて、よくよくご覧になると、

い」と「思い当った」ときのものである。

以上の内容は、〈これまでの自分の言動を合理的だと考えていたが、今はそのことに疑いを持ちつつあること〉、そしてその疑心が〈過去の自分のありようへの悔いをもたらしていること〉とまとめられよう。選択肢後半の「柳沢が自分の人生について合理的に処理しきれないあり方に直面し、彼なりに苦悩する」という説明は、以上の内容を的確に踏まえている。したがって、これが二つの正解である。詳しくは、これらの場合に関する【本文解説】も確認してほしい。

### 第3問 古文

#### 【出典】

『はにふの物語』

成立

室町時代

ジャンル

室町時代物語

作者

未詳

大納言の娘として生まれた姫君が、多くの男たちから恋文を受け取るものの断り続け、糾余曲折を経て、その中の一人の若者と結ばれる。その後、姫君は若くして亡くなるが、姫君に求愛し拒絶された男たちも、姫君と結ばれた若者も、結局姫君をきっかけとして仮縁を結んだ。実は、姫君は、恋をもつて人々を悟りの道に導くために、石山寺の観音が姿を変えて現れたものであった、という解説が最後に書かれて物語は終っている。

本文は、角川書店刊『室町時代物語大成』第十によった。ただし、試験問題としての体裁を整えるために、一部省略した箇所があるほか、表記も大学入試センター試験の表記を参考にして改めてある。

#### 【本文解説】

本文は、石山寺での不思議な出来事によって、姫君が求愛者の中の一人の若者に心惹かれていく過程を描いている。全体は、四つの段落からなり、各段落には、事件や、それによつて新たに明らかになつた事実と、それを受け移り変わっていく姫君の心情が示される。

#### 各段落の内容

**〔第一段落〕** 石山寺に参籠していた姫君が夢を見て、夢の中に現れた児から衣の袖を受け取り、なんとなく自分の祈りが石山寺の観音に受け入れられたようなうれしい気分で目覚ます。

**〔第二段落〕** 目覚めた姫君は、自分の手に夢の中で受け取った衣の袖があるのを見つける。しかも、それはかつて都の堀川あたりの人から恋文を受け

とはいえない。少なくとも嶋木田の死は、警察の検証でも「不審なところは何も出て来なかつた」(43・44行目)とあり、実際どうだつたかは別に、とりあえず本文では事故死として描かれている。また、柳沢が自らの人生に思い惑つていることは確かだとしても、柳沢が「破滅的な方向」に向かうといった内容は、本文に書かれていない。したがつて、この選択肢は誤りである。

② 「××社」という表現は、会社の名前を特定しないためにそう表記されているだけであつて、嶋木田が実際に、上司(=柳沢)に仕事先のことを「××社」などと言うはずはない。また、本文の「う、まが合つた」(38・39行目)、「彼(柳沢)の気持を知つていたのは嶋木田なのだ」(64行目)、「彼(嶋木田)は理想的な女房役」(66行目)などの叙述からも、柳沢と嶋木田との関係は良好であり(それが柳沢の見方でしかないとしても)、嶋木田が柳沢に「苦手意識」をもつていたとは考えにくく、仕事先に出かけるのに「言葉を濁す必要もないはずだ。

次に「——」という表現だが、これは息子の手紙のはじめとおわりを示す表記、いわば引用符のような意味を持つものとして用いられてゐる。したがつて、かりに息子が柳沢に「苦手意識」をもつていたとしても、それが「——」という表現に示されているわけではないし、柳沢に対して「言葉を濁してしまう」様子が示されているわけでもない。

以上の理由から、この選択肢は誤りである。

③ 柳沢自身が建築界の「世界的」な「大御所」である」というのが、本文に述べられていない。36行目にある「建築界の大御所」というのは柳沢が修業時代に所属していた設計事務所の中心人物についての説明であり、60行目の「世界的な作曲家」というのも柳沢の父についての説明であつて、ともに柳沢本人が「世界的」な存在だということを示したものではない。

④ 選択肢前半の内容は、本文の「(綿虫は)嶋木田を慕つて病院から付添つて來た」(46行目)や、「(綿虫は)嶋木田の靈そのもの」(48行目)

などの叙述を踏まえたものとなつてゐる。また、「綿虫」を見た経験は、柳沢のなかで連想を生み、笛をめぐる茂吉の歌や父親のエピソードが語られる場面(49・53行目)や、その茂吉の歌を契機に柳沢の内面が描かれる場面(傍線部Bの文脈)へと繋がつていく。したがつて、選択肢後半の内容も正しいといえる。これが一つ目の正解である。詳しくは、この場面に関する【本文解説】も確認してほしい。

⑤ たしかに73行目や84行目から始まる発言は、「外部の視点(=別れた女性)から柳沢の生き方を相対化(=批判)するもの」だと言えなくもない。しかし、そうした女性との別離や女性からの非難がきっかけとなつて、柳沢が「他者との関わりに懲りて内向していこう」とする「意識」をもつて至つたかどうかは、本文から読み取れないことである。むしろ本文には、73・74行目の言をうけて、「しかしそんなことがあつたから女が嫌いになつた、というのではなかつた」(77行目)とある。また柳沢は、嶋木田と「あかね」の結婚をとりもち(40・44行目)、嶋木田亡き後は「あかね」のこれからを気にかけてもいる(103・104行目)。そうした柳沢のあり方を、「他者との関わりに懲りて内向」していると受け止めることはできないはずだ。したがつて、この選択肢は誤りである。

⑥ 選択肢で取り上げられている三箇所の表現は、どれも、柳沢のなかに生じた「胸の軋みや痛み」を言い表したものである。まず32行目の表現は、直前の「慚愧」を言い換えたもので、その内容については、「自分の今までの生き方にに対する重苦しい感情」(31行目)と説明されている。また、93行目の表現は、息子の手紙が「何もかも合理的にしているよう見える父親(=柳沢)への反撥」であることに思い至りつつ、「でも僕はお前が考えているほど迷いのない合理主義者ではない」と述懐する際の心情に関わつてゐる。そして107・108行目の「胸の軋みや痛み」は、「あかね」と「嶋木田との結婚を少し強引なくらいに薦めたのは、意識してはいなかつたが自分が彼女を好きになりかけていたからかもしれ

を、傍線部の場面（80～93行目）に即して、正確に読み取っていく必要がある。その際、【本文解説】Ⅲの後半も参照してもらいたい。

柳沢は、息子の自分への批判を「息子の母親と別れ、息子の養育を自分の母親に任せた、柳沢のような父親にはなりたくない」といったものだと理解していたのだが、どうもそれだけではなさそうだということに気づく。

ブラジルでの人生設計を着実に進める息子は、柳沢と同様に合理的だといえる（83行目）。だが見方を変えれば、ブラジルに移住するということ自体、世間的には合理的なあり方に反していよう（89行目）。したがって、息子の言う「あなたのような経過は辿りたくない」という言葉の裏には、父親のように合理的であることばかりを優先する生き方はしたくないという気持ち、つまり合理主義者であることを誇ろうとする柳沢への批判が含まれていたと考えられるのである（90行目）。

以上が「考え方違い」の内実であり、それは次のように整理できる。

a 息子の行動や生き方を、自分に似た合理的なものだと思つていた。

←

b しかし、息子のそうした生き方の選択が必ずしも合理的ではないと  
いうことに気づいた。

←

c 息子の自分に対する批判の真意は、何もかも合理的にしているよう

に見える柳沢への反撥にあるのだと思うようになった。

こうした内容を的確に踏まえた②が正解。他の選択肢については、以下

のとおりである。

① 息子が合理的な一面を見せ始めたことを、柳沢が「喜んでいた」という内容だが、そうしたことは本文に述べられていない。また、息子のあの方を「すべて父親である自分に反撥するために作りあげられたものでしかない」とするのも言いすぎである。さらに、「息子の恨みの深さに

愕然としている」というのも、問われていることと対応していない。ここで問われているのは、柳沢が衝撃を受けたことについてではなく、彼の「考え方違い」の内容である。

③ 息子の生き方が自分への反撥の表れだということをまず認め（＝c）、その後で息子の生き方が自分と似ているということを知った（＝a）という順序になつてているが、これは、右で説明した（a→b→c）という順序とは逆である。また、「それ（＝息子が父親と同様の生き方をするようになったこと）が周囲に及ぼす影響については伝えておきたいと考えるようになった」も、本文から直接には読み取れない内容である。

④ 選択肢前半の内容が、本文から確定できない。また、息子が「合理的」に「振る舞う」のが「あえて」柳沢に「負担をかけようとしているから」だというのも、やはり本文に述べられていない内容である。

⑤ 柳沢の考える「合理性」と息子の考えるそれが「異なっている」ということを前提とした選択肢だが、本文にそうした違いは述べられない。したがって、息子が「その違いによって父親である自分への反撥を強めようとしている」という内容も、当然、間違つてることになる。

## 問6 文章中の表現について答える問題

こうした問題では、表現技法などについての知識や、慣れなども必要な場合があり、正誤の判断がつきにくいくこともある。その場合は、とくに選択肢中の内容に関する説明にも目を向け、「本文の内容と矛盾しない説明」であるかどうかという観点から、選択肢の正誤を判定してみよう。

① たしかに本文には、柳沢や嶋木田を「彼」と表記した箇所が散見される。しかし、そうした呼称を「織り交ぜる」ことで、二人が「不安定な内面を抱えて破滅的な方向に進もうとしているさま」が表現されている

分と「建築家」としての自分という両面をもつており、その狭間で悩んでいるのである。また、かりに柳沢が「一介の建築家」として生きようとしていたとしても、そうした志向性が「嶋木田の死をきっかけとして」生じたとはいえない。

⑤ 「異なる役割を背負わされた」柳沢が、「その一方を苦悩のうちに選択する」ことを「今後の課題」として「実感している」という趣旨の選択肢だが、そうしたことは本文に書かれていない。また、本文では、茂吉が「経営者」と「歌人」とのあいだで悩み、柳沢の父が「家長」と「作曲家」とのあいだで悩んだ可能性については示唆されているが、二人が「芸術家として生きるか否かに悩んだ」とは書かれていない。

#### 問4 柳沢と嶋木田との関係について答える問題

問われているのは、柳沢が嶋木田の死を傍線部のように悼むのは、嶋木田が柳沢にとって「どのような人物」だったからか、である。一見、複雑な問い合わせのように思えるが、柳沢と嶋木田との関わりが述べられている箇所をきちんと確認していきさえすれば、おのずと正解に至るであろう。ちなみに柳沢が嶋木田の死を惜しんでいることは、すぐさま理解できるだろうし、両者が〈支え・支えられる関係〉にあつたこともまた、本文一読の段階で読み取れたのではないか。

では、柳沢と嶋木田との関わりについて整理して見よう。その際、【本文解説】Iが参考になるので、そちらも見ておいてもらいたい。

・柳沢は、自らの設計事務所を構える際、嶋木田を連れて独立しており（37行目）、嶋木田を自分の「片腕」と感じていた（7行目）。

・柳沢は、嶋木田とは対照的な気質だったが、彼とは不思議とうまが合った（38・39行目）。

・柳沢は経営者と建築家とのあいだで悩んでおり、彼は、そんな自分のことを嶋木田が気遣ってくれていると感じていた（62～65行目）。

・柳沢は、自分の精神的な負担を軽減してくれようとして、嶋木田が夢

や憧れを犠牲にしてまで働きづめに働いていたと感じていた（64～67行目）。

こうした内容を的確に踏まえた③が正解。他の選択肢については以下のとおりである。

① 柳沢II「冷たい」、嶋木田II「陽気」といったように、二人の人物を単純な対比で説明している点が誤り。そもそも、嶋木田が「活力あふれる陽気な振る舞い」をしているといったことは、本文から読み取れない内容である。

② これはやや紛らわしいが、「公私を問わず親身なつき合いをしてきた」が、本文からは確定できない内容である。柳沢が嶋木田の「結婚相手」を「世話」したというのは事実だが、二人に「私（＝プライベート）」の部分での「親身なつき合い」があつたかどうかは、本文からはわからない。柳沢は嶋木田のことを「片腕」（7行目）とか「女房役」（66行目）とか呼んでいるが、それはあくまでも仕事上のことだけである。

④ まず、「所内のこと」に細やかに気を配りが誤り。嶋木田は、柳沢に対しては「細やかに気を配」つていただろうが、「所内のこと」に対してでもそうであったかは、本文に書かれていらない。また、「夢想の世界で自由に自己を解放する」も誤り。嶋木田は、むしろ自分の夢や憧れを「押し殺してきた」のである（68行目）。

⑤ 嶋木田に「無謀なことを夢想しては挫折を繰り返す傾向がある」というのが、④と同じく、彼が自分の夢や憧れを「押し殺してきた」（68行目）という内容と矛盾している。また、嶋木田に「挫折を繰り返す傾向がある」といったことも、本文には述べられていない。

#### 問5 傍線部にある柳沢の「考え方」について答える問題

問2と同じく、柳沢と息子との関わりが問われている。ただし、傍線部の「何か考え方をしているのかもしれない」が息子からの手紙の受けとめ方に関するものであることを踏まえ、その「考え方」に当たる内容

いるのは、「人の世の真実」といった抽象的な事柄ではなく、息子の手紙を見たときの柳沢の個別具体的な心情である。

⑤ 傍線部と対応していない選択肢である。ここで問われているのは「慚愧に近い感情」についてであって、「自分と息子とでは生き方が根本的に違う」とか「息子との縁を断ち切ることになつても仕方ない」とかいつたことではない。また、「生き方が根本的に違う」については、そう柳沢が思ったのは息子に対してもではなく、息子の母親に対してもであった（26行目）。こうした細かなチェックもおろそかにしないように。

### 問3 茂吉の歌をめぐる柳沢の心情について説明する問題

傍線部の「茂吉の歌」に対する柳沢の解釈や感慨が、そのままここでの彼の心情とつながっていることは理解できるだろう。その点を踏まえ、関連する部分（45～69行目）の内容を確認していこう。その概要是【本文解説】Ⅱでも見てきたので、そちらも参照してもらいたい。

柳沢は、茂吉の「茧」<sup>(はだ)</sup>の歌を子供の頃に父から教えてもらったことがあらが、そのときには興味も湧かず、「難解」で「理解不可能」なものとしか感じられなかつた（49～53行目）。しかし、嶋木田の死を契機に、〈嶋木田の靈そのものに思える綿虫→父の語る魂が憧れ出た茧〉という連想が生じ（45～48行目）、そこから茂吉の「茧」の歌に辿り着いたのである。したがつてそうした連想の背後に、嶋木田の死を痛切に悼む柳沢の意識の流れが働いていることは言うまでもないだろう。ただ、それとは別に〈建築家である柳沢→世界的な作曲家である父→著名な歌人である茂吉〉といふつながりもまた、そこには認められるのである。そう考えるとき、茂吉の歌に關してもまた別の感慨が湧いてくるのだった。

茂吉の「わが道」は、「歌人」としての道なのか、それとも「病院経営」者としての道のことなのか。あるいは、「経営者の役割を捨てたいのにそれが出来ないからわざわざかに歌を詠んでおのれを解き放す」といった苦悶に満ちたあり方を示したものなのだろうか（54～57行目）。柳沢は茂吉の歌

にそう問い合わせるのである（→a）。

そして柳沢は、合理的だと思っていた自分にも同じような葛藤があることに気づく。彼は、建築家として「建物を創り出す仕事」に集中したいと思いつながらも、その一方で「設計事務所の責任者」として経営面での「役割」もおろそかにはできないという、「おのれ」の現状を「負担」に思っていた（62～65行目）。柳沢は、自分にも茂吉と同じような苦渋にとらわれているところがあるようと思えて、そのことに思いをめぐらせているのである（→b）。

以上の内容から、Ⅱの内容を再度確認すると、次のようになる。

a 茂吉は歌人であることと病院経営者であることとの間で悩んでいた、と柳沢は考えている。

b 柳沢は、合理主義者でありながら、経営者と建築家という異なるあり方や生き方の間で、折り合いをつけられないでいる。

これらの内容を的確に踏まえた③が正解。他の選択肢については、以下のとおりである。

① 「設計事務所の今後の暗澹たる道筋が想起され」が、本文に述べられていない内容。また、傍線部で問題になつているのは「事務所の今後」ではなく〈柳沢自身のあり方や生き方〉のことなのだから、問われていることに対応していない選択肢だともいえる。

② 「父が芸術家と生活者とのあいだで悩んでいた」というのが正確な説明ではない。父が「悩んでいた」としても、それは芸術家と「家長としての立場」とのあいだでのことである（60行目）。また、柳沢が父の悩みと「まったく同じ葛藤」をもつていたというのも、正しい説明ではない。

④ 柳沢が「経営者としてではなく、一介の建築家として」生きようとしており、しかもその傾向は「止めようもない」という趣旨の選択肢だが、そうしたことは本文に述べられていない。彼は、「経営者」としての自

正解以外の選択肢は、いずれも辞書の意味が踏まえられていない。そのうえで付言すれば、①の「辻褄合わせ」は、辞書的な意味とは逆の説明になっている。また、⑤の「うろたえ」は、傍線部直前の「狼狽」と同義であるため、これを選ぶと「狼狽を鎮めようと狼狽しながら考えた」というおかしな文脈になってしまふ。

## 問2 傍線部での柳沢の心情について答える問題

設問に「このときの『柳沢』の心情はどのようなものか」とあるのだから、柳沢が息子からの手紙を読んでいる場面（15～31行目）の内容を正確に読み取る必要がある。その概要是、【本文解説】Ⅲの前半で確認してきただが、ここでも振り返っておこう。

息子からの手紙には、「つき合っている女性との間に子供ができたので結婚する」とあり、「僕はあなたのよつな経過は辿りたくない」と書かれていた。その言葉には、**自分**という子供ができるのにその母親と別れてしまつた柳沢（25行目）への反撥が含まれていただろう。また手紙には、「子供は両親が揃っている空間に置いてやるべきだ」ともあつた。これは、生まれた子供を引き取ったのはいいが、その養育を自分で行ってこなかつた柳沢（27行目）への批判として言われたものだろう（→a）。

そうした息子からの批判に対し、柳沢には柳沢なりの言い分もあるのだが、「あなた」という他人行儀な言い方でしか自分のことを呼び得ない息子の心の裡を思うと、「慚愧」（＝悔いや恥）に近い感情」が胸の中に拡がっていくのである。ただ傍線部直後にあるように、その感情は、息子に対する「罪の意識」ではなく、「自分の今までの生き方に対する重苦しい感情がもたらしたもの」だった。つまり、ここでいう「慚愧に近い感情」とは、あくまで自分自身に向けられたものだったのである（→c）。

では柳沢は、自身のどういうあり方に「慚愧に近い感情」を覚えているのか。もちろんそこには、息子の母親と別れたり息子を自分で育ててこなかつたりといったこともあるのだが、それだけでなく柳沢には、家族とい

うものを拒んで生きてきたようどころがあつた（→b）。彼は、息子の母親となつた女性と別れた後、「自分は女（＝特定の女性）ということではなく女性一般ということであろう」とはうまくやつていけない性質なのだ」と思い、女性と「同じ屋根の下で一緒に暮す」といったことは避けてきたのである（75～78行目）。

以上の内容を整理すると、次のようになる。

a 柳沢は、息子からの手紙によって、自分が父親らしい振る舞いをしてこなかつたことを批判された。

b そんな柳沢には、これまで家族というものを避けて生きてきたようなどころがある。

c a・bに対し柳沢は、自分の過去のあり方を悔いるような感情を覚えている。

これらの内容を的確に踏まえた①が正解。なお①の「遺憾」は、「残念・心残り」を意味する言葉で、右のcに該当する表現である。

他の選択肢についても見てみよう。

② 息子の苦渋を理解してやれなかつたことについて「自分に責任がある」と思い恥じ入つてている」というのが不適当。柳沢は、息子のことを可哀想に思つてはいるかもしれないが、だからといって「自分に責任がある」とは思つていない。また「両親に愛されずに生きてきたことを嘆ぐ息子の思いの強さ」というのも、息子からの手紙についての説明として適當ではない。

③ 「息子の今後の生き方を危ぶむ気持ちが萌しかけている」が、本文から読み取れない。本文では、「息子の今後の生き方」といったことは話題になつてない。

④ 「善かれと思ってしたことも伝わらないことがあるという人の世の眞実に突き当たり」が、本文の内容と無関係である。本文で問題になつて

(1) 息子からの手紙は、父親らしい振る舞いをしてこなかつた柳沢を批判するものであった。

(2) (1)に関して、柳沢は、息子への罪悪感というよりは、自分の過去のあり方に慚愧に近い感情を覚えている。

(3) 柳沢は、息子の生き方について、何もかも合理的にしているように見える柳沢への反撥に由来していると思うようになった。

(4) (3)に関して、柳沢は、自分は迷いのない合理主義者だったわけではないと思いつ返している。

蛇足だが、右のことからわかるとおり、この小説の主人公である柳沢はある意味で非常に身勝手な男として描かれている。そのため小説の内容に違和感を覚えたという受験生もいたかもしれない。しかし、入試における現代文の読解では、あくまで本文の客観的な読解に徹するべきであろう。小説を読んで個人的に感想を抱くことは良いことであるが、現代文の問題を解く際には、そうした感想に必要以上に振り回されないように注意してほしい。

### 【設問解説】

#### 問1 語句の意味を答える問題

大学入試センター試験の小説問題の問1は、傍線部の語句の辞書的な意味を答えるもので、基本的には知識型の問題である。ただ、単に辞書的な意味だけでは正解が決まらない場合もあるので、傍線部の文脈やその場面の状況にも留意しておきたい。

(ア) 「奇を衒う」は、「一風変わった様子を気取る」という意味の慣用表現である。したがって、①が正解。「衒う」は「ひけらかす・気取る・誇示する」という意味であり、たとえば「衒学」といえば、学を衒うこ

と、つまり「学のあるところを氣取る」といった意味になる（ちなみに④は、この「衒学」の意味になつてている）。本文に述べられている「ど

こといつて奇を衒ったところのない建築」というのは、「先端技術を誇示」したりはしない、「これといって目立つたところのない平凡な建築」ということである。

③の「不思議な」の部分は「奇」の意味を踏まえているが、「……魅力を醸し出す」の部分が「衒った」の意味から外れている。また、②・⑤は、「奇」の意味も「衒った」の意味も出でていない。

(イ) 「破目を外す」は、〈調子に乗つて度を過ぎる〉という意味の慣用表現である。傍線部の文脈では、柳沢が「合理的で冷静」なだけで、何の〈面白味〉もない人間だということが述べられており、ここからも「破目を外す」が〈興に乗つて無茶をする〉といった意味だとわかるだろう。したがって、②が正解。なお、「破目を外す」の「はめ」は、通常「羽目」と表記される。また、「……羽目に陥る（＝困った事態に陥る）」という慣用表現も覚えておこう。

①・⑨は、辞書の意味も文脈での意味も踏まえられていない。また、文脈から④「人を愛する」、⑥「人間的な温かみ」といった内容やニュアンスを読み取ることもできないではないが、辞書の意味がまったく踏まえられていない以上、④や⑥が正解になることはない。センター試験の小説問題の問1では、文脈から踏み込んだ解釈をする前に、まずは傍線部の語句それ自身の辞書的な意味に即していけるかどうかで、正誤を判断しなければならない。このことは肝に銘じておこう。

(ウ) 「トンチンカン」は、「人の言行などが見当違いなさま、つじつまの合はないさま」を示す表現で、「頓珍漢」と漢字を当てる場合もある。傍線部を含む部分では、柳沢が〈胸の痛みと肺結核との関係〉を無理やり持ち出すことで、〈人ととの関係に由来する自分の胸の痛み〉から目をそらし「狼狽を鎮めよう」としている様子が描かれている。そうしたやり方を「トンチンカンに」と言っているのだから、〈見当違いに、核心から目を背けて〉といった内容は汲み取れるはずだ。したがって、正解は④である。

とから、彼の連想は、「螢」が詠み込まれた斎藤茂吉の短歌のことにまでおよんでいく（45～53行目）。

設計事務所の経営責任者であることと、建築家として建物を設計し創りあげることとは、柳沢にとって、相容れない生き方を強いられることのように感じられた（62～64行目／Iで確認済み）。

それを負担に思い（自らの生きる道）に思い惑っている柳沢は、一家の長でありつつ世界的な作曲家でもある父や、病院経営と歌作という二つの道を貫いた茂吉も、「おのれ」の「わが道」について悩んでいたのかも知れないと思いつく。音楽にせよ詩歌にせよ、芸術は自分に無縁だと考え、冷静で合理主義者であることを誇りにしてきた柳沢にとって、そうした心の動きはこれまでになかったものであった（54～61行目）。

ここでは、父や茂吉に思いを馳せている柳沢の心のありようについて、基本的な事柄を確認しておこう。

## II

- (1) 父は作曲家であることと家長であることとの間で悩んでおり、茂吉は歌人であることと病院経営者であることとの間で悩んでいたのではないか、と柳沢は考へている。
- (2) 柳沢は、自らを冷静な合理主義者だとみなし、そのことを誇りにしている。
- (3) (2)でありながら、柳沢は、経営者と建築家という異なるあり方や生き方の間で、折り合いをつけられないでいる。

## III 息子からの手紙

嶋木田が事故に遭う直前、顔も見ることなく彼を送り出した柳沢は、設計図のことだけでなく、もうひとつ別のことも考えていたのだった。息子からの手紙のことである（15・16行目）。

ブラジルにいる息子が、つき合っている女性との間に子供ができたので結

婚する、と告げてきたのだ。柳沢は、その息子から「僕はあなたのような経過は辿りたくない」と言われ、「子供は両親が揃つていてやるべきだ」と言われたのだった（17～24行目）。

息子は、自分の出生をめぐるいきさつをどこかで知り、そのことで自分を捨てたに等しい父親のことを責めているのだろう。柳沢は、息子の母親と一緒に育てるつもりでいたのだが、生き方が根本的に違うと思いつめるようになり、結局は別れることにしたのである。ただ、そう決めてから彼女が自分の子供を宿しているのを知り、そこで柳沢は生まれた子供を引き取り、母親に育ててもらうことにしたのだった。柳沢にしてみれば、息子は祖母のもとでそれなりに幸せな幼時を過ごしていたと思っていたのだが、息子の手紙を見る限り、それはやはり身勝手な思い込みだったのかもしれない。今は、柳沢のことを「あなた」と他人行儀に呼ぶほかない息子の胸裡を思い、柳沢は慚愧に近い感情を覚えるのだった。ただ有り体に言えば、その悔いにも似た気持ちは、息子への罪意識ではなく、自分の今までの生き方への悔いのような感情がもたらしたものであった（25～31行目）。

だが息子の手紙を反芻するうちに、柳沢は、息子が父親としての自分を責めているだけではないということに気づいていく（70・71行目）。

物事を冷静にとらえ自分の人生設計を着実に進めている息子のあり方は、まさに柳沢の生き方と同様、計画的で合理的なものである。しかし、ブラジルに移住するということ自体、世間的に見れば合理的な選択とは言いがたいのではないか。そのことに思い当たったとき、柳沢は息子の言う「あなたのような経過は辿りたくない」という言葉の裏に、柳沢のようには合理的であることばかりを優先する生き方はしたくないという、柳沢への批判や反撥が含まれていることに気づかされるのだった。しかし、もし息子がそう思っているのなら、柳沢はそんな息子に、これまで自分はたしかに合理的に振る舞おうとしてきたが、実際は迷いなく合理的でありえたわけではないのだと、自分の胸の裡を告げたいとも思うのだった（80～93行目）。

だつた。

また同じ頃、息子から結婚を知らせる手紙が届き、その文面から、息子が父親である自分に対し反撥を深めているらしいことを知る。柳沢はそれをどうしようもないことだと思いながらも、息子との関わりについて想いをめぐらすなかで、「懺愧（せんき）（＝悔い）に近い感情」が胸をよぎるのを禁じ得ないのであつた。

以上のように本文は、**柳沢の嶋木田との関わり**（＝Ⅰ）と、**柳沢の息子との関わり**（＝Ⅲ）という二本の軸を中心としており、そこに作曲家の父親や歌人・斎藤茂吉をめぐる柳沢の思い（＝Ⅱ）が配されるという構成になつてゐる。以下、それぞれの内容を検討していくが、その際、とりわけⅠについては、本文の叙述の順序に縛られずに概括していくこととする。

### I 嶋木田の死

嶋木田は、柳沢が建築界の大御所の設計事務所で修業していたときの四年後輩である。柳沢は、自身が設計事務所を構える際、嶋木田を連れて独立したのだった。合理的で理屈が先行しがちな柳沢とは対照的に、嶋木田は山登りが好きで夢見がちな男だったが、二人は不思議と「うまが合つた（＝気が合つた）」のである。以来、嶋木田は、柳沢の「片腕（＝最も頼りにする補佐役）」として、ずっと一緒に働いていた（36～39行目）。

その嶋木田が死んだのは、昨年の冬、柳沢が設計したビルの工事中のことだった。その日、嶋木田は、現場を見てから帰ると言つて事務所を出たのだが、嶋木田から挨拶されたとき、柳沢は、息子からの手紙や、そのとき取り組んでいた設計図のことで頭がいっぱいだった（8～16行目）。

そのため柳沢は、嶋木田の顔も見ないまま彼を送り出してしまつた。その後に嶋木田は現場で墜落死してしまつたのだが、もしあのとき嶋木田の顔を見ていれば、そこに何か不吉なものを予感し、一言注意ができたはずなのだ。——今となつては詮ない後悔でしかないが、柳沢は強くそう思うのだった（32～35行目）。

設計事務所の経営者としての役割と建築家としての仕事とは全く異質で、ここずっと柳沢は、そのことが強いる負担に疲弊していた。嶋木田はそんな柳沢を気遣い、おのれの夢や憧れを犠牲にしてまで働きづめに働き、経営面でも精神面でも柳沢を支えてくれていたのである。嶋木田の死にはそんなことも絡んでいたのかも知れない。そう考えると、柳沢の胸中に悲哀の感情が溢れるのだった（62～69行目）。

柳沢は、嶋木田に「あかね」を「無理遣りのように」娶せた。それは、嶋木田にも彼を支えてくれる配偶者が必要だと思ったからだ。その後、二人は幸せに暮らしていたように見えたのに、どうして嶋木田は死ななければならなかつたのだろう。警察の検証では不審なところは何もでてこず、現場での事故死として処理されることになった。暮れの葬儀の際、柳沢は、まるで嶋木田を慕つてもいるかのように、葬儀場の戸外をたくさん綿虫が飛んでいるのを見た。それは、あたかも嶋木田の靈そのものであるかのようを感じられたのだった（40～48行目）。

ここでは、柳沢と嶋木田との関わりについて、以下のポイントを押さえておこう。

### I

- (1) 柳沢は仕事のことで迷いを抱えていたが、嶋木田はそんな柳沢を気遣い、献身的に柳沢を支えてくれた。
- (2) 柳沢は、自分にないところのある嶋木田と気心を通じあつていて感じており、彼を自分の「片腕」として信頼していた。
- (3) (1)・(2)ゆえに柳沢は、嶋木田の死に衝撃を受け、胸をかきむしられるような悲哀の念にとらわれている。

### II 父親や茂吉をめぐって

柳沢は、葬儀場で綿虫を見たことをきっかけとして、幼い頃に父が蟻は魂がさまよい出たものだという話をしていたことを思い出した。さらにそのこ

述べられているのは「遠近法」について、そして⑧～⑩で述べられているのも、やはり「遠近法」についてである。したがって、この三つの部分で「三つの話題が並列的に取り上げられ」ているというのは間違い。もちろん「三つの話題」ということ 자체が間違いなのだから、⑪以降で「その三つの話題をまとめ」ているというのも間違いである。

## 第2問 現代文 【出典】

辻井喬の小説「胸にはとはの」から出題。同作品は、連作短編集『故なくかなし』（新潮社 一九九六年）のうちの一編である。同書は、近現代の俳句から想を得て執筆された十八の短編を収録したものであり、「胸にはとはの」は、石田波郷の句「風花や胸にはとはの摩擦音」に触発されたものである。なお、出題文は同作品のほぼ全文であるが、設問作成の都合で一部省略した箇所がある。

辻井喬（つじい・たかし）は、一九二七年生まれの小説家・詩人。本名は堤清二（つつみ・せいじ）。西武グループ創業者の長男として生を享け、学生時代は父との確執から政治運動や文学に傾倒していくが、長じてからは西武流通グループ代表・セゾングループ代表などを歴任し実業界でも活躍した。その文業を簡単にまとめるることはできないものの、小説では、自己の出自や来歴をみすえた作品が多く、そこからは、父への反撥<sup>はんばつ</sup>と父の受容、あるいは経営者の視点で捉えた人間の内面といったモチーフ（＝主題）を汲みとることができる。今回の出題文にも、こうした作風は色濃く影を落としている。二〇一三年、肝不全で死去。

主な著作として、小説では『彷徨の季節の中で』『いつもと同じ春』『父の肖像』『遠い花火』などが、詩集には『宛名のない手紙』『呼び声の彼方』『鶯がいて』などがある。また、著作集として『辻井喬コレクション』（全8巻 河出書房新社）が刊行されている。

### 【本文解説】

本文は、主人公の柳沢をめぐる複数の人間関係を軸に、柳沢の孤独な内面を浮き彫りにしたものである。

建築設計事務所を主宰している柳沢は、ある日、自分の片腕と目<sup>もく</sup>していた嶋木田の不慮の死を知ることになる。柳沢は、嶋木田が事務所の運営面を陰に支えてくれていたことを思い返し、痛切な「悲哀の感情」を覚えるの

④ 「感覚的な」刺激が何を意味しているのかを読み解くという行為に没入してしまったが間違い。たとえば装飾や音楽など何を意味しているのかを読み解くというのは、それらが何を「象徴」しているのかを理解するという行為だが、傍線部直後を見ると、装飾や音楽は、象徴機能を持たれているものの、「同時に象徴機能の仕事を逸脱して……何も指示示さないまま」でいると述べられている。

#### 問6 (i) 本文中の表現の効果について答える問題

① 「神」が「口実」に、「神学」が「器」に「たどえられて」いるというのが、間違っている。「たどえ」というのは、ある物事を他の物事に置き換えたりなどうたりして説明することで、たとえば「人生を川の流れにたどえる」といった言い方がそれに当たる。しかし、本文③の後半で述べられているのは、教会堂が「フラインツェン自身の栄光を称える聖堂に変化しつつあった」ということ。つまりここでは、ルネサンス期になって「神」が「口実」に「変化」し、「神学」が「人間中心主義をカモフラージュする器」に「変化」したということが述べられているだけなのである。

② ⑧で述べられているのは、人間が三次元の世界を認識するときどのように認識するかということ。そのときに「物体のつらなり」のような手がかりがないと、三次元の空間が二次元の平面のように見えてしまうということが述べられているだけである。したがって、ここで「三次元の世界と二次元の平面との違い」という問題が、分析的に説明されてい る」というのは間違いである。

③ 「ステンドグラス」や「フレスコ画」というのは、「中世」の美術。それに対して「抽象画」というのは「現代」のものである。そして本文で述べられているのは、両者が「似た描写法」をとっているということだけである。したがって、前者が後者の「技法を説明するためにあげられている」というのは間違いである。

#### (ii) 本文の段落構成について答える問題

④ ここでいう「芸術家」というのは段落冒頭にある「ルネサンスの画家」のことを指しているから、「芸術家」が「ルネサンスという時代のなかで」生まれたものだというには間違いない。そして、その「芸術家」というのは「作品の外に個人として留まる」(17)ような「遠近法的空間の主人」(15)なのだが、そうした人間は、それ以前の「中世」には存在していなかった。したがって、「芸術家」が「新たな」あ り方をしている人間だということも間違いない。以上の理由で、この④は正解である。

【本文解説】で確認してもらえばわかると思うが、本文では、まず①～③で、ルネサンス期に「人間中心主義」が生まれたという一つの話題を提示している。次に④～⑩では、その「人間中心主義」が「遠近法」によく表れているということを述べ、ルネサンス期の人々の考え方や美術について考察している。さらに⑪以降では、ルネサンス期の美術などについて、中世のそれと対照させながら論を進めている。

こうした本文の論の展開を最も正しく説明しているのは②であり、これが正解である。他の選択肢については以下のとおり。

- ① ①～③で示されているのは「具体的」な事例であり、④～⑩で示されているのが「抽象」的な問題だというのがおかしい。①～③と④～⑩のどちらにも、具体的な事例もあれば抽象的な説明もある。また、本文の最後で「あらためて考察すべき問題がほのめかされている」というのも、根拠のないことである。
- ② ⑭以降の部分で「再び最初に取り上げられていた問題が論じられている」というのが間違い。「最初に取り上げられていた問題」とは「人間中心主義」や「遠近法」の話題だが、⑭以降の部分では、そうした話題以上にむしろ中世の美術のことが論じられている。
- ③ ①～③で述べられているのは「人間中心主義」について、④～⑦で

## 問5 傍線部の意味を、その前後の内容をふまえて答える問題

傍線部に至る文脈を見ればわかるとおり、ここで問われているのは、「大聖堂のなかへ入った者」がどうなつてしまふのかということだ。もちろん、ここでいう「大聖堂」とは「ゴシック大聖堂」のことであり、ブルネッレスキが作ったルネサンス期のサン・ロレンツォ聖堂（＝遠近法的な空間構成をもつた聖堂）とは異なる、中世の建築である。

以上の大前提を確認したうえで、まずは傍線部そのものの意味から考えてみよう。「恍惚」とは〈物事に心を奪われうつとりとするさま〉、「うつけ者」とは〈愚か者〉ということである。愚か者になるといふのは「理性」の外へ出るということと同じことだから、傍線部には次の二つのことが述べられているということがわかる。

a 恍惚境に入る＝うつとりしてしまう

b 理性的自己の外へ出て、うつけ者のようになる＝理性的なあり方とは縁遠い人間になつてしまう

次に、なぜゴシック大聖堂のなかに入つた者はaやbのようになつてしまふのかということを考えてみよう。これについては、本文末の一文に注目したい。ゴシック大聖堂を訪れた中世の人々は、「ステンドグラスの特異な光」や、「パイプオルガンの音」や、「巨大な束ね柱の手ざわりや大理石の敷石の冷たさ」や、「何百本ものロウソクの香り」といったものに「感覚を刺激され、理性をもつた『学ぶ人』ではなく、ただ『感動する人』になつてしまふ。つまり、光や音や香りなどの「感覚」的な「刺激」が、人をaやbのようにしてしまうというのである（→c）。

さらに本文末には、「ゴシック大聖堂に入った者は『個』ではなく『場』」の人になつてしまふと述べられているが、これがどういうことかも考えてみよう。人間が「個」になるというのは、自分が他者とは異なる個別な存在であるという意識をもつということである。したがつてそこには、自他の分離、つまり「主体」と「客体」の分離ということがある。ところがゴ

シック大聖堂に入った者は、そうした「主体」と「客体」の分離といった意識をもてなくなつてしまふのだ。傍線部直前の一文にあるように、「大聖堂のなかへ入った者」は、「遠近法の主人のような堅固な理性的体制から抜け出して、諸感覚を同時に震わす曖昧な場に変容する」のである。つまりそこでは、自分が他と切り離された「主体」ではなくなり、「場」と一体化したような存在になつてしまふのだ（→d）。

以上の内容をまとめてみよう。

これらの内容を過不足なく説明している⑨が正解である。他の選択肢についても以下のように。

- |                                 |
|---------------------------------|
| a ゴシック大聖堂のなかへ入った者は、うつとりしてしまう。   |
| b その人間は、理性とは縁遠い存在となつていて。        |
| c そうなるのは、多様な感覚的刺激を受けるからである。     |
| d また、自分が「場」と一体化した存在と化しているからである。 |

① 「理性をもつた日常の自己をその外側から眺め」が間違い。対象を外側から眺めるというのは遠近法的な態度だから（15・17）、それは「理性」的なあり方だということになる。また、「自分とは何か」といった問題について思いをめぐらすようになる」も、本文に述べられていない内容である。

② 「神の教えをひたすら学ぶことしかできないような人間になつてしまふ」が間違い。たしかに傍線部の3行後には「キリスト教の教えを学びながら」とあるが、本文末には「学ぶ人から感動する人へ……変化していった」と述べられている。

③ 「もはや宗教的な教えを学ぶことなど一向にできなくなり」が間違い。たしかに本文末には「学ぶ人から感動する人へ」とあるが、傍線部の3行後に「キリスト教の教えを学びながら」とあるのだから、「学ぶことなど一向にできなくなり」というのは、正しい説明とはいえない。

### ○「芸術家」について

芸術家とは、ルネサンス期になつてはじめて「誕生」した者たちであり、絵画から独立した個人として絵画を支配するという、「絵画の主人」ともいえるような存在（→c）である（[15]）。そして筆者は、「芸術家の誕生で最も根源的な点は、作者が作品のなかに消えてゆかず、作品の外に個人として留まつたということなのだ」と述べている（[17]）。これは、別の言い方をすれば、芸術家とは「主体と客体の断絶した関係を形成しながら、絵画を制作」する者だ（[15]）ということである（→a）。

また、芸術家が誕生したことの背景には、「傑出した芸術的才能の持ち主を神のごとく崇める当時のフィレンツェ人の趣味とそのような人材を发掘し際立たせるコンクール制度」があった（[17]）。このことをふまえ、さらに[16]の三番目の文の内容を裏返して考えてみると、芸術家とは「自分の名と業績をひけらかす」ことを好む存在なのだろうということが推測できる（→b）。

### ○「中世の画工」について

まず[16]を見ると、中世の画工は、右のbとは対照的に、「自分の名と業績をひけらかす」ということはしなかつた」と述べられている（→b）。それは、「作品のなかに自分を投じる、作品のなかの人物と重なるという自己滅却の姿勢」なのであり、[14]にある「自ら画面の空間内に身を置く」というあり方にも通じるものである（→a）。

では、なぜ中世の画工たちは、右のaのような態度をとったのか。それは、「我々が現実に体験している空間の内側の全体が絵画において追体験されることを、求めていた」からであり（[13]）、「人間が日々実際に体験している情景の内部世界を、ばらばらに分解せずそのまま全体的に画面に再現しようとした」からである（[14]）。つまり画工たちは、自分の体験している世界をそのまま作品で再現しようとしたのだ（→c）。

以上の内容をあらためてまとめると、次のようになる。

### 中世の画工

a 作品のなかに自らの身を投じる。

b 自分の名や業績をひけらかそうとはしない。

c 自分の体験している世界をそのまま表現しようとする。

↔

### ルネサンス期に誕生した芸術家

a' 主体（＝自分）と客体（＝作品）を断絶させた。

b' 自分の名や業績をひけらかそうとする。

c' 「絵画の主人」として、絵画空間を支配しようとする。

これらの内容に矛盾していない選択肢を選べばよい。したがつて、①が正解である。他の選択肢についても見てみよう。

② 「芸術家が個性の表出を抑えるのに対し、画工は個性を主張しようとする」という趣旨の選択肢だが、これは本文の論旨とは正反対である。

③ bおよびb'にあるとおり、個性を主張しようとするのは芸術家であり、画工のほうが、むしろ個性の表出を抑えようとするのだ。

中世の画工と「現代の芸術家」を「対照的」な存在としている点が誤り。[11]の最後にあるように、中世の美術の書き方は、「現代抽象画」のそれと似たところがあるのだ（これについては【本文解説】の最後の部分も参照してほしい）。

④ 芸術家について「自分を取り囲んでいる情景や環境を内側から眺め」としている点が、a' と矛盾している。芸術家は情景や環境を「客体」として捉えるのだから、それらを外から眺めるはずである。

⑤ 画工は「芸術的才能には恵まれていない」というのが、[16]冒頭の一文の内容と矛盾している。

内容と矛盾している。

空間も合理的に把握しやすいよう幾何学的に構成されている。

### 問3 僚縁部の理由となつてゐる[5]～[10]などの内容について答える問題

問われてゐるのは、単に「遠近法」の特徴などではなく、「遠近法」の本質に「人間中心主義」があるといえる理由である。そう考えれば、[9]にある「遠近法の展望において主人は……人間なのだ」という一文に着目できるだろう。それに続く部分にもあるとおり、遠近法的な展望では、「主人」は「神」や「聖人」などではなく、「任意の一点」に立つて空間を見やつてゐる「人間」なのである（→a）。

では、なぜ人が主人になりうるのか。それは、[10]にあるとおり、人が「空間全体」を把握してゐるからである。そしてある空間の「全体」を把握しようとしたら、その空間の外に立つて、その全体を見渡さなければならぬ。実際、このあと部分にも、遠近法で画面を描く者は「画面の外側にいる」（[12]）とか、「絵画空間の外に留ま」る存在だ（[15]）とかいつたことが述べられてゐる。つまり、遠近法的空间の主人である人間とは、空間の外に立つて空間全体を把握しようとする者なのである（→b）。さらに、[10]の最後にある「要するに、見る人間、遠近法の主人は、空間全体を幾何学的に把握する態勢を整えた理性の人間であるということだ」という一文にも注目しよう。また[6]にも、遠近法は「幾何学的原理」に則つたもので、創始者であるブルネッレスキはそれを「理性的」な「科学の一種」だとしていたということが述べられてゐる。つまり、遠近法的な空間の全体を把握するには「理性」が必要なのであり、空間もそうした把握がしやすいように「幾何学的」に構成されてゐるのである（→c）。

以上の内容を、あらためて整理してみよう。

- a 遠近法的な空間における主人は、神ではなく、任意の一点に立つて空間を見やつてゐる人間である。
- b その人間は、空間の外部から空間全体を把握しようとする。
- c そうしたことをするためには理性（＝合理的精神）が必要であり、

このa～cに最も即してゐる④が正解である。他の選択肢については以下のとおり。

- ① 本文と矛盾することは書かれていないが、「遠近法」の内実についての説明がまったくない。この選択肢に述べられているのは「ルネサンスの美術」が「人間中心主義」だったということだけであつて、これでは設問に答えたことにならないのである。
- ② 「作品のなかにいる人間」および「作品中の一点から」が、bと矛盾している。

③ 「遠近法」がどういう技術かということについての具体的な説明にはほぼ終始しているだけで、それと「人間中心主義」との関係について言及されていない。これも①と同様、設問に答えていない選択肢である。

⑤ 「作者が事物の大小などを自由自在に描いてよい」が誤り。遠近法においては、「遠くの対象はより小さく、近くの対象はより大きく描く」ということになつてゐる（[5]）。「自由自在」に描くというのは、「多角的」かつ「多様」に描くという点で、どちらかというと「中世の画工」の描き方のほうに近いといえるだろう（[12]）。

### 問4 ルネサンス期の「芸術家」と、それ以前の「画工」との違いについて答える問題

設問だけを読むと単に「中世の画工」について答えればよいように見えるが、選択肢は、どれも（中世の画工は）○○な芸術家とは違つて○○な者である）というかたちになつてゐる。この点に気づけば、ここでは「芸術家」と「画工」の違いが問われているとわかるはずだ（このように選択肢を見ることではじめて何が問われてゐるのかがわかるというタイプの設問も、入試現代文ではしばしば出題される）。そこで、「芸術家」と「画工」について、それぞれ特徴を整理してみよう。

(1) 「切に願う、ひたすら願う」といった意味の「懇願」。①「昨今」、②

「精根」、③「懇切」(＝きわめて親切なさま)、④「困惑」、⑤「混迷」

で、⑥が正解。

(2) 「樹木」。①「天寿」(＝天から授けられたとされる寿命)、②「樹立」、

③「傍受」(＝相手以外の通信を受信してしまうこと)、④「必需」、⑤

「呪文」で、⑥が正解。

(3) 「十字架」。①「感化」(＝影響)、②「可否」(＝よしあし、贊否)、③

「日課」、④「華美」、⑤「架空」で、⑥が正解。

(4) 「束縛」。①「自縛」(＝自縄自縛)は、自分の縄で自分を縛るよう  
に、自分のせいで自分が苦しむという意味)、②「幕僚」(＝軍の司令官  
などに直属して補佐する者)、③「暴露」、④「広漠」、⑤「起爆」で、  
⑥が正解である。

## 問2 傍線部の説明となつている①～③の内容について答える問題

傍線部にある「謳歌」とは、「声を合わせ歌うようにして讃美称える」といふた意味である。このことを知つていれば、③の末尾の一文が傍線部

の言い換えになつてゐるといふことがわかるだろう。フィレンツェの人々  
は、自分たちの栄光を称えるために、教会堂を作つたのである(→c)。  
では、なぜ彼らは自分たちの栄光を称えたのか。それは、②にあるとおり、自分たちのなかに「繁榮するフィレンツェを誇りに思う気持ち」があつたからである。この気持ちは、繁榮を可能にした「合理的な自己」の愛」というかたちになる(→b)。それは「理性的な人間」を尊ぶ「人間中心主義」ともいふべきものであつた。

こうしてフィレンツェ人は自分たちを讃め称えるようになつたのだが、  
③にあるとおり、これはそのまま「キリスト教神への信仰がすたれた」ということを意味するわけではない。彼らは相変わらずキリスト教の信仰を持つてはいたのだが(→a)、その信仰は「人間中心主義をカモフラージュ(＝偽装)する器」のような意味合いを帯びてきたといふのである。

以上の内容を簡潔にまとめると、次のようになる。

a フィレンツェの人々は、信仰を失つたわけではなかつた。

b しかしそれ以上に、自分たちは理性によつて繁栄を可能にしたといふ思いを強くもつっていた。

c そこで自分たちの栄光を称えるために、教会堂を建てた。

これらを過不足なく説明している④が正解である。他の選択肢については以下のとおり。

① とくに本文と矛盾するようなことは書かれていない選択肢なので紛らわしいが、右のb・cについての直接的な言及がないという点で、正解には及ばない。要するにこの選択肢は、(フィレンツェの人々は合理性の精神にもとづいて教会を建てた)ということを述べているだけで、傍線部の「現在の繁栄を謳歌するため」という内容についての明確な説明がないのである。傍線部とは「どういうことか」ということが問われている以上、傍線部そのものの内容がより明確に説明されている選択肢のほうを選ぶべきであろう。

② 「神に対する関心を失つてしまい」が、右のaと矛盾している。また、教会は「人間中心主義をカモフラージュする」ものだったというのだから(→b)、それは表向きは神を称えるものであつたはずである。したがつて、「神ではなく人間の理性の素晴らしいさを表現したものになつた」というのも、正しい説明ではない。

③ まず、フィレンツェの人々が「人間中心主義を標榜していた」というのが、やや大げさである。「標榜」とは「意見などを公然と掲げ表すこと」という意味だが、本文には、フィレンツェの人々が「人間中心主義をカモフラージュ」してゐたと述べられている。また、教会堂が「愛国主義」も象徴していたといったことは、本文のどこにも述べられていない。

④ 「信仰の習慣を失つてしまい」というのが、右のa、つまり本文③の

まり制作者・鑑賞者と作品とは、明確に分離されはいなかつた。これは、作品が個人によって理性的に把握されることを拒んでいたということでもある。そして、中世に作られたゴシック大聖堂の内部空間とは、まさにそのような「多様」で「不確かな」世界であったのだ（18）。

ゴシック大聖堂のなかに入った者は、遠近法的空間を外部から「主人」として眺めるような態度をとることなど、できなくなる。そこには、さまざまな装飾と、ステンドグラスの光、パイプオルガンの響き、数多くのロウソクの香りなどが満ちている。人はそうしたものに感覚を刺激され、「理性」とは縁遠い人間となつて、反遠近法的な、つまり反近代的な「場」と一体化していくのである（19）。そして、これこそが中世ヨーロッパにおいて支配的だつた宗教的なあり方だということなのだろう。

### まとめ

本文では一貫して、中世（＝近代以前）における美術や人間のあり方と、ルネサンス期（＝近代）におけるそれとが対比されている。ここであらためて、簡単にまとめてみよう。

### 中世（＝近代以前）

- ・ ほとんどあらゆることを神に頼つて生きていた。
- ・ 画家は、現実に体験している空間の内側の全体を追体験するようにして、絵画を描いていた。
- ・ 自己滅却的な姿勢をもつ「画工」が、美術作品を作つていた。
- ・ 宗教的な場において、人は理性的なあり方と縁遠い存在となり、その場と一体化していた。



### ルネサンス期（＝近代）

- ・ 「理性」をもつた人間という存在を重んじる、「人間中心主義」が生まれた。

- ・ 画家は、空間の外側に立つて空間全体を理性的に把握しようとする、「遠近法」的な絵画を描こうとした。
- ・ 絵画の主人であろうとするような「芸術家」が、美術作品を作つていた。
- ・ 宗教的な態度よりも、むしろ「理性」をもつた合理的人間の栄光を称えるようなあり方が強くなつた。

最後に、[1]の末尾で、中世の美術が現代抽象画と似ていると述べられていて、簡単にふれておきたい。これは端的にいえば、十九世紀末以降の美術の世界において、「近代」的なものの見直しが行われはじめたということであろう。ルネサンス以前の長いあいだ、人間は神に頼つて生きており、「人間中心主義」などにとらわれてはいなかつた。しかしルネサンス以降、「近代」という「人間中心主義」の時代がしばらく続く。その後、美術の世界では、この「人間中心主義」に対する反省が生じはじめ、遠近法などにとらわれない「現代抽象画」が生まれたのだ。

こうしたことが述べられているのは、筆者が歴史というものを長いスパンで見ていているからだといふこともできる。長い人類史のなかで見れば、「人間中心主義」が力をもっていたのは、「近代」という数百年のあいだのことすぎない。だからある意味では、近代という時代はきわめて特殊な時代だ——こうした考え方がある。本文からうかがえるといつてもいいだろう。

### 【設問解説】 問1 漢字の問題

近年のセンター試験の漢字問題では、選択肢のなかにかなり難しい熟語を見かけることが多くなつていて。漢字は字を覚えるだけでなく、その意味やそれを使った熟語などもしっかり覚えるようにしてほしい。

- (ア) 「相貌」は〈顔がたち、見た目、ありさま〉という意味。①「忘恩」（＝恩知らず）、②「全貌」、③「望郷」、④「謀略」、⑤「欠乏」で、⑥が正解。

に映るものを「理性的に」定める技法だと考えたのである（6）。

ブルネッレスキは、サン・ロレンツォ聖堂を建設するにあたって、その内部を「遠近感が明瞭に感じられる空間」にしようと考えた。具体的には、教会の通路部分の両脇に、等間隔の円柱をつらなるように並べたのである。この円柱のつらなりを見る人間は、手前から奥に向かってだんだんとものが小さくなつていき、やがては最奥の「消失点」に向かつて徐々に小さくなつてゆく（7）を感じ）を出す物体のつらなりを作り出すことで、彼は「遠近感が明瞭に感じられる空間」を構成したのである（7）（9）冒頭）。

では、そのような「遠近法」は、なぜ「人間中心主義」を本質としているといえるのか？ それは、遠近法の展望においては、「消失点を凝視している人間」が「主人」だからである。サン・ロレンツォ聖堂は、どの地点からどの方向を見ても、遠近感が強く感じられるように設計されている。したがつて、そこは、「人間が自分の自由意志で消失点を決定し、そこからの空間構成を享受する」場だといえるのだ（9）。

つまり遠近法とは、任意の一点に立つた人間が、自分のいる点を中心にして空間全体を幾何学的に把握するための技法なのである。そして、そんなふうに空間全体を、すなわち世界を整合的に捉えようとする人間とは、「理性」をもつた存在——②や③で使われていた表現によれば「合理的人間」——なのである（10）。

そして筆者は、こうした反遠近法的な絵画を描いていた「中世の画工」と、ルネサンス期以降に遠近法的な絵画を描いた「芸術家」とを、きわめて対照的な存在だとして比較する。

ルネサンス期の「芸術家」は、自分自身を「絵画空間の外」に置こうとする。そして「主体」である自分と、「客体」である絵画（あるいはそこに描かれた風景や事物）とを、「断絶」させようとする。これは、画家が「絵画から独立した一個の個人」、つまり「絵画の主人」であり続けようとすることだ（15）。そして、これこそが「人間中心主義」なのである。

これに対して「中世の画工」たちは、まず第一に「職人」であった。だから彼らは、すぐれた才能を持っていたとしても、「他者に対し自分の名と業績をひけらかすということはしなかつた」。しかも、作品の外部に立つて作品の主人になるというようなことはせず、自分を作品のなかの人物と重ねるといった「自己滅却」の姿勢を示していたのである（16）。

以上のことからもわかるように、中世の美術においては、主体と客体、つ

たり方をしていった中世の人間（11）～（19）

ルネサンス期以前の時代、つまり中世の美術においては、遠近法とは対照的な表現方法がとられていた。その具体的なあり方は、（11）で説明されているおりである。なお、ここで筆者は、そうした中世の美術が十九世紀後半から二十世紀にかけての絵画と似ているということを指摘しているが、このことについてはこの【本文解説】の最後で説明したい。

では、なぜ中世の美術作品は反遠近法的な表現になつていているのか？ それには、これらの美術作品が、「画面の制作者が遠近法画家のように画面の外側にいるのではなく、画面の内側に入りこみ、画面のなかの人物の視点からこちら（画面の外）を向いて」いるようななかたちで描かれているからである。しかもその制作者は、遠近法画家のように視点を一点に定めるのではなく、さまざまな場所や視点から「多角的」に、空間やそこにある事物を眺めているのだ（12）。

中世の画工たちはこうした反遠近法的な描き方をしていたわけだが、筆者は、こうした手法は「我々が現実に体験している空間の内側の全体」を「追体験」したものだと指摘する（13）。我々はふだん、何らかの情景に取り囲まれその情景を内側から眺めて生きているわけで、「このようによつて人が日々実際に体験している情景の内部世界を、ばらばらに分解せずそのまま全体的に画面に再現しようとした」のが、中世の反遠近法的な絵画だったということがないのである（14）。

## 【解説】

### 第1問 現代文

#### 【出典】

酒井健『ゴシックとは何か——大聖堂の精神史』（一〇〇〇年 講談社現代新書、二〇〇六年 ちくま学芸文庫）より、第2章「ゴシックの受難——

2『反ゴシックの美学』の一節。今回の本文はちくま学芸文庫版に拠つて  
いるが、出題の都合で、途中一部を省略している。

酒井健（さかい・たけし）は、一九五四年生まれ。東京大学文学部フラン  
ス文学科を卒業後、同大学大学院を経て、パリ第一大学で博士号を取得。  
ジョルジュ・バタイユについての研究で知られるだけでなく、二〇世紀ヨー  
ロッパ思想や芸術史など、さまざまな分野で意欲的な論考を行っている。主  
な著作に『バタイユ入門』『絵画と現代思想』『シュルレアリズム——終わり  
なき革命』『魂』の思想史——近代の異端者とともに』などがある。

今回の出典となっている『ゴシックとは何か』は、中世ヨーロッパで流行  
したゴシック様式について分析しつつ、近代におけるゴシック的なものの復  
権とその意義について論じたもので、二〇〇〇年にサントリー学芸賞を受賞  
している。

#### 【本文解説】

本文は、ルネサンス期（＝近代の幕開けの時代）における建築や美術の特  
徴を、中世（＝前近代）におけるそれと比較することで明らかにしようとし  
たものだ。そしてこうした内容は、入試現代文における文化論・芸術論など  
で頻出である。

#### I ルネサンス期II人間中心主義の到来した時代（①～③）

世界史でも学んでいることと思うが、十五世紀にフィレンツェ（現在のイ  
タリア中央部にある都市）を中心にして、ルネサンスと呼ばれる文化の復興  
運動が起こった。この動きは後にヨーロッパ全土に広がっていき、一般にル

ネサンスの時代こそは、近代の到来を告げた時代だとされている。

本文は、このルネサンス期のフィレンツェにおいて「人間中心主義」が誕  
生したという話題から始まっている。「人間中心主義」とは、「合理的人間を  
尊ぶ」というあり方。そして「合理的人間」とは、「理性」の働きを重んじ  
る人間ということである。（②）。

それ以前の中世ヨーロッパ人には、「神に懇願する姿勢」が強かつた。つ  
まり彼らは、ほとんどあらゆることを神に頼つて生きてきたのである。とこ  
ろが人間が理性を働かせることで文明が発展すると、その文明の力のおかげ  
で、人間がそれなりに人間自身を救うことができるようになってくる。その  
結果、フィレンツェの人々のなかには、理性をもつた人間というものを神格  
化し信仰するような風潮が現れはじめたのだ（③）。

こうしてフィレンツェの人々は、自分たちの栄光を称えるために聖堂を建  
てた（①）。つまりルネサンスの時期から、ヨーロッパ人たちは自分たちの  
理性の力を信じはじめたのであり、神ではなく人間こそが世界の中心にある  
という世界観が広まつていったのである。

#### II 遠近法II人間中心主義の表現（④～⑩）

では、「人間中心主義」の時代であるルネサンス期の美術には、どんな特  
徴があるのでだろうか？ 筆者は、ルネサンス美術の大きな特徴として「遠  
近法」というものを取り上げる。この「遠近法」こそが、「人間中心主義」を  
本質とする技法なのである（④）。

遠近法とはもともと、空間的・立体的なものを平面上に描き出すための表  
現技法だ。具体的にいえば、遠くのものを小さく描いて近くのものを大きく  
描いたり（＝線遠近法）、遠くのものをばかして描き近くのものははつきり  
描いたり（＝空気遠近法）して、遠近感や立体感を表現するという手法であ  
る（⑤）。そして、線遠近法をいちはやく意識化し、「遠近法の創始者」と  
呼ばれることになったのが、ルネサンス最初の建築家といわれるブルネッレ  
スキだつた。彼は、「遠近法」とは「科学の一種」であり、それは人間の目

【解答・採点基準】

五

語  
二

(200  
点満点)

※の正解は順序を問わない。

**MEMO**



© Kawaijuku 2014 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)